

令和3年度

男女が共に支える社会に関する

意識調査報告書

令和4年

岩 手 県

「令和3年度 男女が共に支える社会に関する意識調査報告書」

目 次

I 調査の概要	
1. 調査の目的	1
2. 調査の設計	1
3. 調査票の回収結果	1
4. 調査主体	1
II 回答者の基本属性	
1 性別・年代別構成	2
2 既婚・未婚・離(死)別構成	3
3 回答者の職業	4
4 配偶者の職業	5
5 共稼ぎ配偶者の職業	6
6 家族構成	7
7 子供の有無	8
8 子供の人数と末子の年齢	9
9 住んでいる地域	10
III 調査テーマによる分析	
1 男女平等について	11
2 女性の社会参画について	38
3 家庭生活及び結婚・家庭観について	47
4 職業について	108
5 仕事と家庭・社会活動の両立について	122
6 ドメスティック・バイオレンス(DV)などについて	127
7 男女共同参画施策について	133

I 調査の概要

I 調査の概要

1. 調査の目的

男女が共に支える社会づくりに関する県民の意識や行動について調査を行い、現状の県民意識や行政に対するニーズ把握をするとともに、今後の男女共同参画社会づくりの基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査の設計

- (1) 調査対象及び標本数： 岩手県内在住の満18歳以上の男女2,000人
- (2) 抽出方法： 無作為抽出
- (3) 調査方法： 設問票によるアンケート調査（郵送法）
- (4) 調査期間： 令和3年11月19日～令和3年12月6日
（令和3年12月24日到着分まで有効とした）

3. 調査票の回収結果

- (1) 回収数： 747人（37.4%）
- (2) 有効回収数： 742人（37.1%） ※無効回答5人は全て白紙
- (3) 調査対象地域と回収の分布： 次表のとおり

今回調査

平成30年度調査

対象地域	自治体名	標本数	有効回収数	有効回収率 (%)	対象地域	自治体名	標本数	有効回収数	有効回収率 (%)
盛岡地域	盛岡市	350	262	37.4	盛岡地域	盛岡市	350	236	31.5
	滝沢市	150				八幡平市	150		
	岩手町	50				雫石町	100		
	矢巾町	150				紫波町	150		
県南地域	北上市	200	227	37.8	県南地域	花巻市	200	241	34.4
	奥州市	200				遠野市	100		
	一関市	200				奥州市	200		
						一関市	200		
県北地域	久慈市	100	87	34.8	県北地域	久慈市	50	100	50.0
	二戸市	100				洋野町	50		
	一戸町	50				二戸市	100		
沿岸地域	大船渡市	100	164	36.4	沿岸地域	大船渡市	100	64	18.3
	釜石市	100				釜石市	100		
	宮古市	150				宮古市	100		
	陸前高田市	50				山田町	50		
	岩泉町	50							
地域無回答			2		地域無回答			3	
合計		2,000	742	37.1	合計		2,000	644	32.2

4. 調査主体

岩手県 環境生活部 若者女性協働推進室

< 報告書を見る上での注意事項 >

- ①比率（パーセント）の表記は、小数点第2位以下を四捨五入しているため、比率の合計が100.0とならない場合がある。なお、一つの設問に対して二択以上の回答を求めるものは、比率の合計を記載しない。
- ②各設問集計の対象者（集計対象となる前提条件を満たしているもの）は「N」としてその数を表記する。
- ③今回の調査で得られた集計データの詳細は、「IV 基礎集計表」の各表を参照。
- ④時系列比較を行っているものは、平成30年10月に実施したものを「前回調査」（または「平成30年度調査」）平成27年5月に実施したものを「前々回調査」（または「平成27年度調査」）、平成24年12月に実施したものを「平成24年度調査」と表記した。各数値は、平成31年2月にとりまとめた前回調査報告書の記載を用いた。
- ⑤調査票に記載した設問ないし、選択肢の表現について、長文のものを適度に簡略化して表記している。
- ⑥令和3年度調査より無効回答の項目を追加し集計する。（指定された回答数以上に回答している、または回答が明確ではない場合は無効回答としている）

Ⅱ 回答者の基本属性

II 回答者の基本属性

1 性別・年代別構成

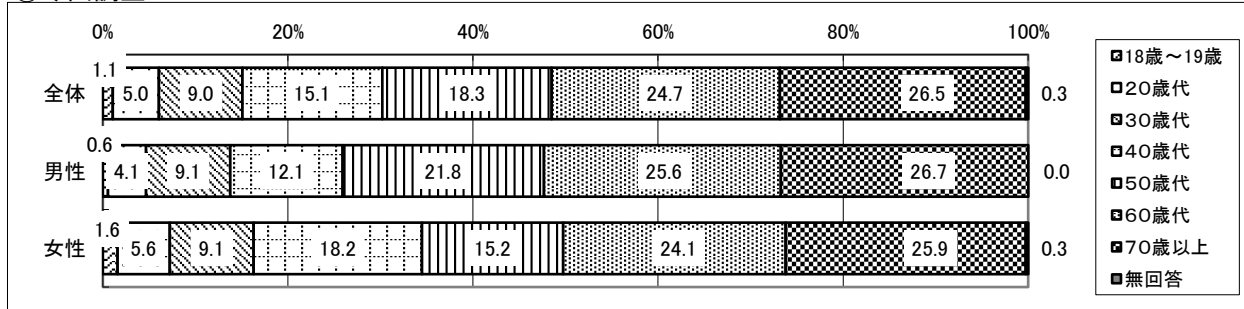
(N=742 男性=363 女性=374 その他=0 性別無回答=5)

令和3年度調査より年代区分として「18歳～19歳」を新たに追加した。

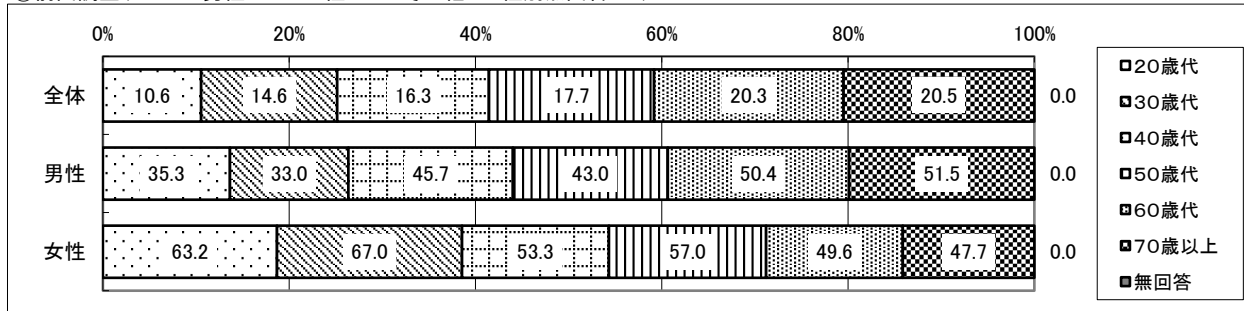
今回調査では、男性363名(48.9%)、女性374名(50.4%)、その他0名(0.0%)、性別無回答5名(0.7%)から回答があった。年代別にみると、70歳代以上(26.5%)の割合が最も高く、次いで60歳代(24.7%)、50歳代(18.3%)、40歳代(15.1%)、30歳代(9.0%)、20歳代(5.0%)、18歳～19歳(1.1%)と続く。

前回調査と比較すると、70歳代(26.5%)は6.0ポイント増加し、60歳代(24.7%)は4.4ポイント増加し

①今回調査



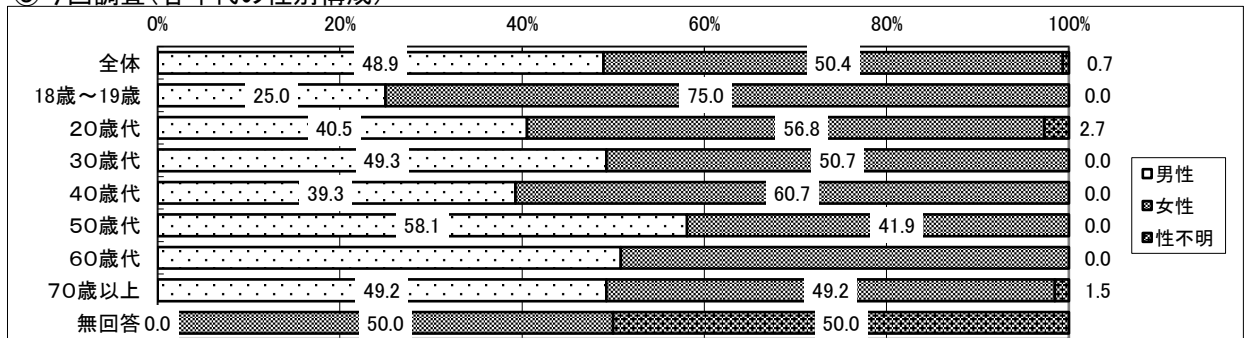
②前回調査(N=644 男性=286 女性=355 その他=2 性別無回答=1)



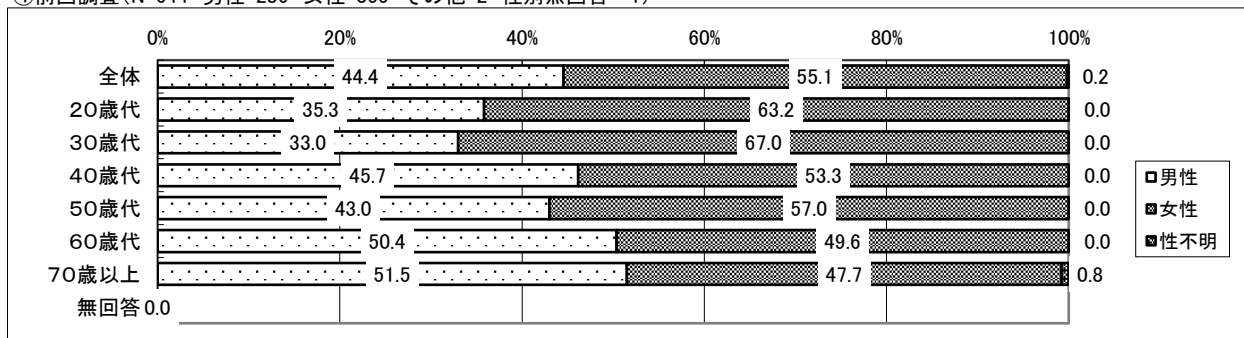
各年代ごとの性別比をみると、今回調査全体では男性48.9%、女性50.4%を占める。

前回調査と比較すると、男性(48.9%)は4.5ポイント増加し、女性(50.4%)は4.7ポイント減少している。男女別でみると、男性では50歳代以上(58.1%)の割合が最も高く、女性では18歳～19歳が(75.0%)の割合が最も高い。30歳代では男性(49.3%)は前回調査(33.0%)より16.3ポイント増加し、女性(50.7%)は前回調査(67.0%)より16.3ポイント減少している。また50歳代の男性(58.1%)は前回調査(43.0%)より15.1ポイント増加、一方、女性(41.9%)は前回調査(57.0%)より15.1%減少している。

③今回調査(各年代の性別構成)



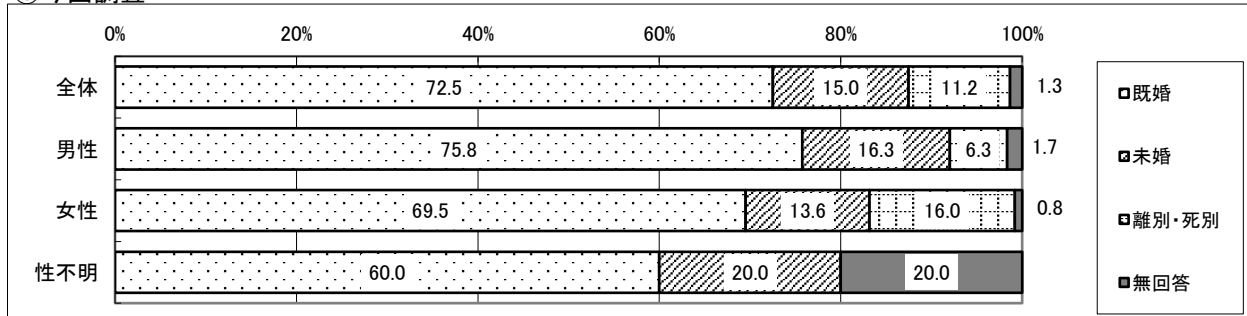
④前回調査(N=644 男性=286 女性=355 その他=2 性別無回答=1)



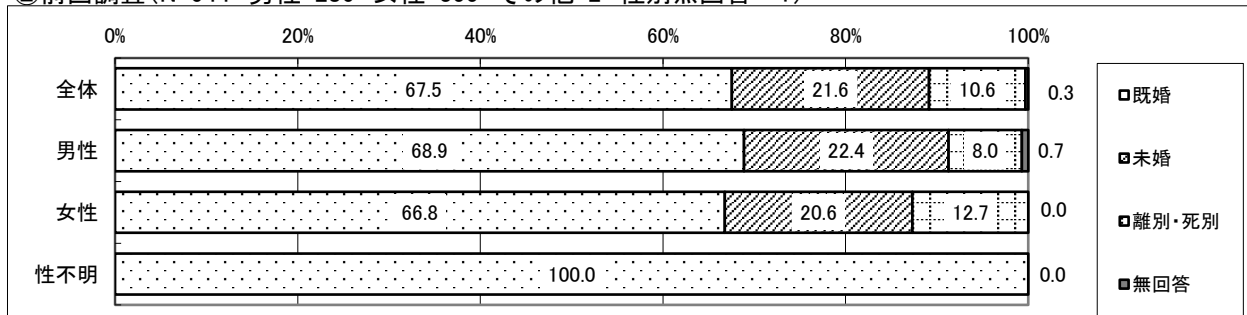
2 既婚・未婚・離(死)別構成 (N=742 男性=363 女性=374 その他=0 性別無回答=5)

今回調査全体では、既婚は72.5%、未婚は15.0%、離婚・死別は11.2%である。
 前回調査と比較すると既婚(全体)72.5%と前回調査(67.5%)より5.0ポイント増加、未婚全体(15.0%)と
 前回調査(21.6%)より6.6ポイント減少した。既婚男性(75.8%)は前回調査(68.9%)より6.9ポイント増加、
 既婚女性(69.5%)は前回調査(66.8%)より2.7ポイント増加している。
 既婚と回答したものは20歳代、30歳代で減少したが、40歳代、50歳代、60歳代では増加している。
 未婚男性(16.3%)は前回調査(22.4%)より6.1ポイント減少、未婚女性(13.6%)は前回調査(20.6%)より
 7.0ポイント減少している。
 年代別にみると、既婚と回答したものの割合が最も高いのは60歳代(82.0%)、最も低いのは18歳～19
 歳で既婚なし。次いで20歳代(18.9%)である。

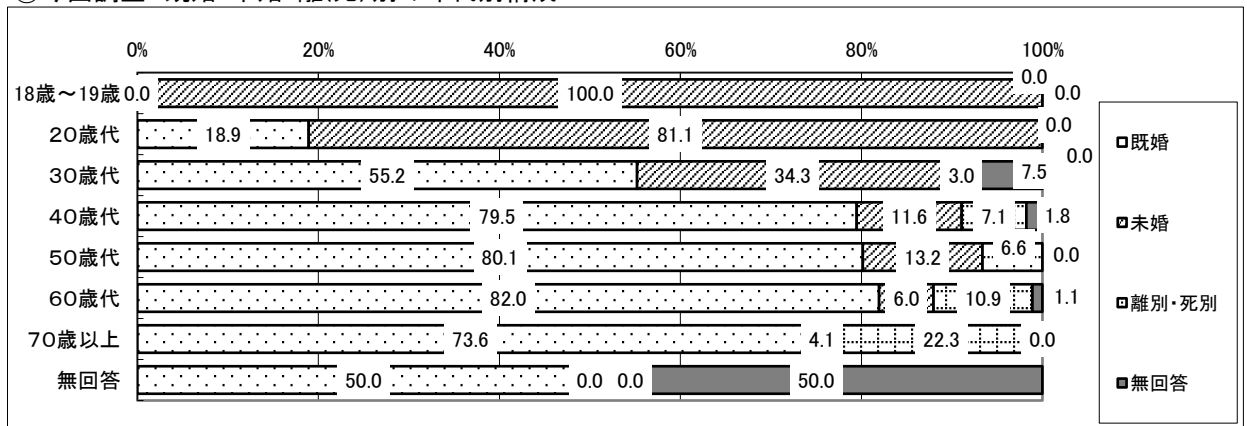
①今回調査



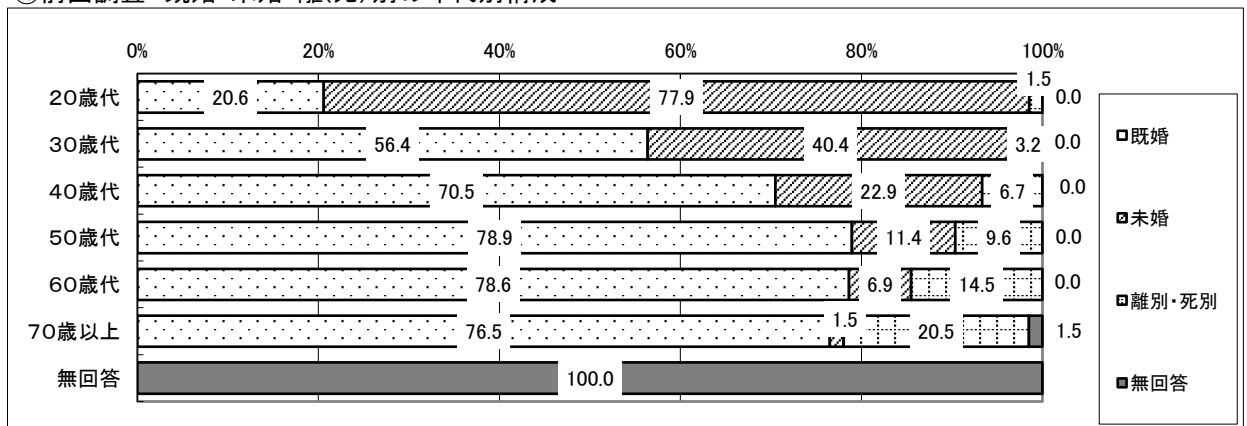
②前回調査(N=644 男性=286 女性=355 その他=2 性別無回答=1)



③今回調査 既婚・未婚・離(死)別の年代別構成



④前回調査 既婚・未婚・離(死)別の年代別構成



3 回答者の職業

(N=742 男性=363 女性=374 その他=0 性別無回答=5)

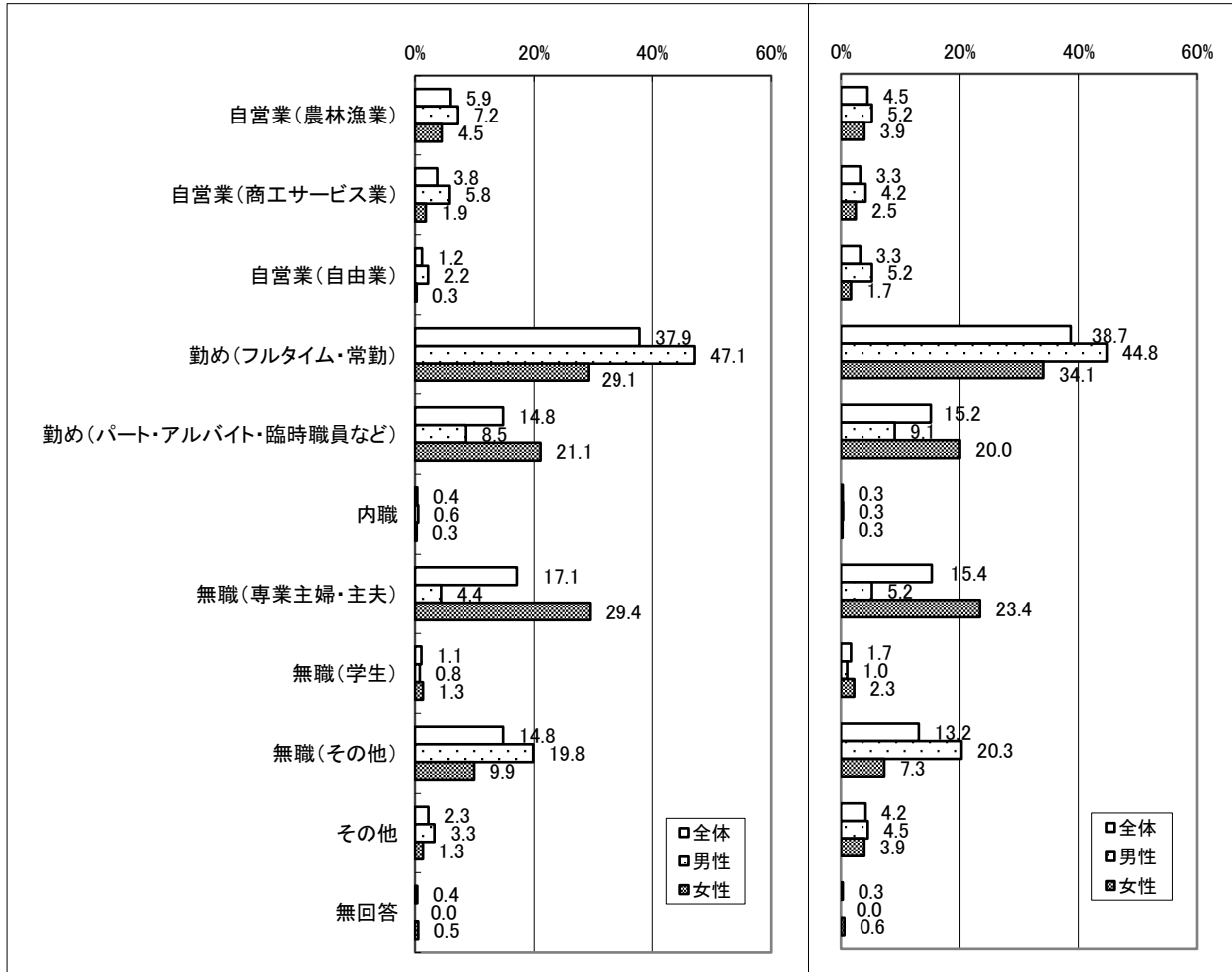
回答者の職業の割合で最も高いものは「勤め(フルタイム・常勤)」(37.9%)であり、次いで「無職(専業主婦・主夫)」(17.1%)、「勤め(パート・アルバイト・臨時職員など)」(14.8%)と続く。この傾向は前回調査同様である。

前回調査と比較すると「勤め(フルタイム・常勤)」(37.9%)は0.8ポイント減少、「勤め(パート・アルバイト・臨時職員など)」(14.8%)は0.4ポイント減少している。一方で、「無職(専業主婦・主夫)」(17.1%)は1.7ポイント増加、「無職(その他)」(14.8%)は1.6ポイント増加している。

①今回調査(但し、グラフから性別無回答を除く)

②前回調査

(N=644 男性=286 女性=355 その他=2 性別無回答=1)



4 配偶者の職業

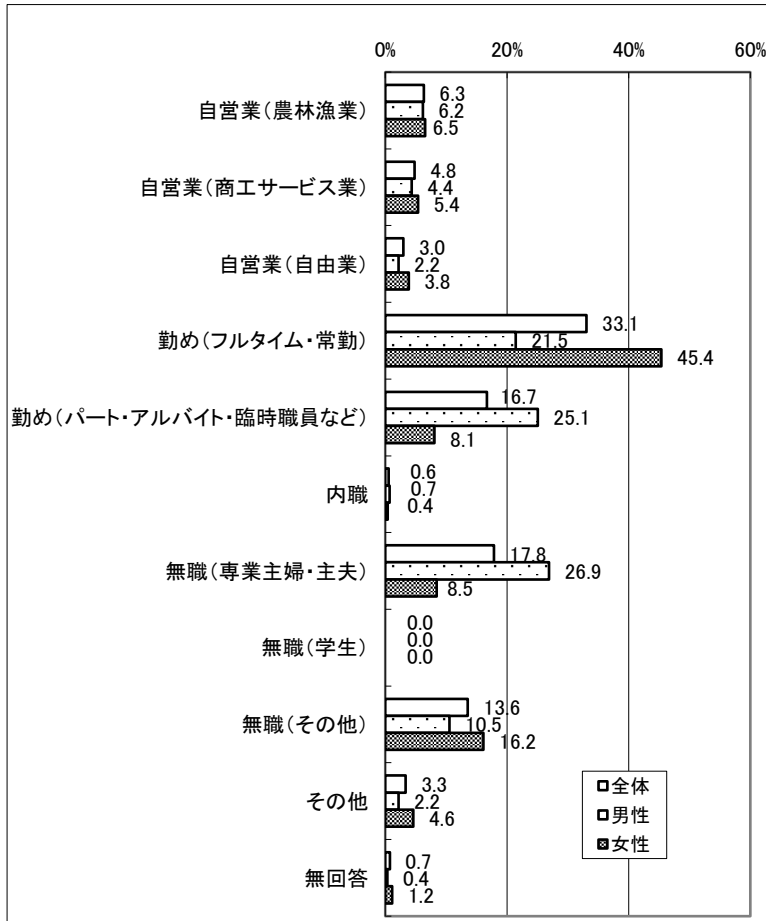
(N=538 男性=275 女性=260 性別無回答=3)

配偶者の職業の割合で最も高いのは、「勤め(フルタイム・常勤)」(33.1%)であり、次いで「無職(専業主婦・主夫)」(17.8%)、「勤め(パート・アルバイト・臨時職員など)」(16.7%)と続く。この傾向は前回調査と同様である。

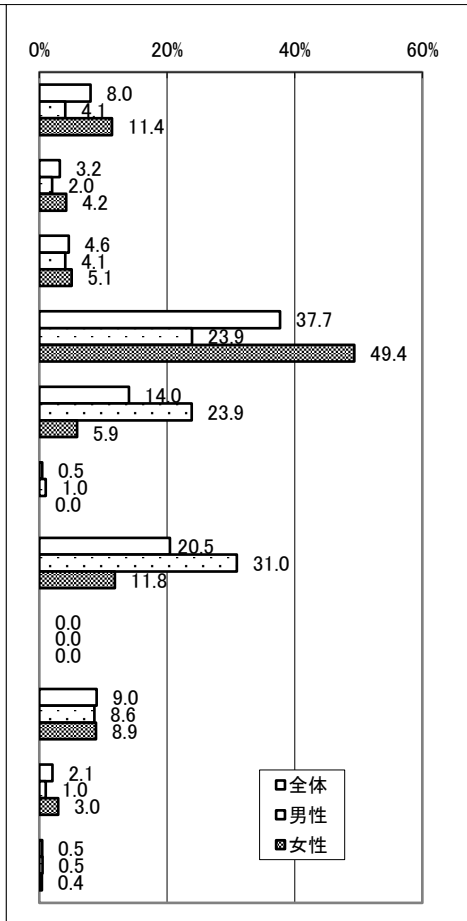
男女別にみると、『回答者男性/配偶者女性』では、「勤め(フルタイム・常勤)」(21.5%)は前回調査(23.9%)より2.4ポイント減少、「無職(専業主婦・主夫)」(26.9%)は前回調査(31.0%)より4.1ポイント減少している。「勤め(パート・アルバイト・臨時職員)」(25.1%)は前回調査(23.9%)より1.2ポイント増加している。

『回答者女性/配偶者男性』では「勤め(フルタイム・常勤)」(45.4%)は前回調査(49.4%)より4.0ポイント減少した。「無職(専業主婦・主夫)」(8.5%)は前回調査(11.8%)より3.3ポイント減少した。一方、「勤め(パート・アルバイト・臨時職員)」(8.1%)は前回調査(5.9%)より2.2ポイント増加し、「無職その他)」(16.2%)は前回調査(8.9%)より7.3ポイント増加した。

①今回調査の配偶者の職業(但し、グラフから性別無回答を除く)



②前回調査の配偶者の職業



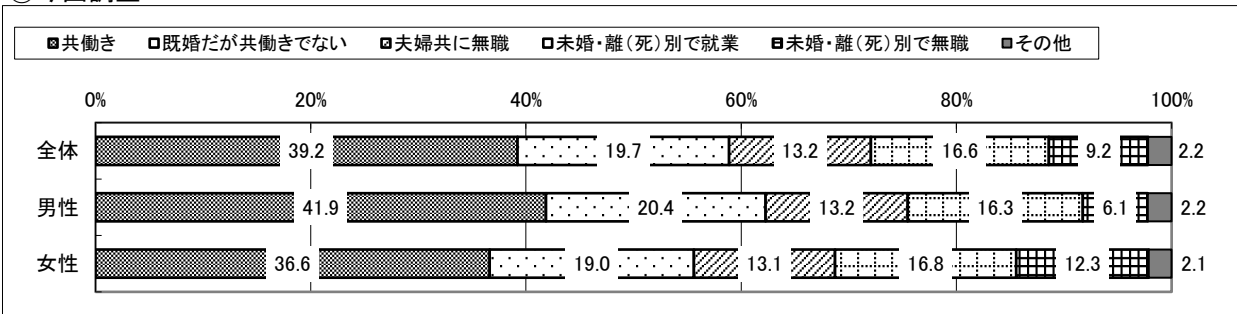
5 共働きの配偶者の職業
(N=289 男性=152 女性=137)

今回調査において、回答者全体に占める共働きの割合は39.2%であった。
前回調査 (38.6%) より0.6ポイント増加している。

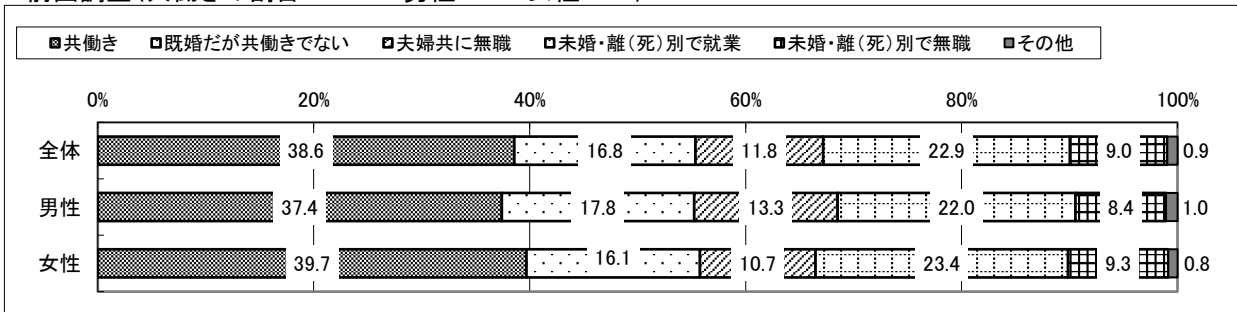
共働きの配偶者の職業の割合で最も高いのは「勤め(フルタイム・常勤)」(49.1%)であり、前回調査
(54.4%)より5.3ポイント減少している。

※『共働き』は回答者が既婚で、職業をもつ(「無職」と「無回答」を除く)ものであり、その配偶者の職業が「自営業(農林漁業)」「自営業(商工サービス業)」「自営業(自由業)」「勤め(フルタイム・常勤)」「勤め(パート・アルバイト・臨時職員など)」「内職」「その他」のいずれかであったものを示す。

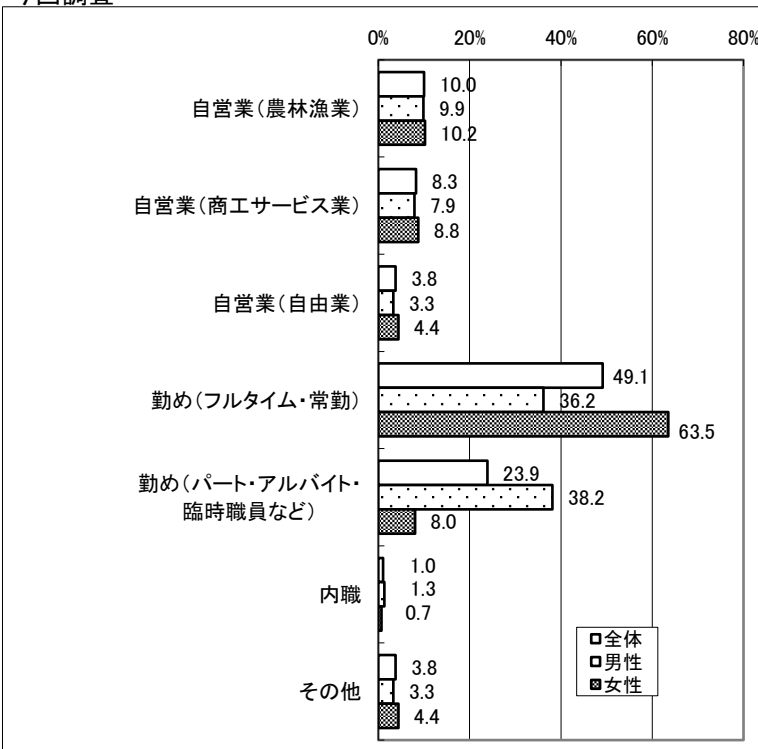
① 今回調査



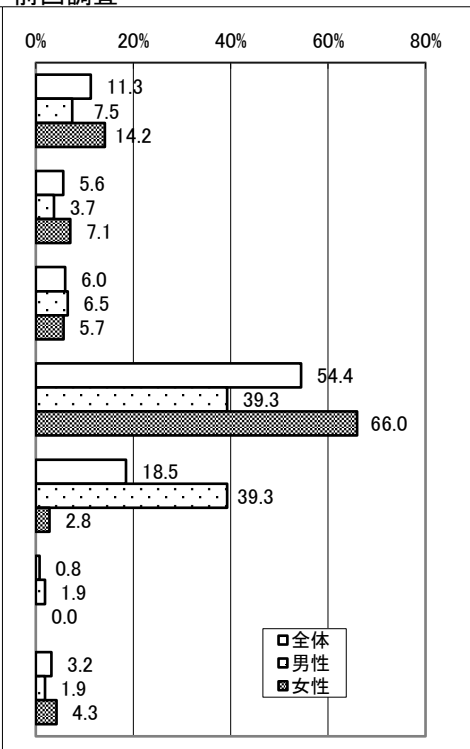
前回調査(共働きの割合: N=248 男性=107 女性=141)



② 共働きの配偶者職業
今回調査



前回調査



6 家族構成

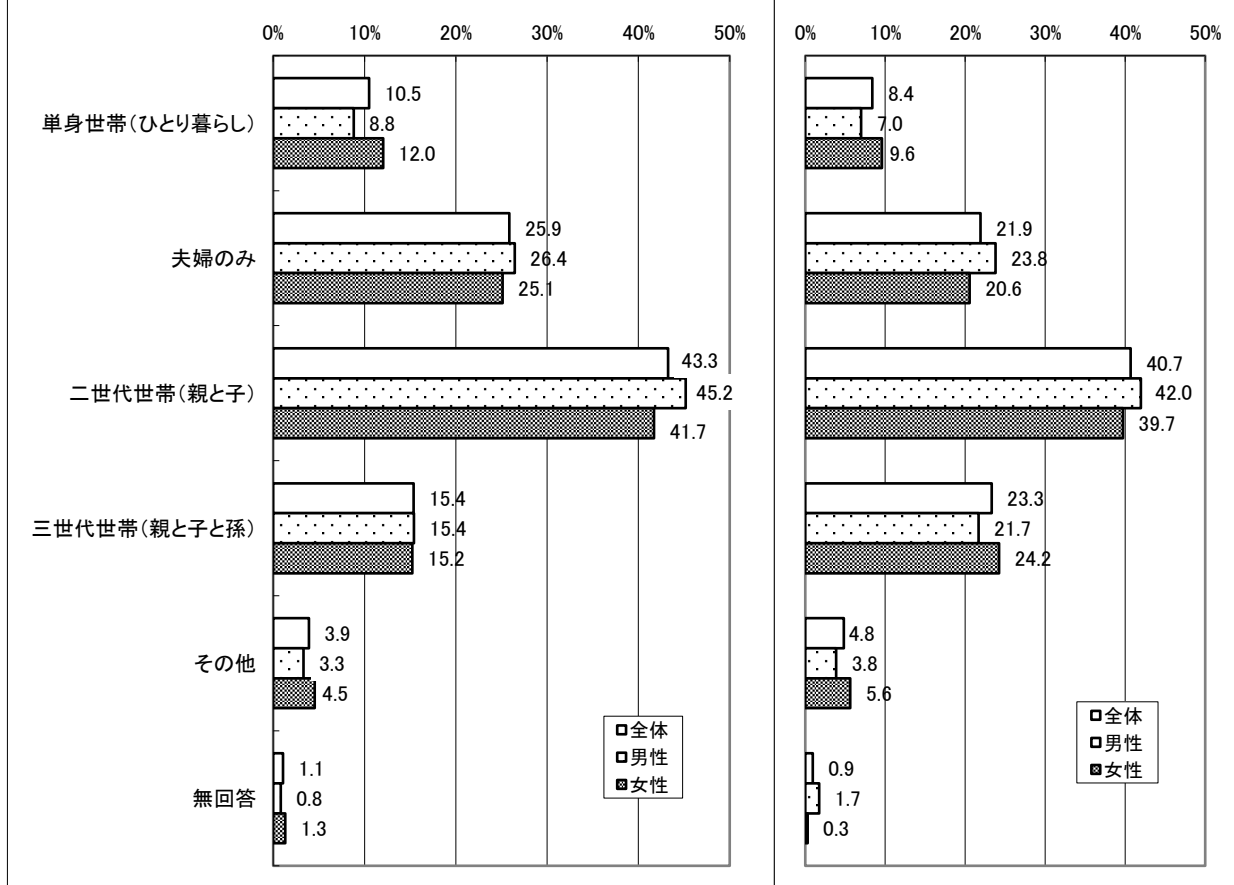
(N=742 単身世帯=78 夫婦のみ=192 二世世代世帯=321 三世世代世帯=114 その他=29 無回答=8)

家族構成については「二世世代世帯(親と子)」(43.3%)の割合が最も高く、次いで「夫婦のみ」(25.9%)、「三世世代世帯(親と子と孫)」(15.4%)と続く。

前回調査での2番目は「三世世代世帯(親と子と孫)」であったが、今回は「夫婦のみ」が2番目となった。前回調査と比較すると、「二世世代世帯(親と子)」(43.3%)は2.6ポイント増加。また「夫婦のみ」(25.9%)は4.0ポイント増加している。一方、「三世世代世帯(親と子と孫)」(15.4%)は7.9ポイント減少している。

①今回調査(但し、グラフから性別無回答を除く)

②前回調査(N=644 男性=286 女性=355 その他=2 性別無回答=1)



7 子どもの有無

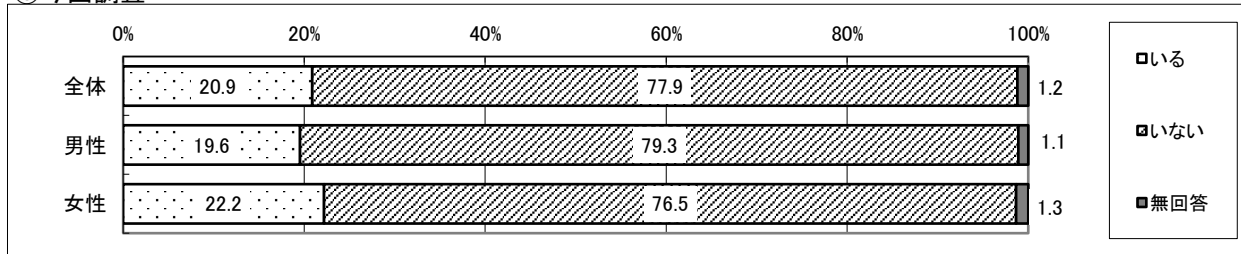
(N=742 いる=155 いない=578 無回答=9)

未成年の子どもが「いる」ものは全体の20.9%、「いない」ものは77.9%であった。
 前回調査と比較すると「いる」(20.9%)は4.4ポイント減少、「いない」(77.9%)は4.6ポイント増加している。

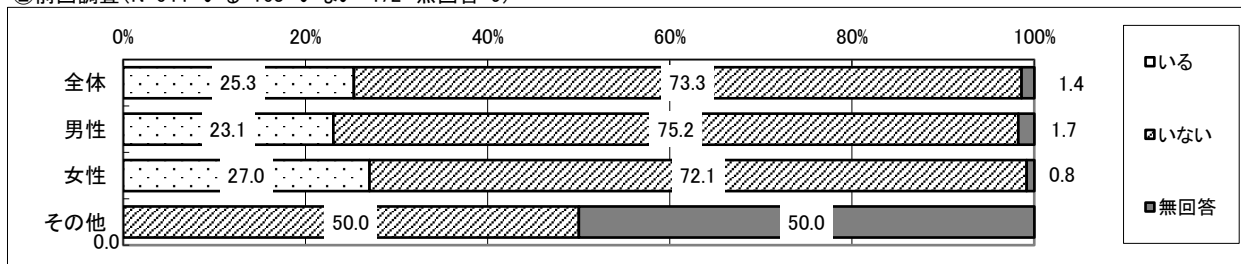
年代別にみると、未成年の子どもが「いる」と回答したものの割合が最も高いのは「40歳代」(70.5%)であり、次いで「30歳代」(55.2%)、「50歳代」(21.3%)と続く。

この傾向は前回調査と同様である。

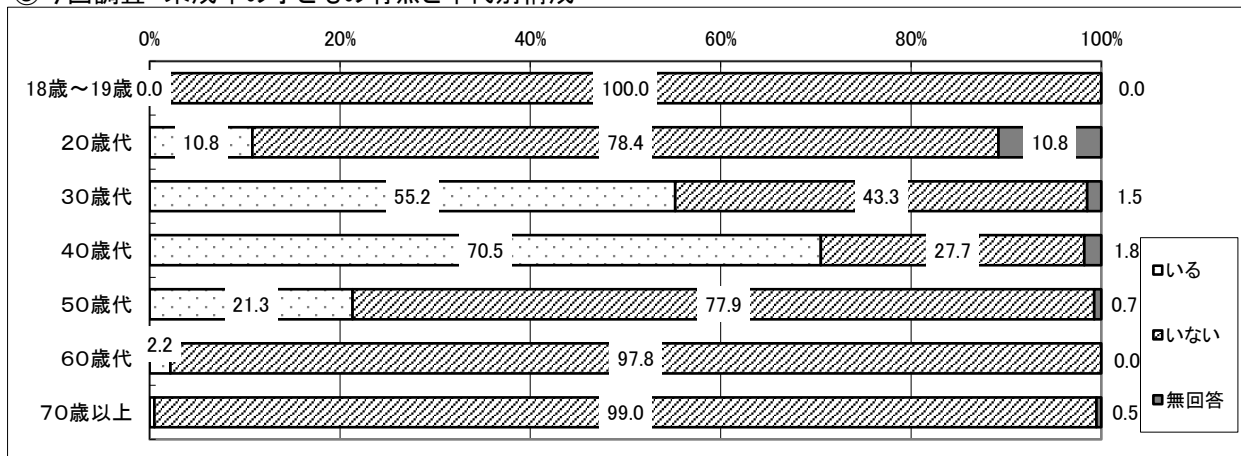
①今回調査



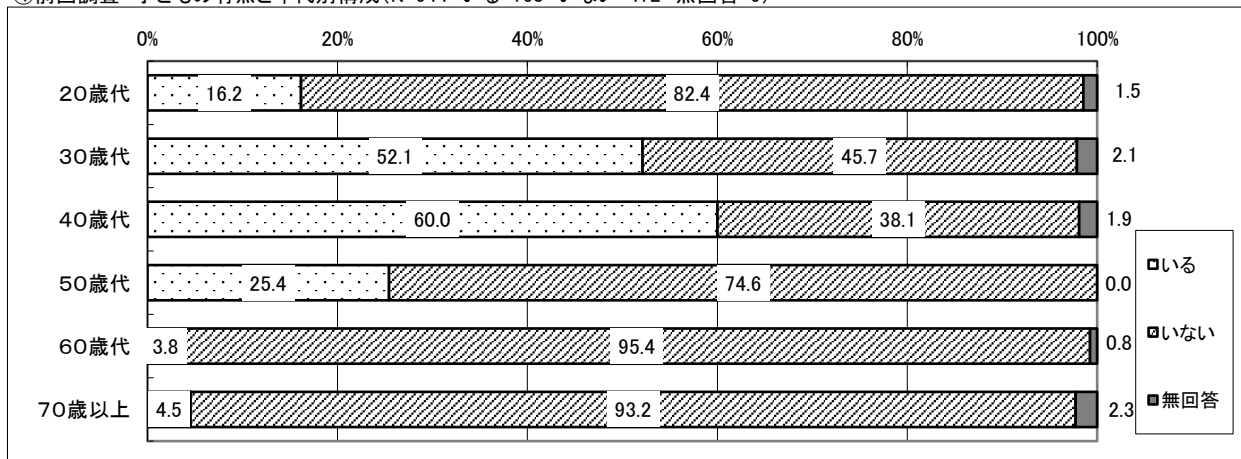
②前回調査(N=644 いる=163 いない=472 無回答=9)



③今回調査 未成年の子どもの有無と年代別構成



④前回調査 子どもの有無と年代別構成(N=644 いる=163 いない=472 無回答=9)



8 未成年の子どもが「いる」と回答したものの子ども的人数と末子の年齢

(N=155 3歳未満=22 3歳以上就学前=29 小学生=41 中学生=29 それ以上=33 無回答=0 無効回答=1)

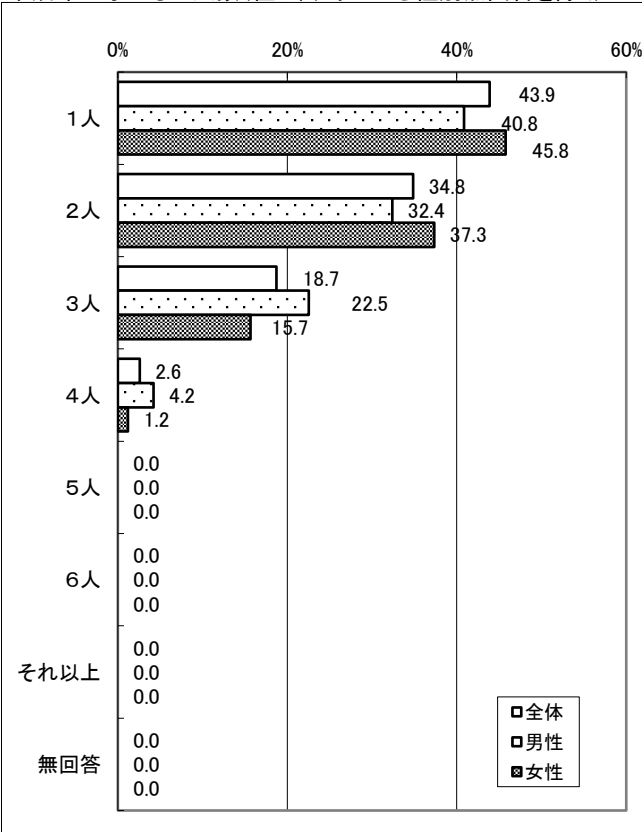
未成年の子ども的人数は、「1人」(43.9%)の割合が最も高く、次いで「2人」(34.8%)、「3人」(18.7%)と続く。

前回調査では「2人」が最も高かったが、今回は「1人」が最も高くなっている。

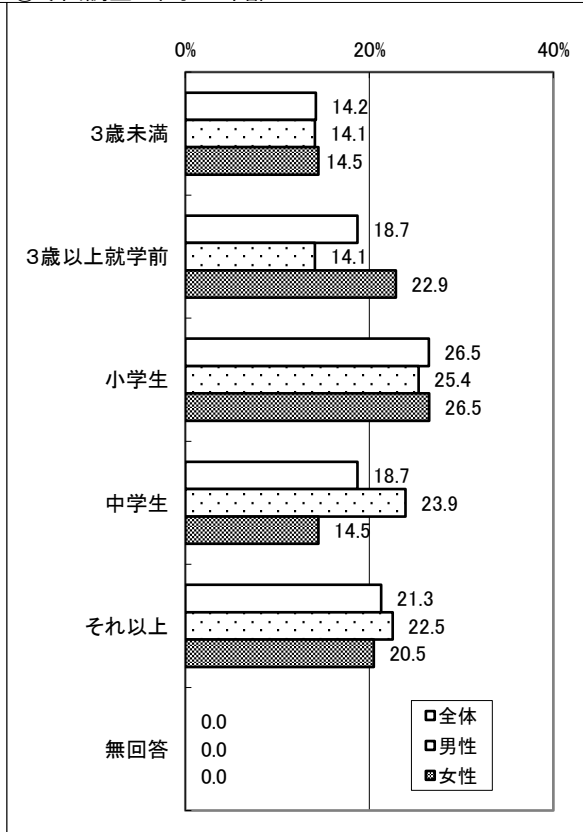
一番下の子の年齢については、「小学生」(26.5%)の割合が最も高く、次いで、「それ以上」(21.3%)と続く。前回調査と比較すると「中学生」(18.7%)は前回調査(9.8%)より8.9ポイント増加し、「3歳以上就学前」(18.7%)は前回調査(25.8%)より7.1ポイント減少している。

①今回調査

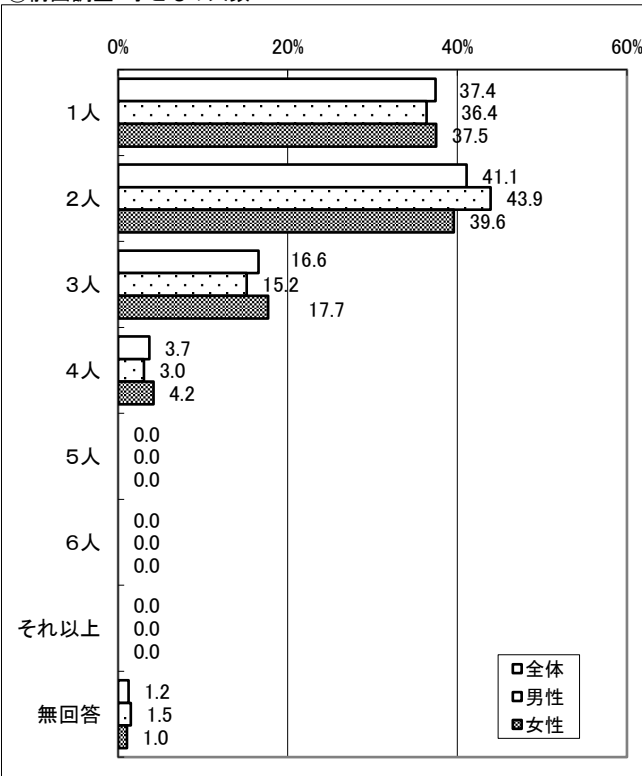
未成年の子ども的人数(但し、グラフから性別無回答を除く)



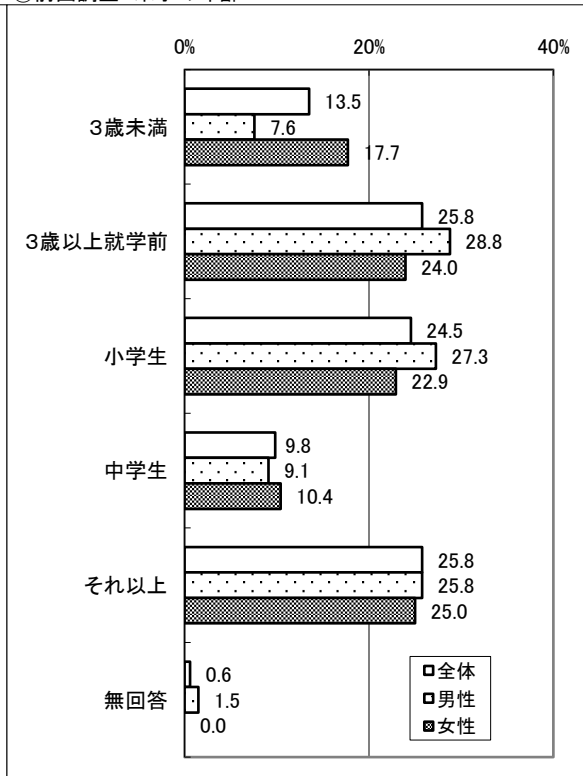
②今回調査 末子の年齢



③前回調査 子どもの人数



④前回調査 末子の年齢



9 住んでいる地域

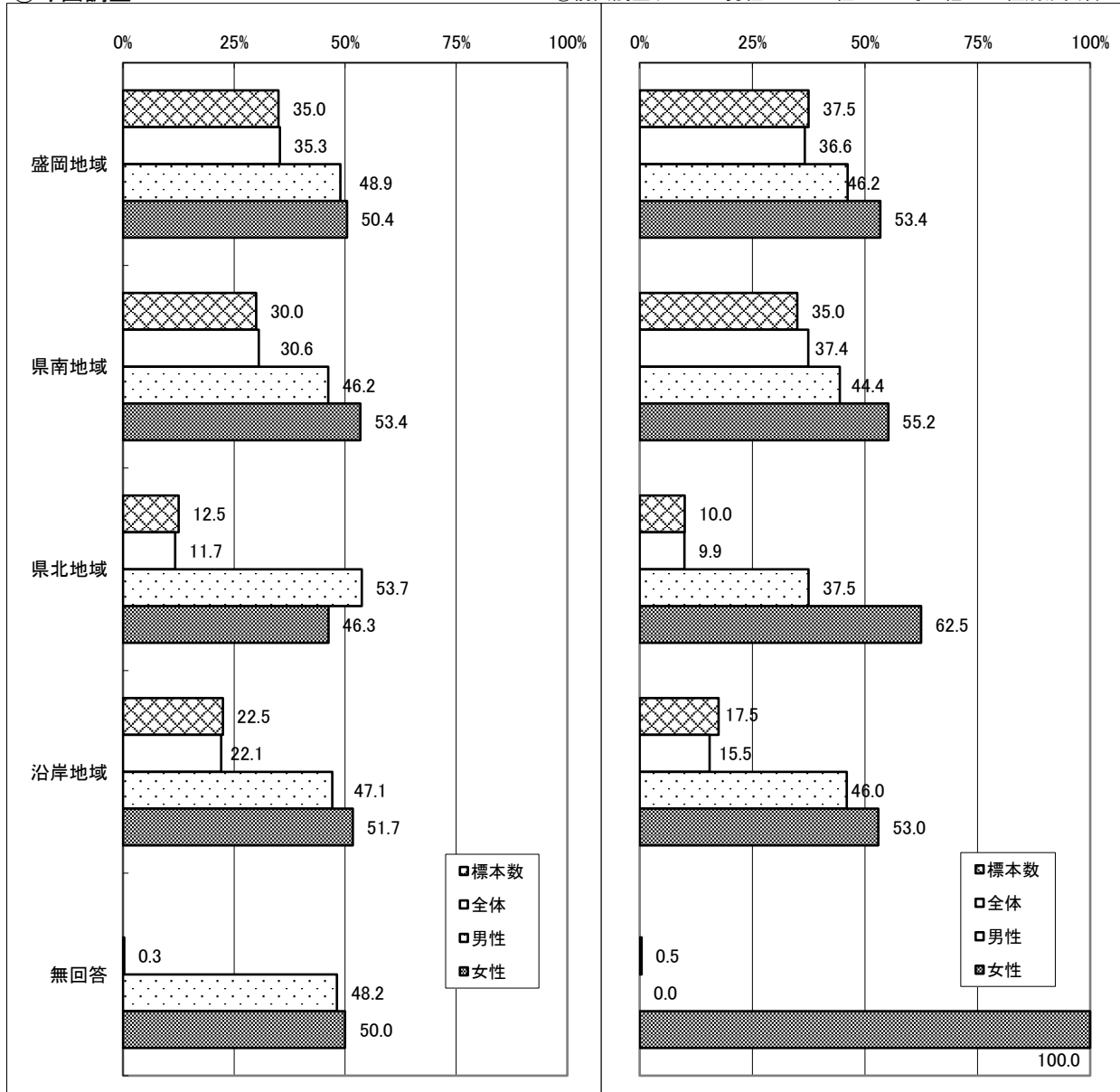
(N=742 男性=363 女性=374 その他=0 性別無回答=5)

住んでいる地域について、標本数の割合よりも高かったのは「盛岡地域」(35.3%)、次いで「県南地域」(30.6%)であり、「県北地域」、「沿岸地域」については標本数よりも低い割合である。

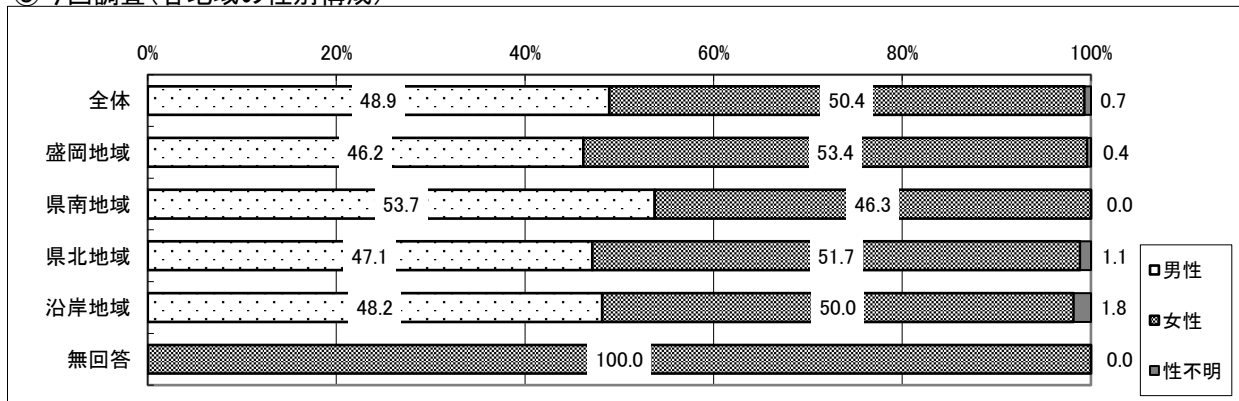
各地域の性別構成については、「県南地域」において女性よりも男性の割合の方が高かったが、

①今回調査

②前回調査(N=644 男性=286 女性=355 その他=2 性別無回答=1)



③今回調査(各地域の性別構成)



以降、「Ⅲ 調査テーマによる分析」からはその他、性別無回答者の回答を表記から除く。

Ⅲ 調査テーマによる分析

Ⅲ 調査テーマによる分析

1 男女平等について

問1 あなたは今の社会で、次のような各分野で男女の地位が平等になっていると思いますか。
 次の①～⑧の項目ごとに1～6の中から1つずつ選んで○をつけてください。
 (N=742 男性=363 女性=374 その他=0 性別無回答=5)

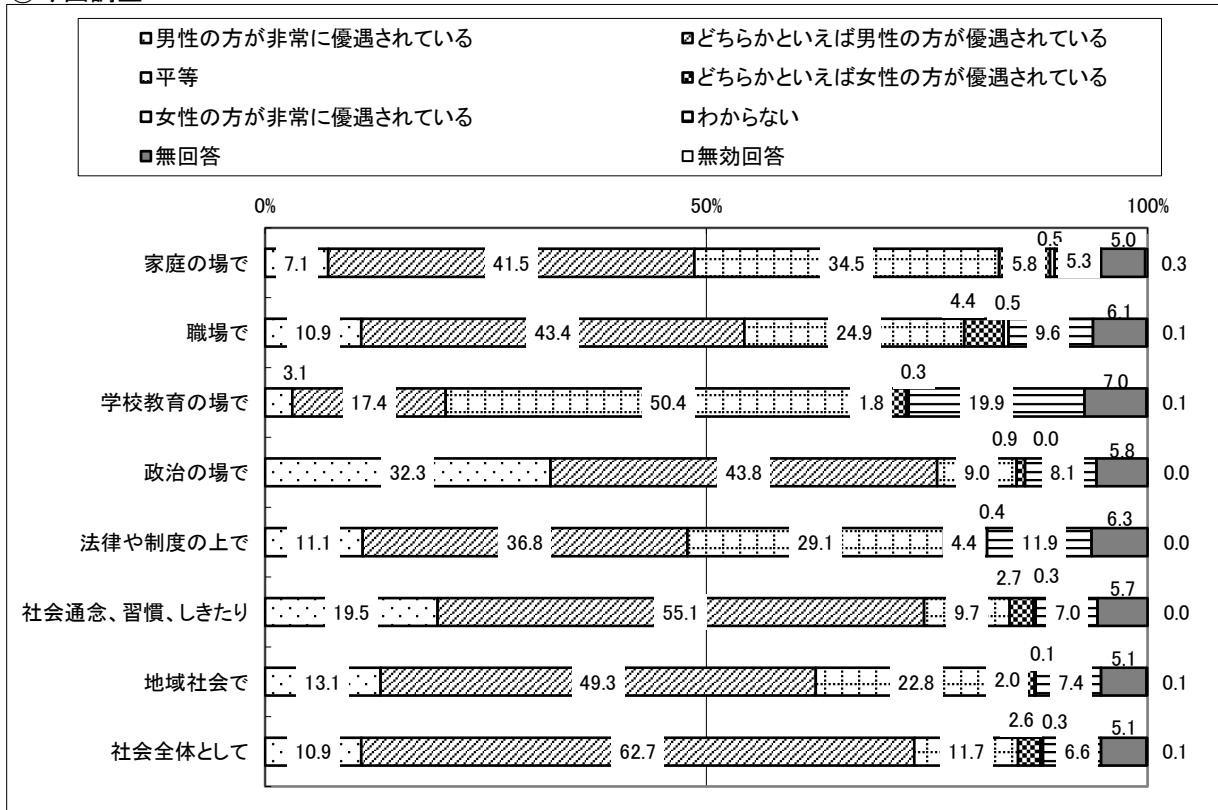
※「男性の方が非常に優遇されている」または「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答したものを『男性が優遇されている』、「女性の方が非常に優遇されている」または「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と回答したものを『女性が優遇されている』とする。

男女平等について、全体をみると『男性が優遇されている』と回答したものの割合が低いのは「学校教育の場で」(20.5%)と「法律や制度の上で」(47.9%)である。次いで「家庭の場で」(48.6%)と続き、それ以外の分野においては全て『男性が優遇されている』と回答したものが半数を超えている。

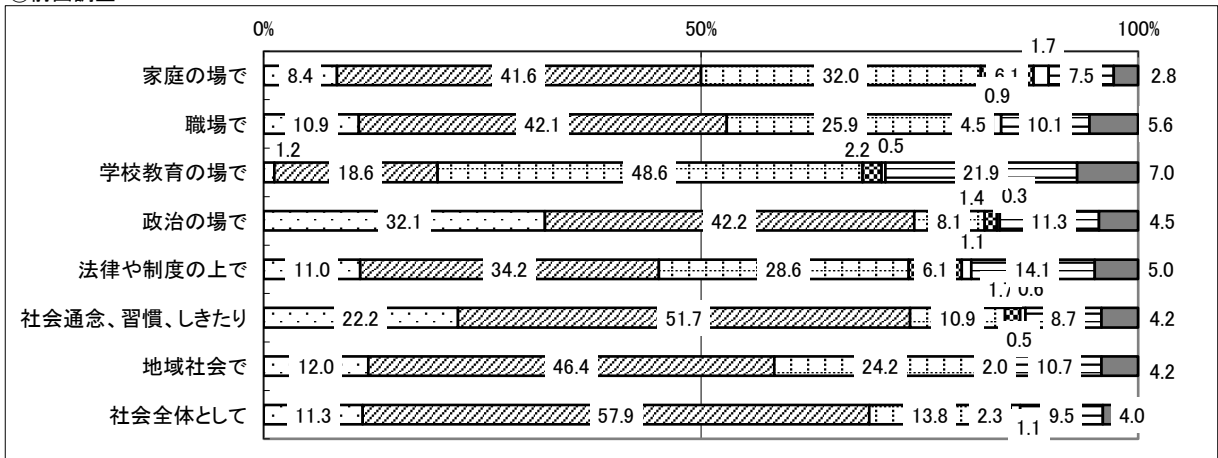
これは前回調査と同様の傾向である。

前回調査と比較すると、「家庭の場で」『男性が優遇されている』と回答したもの(48.6%)は、前回調査(50.0%)より1.4ポイント減少し、それ以外はすべて前回調査より『男性が優遇されている』が増加している。特に「社会全体として」(73.6%)が前回調査(69.2%)より4.4ポイント増加、「地域社会で」(62.4%)が前回調査(58.4%)より4.0ポイント増加している。

①今回調査



②前回調査



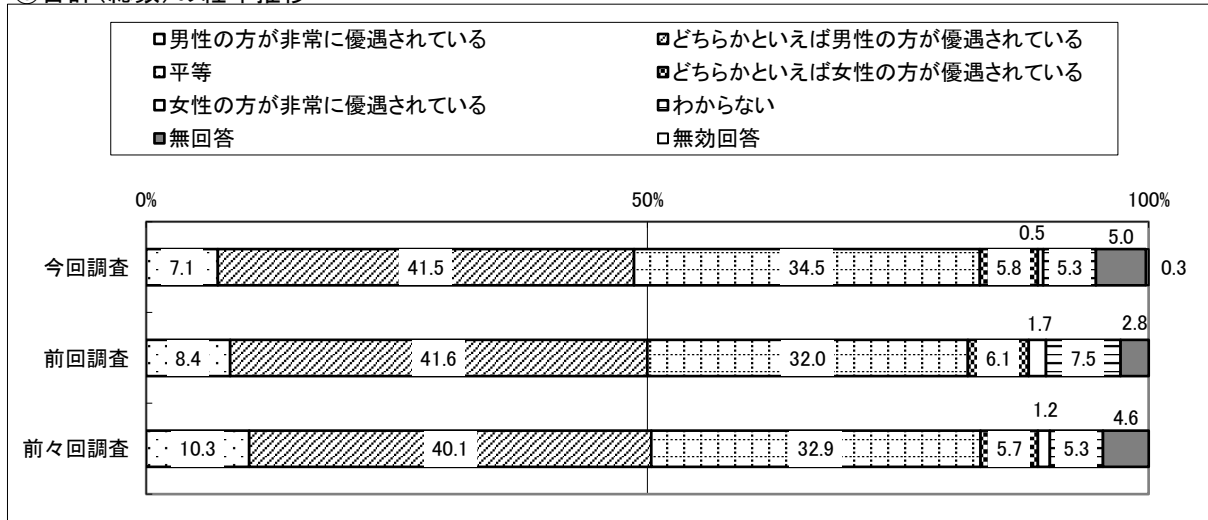
(1)家庭の場で

家庭の場で『男性が優遇されている』と回答したものは48.6%、『女性が優遇されている』と回答したものは6.3%である。

『男性が優遇されている』(48.6%)と回答したものは、前回調査(50.0%)より1.4ポイントと前回調査から連続して減少した。この項目は前回調査においても減少しており、減少傾向で推移している。

ただし、『女性が優遇されている』(6.3%)も前回調査(7.8%)から1.5ポイント減少、『平等』(34.5%)が前回調査(32.0%)より2.5ポイント増加した。

①合計(総数)の経年推移

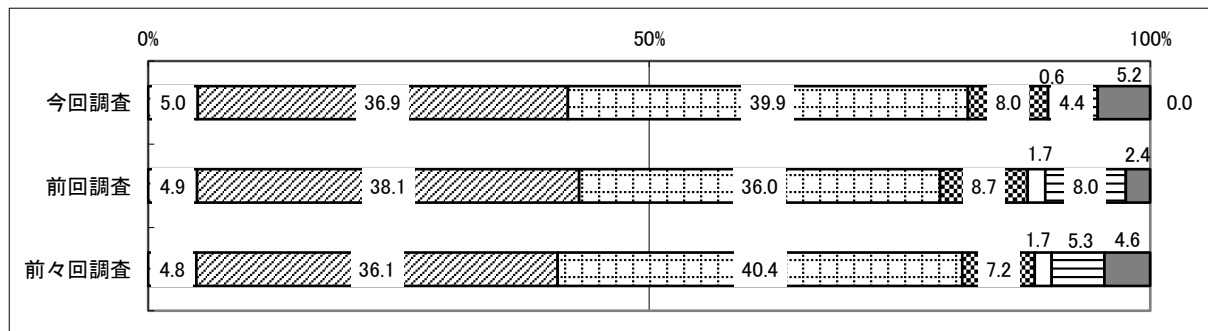


男女別にみると、男性で『男性が優遇されている』と回答したものは41.9%である。前回調査(43.0%)より1.1ポイント減少した。

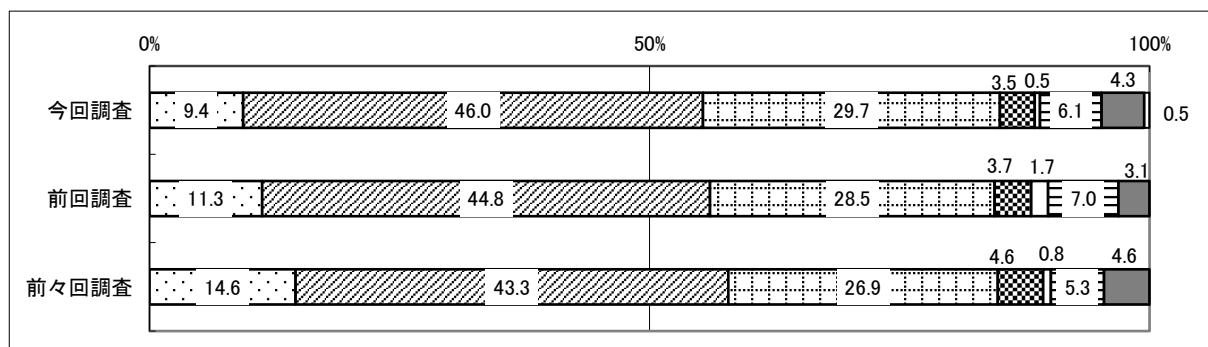
女性で『男性が優遇されている』と回答したものは55.4%である。前回調査(56.1%)より0.7ポイント減少、前々回調査(57.9%)より2.5ポイント減少しており、減少傾向であるが、依然として過半数を超えるものが『男性が優遇されている』と回答しており、男性と女性との間での認識の差が見られる。

尚、男性で『平等』(39.9%)と回答したものは前回調査(36.0%)より3.9ポイント増加、女性で『平等』(29.7%)と回答したものは前回調査(28.5%)より1.2ポイント増加しており、男性女性ともに『平等』は増加している。

②男性の経年推移(今回=363 前回=286 前々回=416)



③女性の経年推移(今回=374 前回=355 前々回=527)



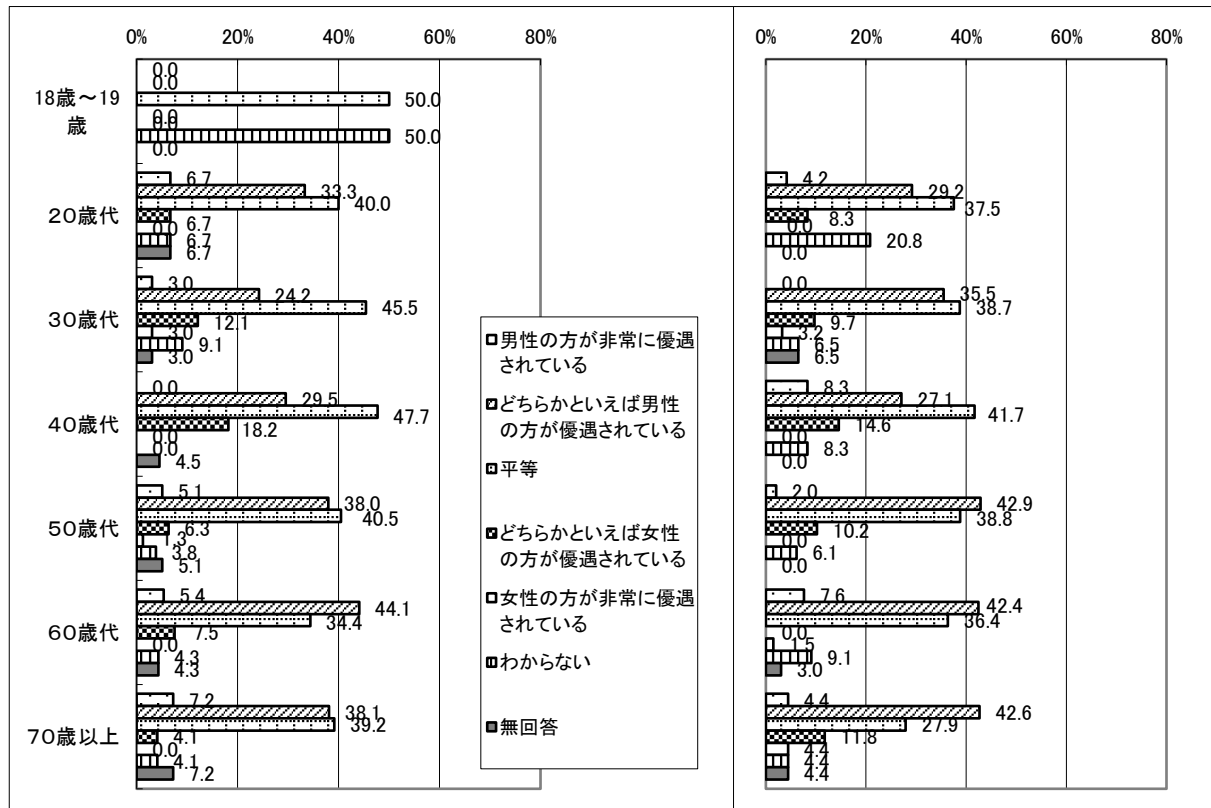
性別・年代別に見ると、男性で『男性が優遇されている』と回答したものの割合が最も高いのは「60歳代」(49.5%)であり、次いで「70歳以上」(45.3%)、「50歳代」(43.1%)と続く。順位としては大きく変わらないが、前回調査と比較して最も差が大きかったのは「30歳代」(27.2%)であり、前回調査(35.5%)より8.3ポイント減少している。一方で、「20歳代」(40.0%)は前回調査(33.4%)より6.6ポイント増加している。

女性で『男性が優遇されている』と回答したものの割合が最も高いのは「40歳代」(64.7%)であり、次いで「70歳以上」(58.8%)、「60歳代」(54.5%)と続く。

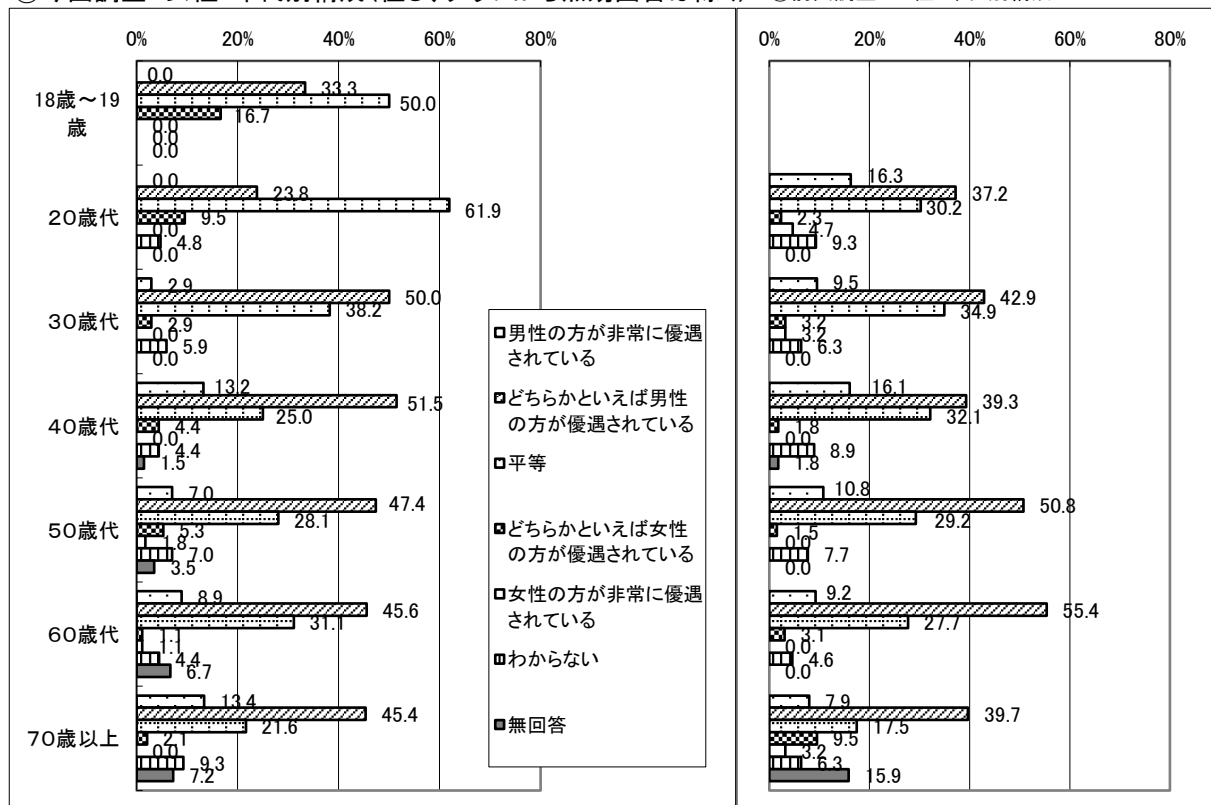
今回調査では前回調査より、男女ともに「平等」と回答した割合が増加。「平等」と回答した年代の割合が最も高いのは、男性は「40歳代」(47.7%)、女性は「20歳代」(61.9%)である。

「平等」と回答した男性「70歳以上」(39.2%)では、前回調査(27.9%)より11.3ポイント増加、女性「20歳代」(61.9%)では、前回調査(30.2%)より31.7ポイント大きく増加している。

④今回調査 男性・年代別構成(但しグラフからは無効回答を除く) ⑤前回調査 男性・年代別構成

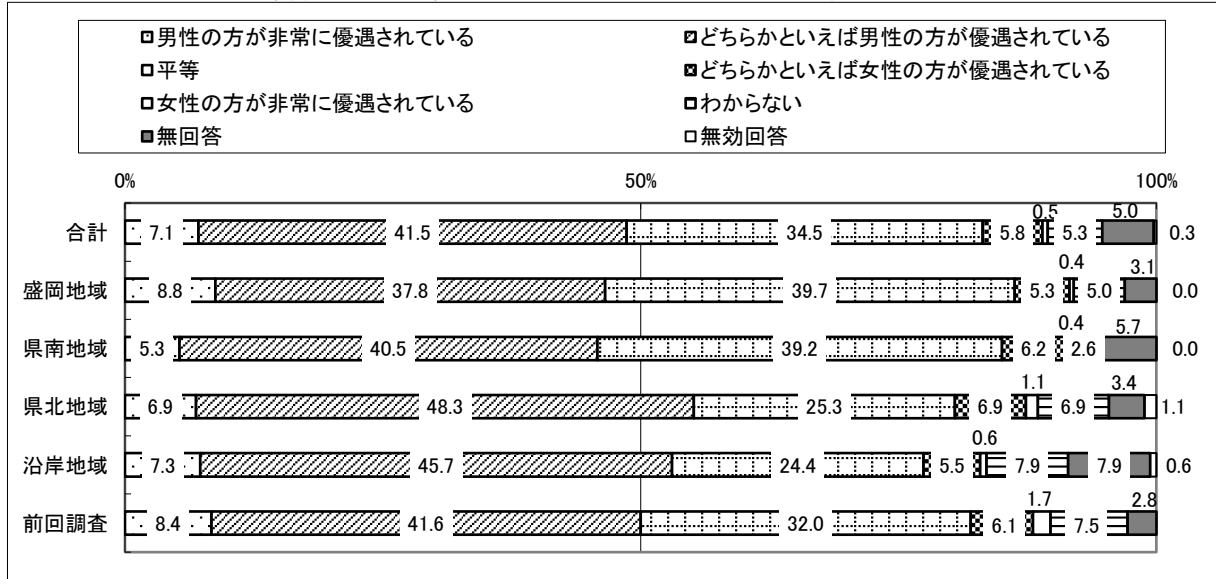


⑥今回調査 女性・年代別構成(但し、グラフから無効回答は除く) ⑦前回調査 女性・年代別構成



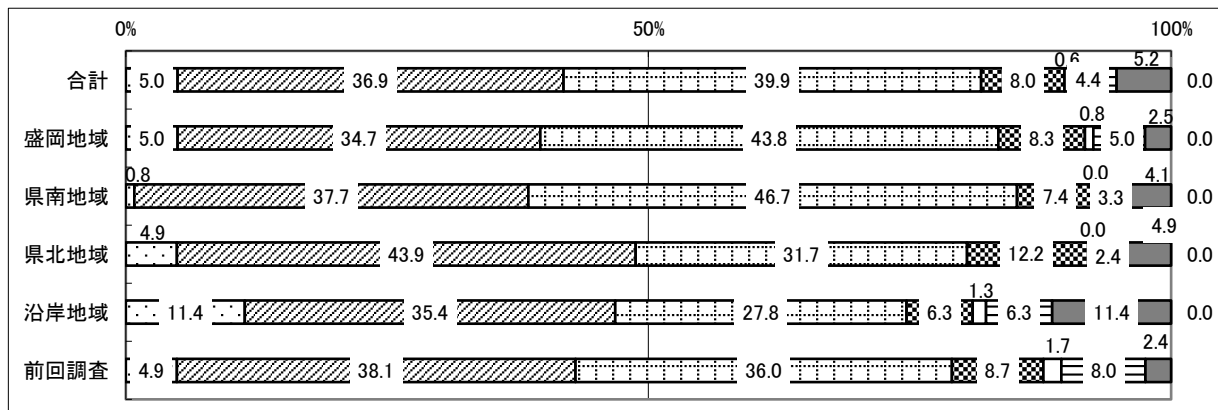
地域別にみると、『男性が優遇されている』と回答したものの割合が最も高かったのは「県北地域」(55.2%)であり、前回調査(48.4%)より6.8ポイント増加した。前は「沿岸地域」(54.0%)で最多となったが、今回は「県北地域」となった。
 前回『男性が優遇されている』との回答が最多であった「沿岸地域」(53.0%)は、前回調査(54.0%)より1.0ポイント減少した。

⑧今回調査 地域別による構成
 (N=742 盛岡地域=262 県南地域=227 県北地域=87 沿岸地域=164 地域無回答=2)

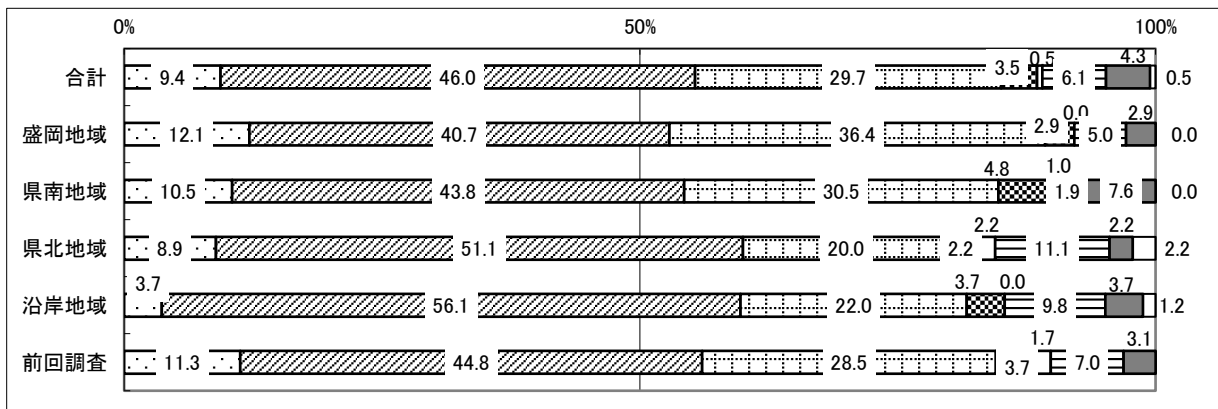


地域別・男女別にみると、男性で『男性が優遇されている』と回答したものが多かった地域は、県北地域(48.8%)であり、前回調査(54.2%)より5.4ポイントと減少した。同様に「沿岸地域」(46.8%)と前回調査(52.2%)より5.4ポイント減少した。
 女性で『男性が優遇されている』と回答したものが多かった地域は、「県北地域」(60.0%)で前回調査(45.0%)から15.0ポイント大幅に増加した。
 少なかった地域は「盛岡地域」(52.9%)であり、前回調査(58.7%)より5.8ポイント減少した。

⑨今回調査 男性の地域別構成



⑩今回調査 女性の地域別構成



(2)職場で

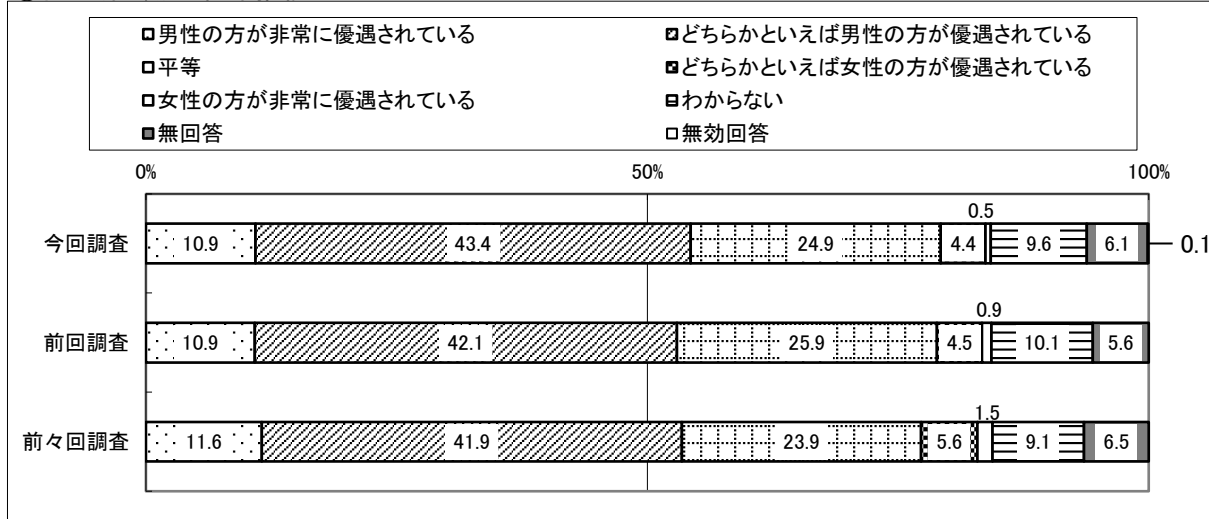
職場で『男性が優遇されている』と回答したものは54.3%、『女性が優遇されている』と回答したものは5.0%である。

『男性が優遇されている』(54.3%)と回答したものは、前回調査(53.0%)より1.3ポイント増加した。前回調査において減少したが、今回調査では増加に転じた。

「平等」と回答したものは24.9%であり、前回調査(25.9%)より1.0ポイント減少した。

『女性が優遇されている』(5.0%)と回答したものは前回調査(5.4%)より0.4ポイント微減とし

①合計(総数)の経年推移



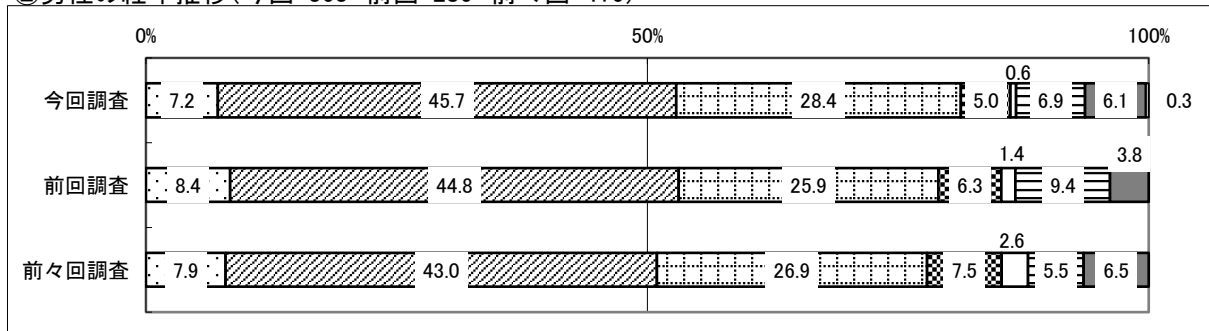
男女別にみると、男性で『男性が優遇されている』と回答したものは52.9%である。

前回調査(53.2%)より0.3ポイント減少している。

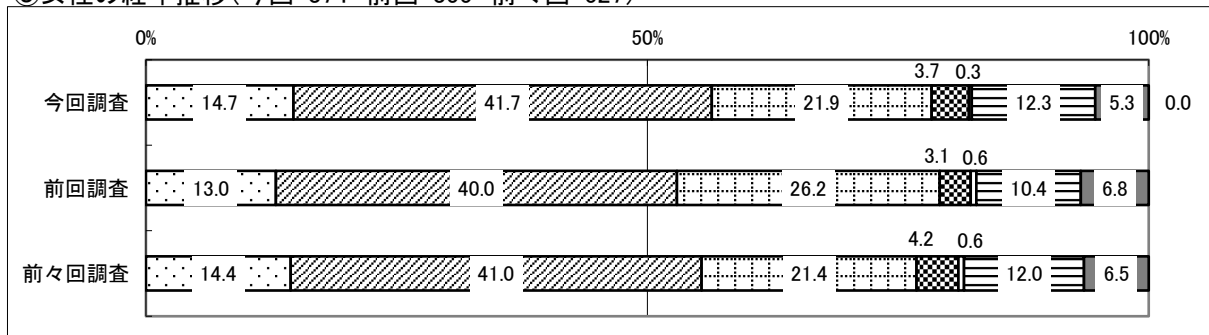
「平等」と回答したものは28.4%であり、前回調査(25.9%)より2.5ポイント増加した。

女性で『男性が優遇されている』と回答したものは56.4%で、前回調査(53.0%)より3.4ポイント増加している。一方で、「平等」は21.9%と前回調査(26.2%)より4.3ポイント減少している。

②男性の経年推移(今回=363 前回=286 前々回=416)



③女性の経年推移(今回=374 前回=355 前々回=527)

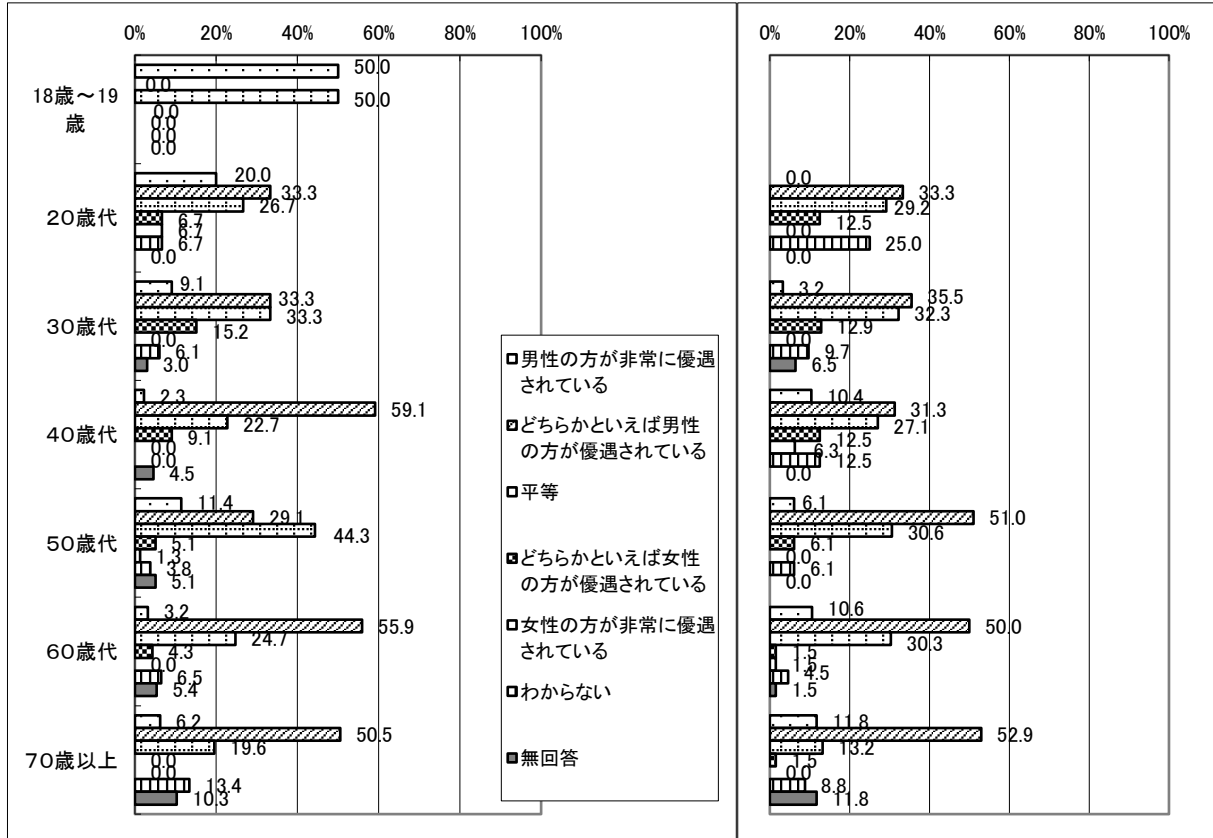


性別・年代別にみると、男性で『男性が優遇されている』と回答したものの割合が最も高いのは「40歳代」(61.4%)であり、次いで「60歳代」(59.1%)、「70歳以上」(56.7%)と続く。前回調査と比較して最も差が大きかったのは、「20歳代」(53.3%)であり、前回調査(33.3%)より20.0ポイントと大幅に増加している。一方「40歳代」(61.4%)は前回調査(41.7%)より19.7ポイント減少している。

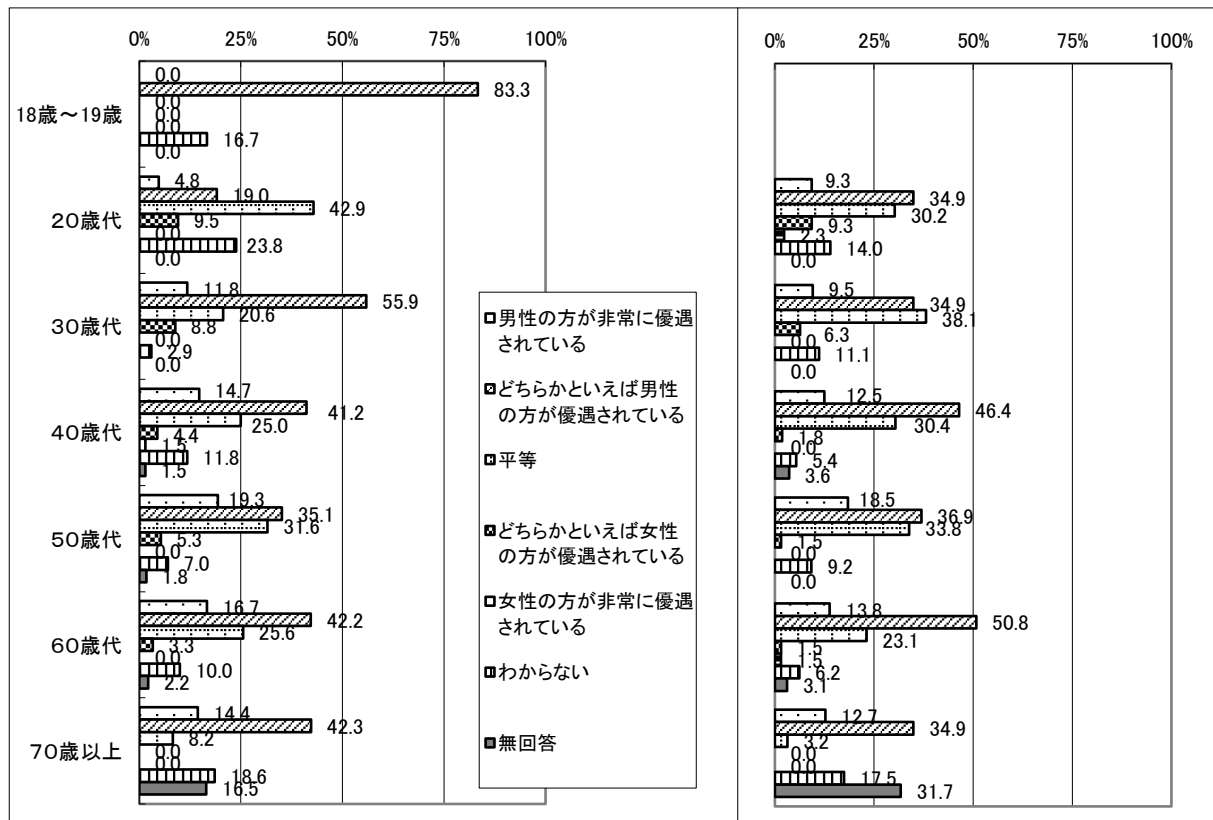
女性で『男性が優遇されている』と回答したものの割合が最も高いのは、「18歳～19歳」(83.3%)であり、次いで「30歳代」(67.6%)、「60歳代」(58.9%)と続く。

『男性が優遇されている』と回答したもので、年代別で最も男女差が大きかったのは「18歳～19歳」であり、男性(50.0%)と女性(83.3%)では、女性の方が33.3ポイント高い。一方、「20歳代」は男性(53.3%)、女性(23.8%)で男性が29.5ポイント高い。

④今回調査 男性・年代別構成(但し、グラフから無効回答は除く) ⑤前回調査 男性・年代別構成

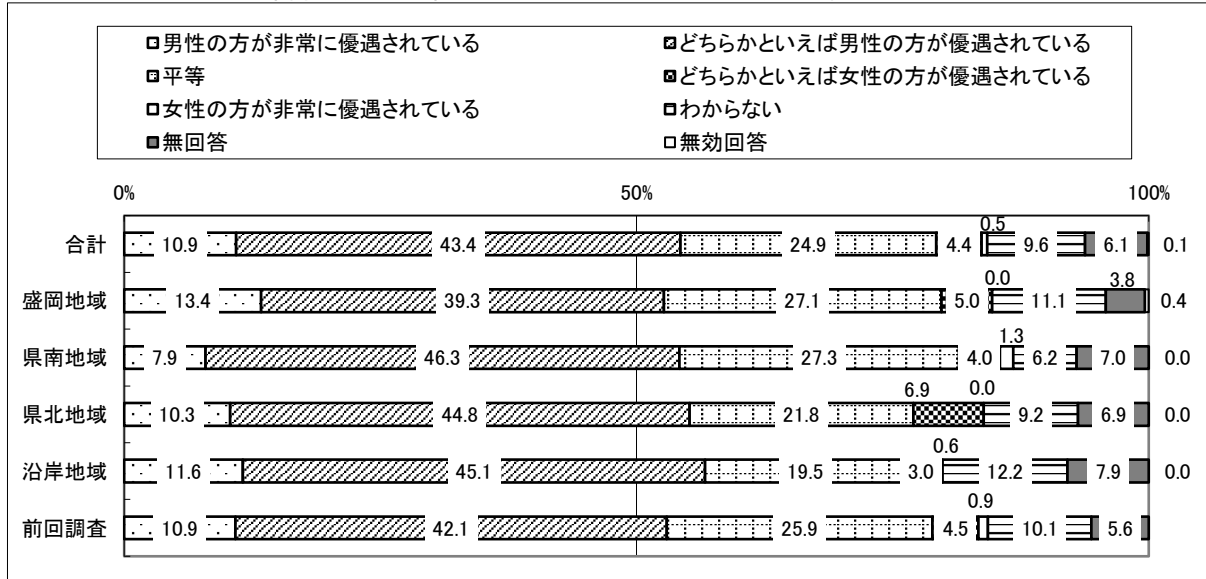


⑥今回調査 女性・年代別構成(但し、グラフから無効回答は除く) ⑦前回調査 女性・年代別構成



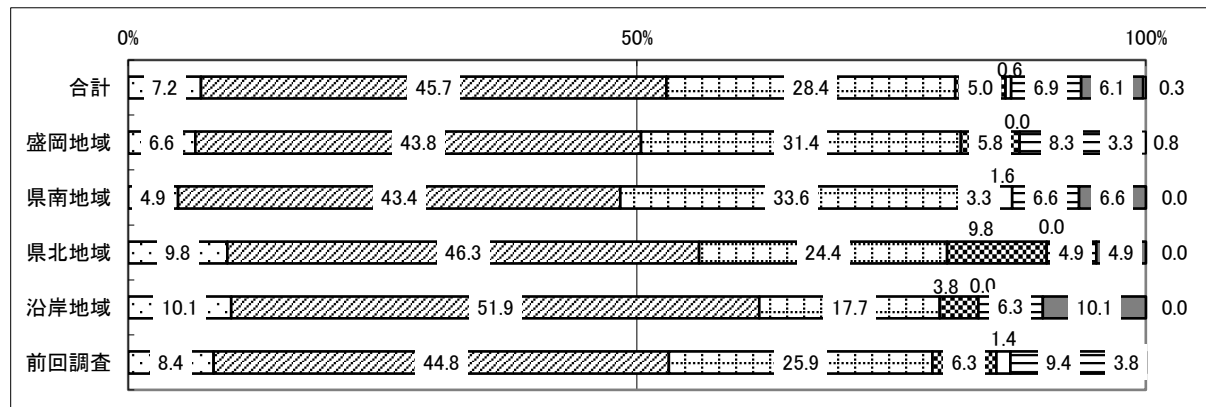
地域別にみると『男性が優遇されている』と回答したものの割合が最も高かったのは「沿岸地域」(56.7%)であり、次いで「県北地域」(55.2%)、「県南地域」(54.2%)と続く。
 「県北地域」(55.2%)は前回調査(50.0%)より5.2ポイント増加している。
 「平等」と回答したものの割合が最も高かったのは「県南地域」(27.3%)で、前回調査(26.1%)より1.2ポイント増加している。最も低かったのは「沿岸地域」(19.5%)で、前回調査(16.0%)より3.5ポイント増加している。一方、「県北地域」(21.8%)は前回調査(28.1%)より6.3ポイント減少している。

⑧今回調査 地域別による構成
 (N=742 盛岡地域=262 県南地域=227 県北地域=87 沿岸地域=164 地域無回答=2)

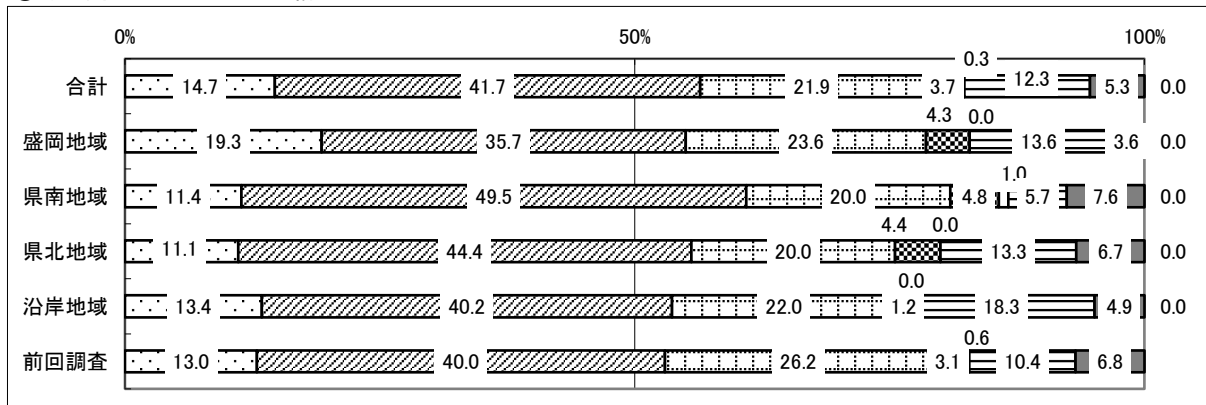


地域別・男女別にみると、『男性が優遇されている』と回答したものの割合が男性で最も高いのは、「沿岸地域」(62.0%)、女性では「県南地域」(61.0%)である。
 前回調査と比較し、最も差が大きいのは、男性では「県南地域」(48.4%)であり、前回調査(50.5%)より2.1ポイント減少、女性では「県北地域」(55.6%)であり、前回調査(47.5%)より8.1ポイント増加している。
 男女差が最も大きいのは「県南地域」であり、男性(48.4%)と女性(61.0%)では、女性の方が12.6ポイント高い。

⑨今回調査 男性の地域別構成



⑩今回調査 女性の地域別構成



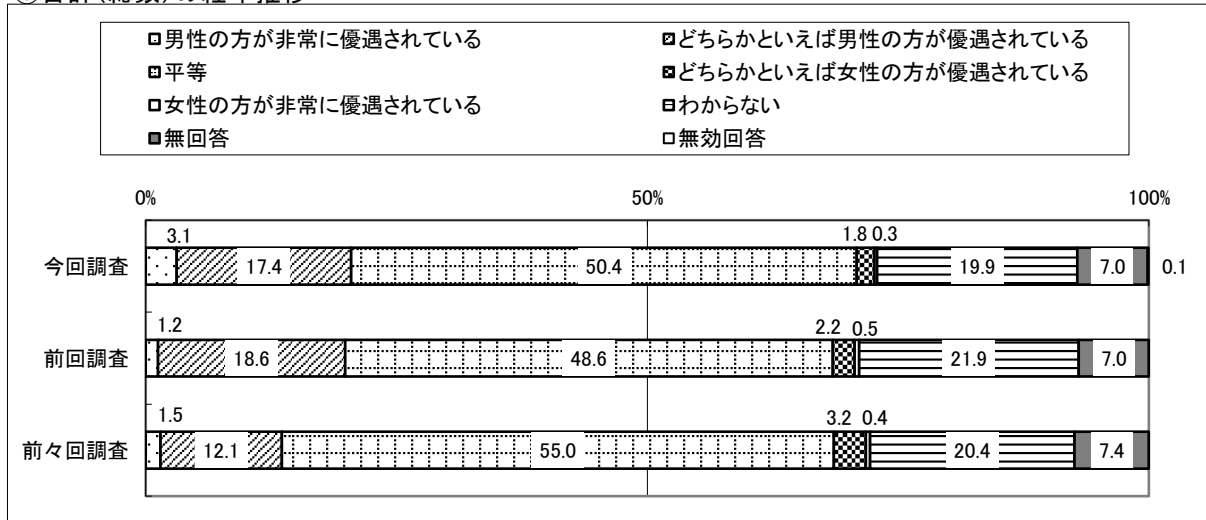
(3) 学校教育の場で

学校教育の場で『男性が優遇されている』と回答したものは20.5%、『女性が優遇されている』と回答したものは2.1%である。

『男性が優遇されている』(20.5%)と回答したものは、前回調査(19.8%)より0.7ポイント微増とした。

「平等」と回答したものは50.4%であり、前回調査(48.6%)より1.8ポイント増加している。

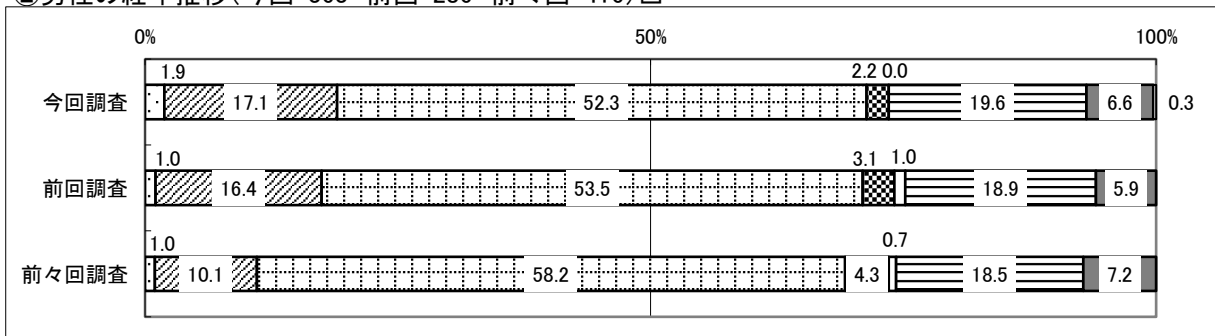
①合計(総数)の経年推移



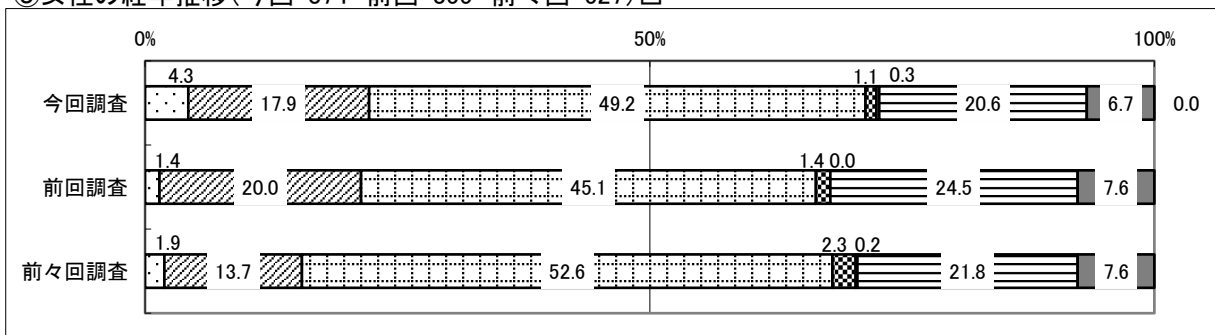
男女別にみると、『男性が優遇されている』と回答した男性は19.0%、女性は22.2%である。前回調査(男性:17.4%、女性:21.4%)と比較すると、男性は1.6ポイント、女性は0.8ポイントそれぞれ増加している。

「平等」と回答した男性は、今回調査(52.3%)であり、前回調査(53.5%)より1.2ポイント減少している。女性は今回調査(49.2%)であり、前回調査(45.1%)より4.1ポイント増加している。

②男性の経年推移(今回=363 前回=286 前々回=416) □

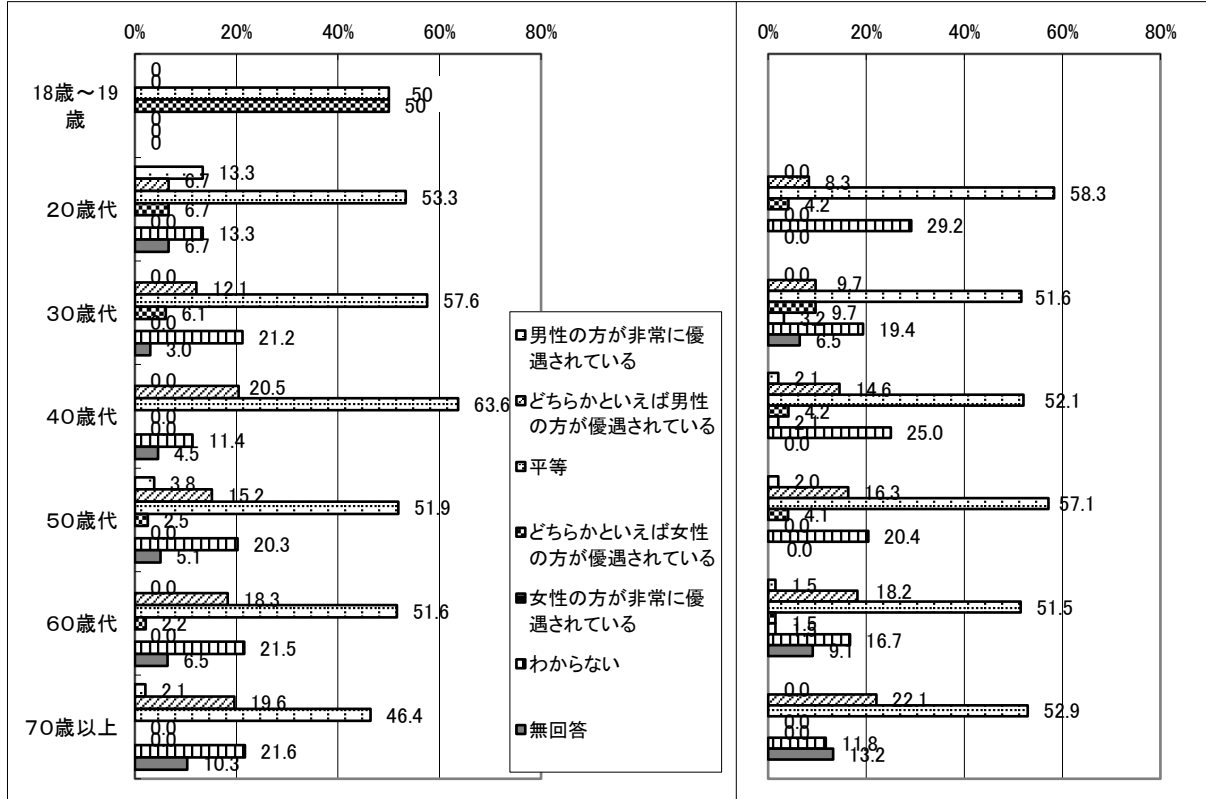


③女性の経年推移(今回=374 前回=355 前々回=527) □

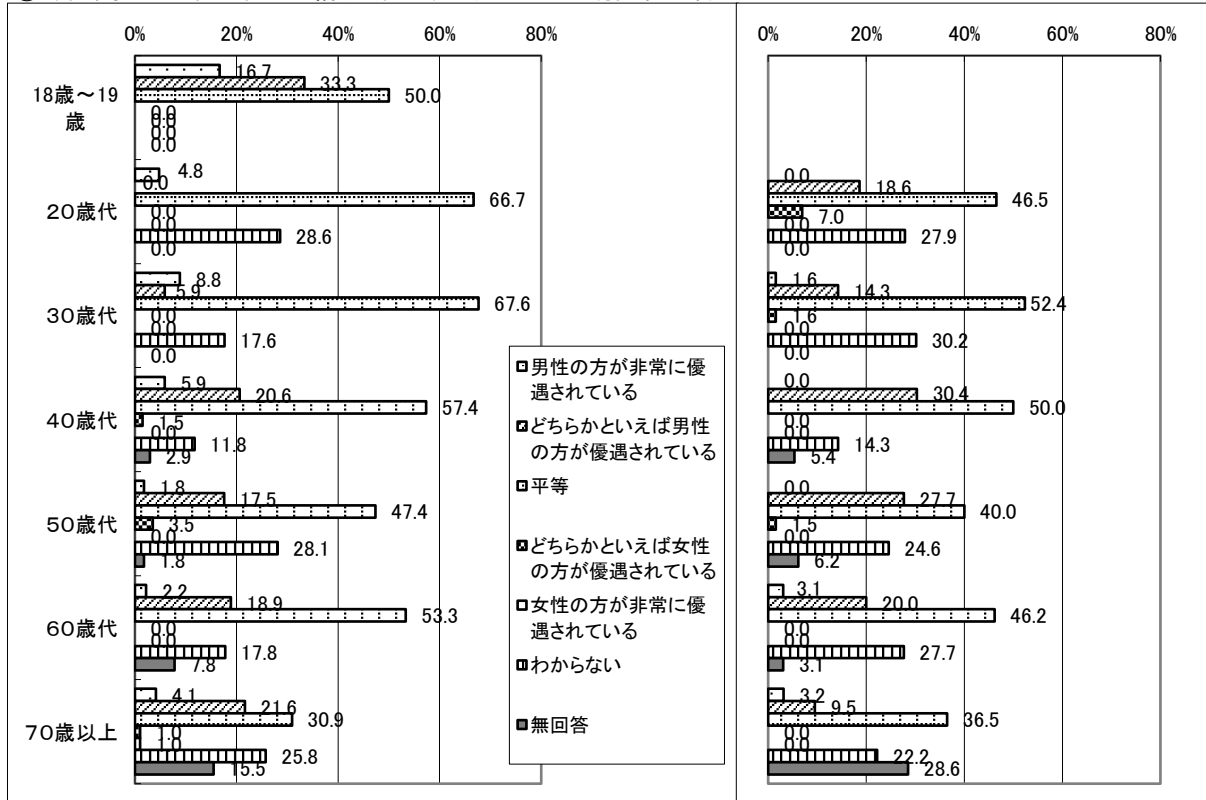


性別・年代別にみると、『男性が優遇されている』と回答した男性が最も多いのは「70歳以上」(21.6%)であり、次いで「40歳代」(20.5%)である。女性は「18歳～19歳」(50.0%)であり、次いで「40歳代」(26.5%)、「70歳以上」(25.8%)であった。
 男女差が最も大きい年代は「18歳～19歳」であり、『男性が優遇されている』と回答した男性(0.0%)と女性(50.0%)では、50.0ポイント差で女性が高かった。
 前回調査と比較すると、男性の「20歳代」(20.0%)では、前回調査(8.3%)より11.7ポイント増加している。女性の「20歳代」(4.8%)では、前回調査(18.6%)より13.8ポイント減少、一方「27歳以上」(25.8%)は、前回調査(12.7%)より13.1ポイント増加している。

④今回調査 男性・年代別構成(但し、グラフから無効回答は除く) ⑤前回調査 男性・年代別構成



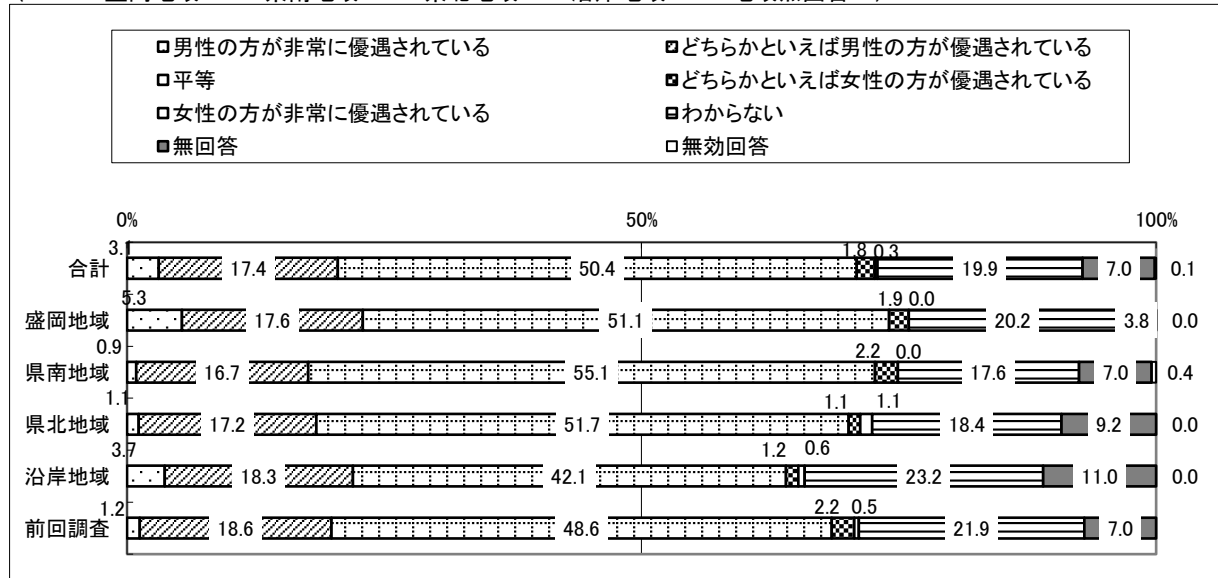
⑥今回調査 女性・年代別構成(但し、グラフから無効回答は除く) ⑦前回調査 女性・年代別構成



地域別にみると、『男性が優遇されている』と回答したものの割合が最も高いのは「盛岡地域」(22.9%)であり、次いで「沿岸地域」(22.0%)、「県北地域」(18.4%)、「県南地域」(17.6%)と続く。前回調査と比較すると、「県北地域」(18.4%)は前回調査(15.6%)より2.8ポイント増加、「盛岡地域」(22.9%)は前回調査(20.8%)より2.1ポイント増加、「沿岸地区」(22.0%)は前回調査(20.0%)より2ポイント増加しているが、「県南地区」(17.6%)は前回調査(19.9%)より2.3ポイント減少している。

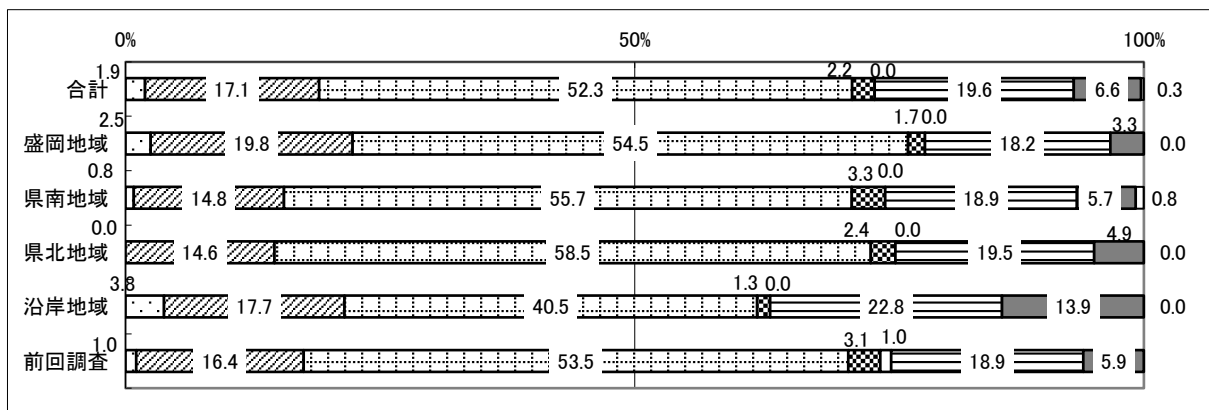
⑧今回調査 地域別による構成

(N=742 盛岡地域=262 県南地域=227 県北地域=87 沿岸地域=164 地域無回答=2)

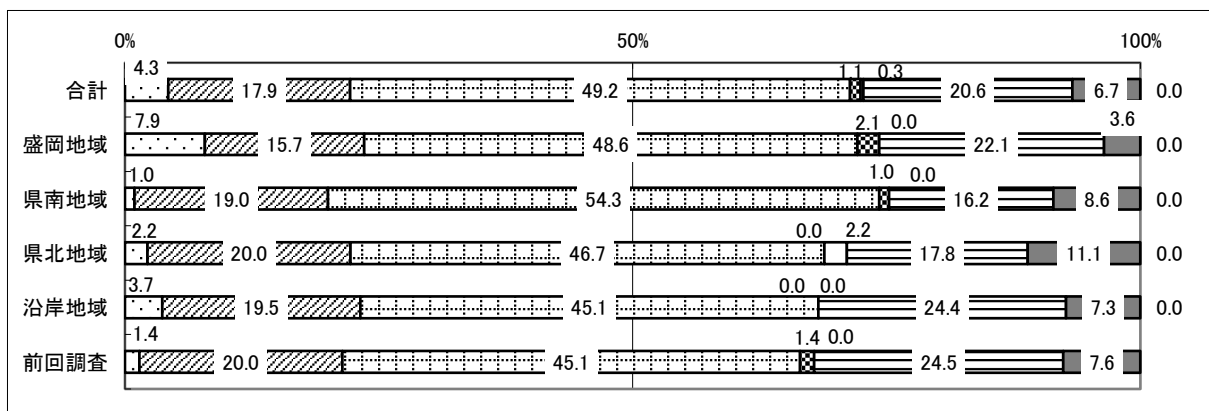


地域別・男女別にみると、『男性が優遇されている』と回答したものの割合が男性で最も高いのは、「盛岡地域」(22.3%)、女性では「盛岡地域」(23.6%)である。前回調査と比較し、最も差が大きいのは、男性では「県北地域」(14.6%)であり、前回調査(20.8%)より6.2ポイント減少、女性では「県北地域」(22.2%)であり、前回調査(12.5%)より9.7ポイント増加している。男女差が最も大きいのは「県北地域」であり、男性(14.6%)と女性(22.2%)では、男性の方が7.6ポイント低い。

⑨今回調査 男性の地域別構成



⑩今回調査 女性の地域別構成



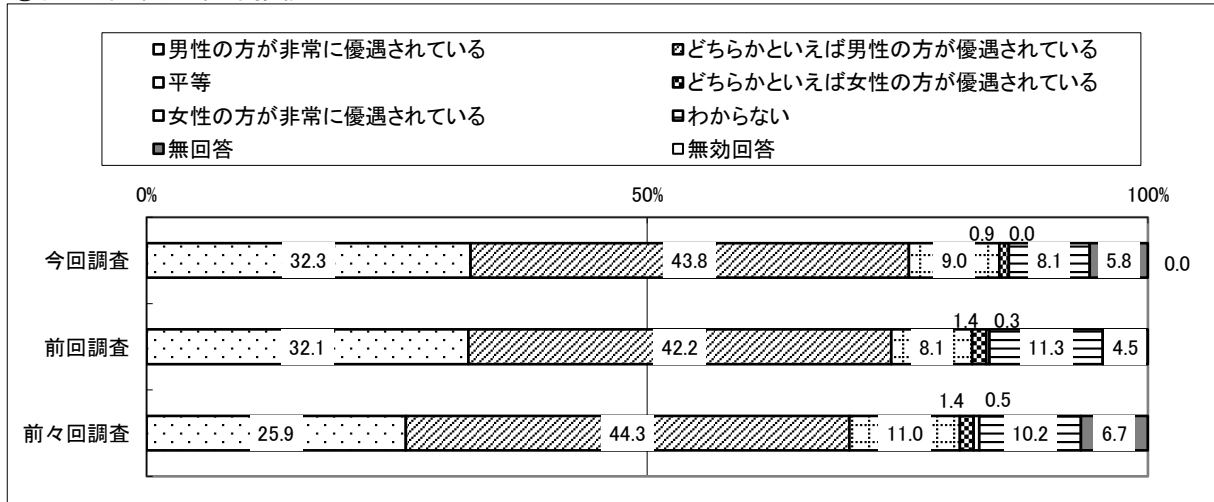
(4)政治の場で

政治の場で『男性が優遇されている』と回答したものは76.1%、『女性が優遇されている』と回答したものは0.9%である。

『男性が優遇されている』(76.1%)と回答したものは、前回調査(74.4%)より1.7ポイント増加している。

「平等」と回答したものは9.0%であり、前回調査(8.1%)より0.9ポイント増加した。前回調査、前々回調査と比較して増加傾向で推移している。

①合計(総数)の経年推移

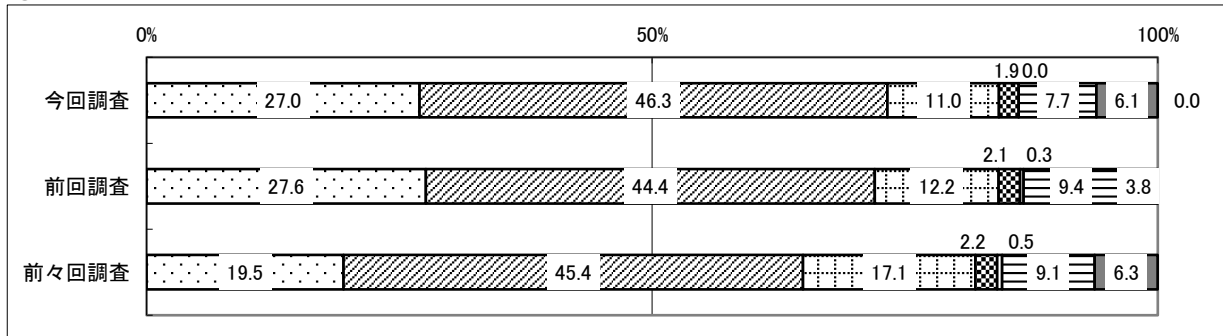


男女別にみると、『男性が優遇されている』と回答したものは、男性では73.3%、女性では79.7%であった。

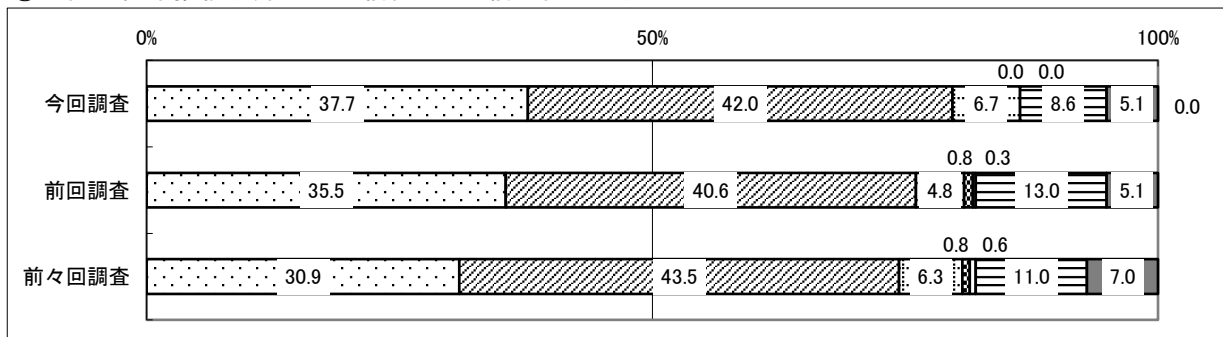
前回調査と比較すると、男女ともに増加傾向にあり、男性(73.3%)は前回調査(72.0%)より1.3ポイント、女性(79.7%)は前回調査(76.1%)より3.6ポイント増加した。

「平等」と回答したものは、男性(11.0%)が前回調査(12.2%)より1.2ポイント減少し、女性(6.7%)は前回調査(4.8%)より1.9ポイント増加した。

②男性の経年推移(今回=363 前回=286 前々回=416)□



③女性の経年推移(今回=374 前回=355 前々回=527)□



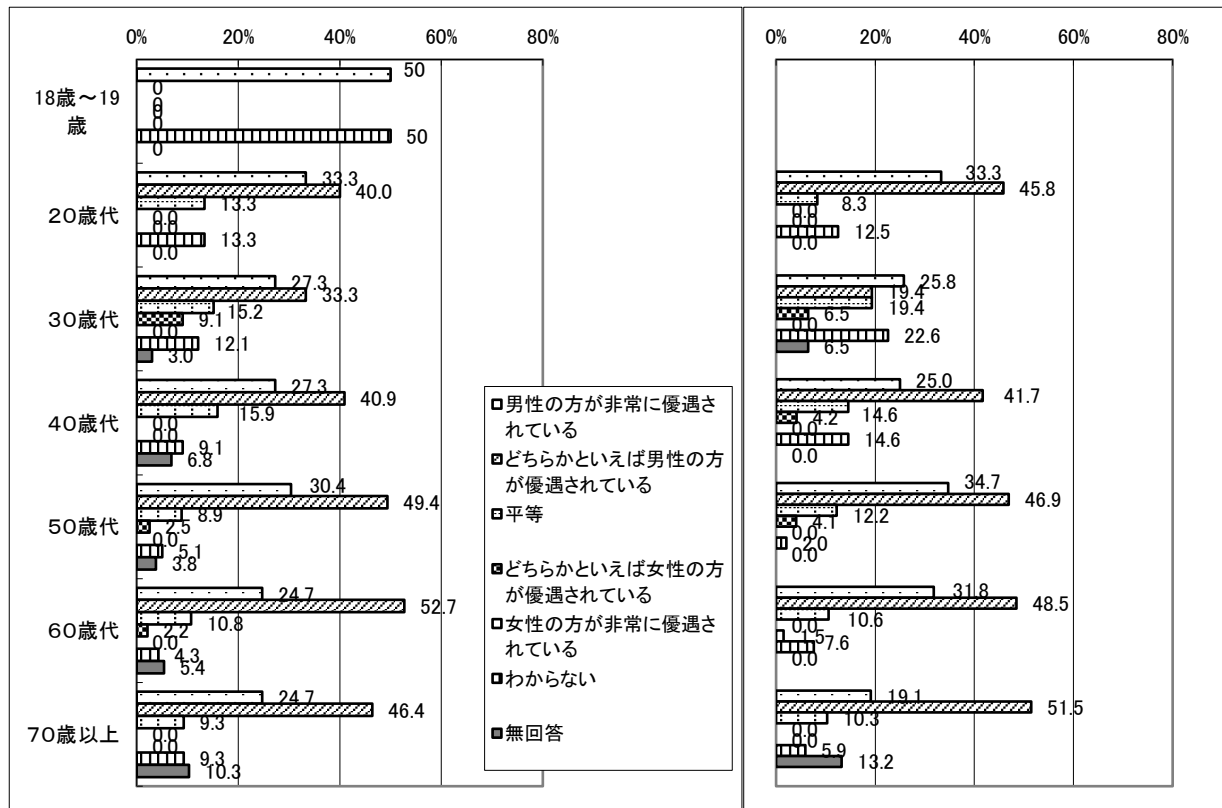
年代別・男女別にみると、『男性が優遇されている』と回答したものの割合が最も高いのは、男性では「50歳代」(79.7%)、次いで「60歳代」(77.4%)、「20歳代」(73.3%)と続く。

女性では、「30歳代」、「40歳代」がそれぞれ94.1%が最も高く、次いで「50歳代」(84.2%)、「20歳代」(81.3%)と続く。

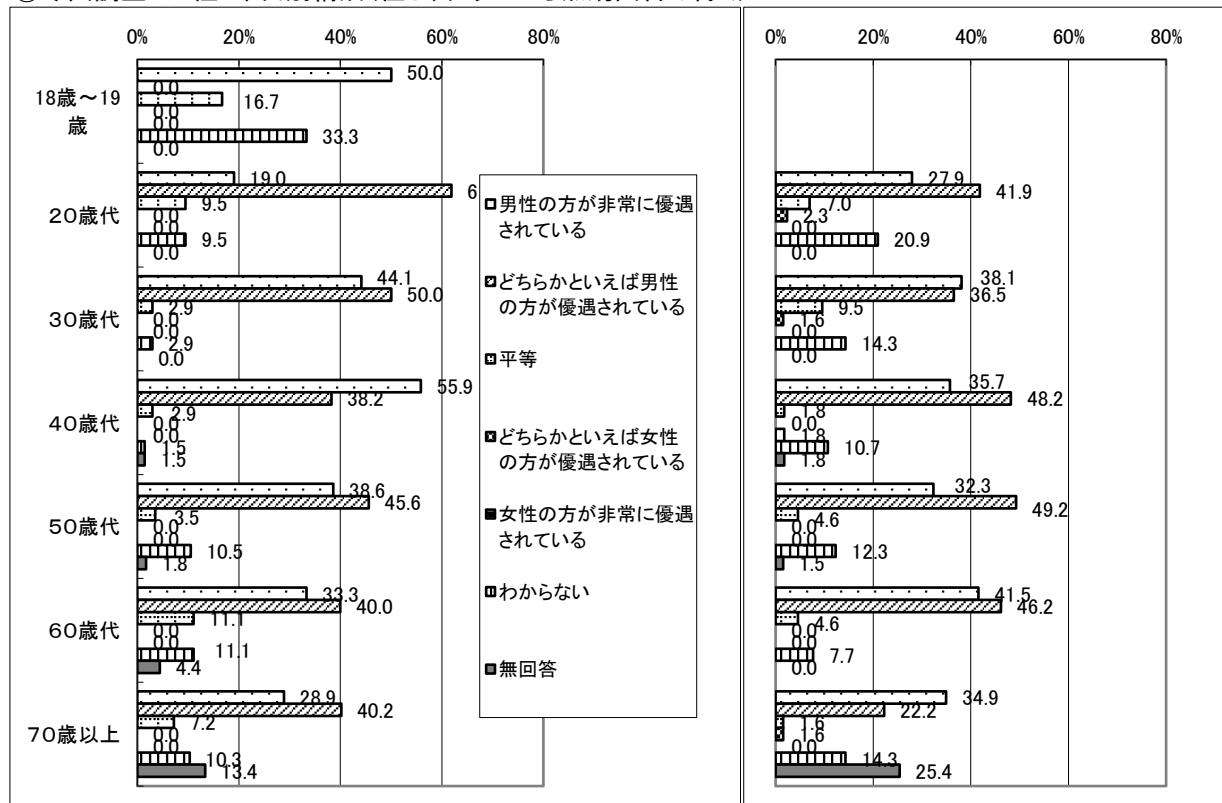
男女差が最も大きい年代は「30歳代」であり、男性(60.6%)と女性(94.1%)では、女性の方が33.5ポイント高い。

前回調査と比較すると、男性では「30歳代」(60.6%)は前回調査(45.2%)より15.4ポイント増加している。女性では「30歳代」(94.1%)は前回調査(74.6%)より19.5ポイント増加、「20歳代」(81.0%)は前回調査(69.8%)より11.2ポイント増加、「40歳代」(94.1%)は前回調査(83.9%)より10.2ポイント増加と二桁の増加としたが、一方で「60歳代」(73.3%)は前回調査(87.7%)より14.4ポイント減少している。

④今回調査 男性・年代別構成(但し、グラフから無効回答は除く) ⑤前回調査 男性・年代別構成



⑥今回調査 女性・年代別構成(但し、グラフから無効回答は除く) ⑦前回調査 女性・年代別構成

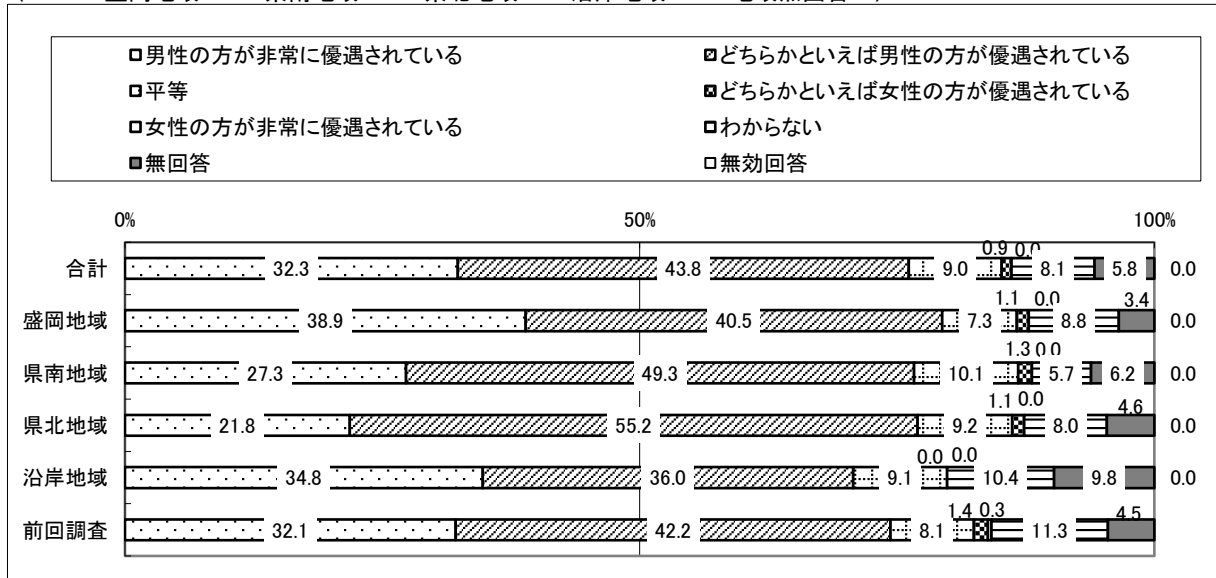


地域別にみると、『男性が優遇されている』と回答したものは「盛岡地域」(79.4%)が最も高く、次いで「県北地域」(77.0%)、「県南地域」(76.7%)、「沿岸地域」(70.7%)であり、全ての地域で7割を超えている。

「平等」と回答したものの差が最も大きいのは、「沿岸地域」(10.4%)と、「盛岡地域」(7.3%)であり、沿岸地域の方が3.1ポイント高い。

⑧今回調査 地域別による構成

(N=742 盛岡地域=262 県南地域=227 県北地域=87 沿岸地域=164 地域無回答=2)

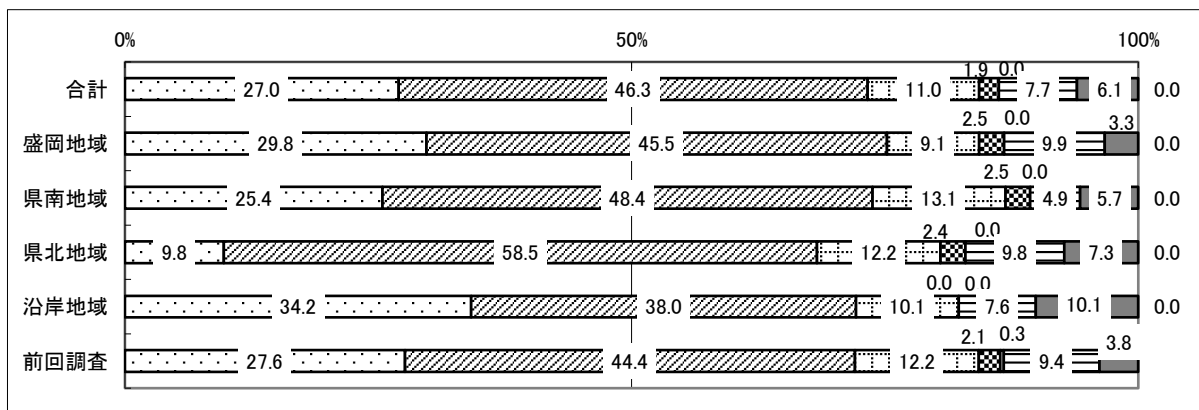


地域別・男女別にみると、『男性が優遇されている』と回答したものの割合が最も高いのは、男性では「盛岡地域」(75.2%)であり、女性では「県北地域」(86.7%)である。

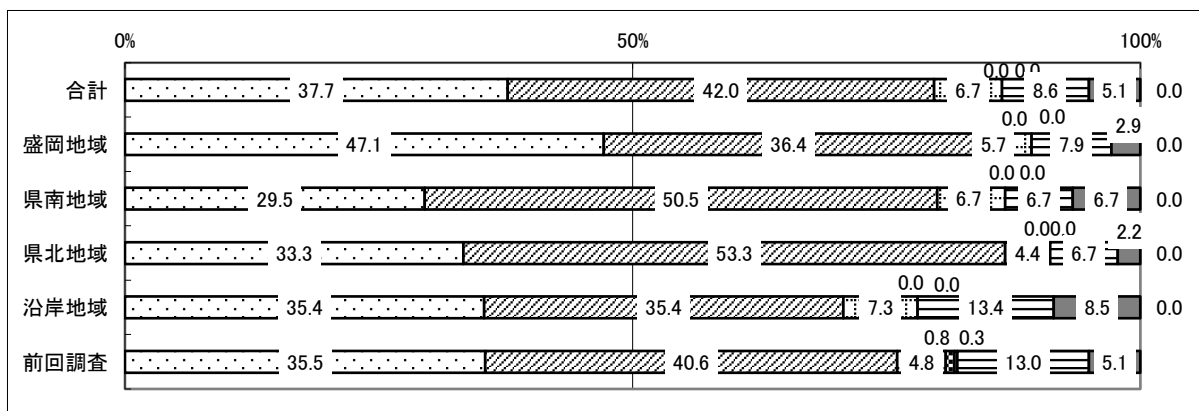
前回調査と比較し、最も差が大きいのは男性では「県北地域」(68.3%)であり、前回調査(79.2%)より10.9ポイント減少している。女性では「県北地域」(86.7%)であり、前回調査(65.0%)より21.7ポイント大幅に増加している。

男女差が最も大きいのは「県北地域」であり、男性(68.3%)と女性(86.7%)では、男性の方が18.4ポイント高い。

⑨今回調査 男性の地域別構成



⑩今回調査 女性の地域別構成

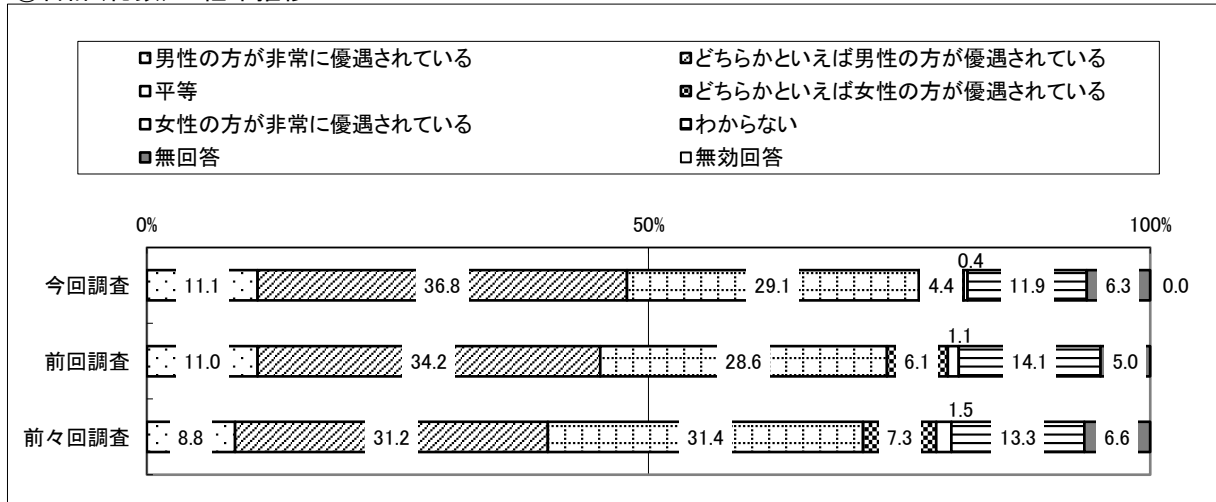


(5) 法律や制度の上で

法律や制度の上で『男性が優遇されている』と回答したものは47.8%、『女子が優遇されている』と回答したものは4.8%である。

『男性が優遇されている』(47.8%)と回答したものは、前回調査(45.2%)より2.6ポイント増加、前々回調査(40.0%)より7.8ポイント増加しており、増加傾向で推移している。

①合計(総数)の経年推移



男女別にみると、『男性が優遇されている』と回答した男性は40.8%、女性は55.1%である。

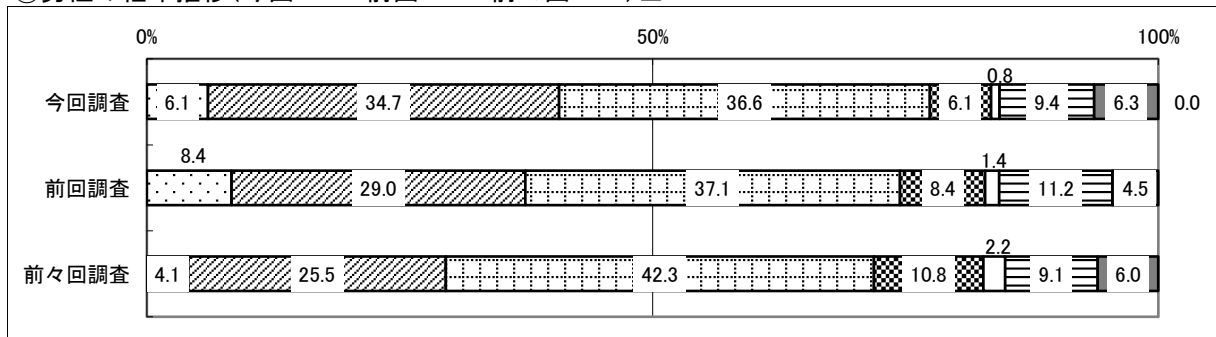
男性(40.8%)は前回調査(37.4%)より3.4ポイント増加、女性(55.1%)も前回調査

(51.3%)より3.8ポイント増加し、男女ともに増加傾向にある。

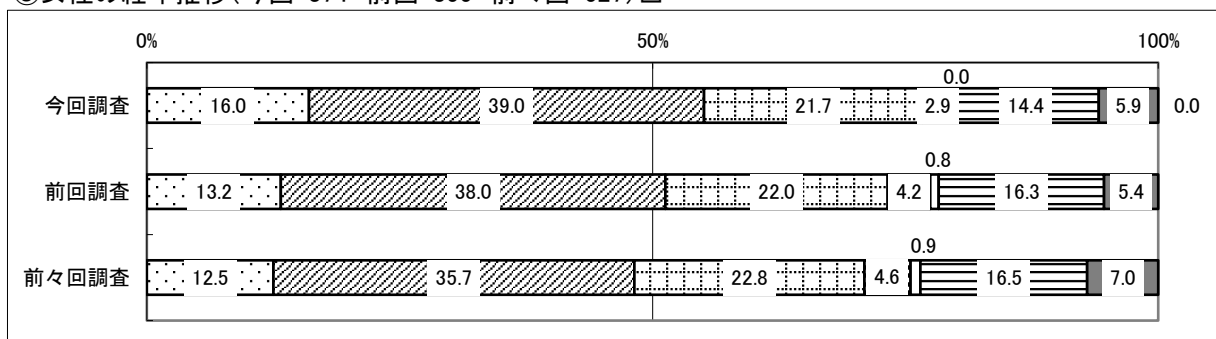
「平等」と回答したものは、男性(36.6%)と女性(21.7%)では、男性の方が14.9ポイント高く、男女による差が大きい。

また「平等」は男女ともに減少傾向にある。

②男性の経年推移(今回=363 前回=286 前々回=416)口



③女性の経年推移(今回=374 前回=355 前々回=527)口

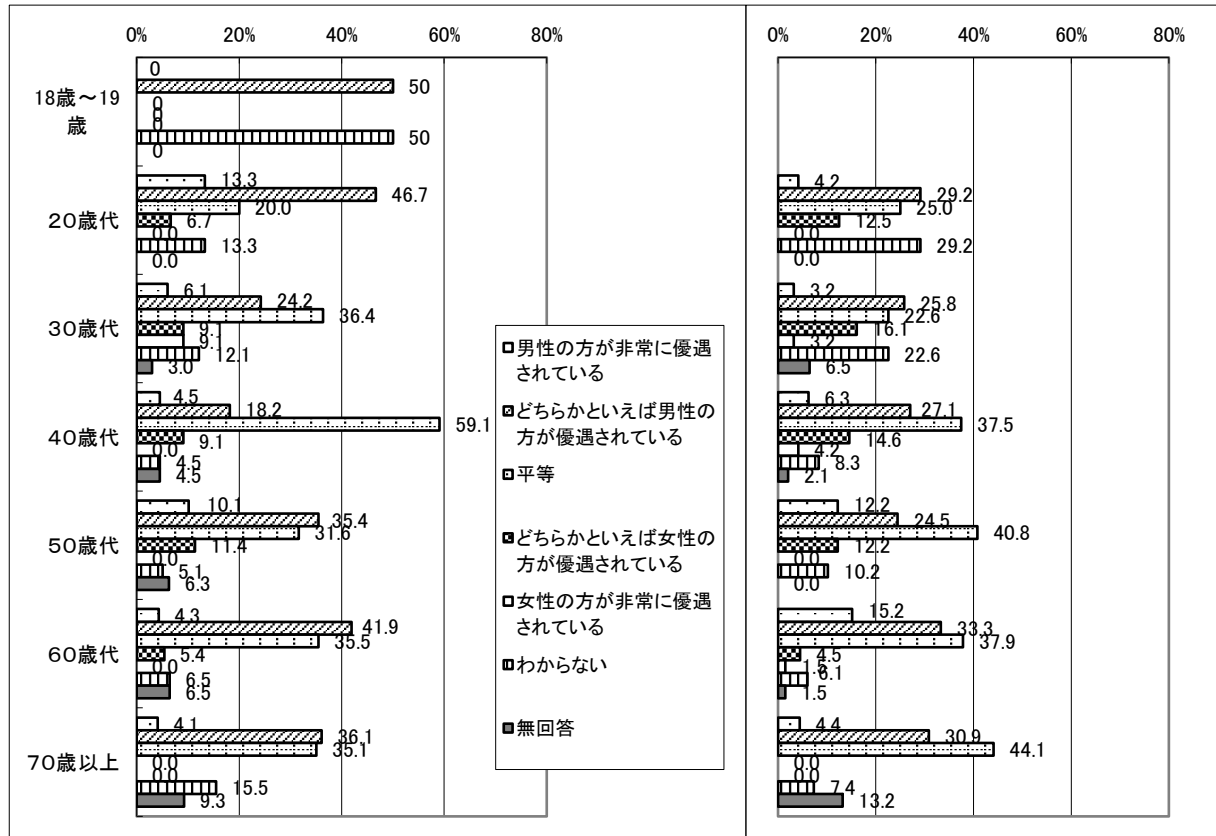


年代別・男女別にみると、男性で『男性が優遇されている』と回答したものの割合が最も高いのは「20歳代」(60.0%)であり、次いで「18歳～19歳」(50.0%)、「60歳以上」(46.2%)と続く。

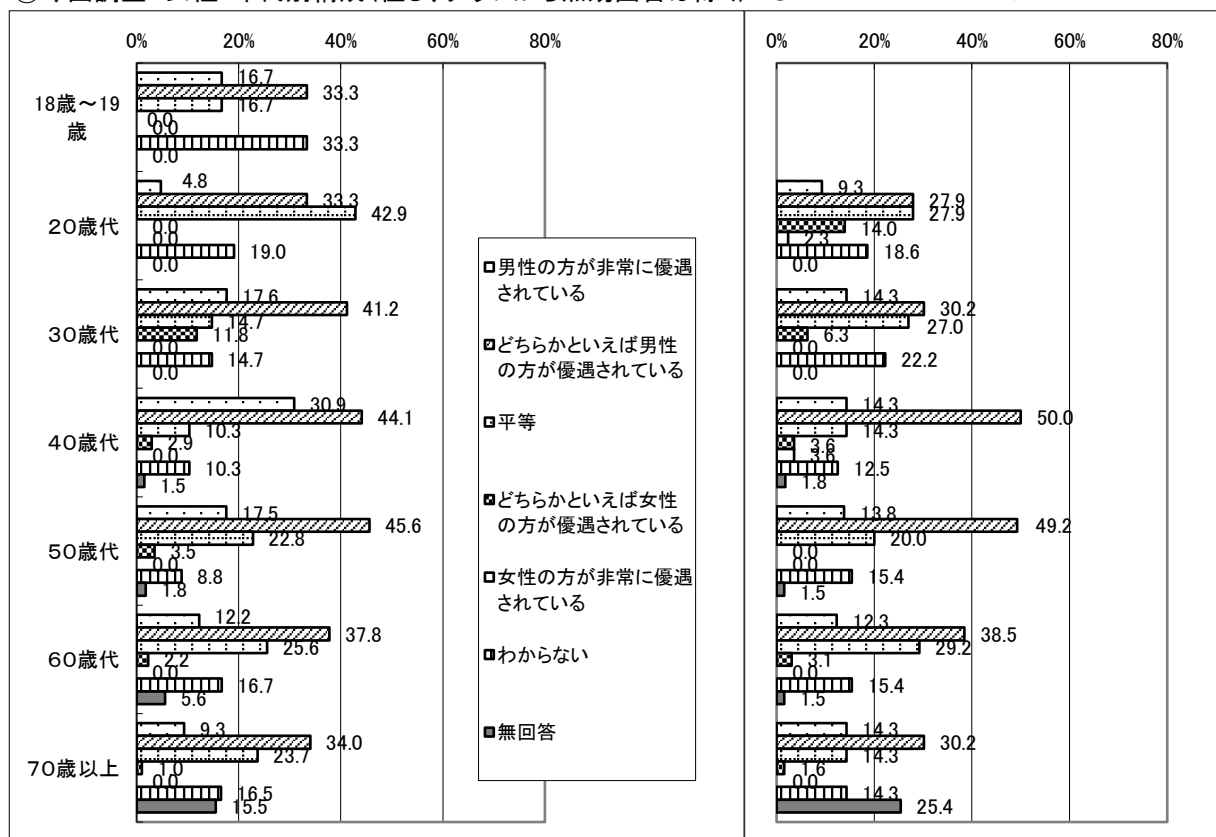
女性で、『男性が優遇されている』と回答したものの割合が最も高いのは、「40歳代」(75.0%)であり、次いで「50歳代」(63.2%)、「30歳代」(58.8%)と続く。

男女差が最も多い年代は「40歳代」であり、男性(22.7%)と女性(75.0%)では、女性の方が

④今回調査 男性・年代別構成(但し、グラフから無効回答は除く) ⑤前回調査 男性・年代別構成

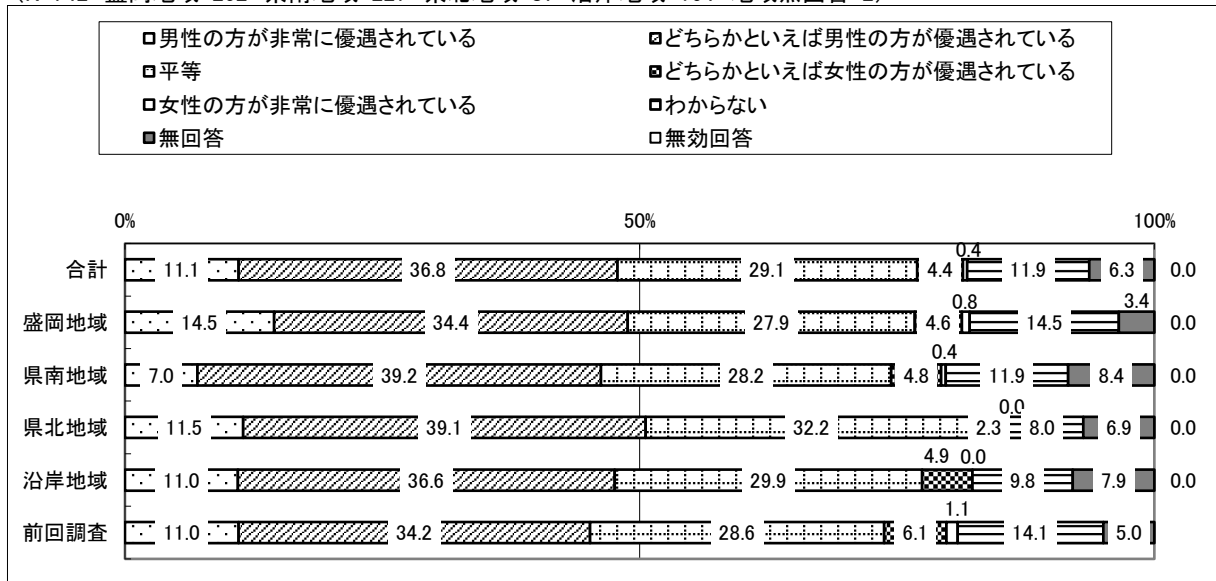


⑥今回調査 女性・年代別構成(但し、グラフから無効回答は除く) ⑦前回調査 女性・年代別構成



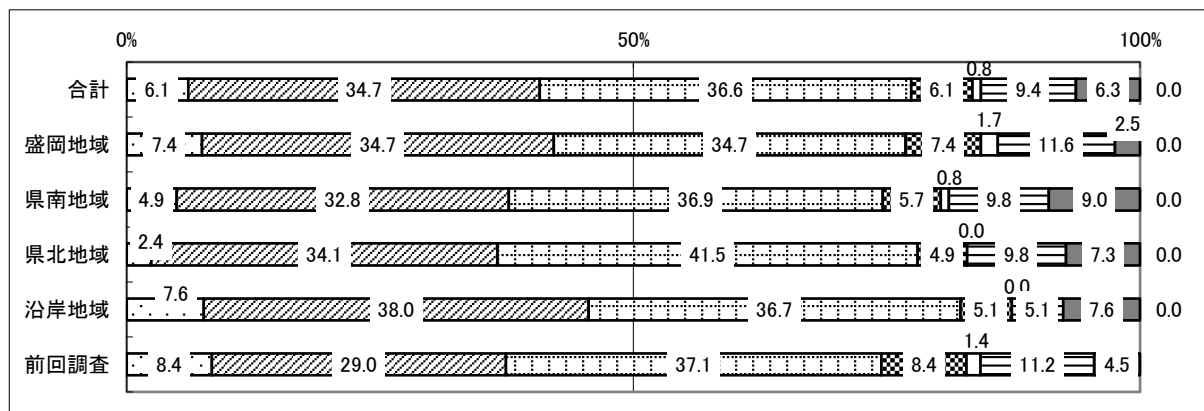
地域別にみると、『男性が優遇されている』と回答したものの割合が最も高いのは、「県北地域」(50.6%)であり、次いで「盛岡地域」(48.9%)、「沿岸地域」(47.6%)、「県南地域」(46.3%)である。
 「平等」と回答したものの割合が最も高いのは「県北地域」(32.2%)であり、最も低いのは「盛岡地域」(27.9%)であり、その差は4.3ポイントである。

⑧今回調査 地域別による構成
 (N=742 盛岡地域=262 県南地域=227 県北地域=87 沿岸地域=164 地域無回答=2)

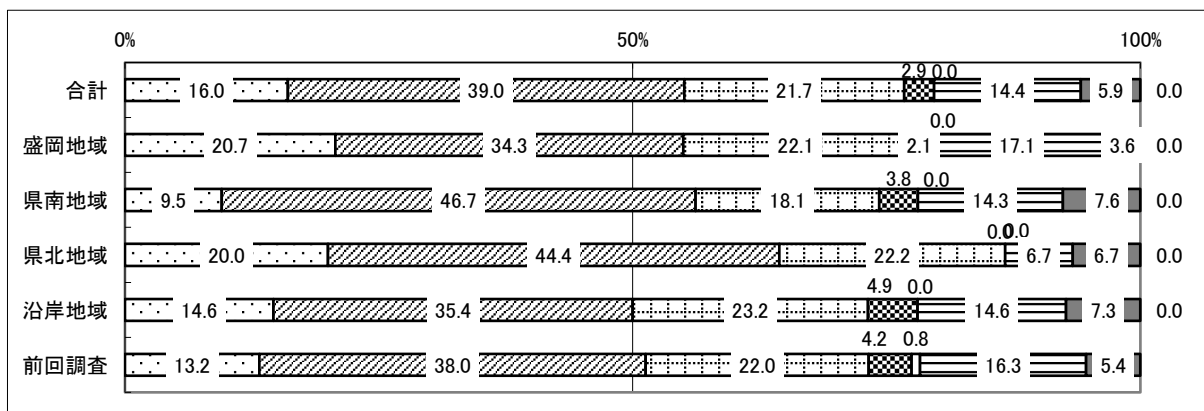


地域別・男女別にみると、男性で『男性が優遇されている』と回答したものの割合が最も高い地域は「沿岸地域」(45.6%)であり、女性では「県北地域」(64.4%)であった。
 男女差が最も大きいのは「県北地域」であり、男性(36.6%)と女性(64.4%)では、女性の方が27.8ポイント高い。

⑨今回調査 男性の地域別構成



⑩今回調査 女性の地域別構成

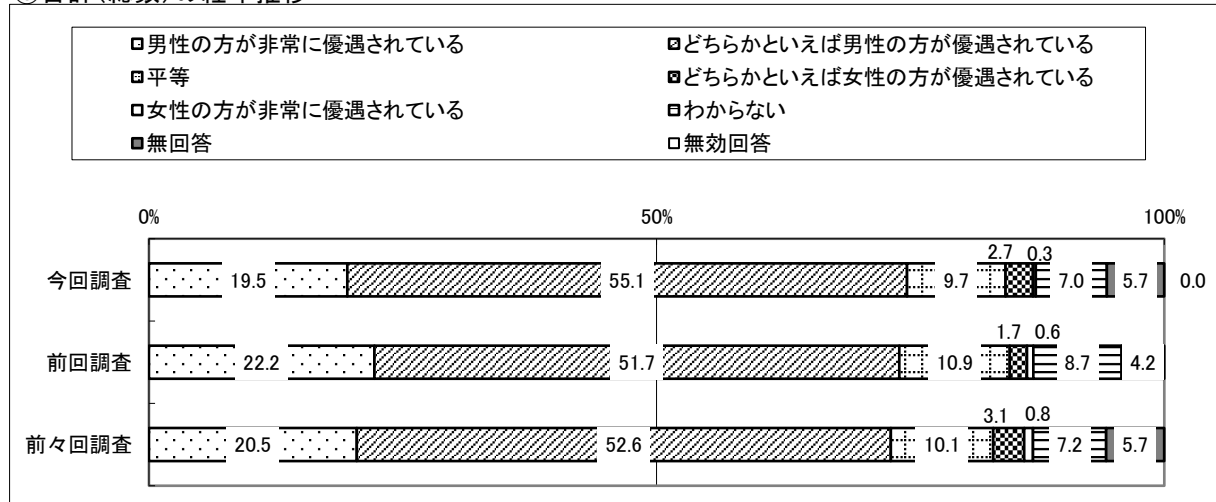


(6) 社会通念・慣習・しきたりなどで

社会通念・慣習・しきたりなどで『男性が優遇されている』と回答したものは74.7%であり、『女性が優遇されている』と回答したものは3.0%である。

『男性が優遇されている』（74.7%）と回答したものは前回調査（73.9%）より0.8ポイント微増とした。前々回と比較しても1.6ポイント増加しており、緩やかに増加を辿っている。

①合計（総数）の経年推移

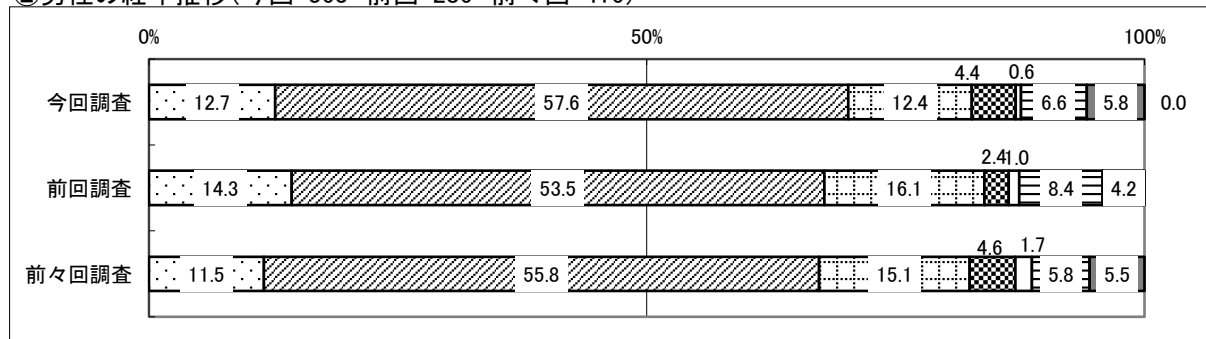


男女別にみると、男性で『男性が優遇されている』と回答したものは70.2%であり、前回調査（67.8%）より2.4ポイント増加している。

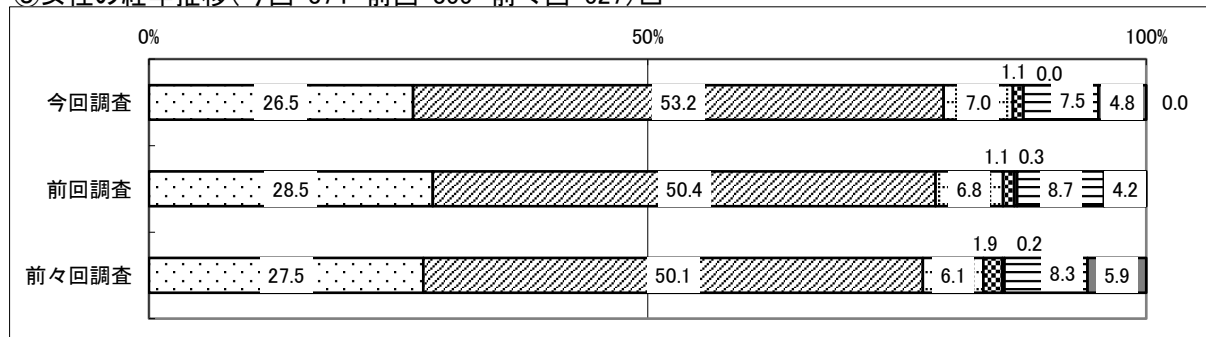
女性で『男性が優遇されている』と回答したものは79.7%であり、前回調査（78.9%）より0.8ポイント増加している。

「平等」と回答したのものについては、男性（12.4%）と女性（7.0%）では、男性の方が5.4ポイント高く、男女による差が大きい。

②男性の経年推移（今回=363 前回=286 前々回=416）

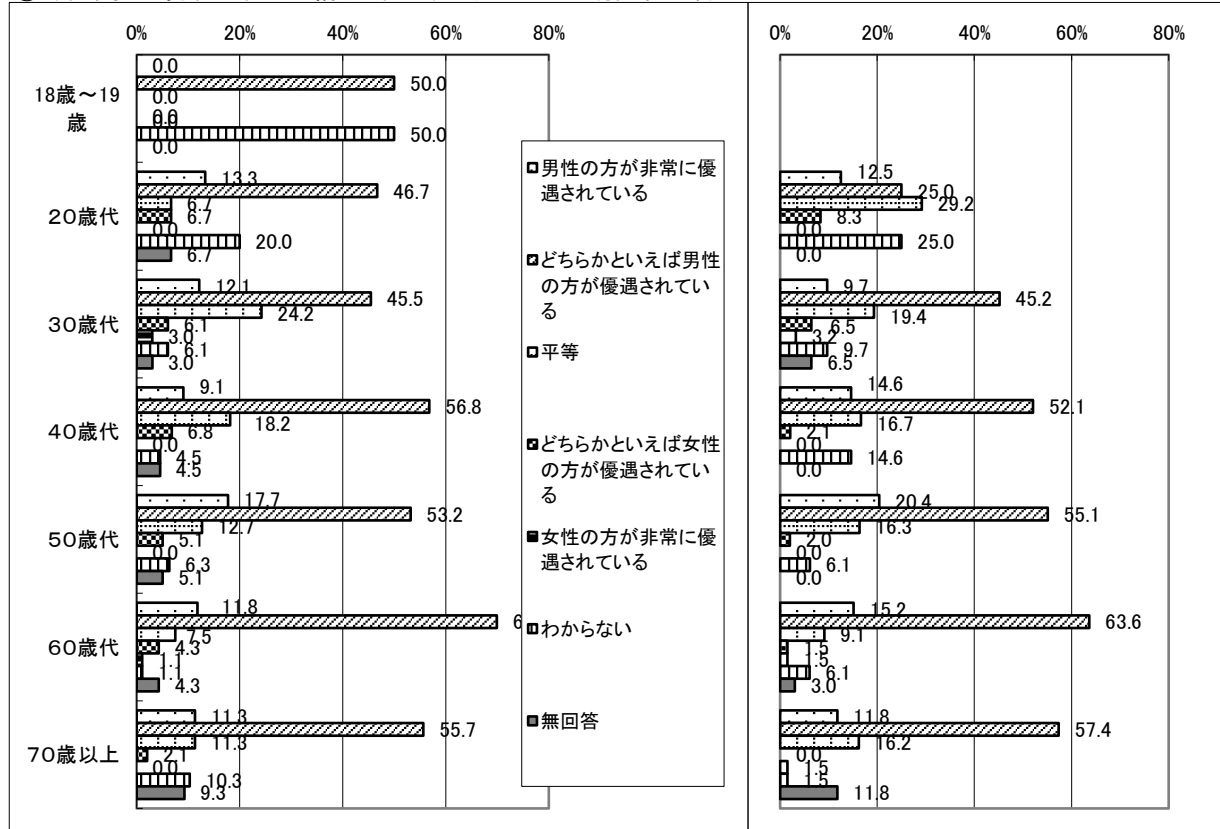


③女性の経年推移（今回=374 前回=355 前々回=527）

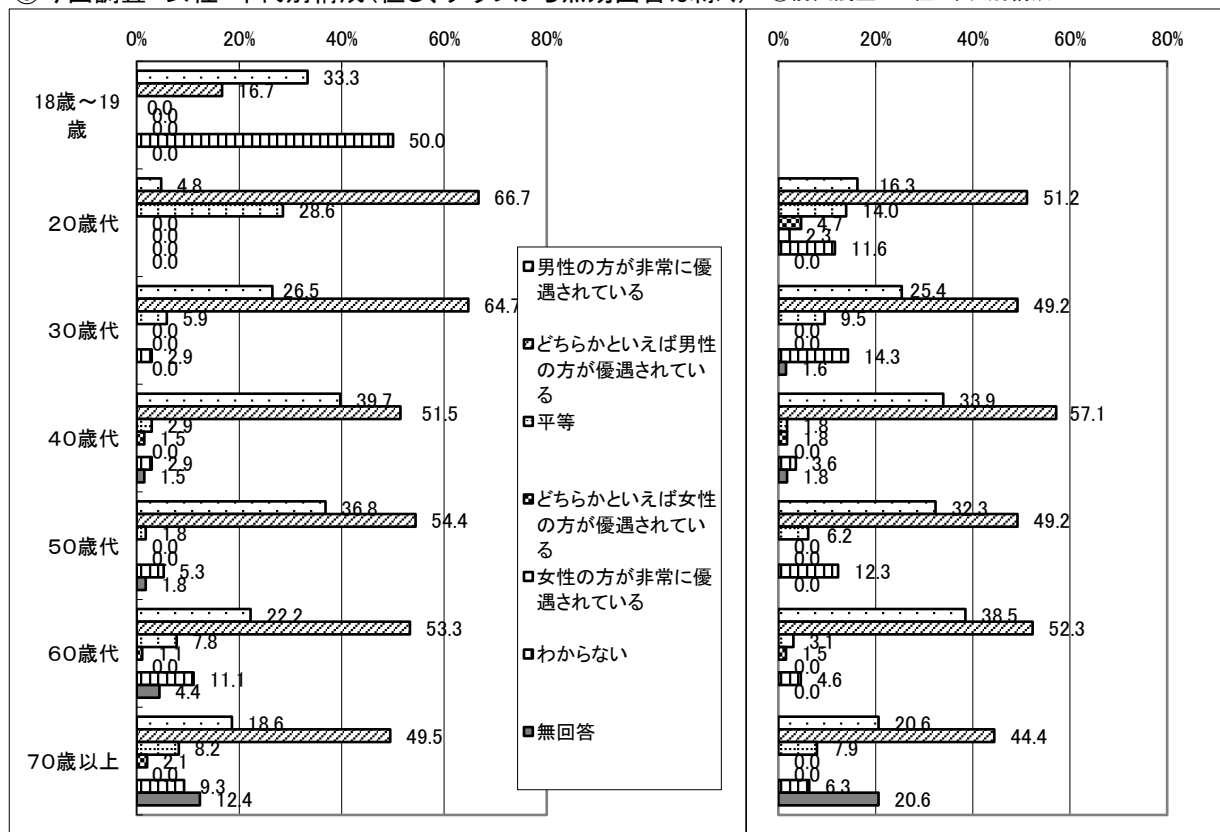


年代別・男女別にみると、男性で『男性が優遇されている』と回答したものの割合が最も高い年代は「60歳代」（81.7%）であり、次いで「50歳代」（70.9%）、「70歳以上」（67.0%）と続く。
 女性で『男性が優遇されている』と回答したものの割合が最も高い年代は「30歳代」、「40歳代」、「50歳代」（それぞれ91.2%）であり、次いで「60歳代」（75.6%）、「20歳代」（71.4%）と続く。
 男女による差が大きい年代は「30歳代」であり、男性（57.6%）と女性（91.2%）では、女性の方が33.6ポイント高い。

④今回調査 男性・年代別構成(但し、グラフから無効回答は除く) ⑤前回調査 男性・年代別構成



⑥今回調査 女性・年代別構成(但し、グラフから無効回答は除く) ⑦前回調査 女性・年代別構成

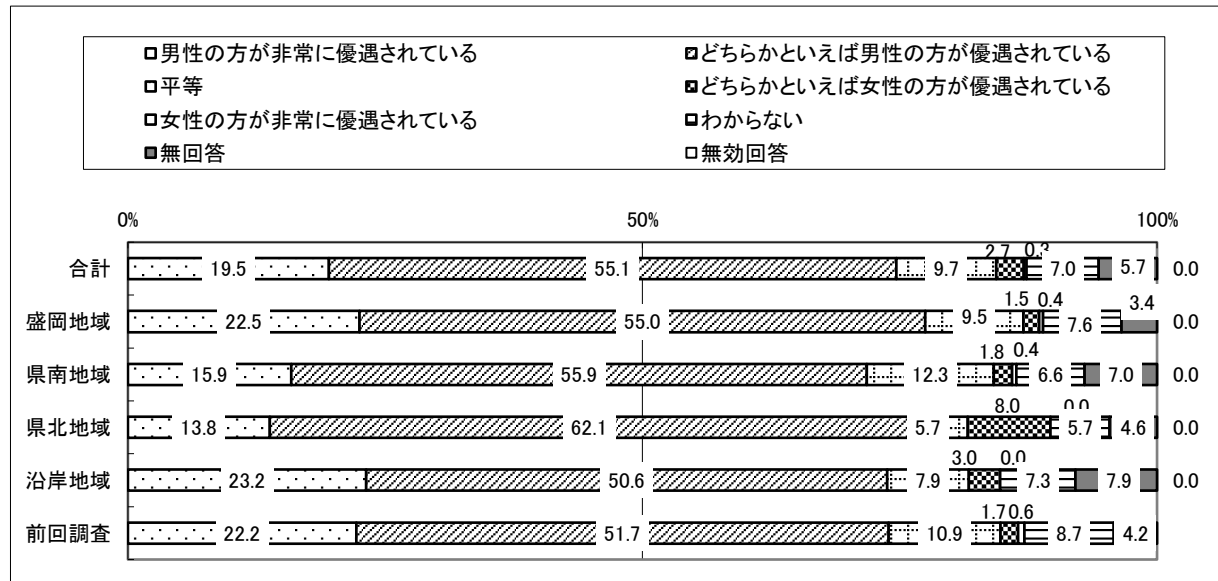


地域別にみると、『男性が優遇されている』と回答したものの割合が最も高い地域は「盛岡地域」(77.5%)であり、次いで「県北地域」(75.9%)、「沿岸地域」(73.8%)、「県南地域」(71.8%)と続く。

最も高いのは「盛岡地区」(77.5%)で、最も低いのは「県南地区」(71.8%)あり、その差は5.7ポイントである。

⑧今回調査 地域別による構成

(N=742 盛岡地域=262 県南地域=227 県北地域=87 沿岸地域=164 地域無回答=2)

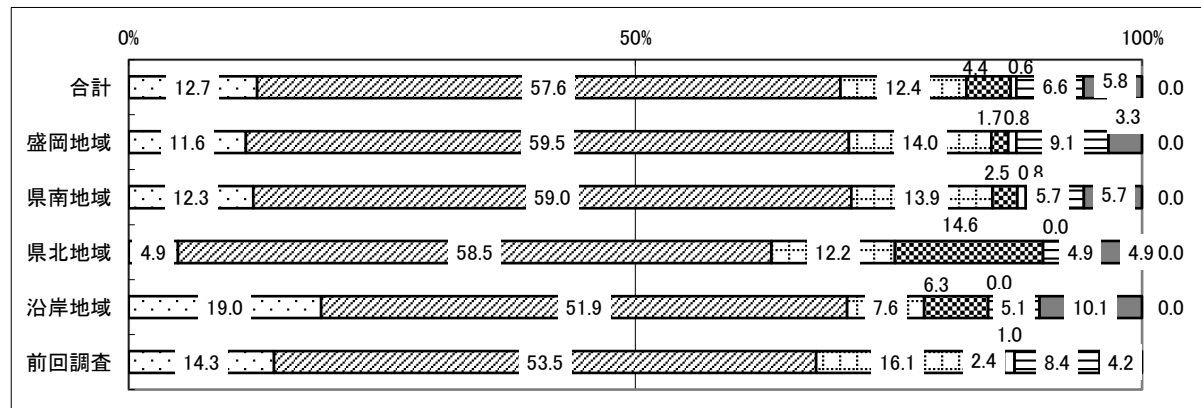


地域別・男女別にみると、男性で『男性が優遇されている』と回答したものの割合が最も高い地域は「県南地域」(71.3%)であり、次いで「盛岡地域」(71.1%)、「沿岸地域」(70.9%)、「県北地域」(63.4%)である。

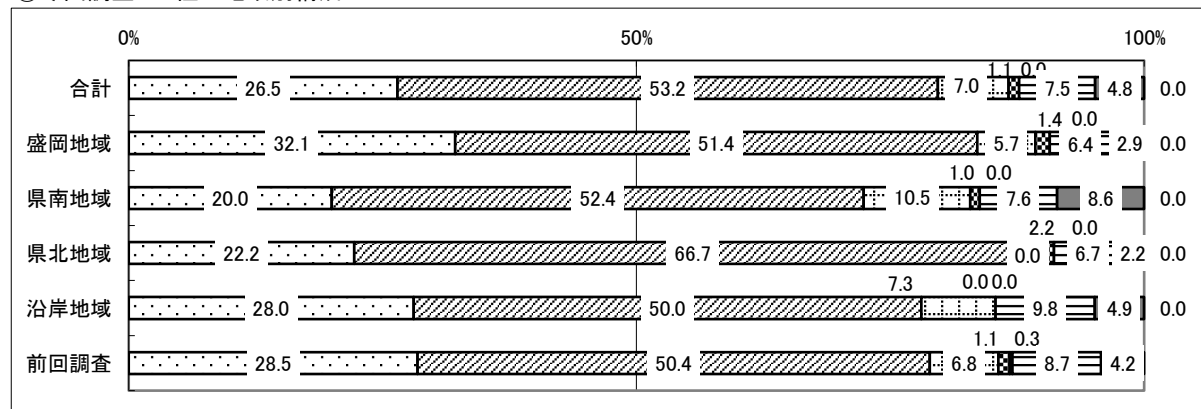
女性で『男性が優遇されている』と回答したものの割合が最も高い地域は、「県北地域」(88.9%)であり、次いで「盛岡地域」(83.6%)、「沿岸地域」(78.0%)、「県南地域」(72.4%)である。

男女差が最も大きかった地域は「県北地域」であり、男性(63.4%)と女性(88.9%)では、女性の方が25.5ポイント高い。

⑨今回調査 男性の地域別構成



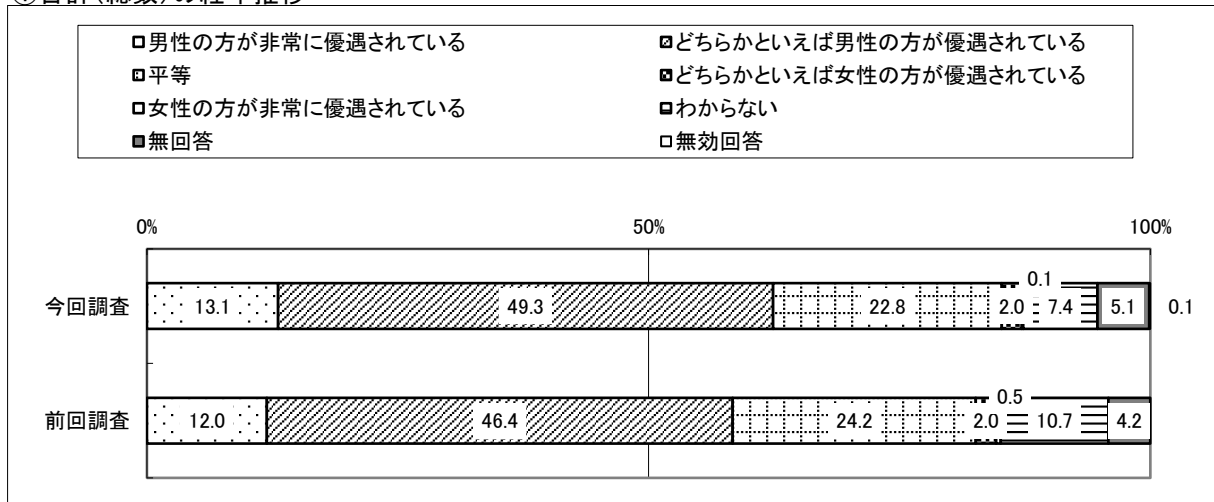
⑩今回調査 女性の地域別構成



(7)地域社会で

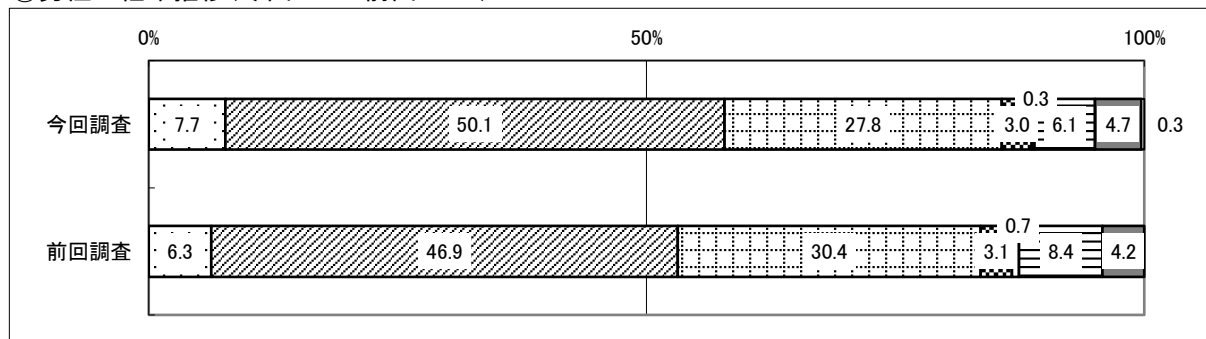
地域社会で『男性が優遇されている』と回答したものは62.4%で、『女性が優遇されている』と回答したものは2.1%である。『男性が優遇されている』（62.4%）と回答したのは前回調査（58.4%）より4.0ポイント増加している。
「平等」と回答したものは22.8%で、前回調査（24.2%）より1.4ポイント増加している。

①合計（総数）の経年推移

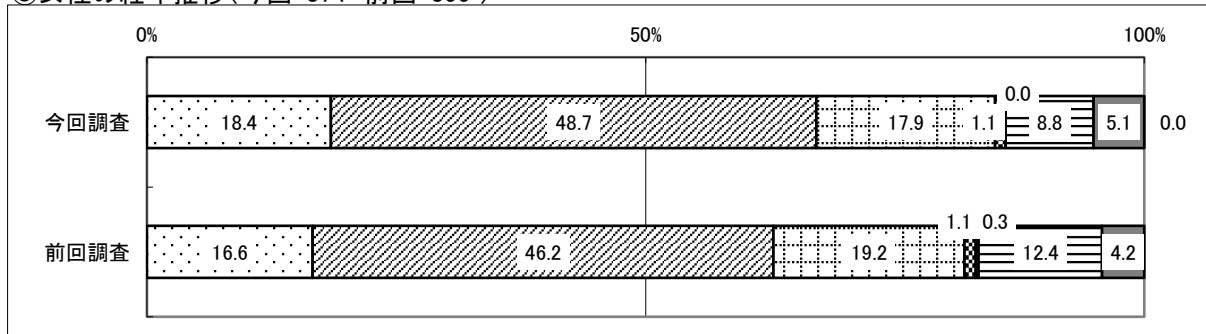


男女別にみると、男性で『男性が優遇されている』と回答したものは57.8%であった。女性で『男性が優遇されている』と回答したものは67.1%であった。
男性は前回調査（53.2%）より4.6ポイント増加し、女性も前回調査（62.8%）より4.3ポイント増加している。
男女ともに半数を超えているが、男性（57.8%）と女性（67.1%）では、女性の方が9.3ポイント高い。
「平等」と回答したものは、男性（27.8%）と女性（17.9%）では、男性の方が9.9ポイント高い。

②男性の経年推移（今回=363 前回=286）

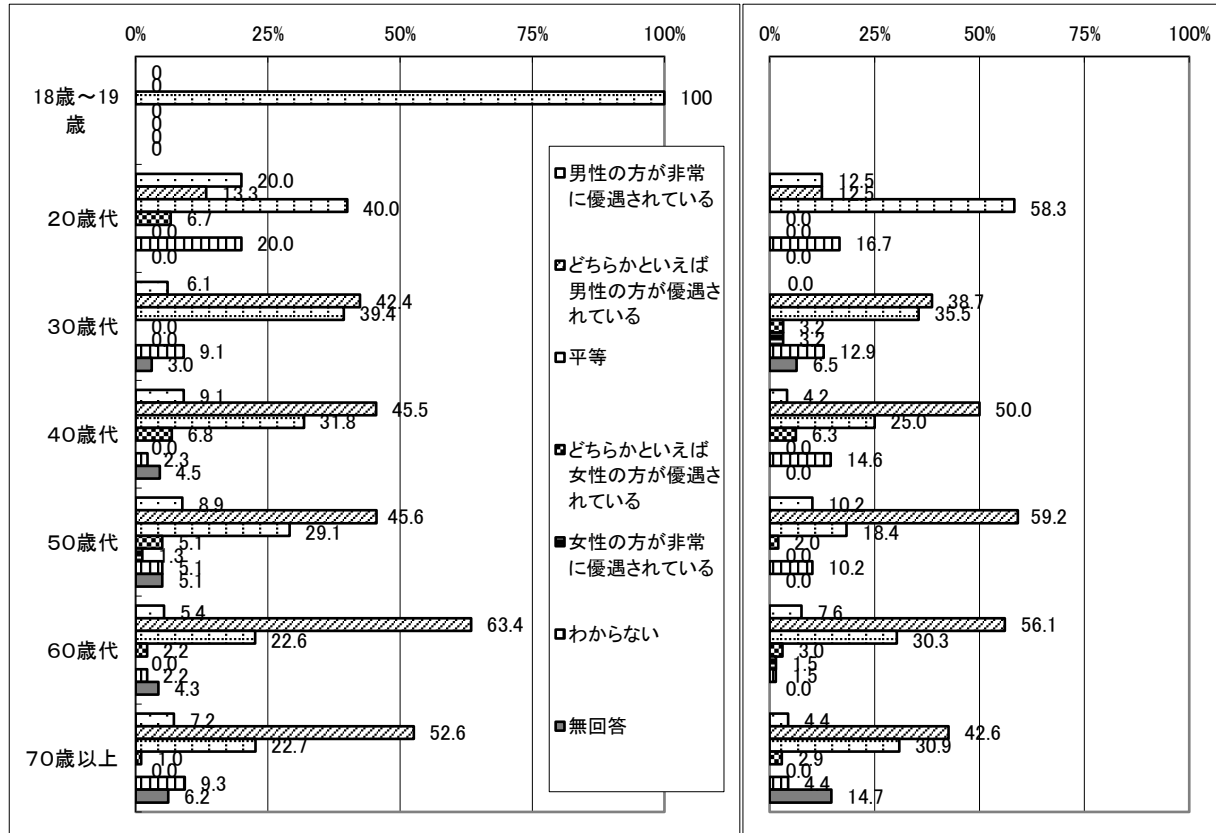


③女性の経年推移（今回=374 前回=355）

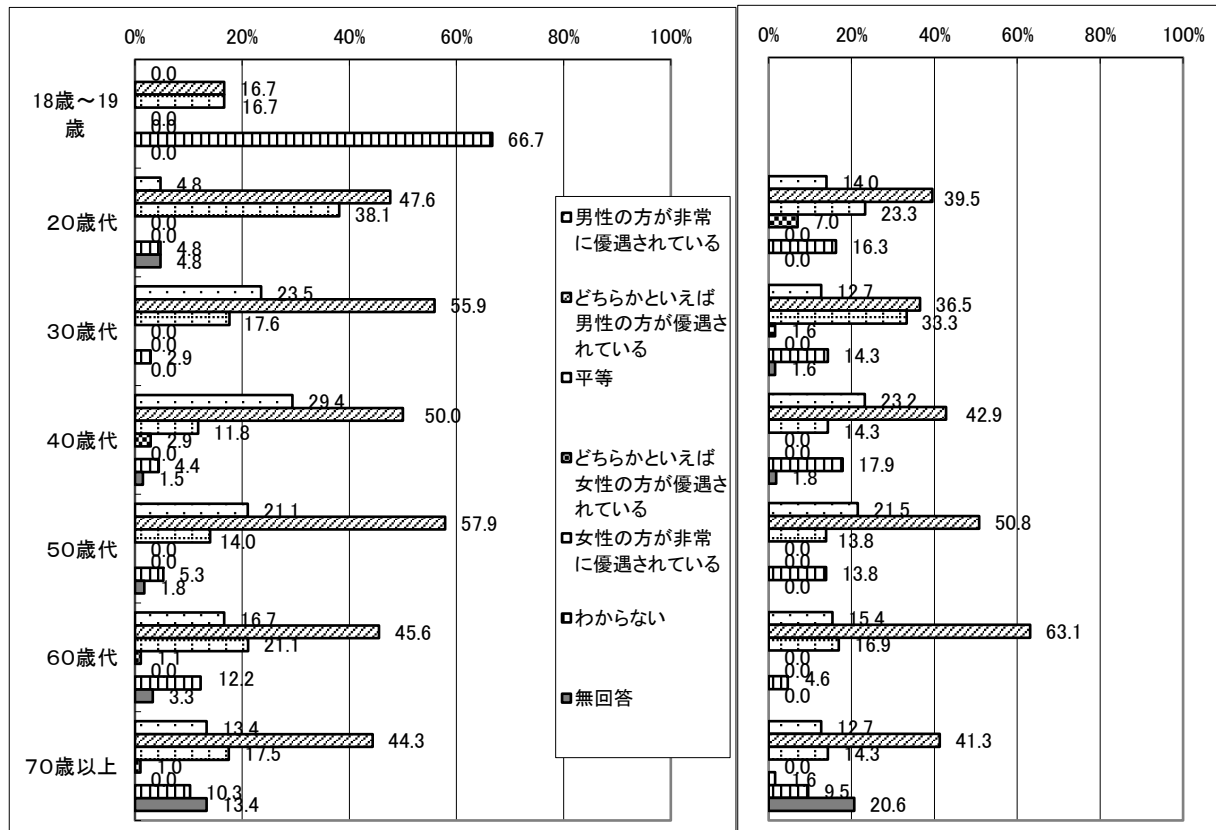


年代別・男女別にみると、男性で『男性が優遇されている』と回答したものの割合が最も高い年代は「60歳代」（68.8%）であり、次いで「70歳以上」（59.8%）、「40歳代」と「50歳代」（それぞれ54.4%）と続く。
 女性で『男性が優遇されている』と回答したものの割合が最も高い年代は、「30歳代」と「40歳代」（それぞれ79.4%）であり、次いで「50歳代」（78.9%）、「60歳代」（62.2%）と続く。
 男女差が最も大きい年代は、「30歳代」であり、男性（48.5%）と女性（79.4%）では、女性の

④今回調査 男性・年代別構成(但し、グラフから無効回答は除く) ⑤前回調査 男性・年代別構成



⑥今回調査 女性・年代別構成(但し、グラフから無効回答は除く) ⑦前回調査 女性・年代別構成

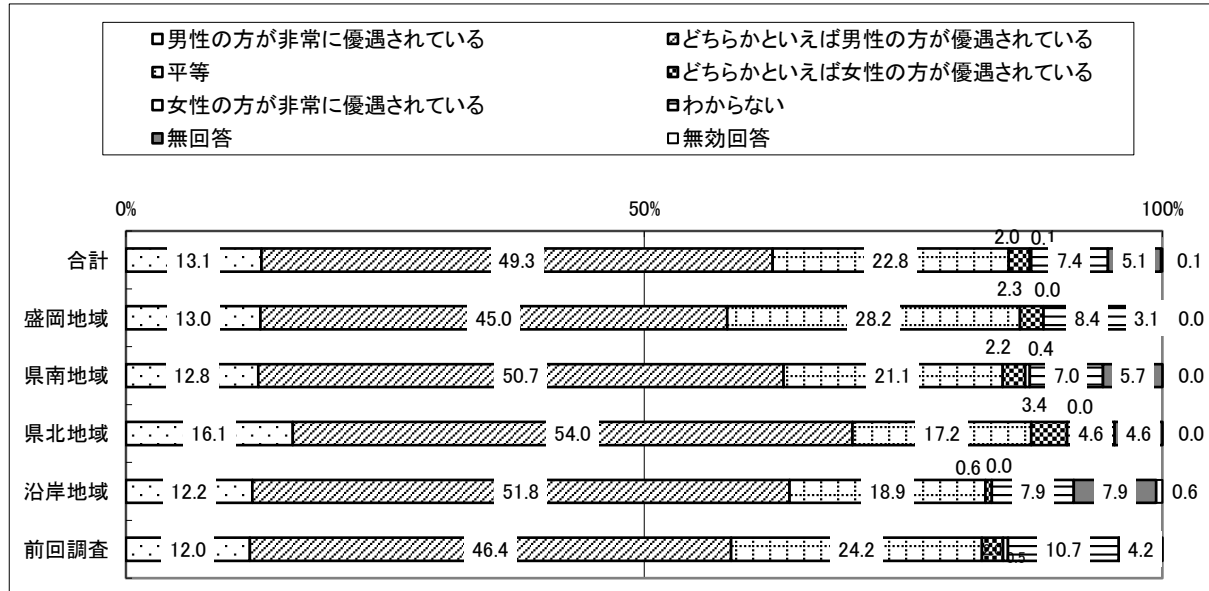


地域別にみると『男性が優遇されている』と回答したものの割合が最も高い地域は「県北地域」(70.1%)であり、次いで「沿岸地域」(64.0%)、「県南地域」(63.4%)、「盛岡地域」(58.0%)と続く。

前回調査と比較すると「沿岸地域」(64.0%)は前回調査(52.0%)より12.0ポイント、「県北地域」(70.1%)は前回調査(59.4%)より10.7ポイント、「県南地域」(63.4%)は前回調査(61.0%)より2.4ポイント、それぞれ増加しているが、「盛岡地域」(58.0%)は前回調査(58.1%)より0.1ポイント減少した。

⑧今回調査 地域別による構成

(N=742 盛岡地域=262 県南地域=227 県北地域=87 沿岸地域=164 地域無回答=2)



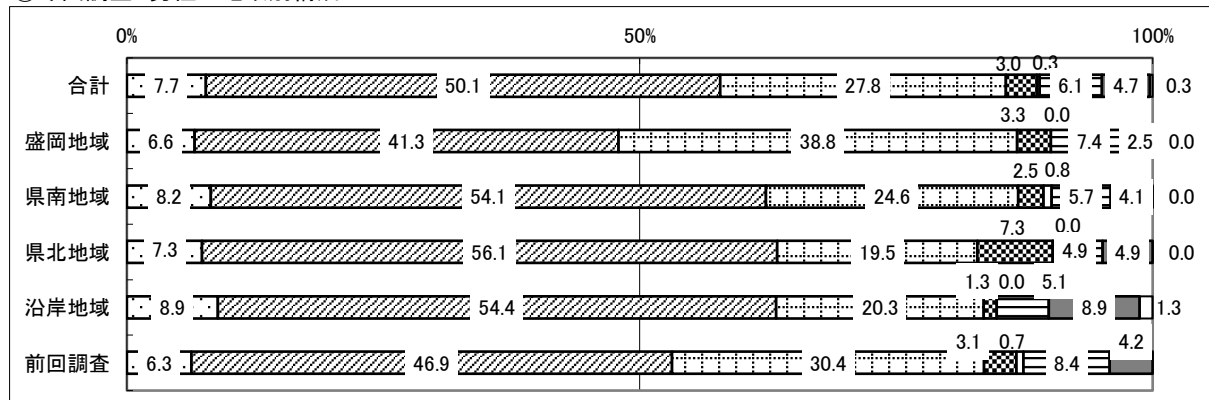
地域別・男女別にみると、男性で『男性が優遇されている』と回答したものの割合が最も高い地域は「県北地域」(63.4%)であり、次いで「沿岸地域」(63.3%)、「県南地域」(62.3%)、「盛岡地域」(47.9%)と続く。

女性で『男性が優遇されている』と回答したものの割合が最も高い地域は、「県北地域」(75.6%)であり、次いで「盛岡地域」(67.1%)、「沿岸地域」(65.9%)、「県南地域」(64.8%)と続く。

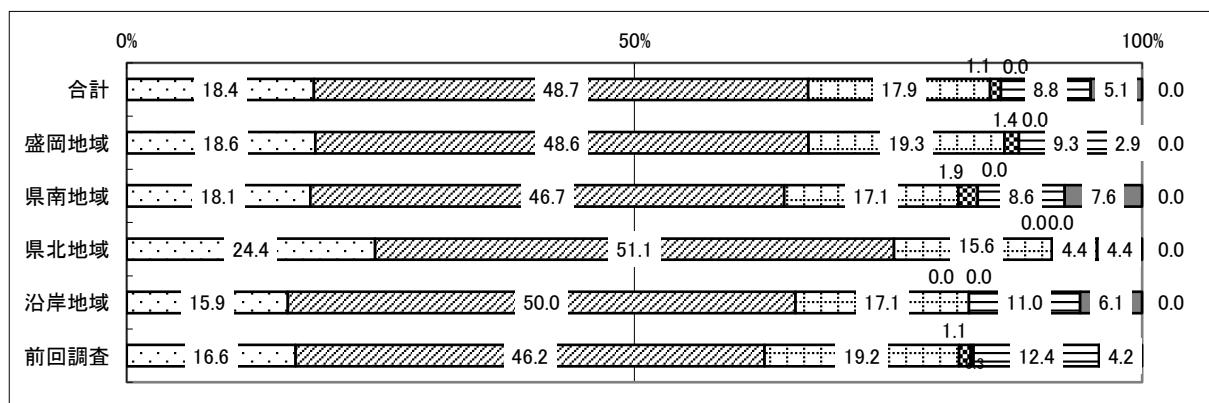
前回と比較し最も差が大きいのは、男性は「沿岸地域」(63.3%)であり前回調査(37.0%)より26.3ポイント増加。女性は「県北地域」(75.6%)と前回調査(60.0%)より15.6ポイント増加している。

男女差が最も大きいのは「盛岡地域」であり、男性(47.9%)と女性(67.1%)では、女性の方が19.2ポイント高い。女性は全ての地域において、6割を超えている。

⑨今回調査 男性の地域別構成



⑩今回調査 女性の地域別構成



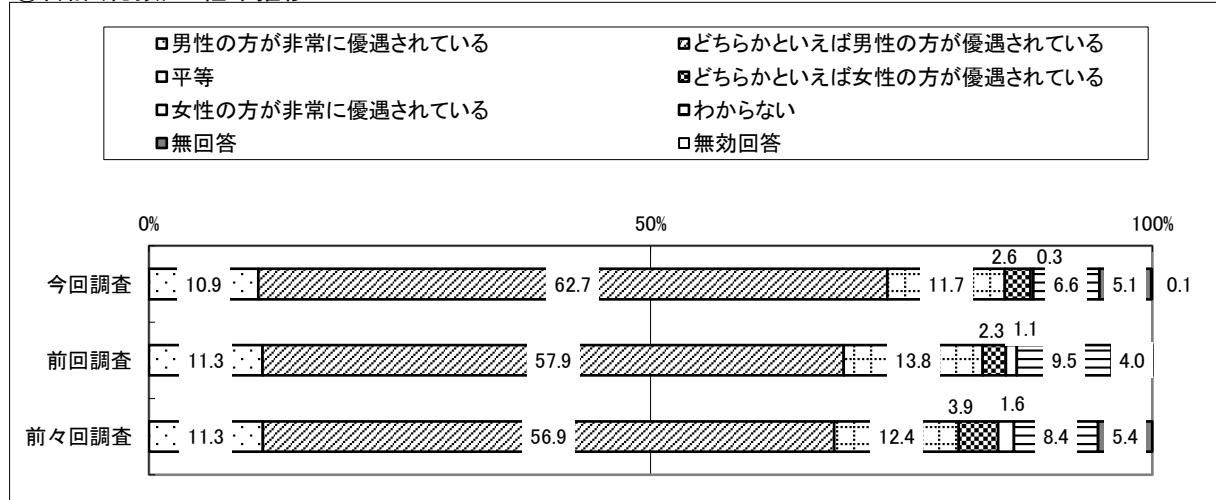
(8)社会全体として

社会全体として『男性が優遇されている』と回答したものは73.6%であり、前回調査（69.2%）より4.4ポイント増加している。

『女性が優遇されている』と回答したものは2.9%であり、前回調査（3.4%）より0.5ポイント減少している。

「平等」と回答したものは11.7%であり、前回調査（13.8%）より2.1ポイント減少している。

①合計(総数)の経年推移

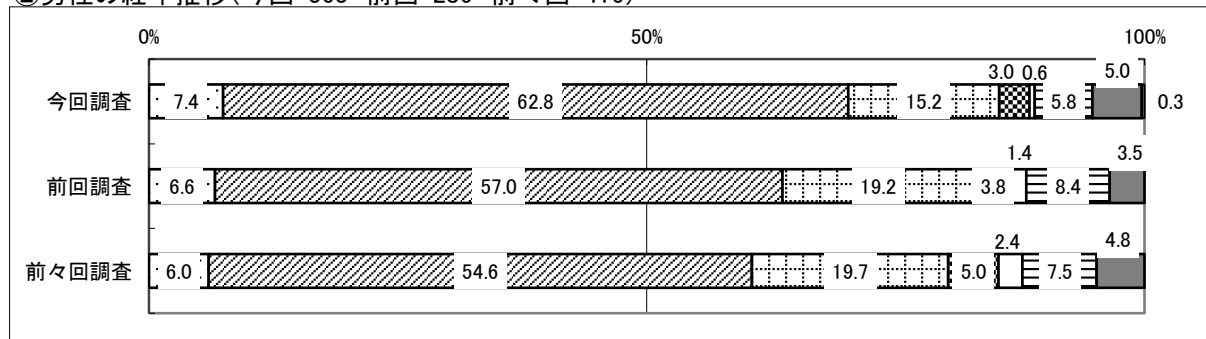


男女別にみると、男性で『男性が優遇されている』と回答したものは70.2%であり、前回調査（63.6%）より6.6ポイント増加している。

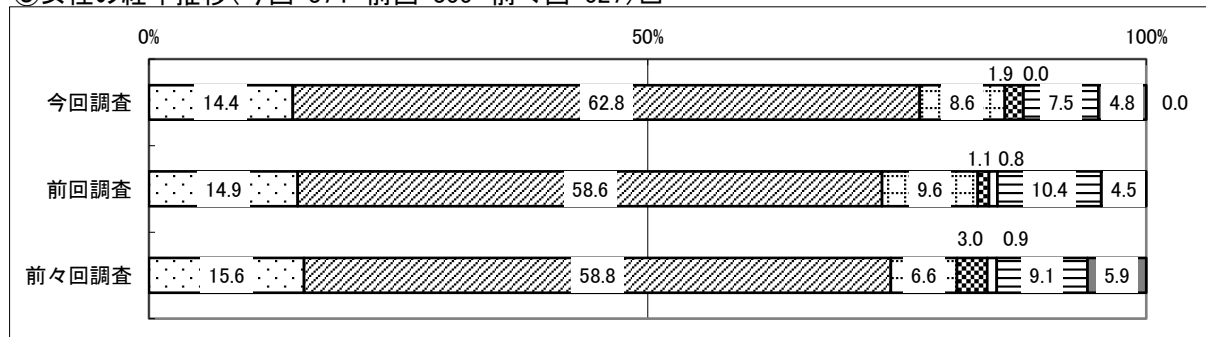
女性で『男性が優遇されている』と回答したものは77.2%であり、前回調査（73.5%）より3.7ポイント増加している。

「平等」と回答した男性（15.2%）と女性（8.6%）では、男性の方が6.6ポイント高く男女による差がみられる。

②男性の経年推移(今回=363 前回=286 前々回=416)

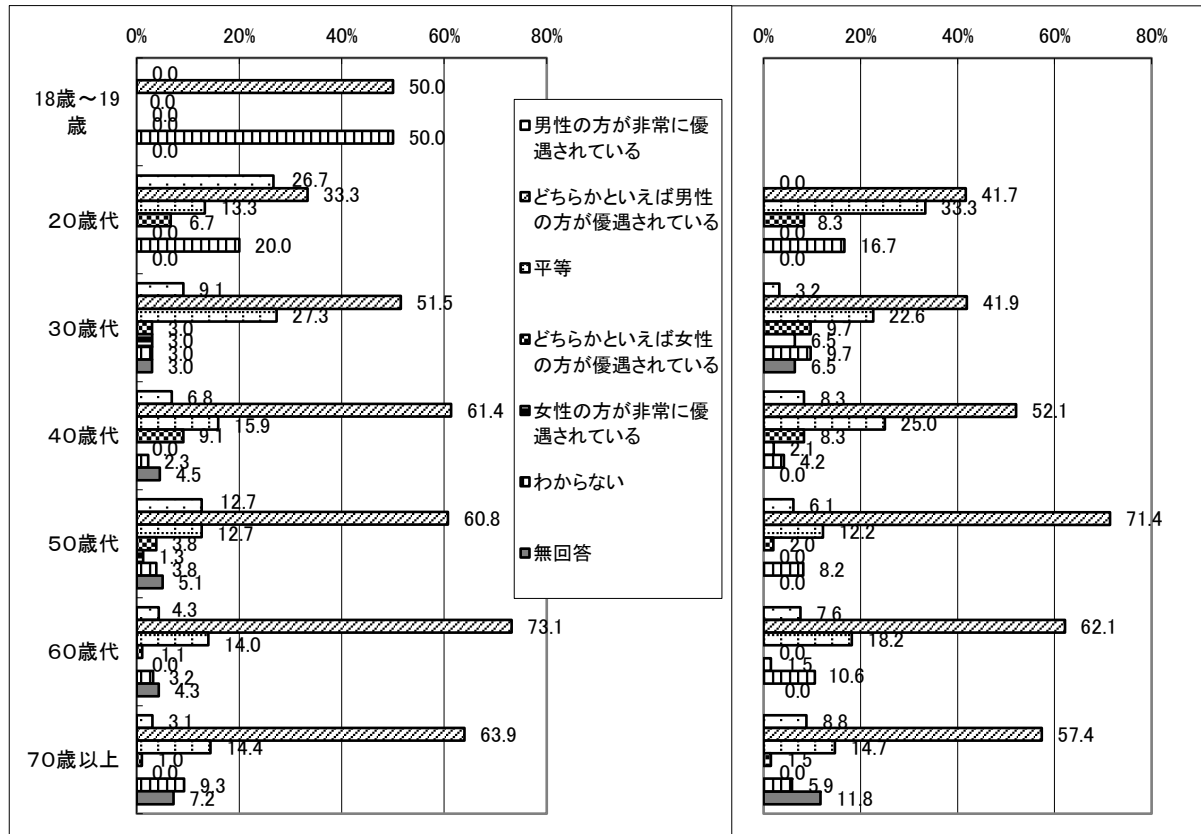


③女性の経年推移(今回=374 前回=355 前々回=527)

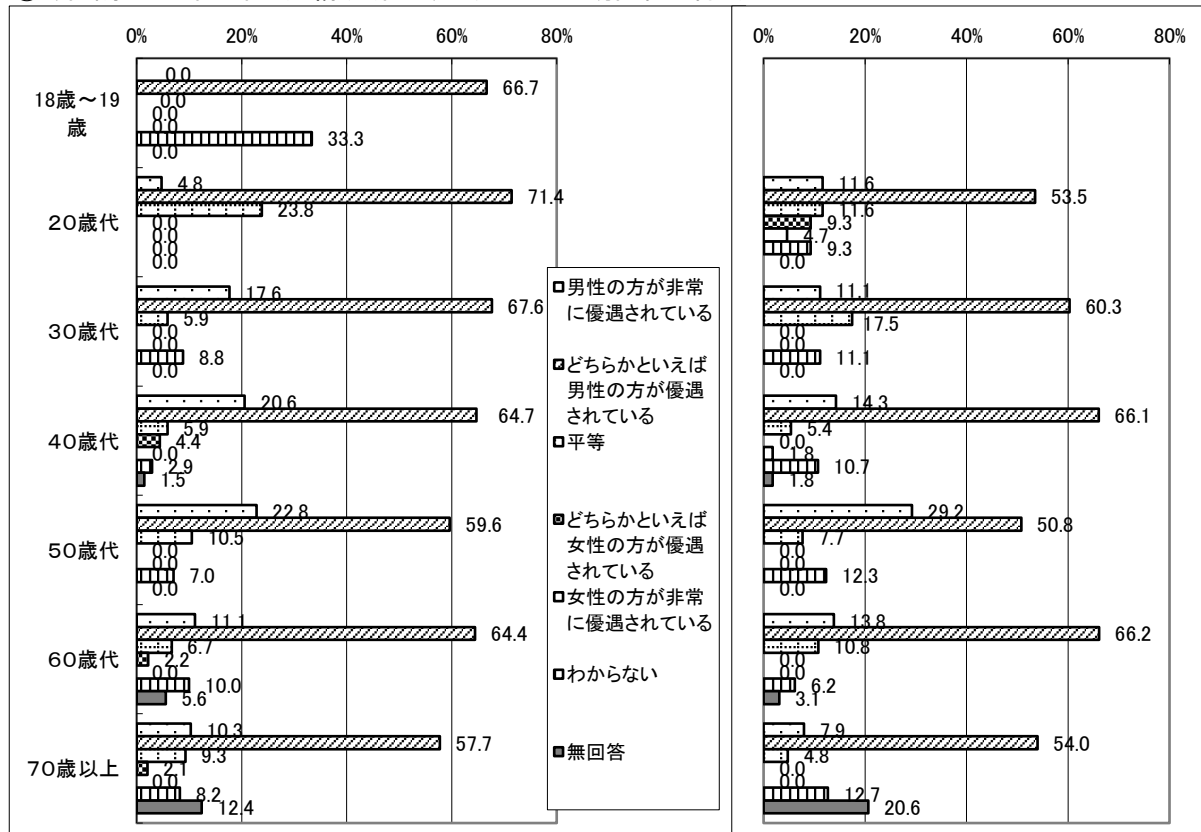


年代別・男女別にみると、男性で『男性が優遇されている』と回答したものの割合が最も高い年代は「60歳代」(77.4%)、次いで「50歳代」(73.4%)、「40歳代」(68.2%)と続く。女性で『男性が優遇されている』と回答したものの割合が最も高い年代は「30歳代」と「40歳代」(それぞれ85.3%)、次いで「50歳代」(82.5%)、「20歳代」(76.2%)と続く。男女による差が最も大きい年代は「30歳代」であり、男性(60.6%)と女性(85.3%)では、女性の方が24.7ポイント高い。

④今回調査 男性・年代別構成(但し、グラフから無効回答は除く) ⑤今回調査 男性・年代別構成



⑥今回調査 女性・年代別構成(但し、グラフから無効回答は除く) ⑦前回調査 女性・年代別構成

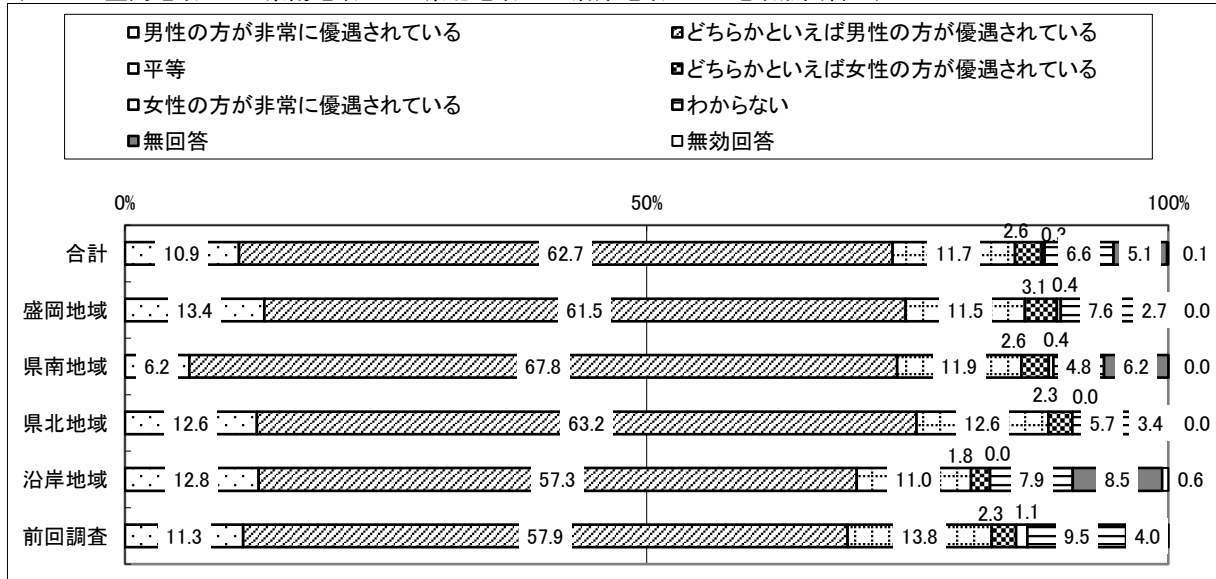


地域別に見ると『男性が優遇されている』と回答したものの割合が最も高い地域は、「県北地域」(75.9%)であり、次いで「盛岡地域」(74.8%)、「県南地域」(74.0%)、「沿岸地域」(70.1%)と続く。

前回調査と比較すると、「県北地域」(75.9%)は前回調査(65.6%)より10.3ポイント増加し

⑧今回調査 地域別による構成

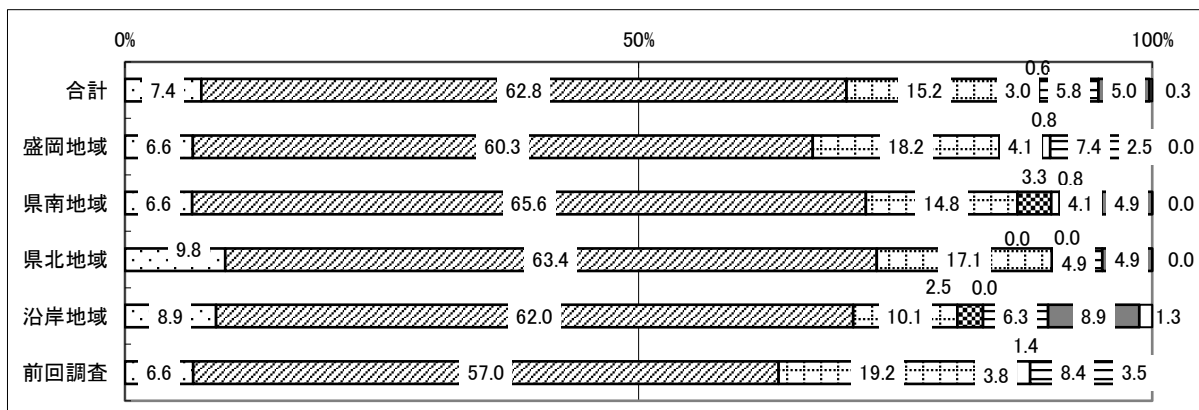
(N=742 盛岡地域=262 県南地域=227 県北地域=87 沿岸地域=164 地域無回答=2)



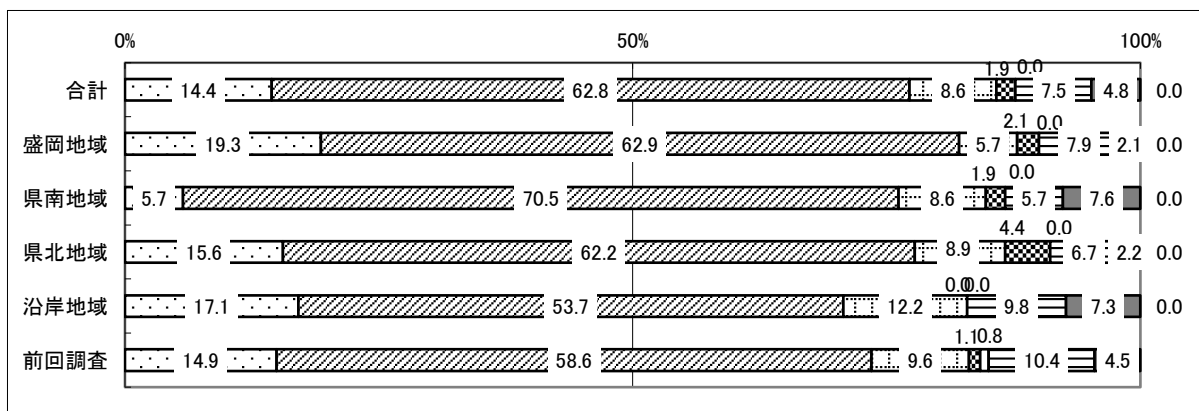
地域別・男女別にみると、男性で『男性が優遇されている』と回答したものの割合が最も高い地域は、「県北地域」(73.2%)であり、次いで「県南地域」(72.1%)、「沿岸地域」(70.9%)、「盛岡地域」(66.9%)と続く。

女性で『男性が優遇されている』と回答したものが最も多い地域は、「盛岡地域」(82.1%)であり、次いで「県北地域」(77.8%)、「県南地域」(76.2%)、「沿岸地域」(70.7%)と続く。男女による差が最も大きい地域は「盛岡地域」であり、男性(66.9%)と女性(82.1%)では、女性の方が15.2ポイント高い。

⑨今回調査 男性の地域別構成



⑩今回調査 女性の地域別構成

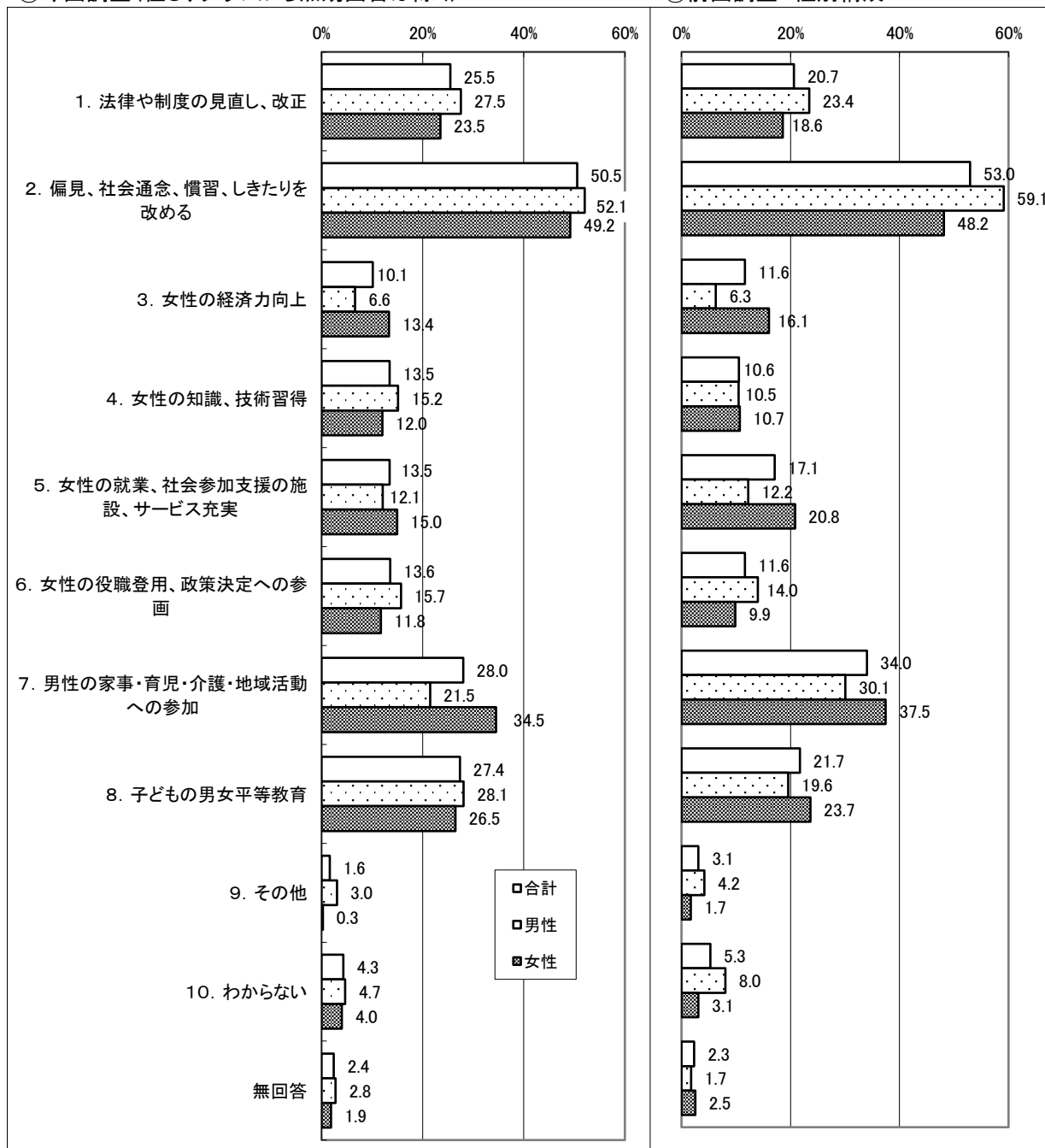


問2 今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために、重要と思われるものは何ですか。
次の中から2つ選んで○をつけてください。
(N=742 男性=363 女性=374 その他=0 性別無回答=5)

男女平等のために重要なものは、「偏見、社会通念、慣習、しきたりを改める」(50.5%)の割合が最も高く、次いで「男性の家事・育児・介護・地域活動への参加」(28.0%)、「子どもの男女平等教育」(27.4%)と続き、この傾向は前回調査と同様である。前回調査と比較すると、「偏見、社会通念、慣習、しきたりを改める」(50.5%)は2.5ポイント減少した。また「男性の家事・育児・介護・地域活動への参加」(28.0%)は6.0ポイント減少した。一方、「子どもの男女平等教育」(27.4%)は前回調査(21.7%)より5.7ポイント増加した。男女別にみると、男女ともに「偏見、社会通念、慣習、しきたりを改める」(男性52.1% 女性49.2%)の割合が最も高い。次いで男性は「子どもの男女平等教育」(28.1%)、「法律や制度の見直し、改正」(27.5%)と続く。女性は「男性の家事・育児・介護・地域活動への参加」(34.5%)、「子どもの男女平等教育」(26.5%)と続く。男女の差が最も大きいのは「男性の家事・育児・介護・地域活動への参加」であり、男性(21.5%)と女性(34.5%)では女性の方が13.0ポイント高い。

①今回調査(但し、グラフから無効回答は除く)

②前回調査 性別構成

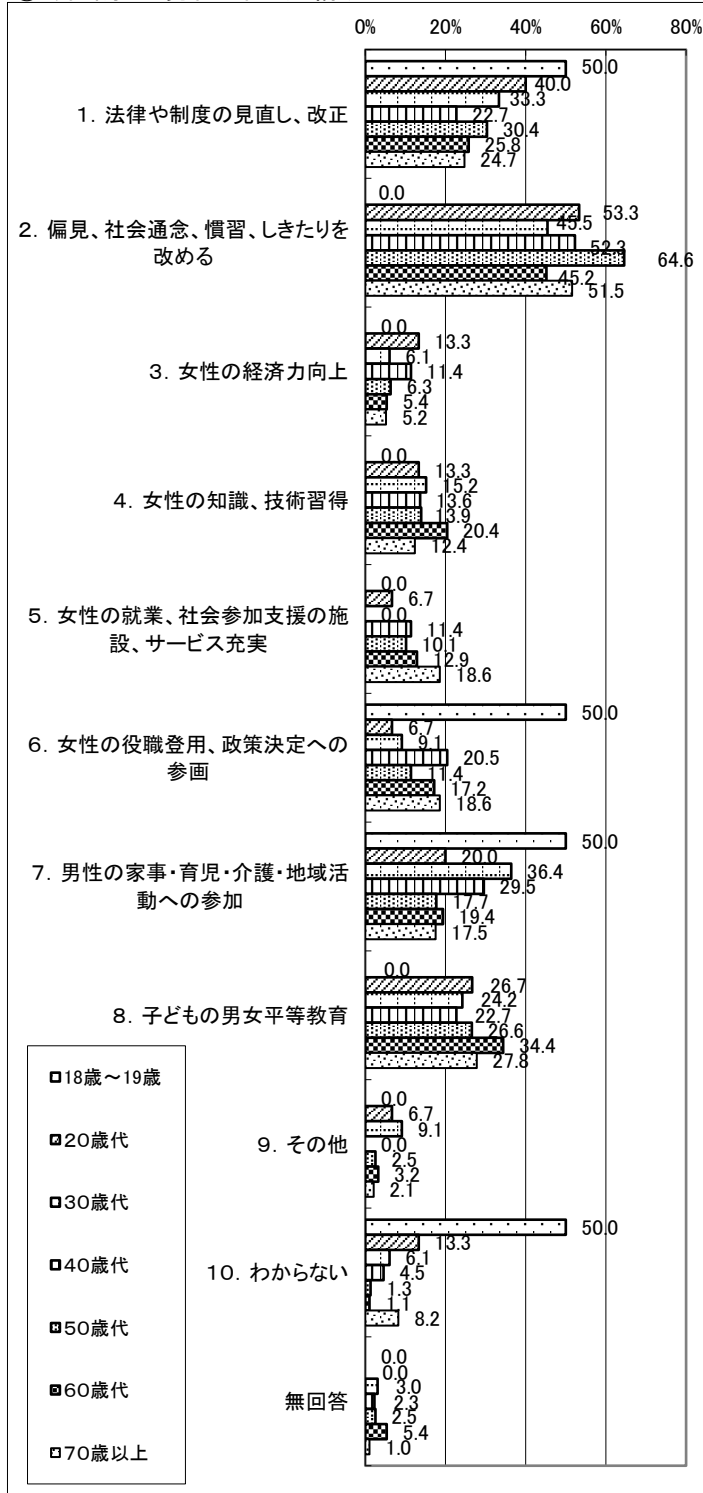


年代別・男女別にみると、男女とも「偏見、社会通念、慣習、しきたりを改める」と回答したものの割合が最も高かった。

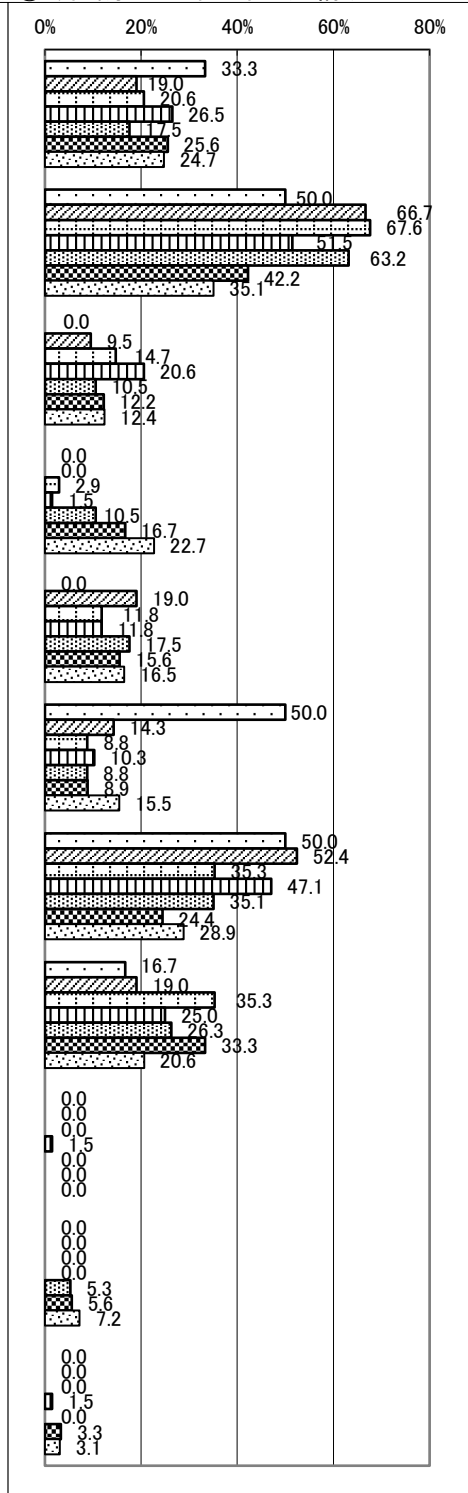
男性では「法律や制度の見直し、改正」において「18歳～19歳」（50.0%）と「70歳以上」（24.7%）では25.3ポイントの差。「男性の家事・育児・介護・地域活動への参加」において「18歳～19歳」（50.0%）と「70歳以上」（17.5%）では32.5ポイントの差となり、高齢になるほど割合が低くなる傾向にある。

女性では「男性の家事・育児・介護地域活動への参加」において「20歳代」（52.4%）と「60歳代」（24.4%）では28.0ポイントの差で高齢になるほど割合が低くなる傾向にある。一方、「女性の知識、技術習得」においては、若年層は比率が低い「70歳以上」（22.7%）と高齢になるほど割合が高くなる傾向を示している。

③今回調査 男性・年代別構成



④今回調査 女性・年代別構成



2 女性の社会参画について

問3 あなたは、次の分野において、女性の意見や考え方が反映されていると思いますか。
 次の①～④の項目ごとに1～5の中から1つずつ選んで○をつけてください。
 (N=742 男性=363 女性=374 その他=0 性別無回答=5)

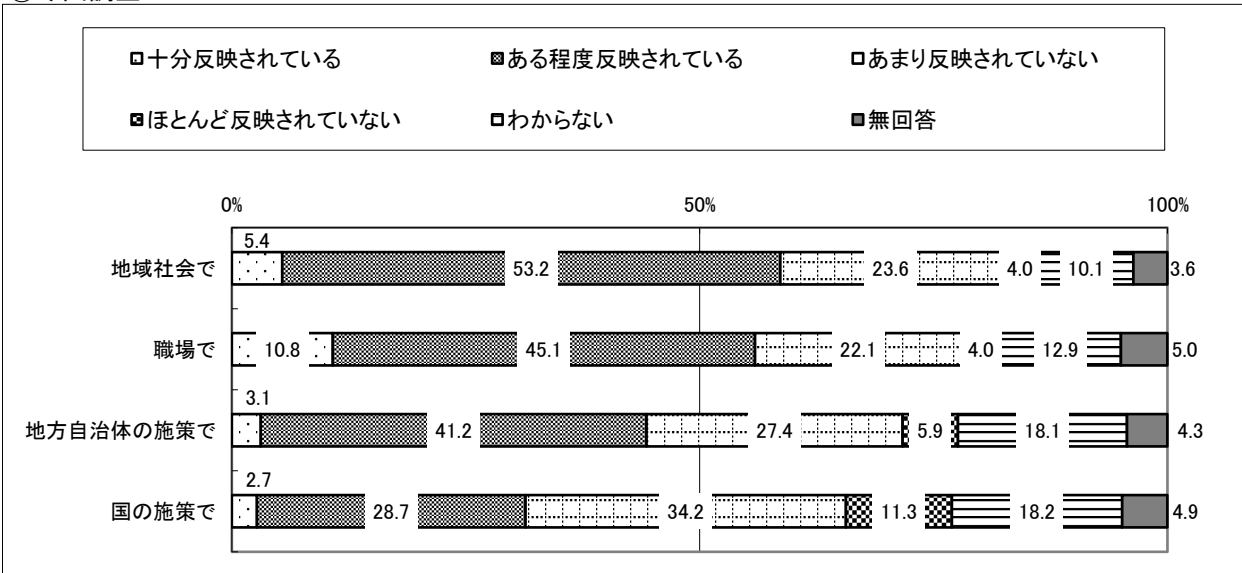
※「十分反映されている」または「ある程度反映されている」と回答したものを『反映されている』、「あまり反映されていない」または「ほとんど反映されていない」と回答したものを『反映されていない』とする。

女性の社会参画について、女性の意見や考え方が『反映されている』と回答したものは、「地域社会で」は58.6%、「職場で」は55.9%、「地方自治体の施策で」は44.3%、「国の施策で」は31.4%である。
 『反映されていない』と回答したものは、「地域社会で」27.6%、「職場で」26.1%、「地方自治体の施策で」33.3%、「国の施策で」45.5%である。

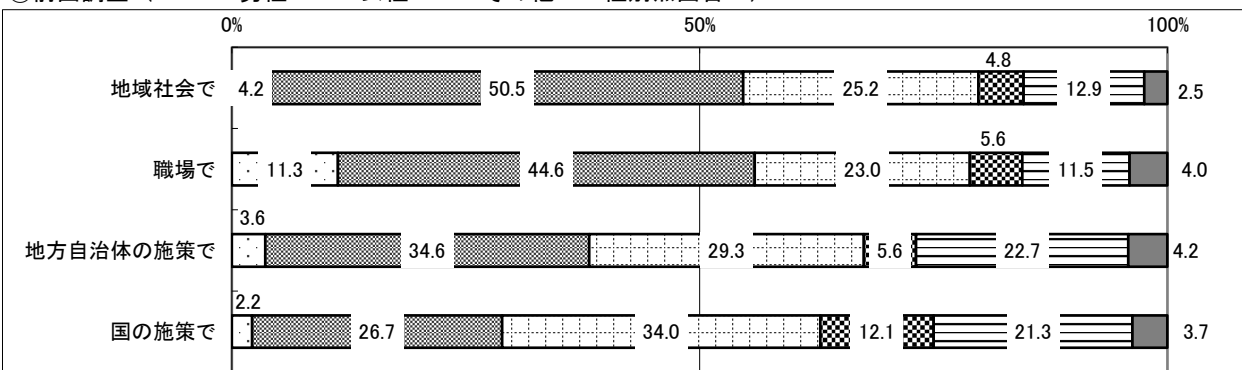
「地域社会で」と「職場で」は『反映されている』と回答したものは過半数を超えた。「国の施策で」は4割を下回り、『反映されていない』が14.1ポイント上回った。

前回調査と比較して、全ての項目において『反映されている』と回答したものは前回調査より増加（「職場で」は同数）。一方、で『反映されていない』は全ての項目で前回は下回った。

①今回調査



②前回調査 (N=644 男性=286 女性=355 その他=2 性別無回答=1)

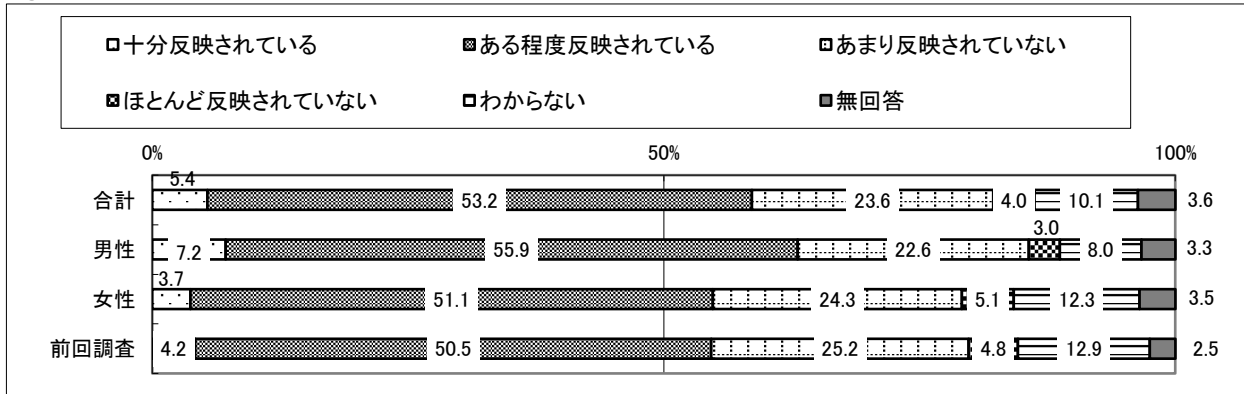


(1) 地域社会で

地域社会において、『反映されている』と回答した男性は63.1%、女性は54.8%であり、男女による差は8.3ポイント男性が高い。『反映されていない』と回答した男性は25.6%、女性は29.4%と3.8ポイント女性のほうが高い。

前回調査と比較すると、『反映されている』と回答したものは、男性(63.1%)では前回調査(61.5%)より1.6ポイント増加し、女性(54.8%)では前回調査(49.3%)より5.5ポイント増加している。

① 今回調査 性別構成

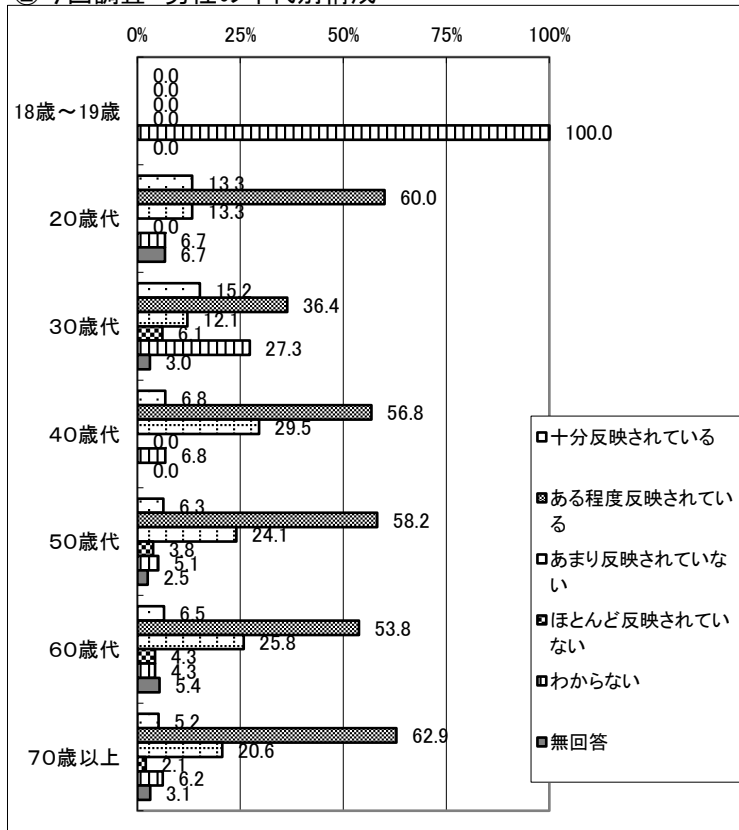


年代別・男女別にみると、『反映されている』と回答したものの割合が最も高いのは、男性では「20歳代」(73.3%)であり、最も低いのは「18歳～19歳」(0.0%)であった。尚、前年調査では「20歳代」(54.1%)が最も低かった。

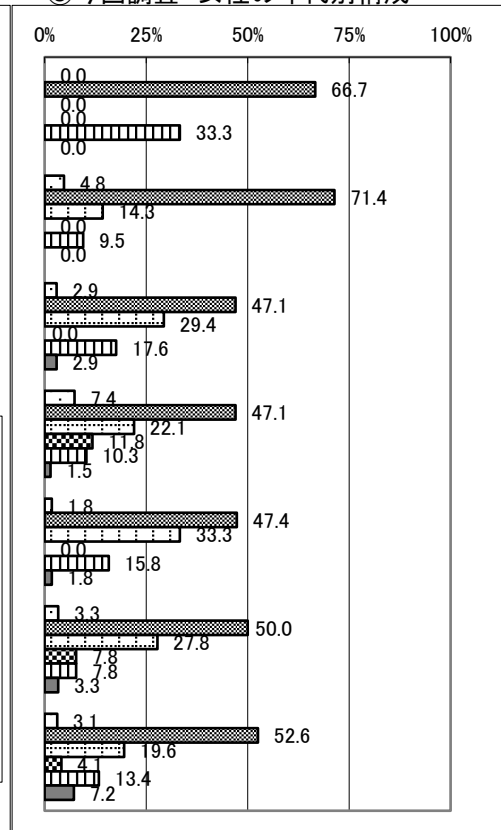
女性では「20歳代」(76.2%)が最も高く、最も低いのは「30歳代」(50.0%)であり、その差は16.2ポイントである。尚、男性同様、前回調査では「20歳代」(41.9%)が最も低かった。

男女の差が最も大きいのは、「18～19歳」であり、男性(0.0%)と女性(66.7%)では、女性の方が66.7ポイント高い。次いで「50歳代」で男性(64.6%)、女性(49.1%)では男性のほうが15.5ポイント高い。

② 今回調査 男性の年代別構成



③ 今回調査 女性の年代別構成

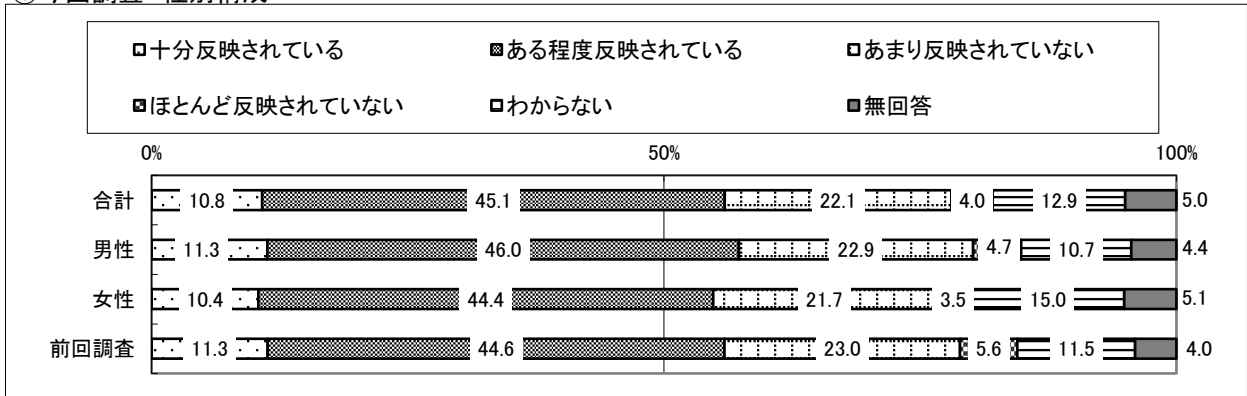


(2) 職場で

職場で『反映されている』と回答したものは、男性57.3%、女性は54.8%である。『反映されていない』と回答した男性は27.6%、女性は25.2%である。

前回調査と比較すると、男性は『反映されていない』(27.6%)が前回調査(29.3%)より1.7ポイント減少し、女性は『反映されていない』(25.2%)が前回調査(28.2%)より3.0ポイント減少している。

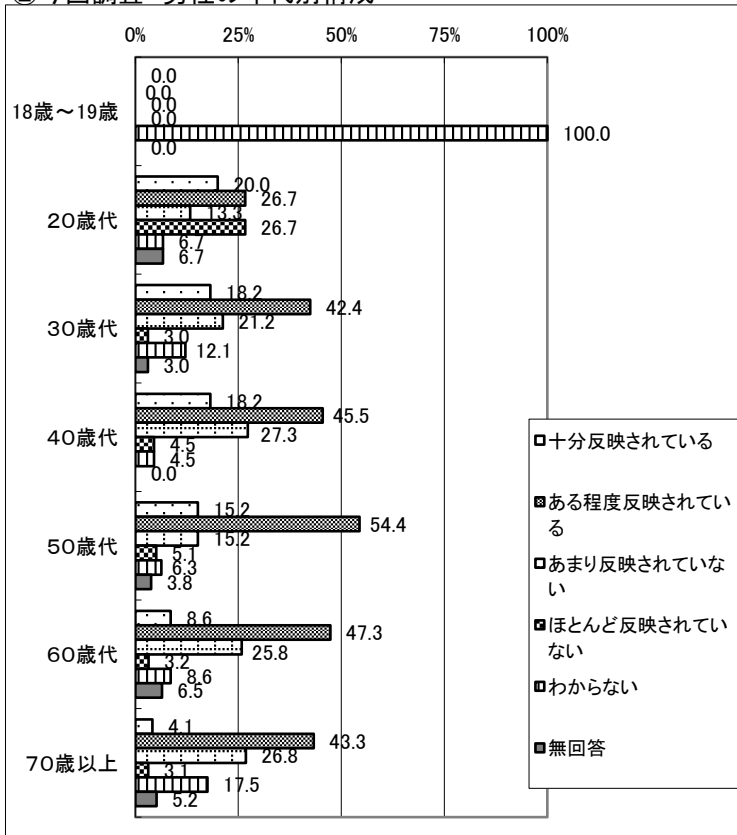
①今回調査 性別構成



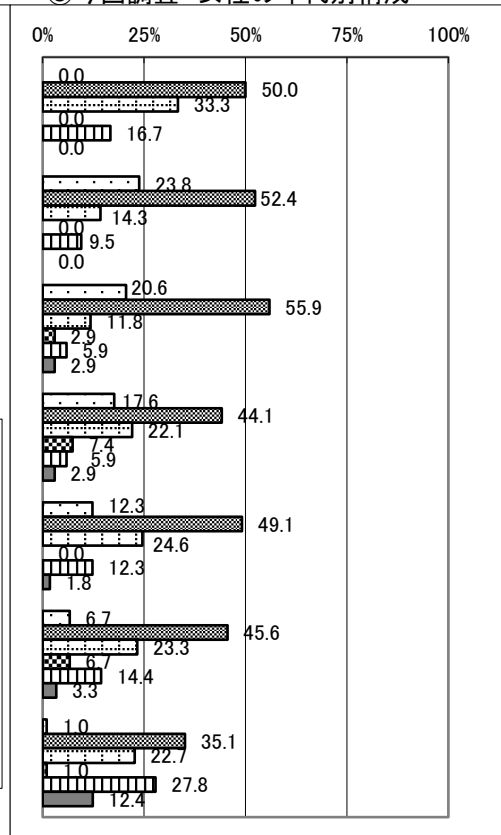
年代別・男女別で見ると、『反映されている』と回答したものの割合が最も高いのは、男性では「50歳代」(69.6%)、女性では「30歳代」(76.5%)である。

男女の差が最も大きいのは「18～19歳」であり、男性(0.0%)と女性(50.0%)では、男性の方が50.0ポイント高い。次いで「20歳代」であり、男性(46.7%)と女性(76.2%)では、女性の方が29.5ポイント高い。

②今回調査 男性の年代別構成



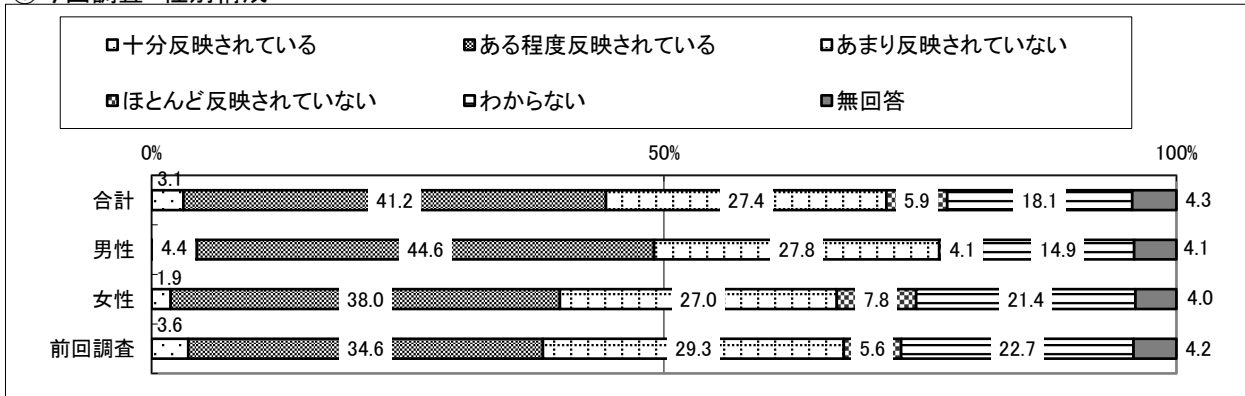
③今回調査 女性の年代別構成



(3) 地方自治体(県や市町村)の施策で

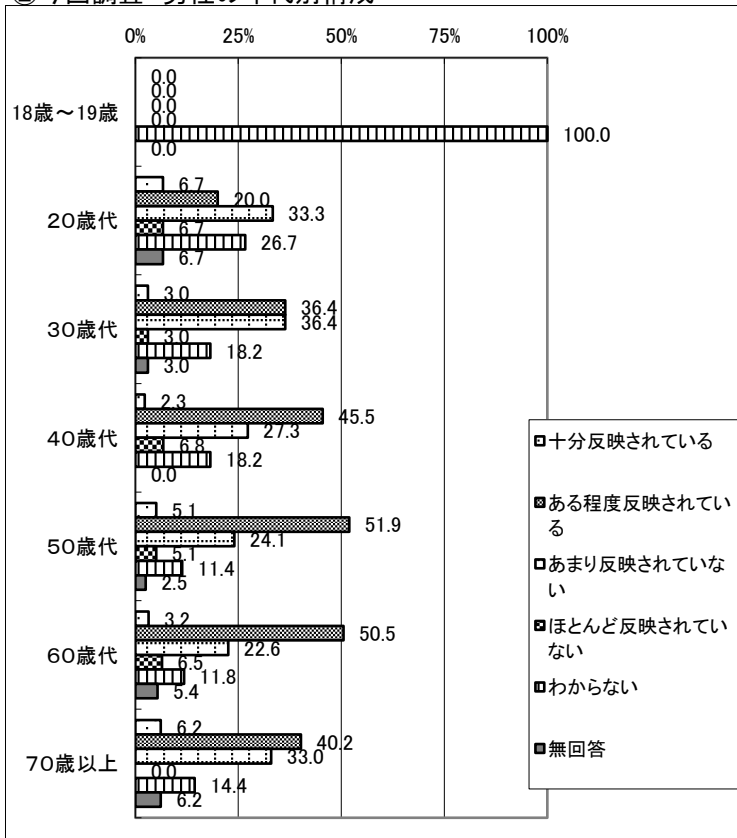
地方自治体(県や市町村)の施策で、『反映されている』と回答した男性は49.0%、女性は39.9%である。『反映されていない』と回答した男性は31.9%、女性は34.8%である。前回調査と比較すると、『反映されている』と回答したものは、男性(49.0%)では前回調査(46.8%)より2.2ポイント増加し、女性(39.9%)では前回調査(31.3%)より8.6ポイント増加している。

①今回調査 性別構成

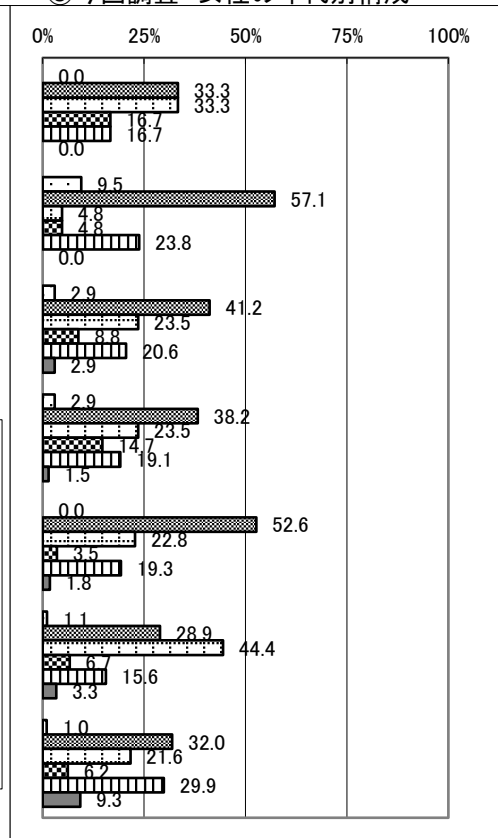


年代別・男女別にみると、『反映されている』と回答したものの最も高いのは、男性では「50歳代」(57.0%)であり、最も低いのは「18～19歳」(0.0%)。女性では、「20歳代」(66.7%)が最も高く、最も低いのは「60歳代」(30.0%)であり、その差は36.7ポイントである。男女の差が最も大きいのは「20歳代」であり、男性(26.7%)と女性(66.7%)では、女性の方が40.0ポイント高い。

②今回調査 男性の年代別構成



③今回調査 女性の年代別構成

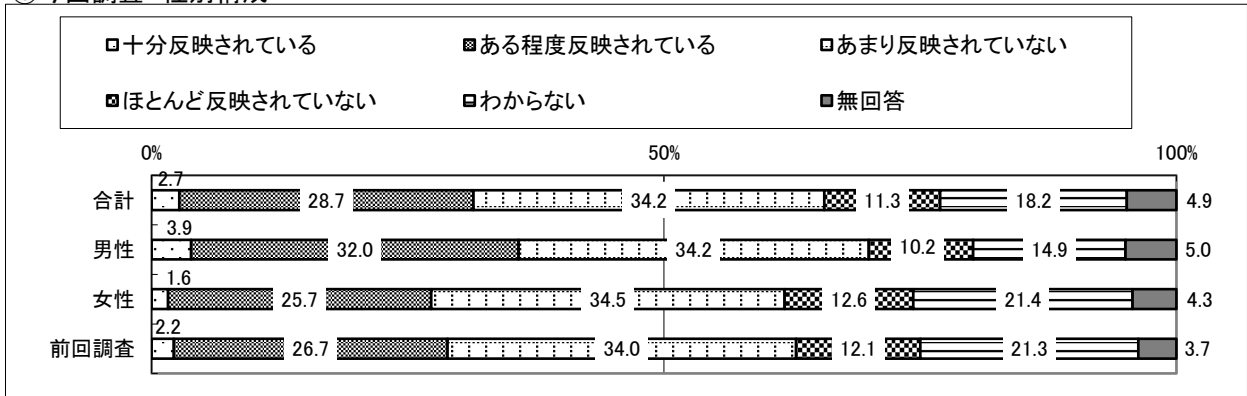


(4) 国の施策で

国の施策で『反映されている』と回答した男性は35.9%、女性は27.3%である。

『反映されていない』と回答した男性は44.4%、女性は47.1%で、女性の方が2.7ポイント高い。前回調査と比較すると、『反映されている』と回答したものは、男性(35.9%)は前回調査(38.8%)より2.9ポイント減少、女性(27.3%)は前回調査(20.8%)より6.5ポイント増加した。

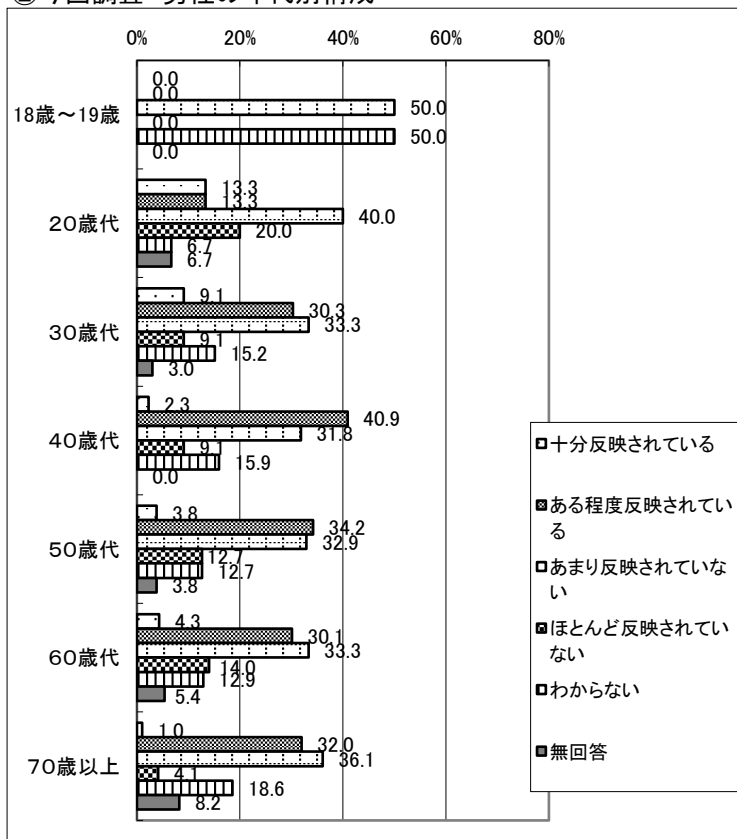
① 今回調査 性別構成



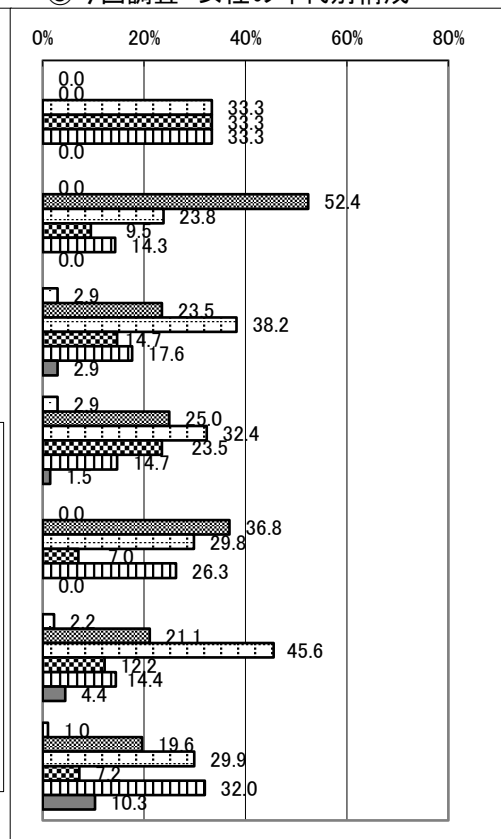
年代別・男女別にみると、『反映されている』と回答したものの割合が最も高いのは、男性では「40歳代」(43.2%)であり、最も低いには「18~19歳」(0.0%)である。女性では「20歳代」(52.4%)が最も高く、最も低いのは「18~19歳」(0.0%)であり、その差は52.4ポイントである。

男女の差が最も大きいものは、「20歳代」であり、『反映されている』と回答した男性(26.7%)と女性(52.4%)では、女性の方が25.7ポイント高い。尚、男性の「20歳代」(26.7%)は前回調査『反映されている』(58.4%)より31.7ポイント減少している。

② 今回調査 男性の年代別構成



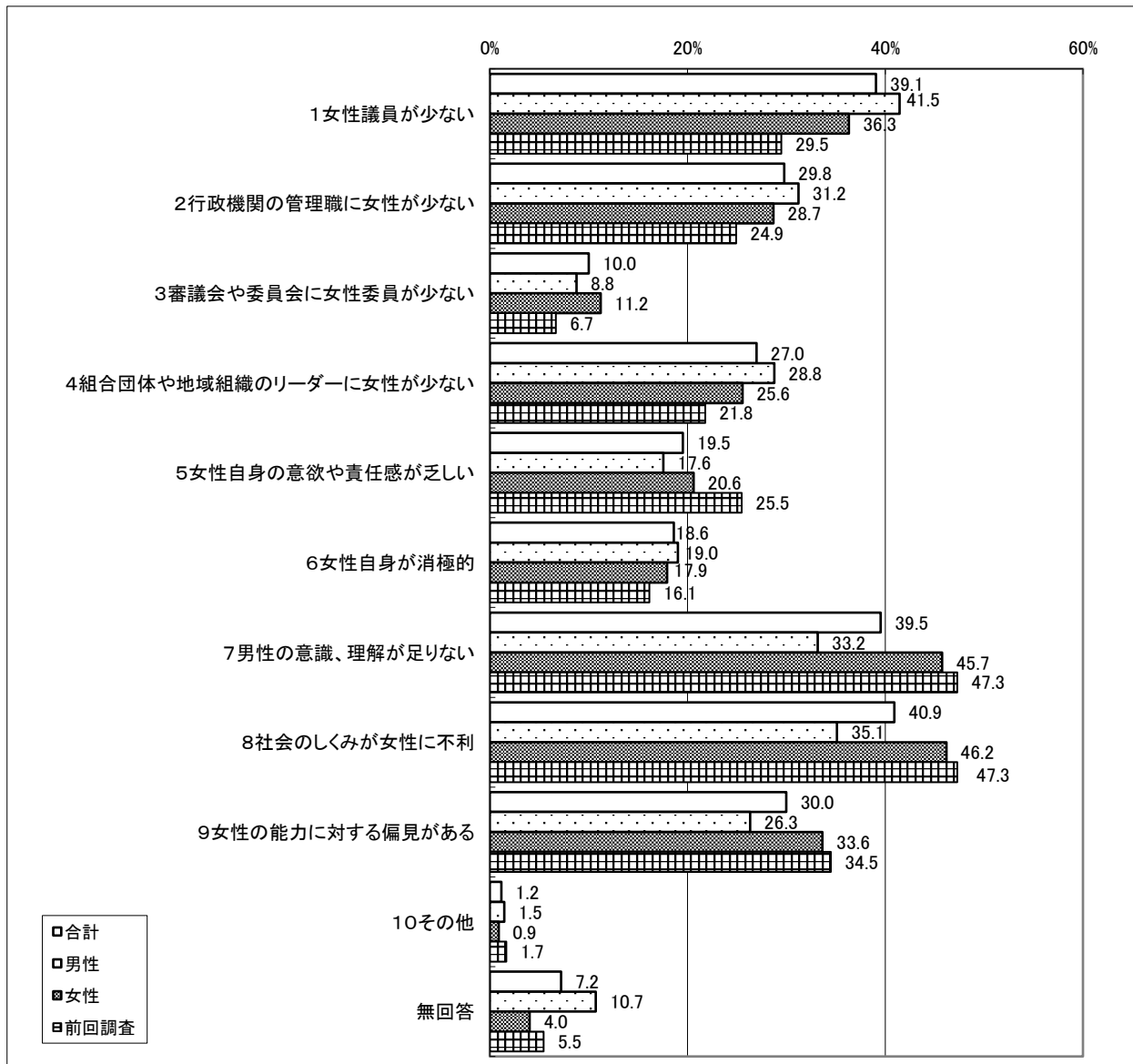
③ 今回調査 女性の年代別構成



問4 (問3で「3あまり反映されていない」または「4ほとんど反映されていない」と答えた項目があった方にお伺いします)
 反映されていない理由は何だと思えますか。次の中から3つまで選んで○をつけてください。
 (N=430 男性=205 女性=223 その他=0 性別不明=2)

女性の意見や考え方が「あまり反映されていない」または「ほとんど反映されていない」と回答したものに、その理由について尋ねた。
 回答割合で最も高かったのは「社会のしくみが女性に不利」(40.9%)であり、次いで「男性の意識、理解が足りない」(39.5%)、「女性議員が少ない」(39.1%)と続く。
 男女別にみると、男性では「女性議員が少ない」(41.5%)が最も高く、次いで「社会のしくみが女性に不利」(35.1%)、「男性の意識、理解が足りない」(33.2%)と続く。女性では「社会のしくみが女性に不利」(46.2%)、次いで「男性の意識、理解が足りない」(45.7%)と続く。
 最も男女の差が大きいのは「男性の意識、理解が足りない」であり、男性(33.2%)と女性(45.7%)では、女性の方が12.5ポイント高い。尚、前回調査と比べ「男性の意識、理解が足りない」と回答した女性は今回調査(45.7%)と前回調査(58.9%)では、今回調査の方が13.2ポイント低い。

①今回調査 性別構成

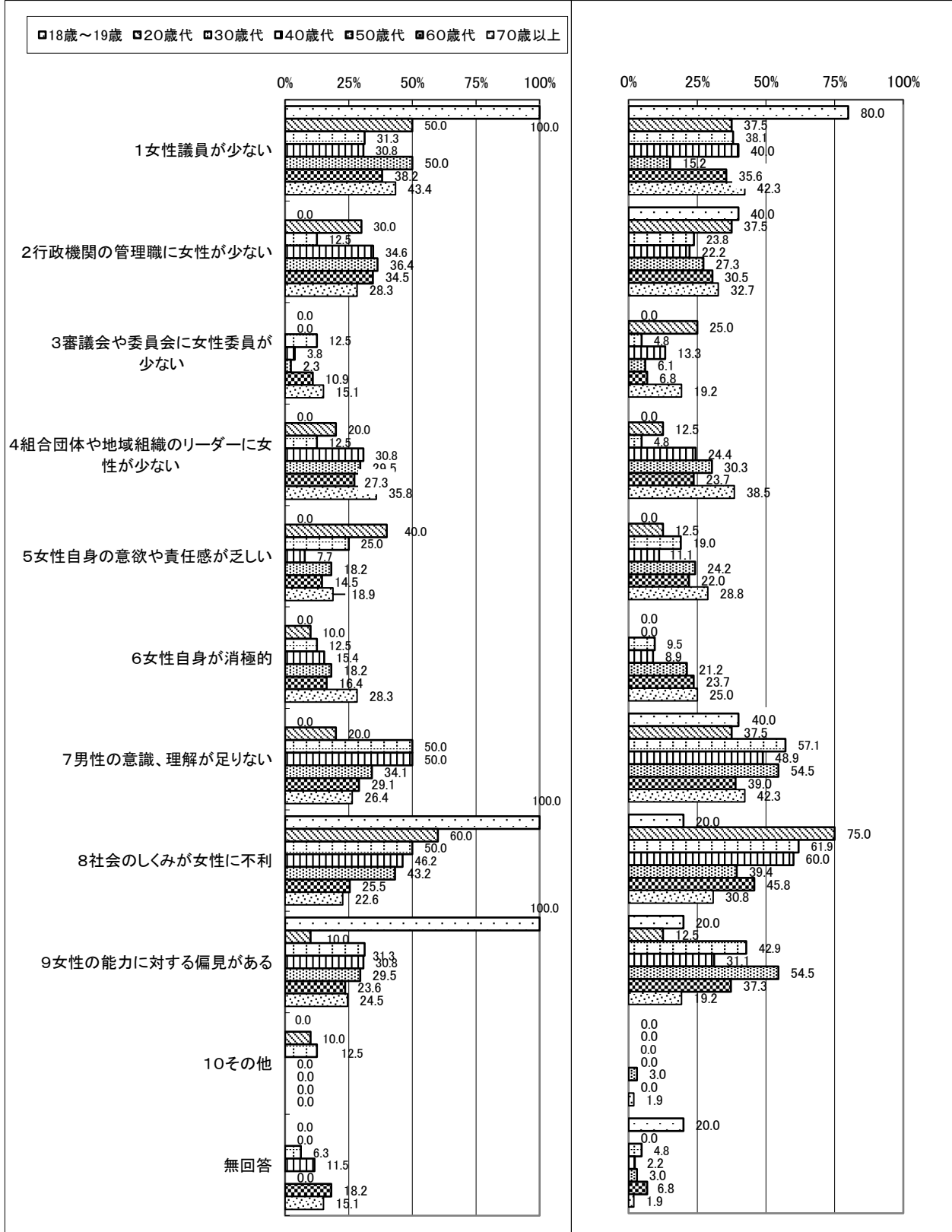


年代別・男女別にみると、「社会のしくみが女性に不利」と回答したものは、男性では「18～19歳」（100.0%）、「20歳代」（60.0%）、「30歳代」（50.0%）で、女性では「18～19歳」（75.0%）、「20歳代」（61.9%）、「30歳代」（60.0%）で5割を超えた。若年層の方が回答した割合が高くなっている傾向にあり、年代による差も大きい。

「男性の意識、理解が足りない」と回答したものは、男性では「30歳代」（50.0%）、「40歳代」（50.0%）で、女性は「30歳代」（57.1%）、「50歳代」（54.5%）で5割を超えた。「社会のしくみが女性に不利」と回答したものと異なり、中間層の方が回答した割合が高くなっている。

②今回調査 男性の年代別構成

③女性の年代別構成



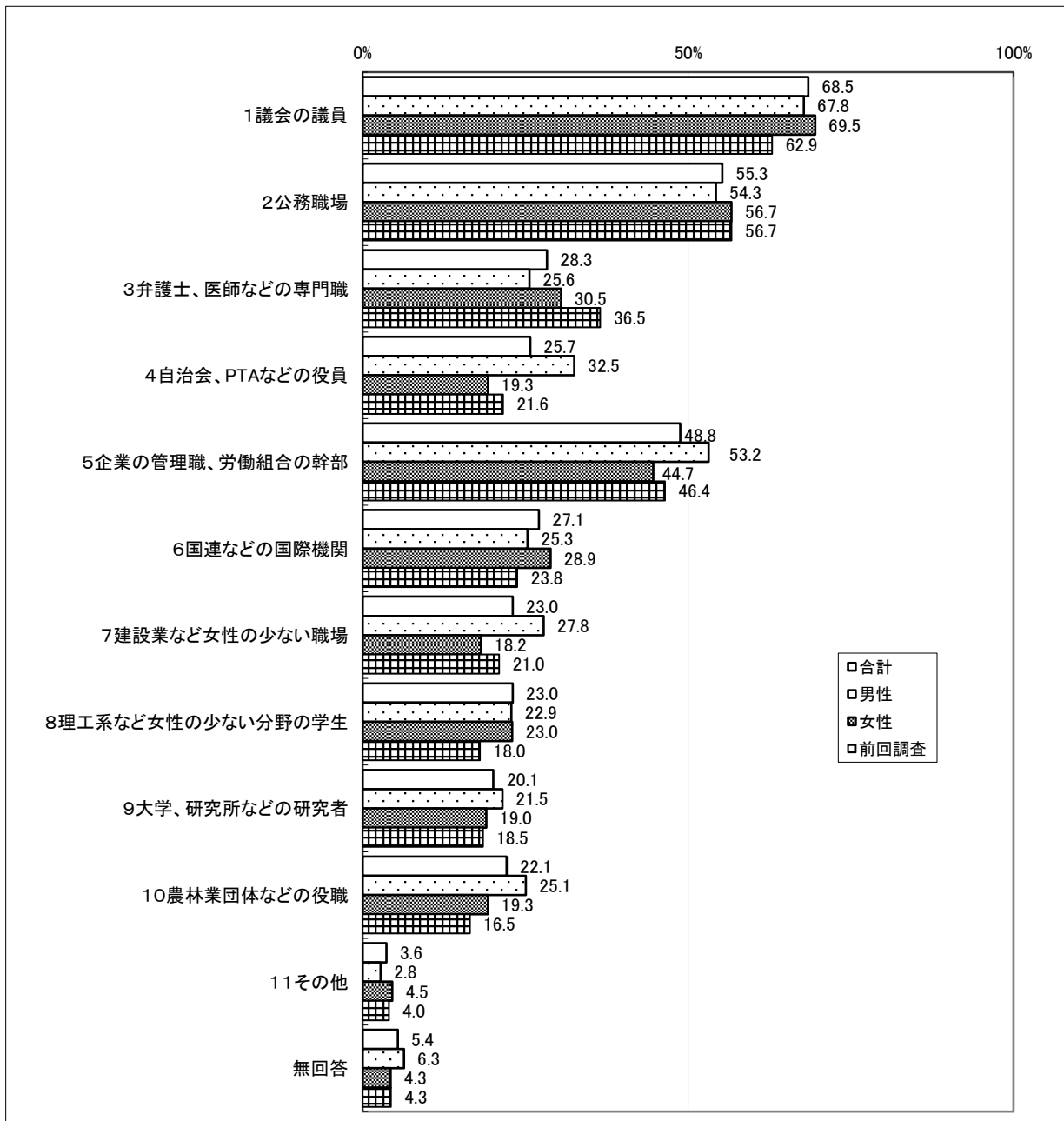
問5 あなたは、今後、特にどのような分野で女性の参画が進むべきだと思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んで○をつけてください。
(N=742 男性=363 女性=374 その他=0 性別無回答=5)

今後どのような分野で女性の参画が進むべきだと思うかについては、「議会の議員」(68.5%)の割合が最も高く、次いで「公務職場」(55.3%)、「企業の管理職、労働組合の幹部」(48.8%)と続く。尚、前回調査と比較し「議会の議員」(68.5%)と「農林業団体などの役職」(22.1%)が前回調査(議会の議員：62.9%、農林業団体などの役職：16.5%)からそれぞれ5.6ポイント増加している。一方で「弁護士、医師など専門職」(28.3%)が前回調査(36.5%)より8.2ポイント減少している。

男女別にみると、最も男女差が大きかったのは「自治会、PTAなどの役員」であり、男性(32.5%)と女性(19.3%)では、男性の方が13.2ポイント高く、次いで「建設業など女性の少ない職場」の、男性(27.8%)と女性(18.2%)では、男性の方が9.6ポイント高い。

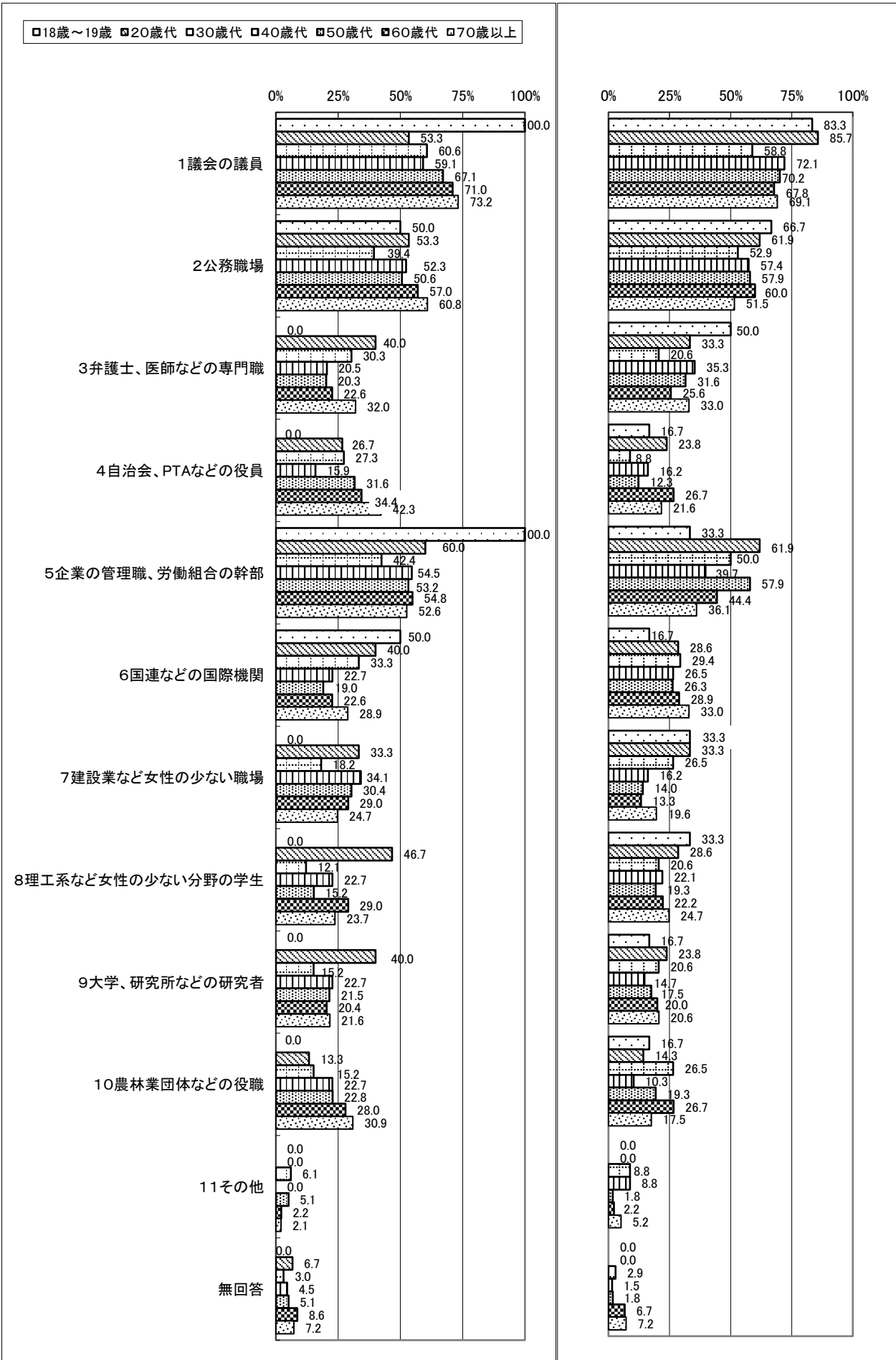
年代別・男女別にみると、男性は「議会の議員」で全ての年代で5割を超え、女性は「議会の議員」

①今回調査 性別構成



②今回調査 男性の年代別構成

③今回調査 女性の年代別構成



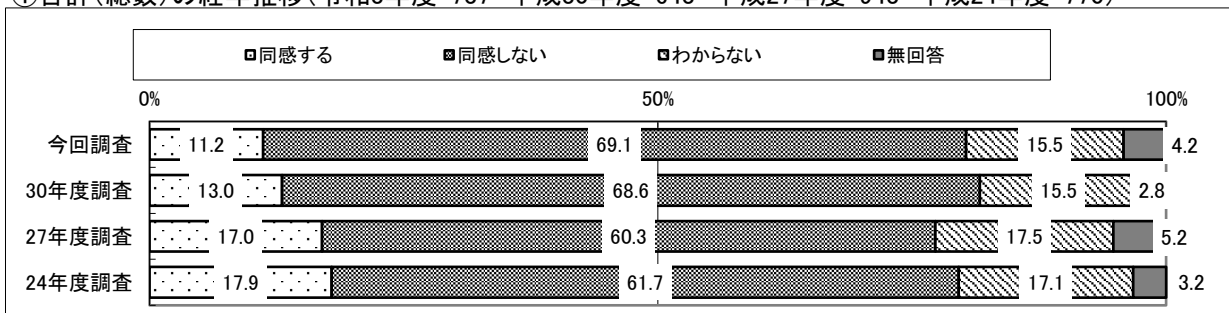
3 家庭生活及び結婚・家庭観について

問6 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはごどう思いますか。
 次の中から1つ選んで○をつけてください。
 (N=742 男性=363 女性=374 その他=0 性別無回答=5)

※「無効回答」がなかったためグラフから除いている。

「男は仕事、女は家庭」という考え方について、「同感する」は11.2%、「同感しない」は69.1%である。

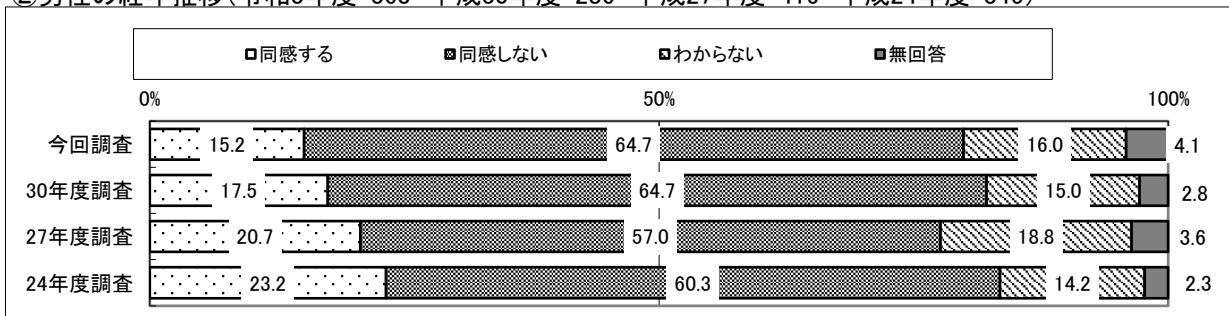
①合計(総数)の経年推移(令和3年度=737 平成30年度=643 平成27年度=943 平成24年度=770)



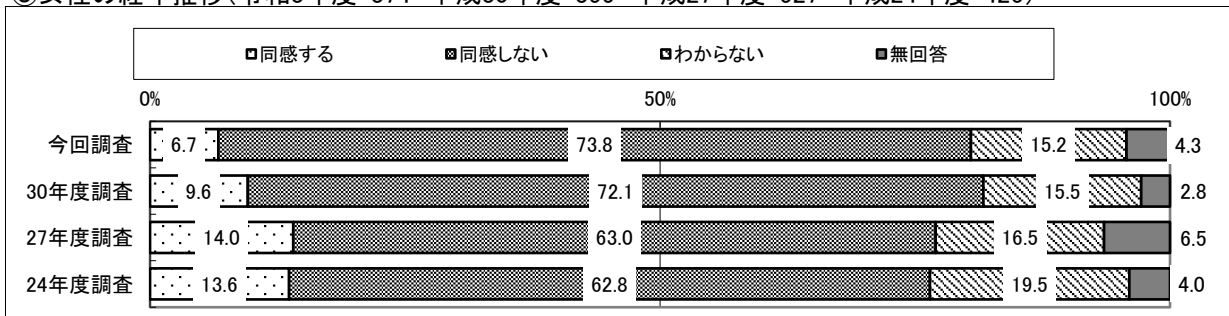
男女別にみると、今回調査、平成30年度調査、平成27年度調査、平成24年度調査において、「同感する」と回答したものの割合は、女性よりも男性の方が高い。

前回調査において「同感しない」と回答した男性は64.7%であり、女性の72.1%とは7.4ポイントの差であったが、今回調査においては男性(64.7%)は前回調査(64.7%)と同割合、女性(73.8%)は前回調査(72.1%)より1.7ポイント増加しており、男女の差は9.1ポイントと広がった。

②男性の経年推移(令和3年度=363 平成30年度=286 平成27年度=416 平成24年度=345)

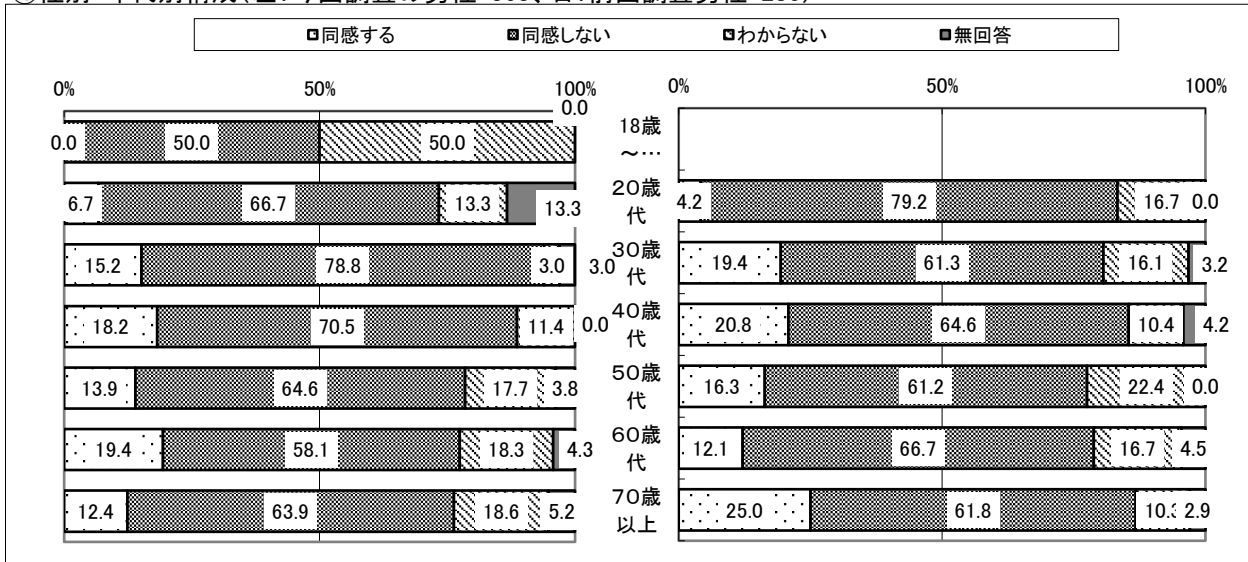


③女性の経年推移(令和3年度=374 平成30年度=355 平成27年度=527 平成24年度=425)



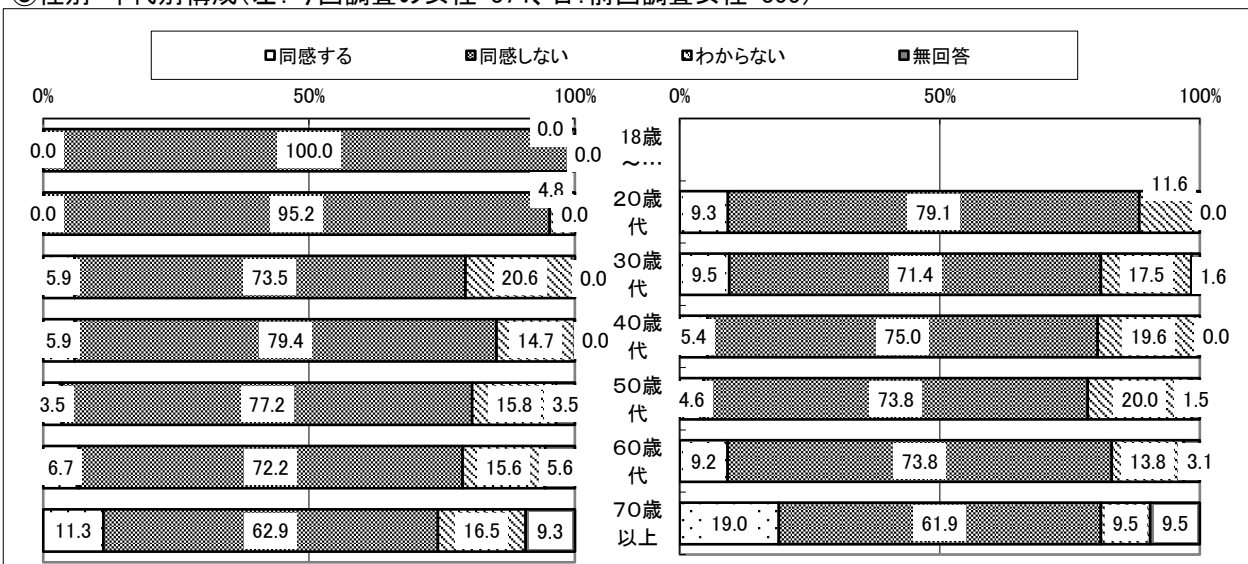
年代別・男女別にみると、男性で「同感する」と回答したものは「60歳以上」（19.4%）の割合が最も高く、最も低い「18歳～19歳」（0.0%）は選択するものがいなかった。
 「同感しない」と回答したものは「30歳代」（78.8%）の割合が最も高く、最も低い「18歳～19歳」（50.0%）との差は28.8ポイントである。
 前回調査と比較すると、「同感する」と回答したものは「20歳代」（6.7%）と「60歳代」（19.4%）以外の年代で減少しており、「同感しない」と回答したものは「20歳代」、「60歳代」以外で増加している。

④性別・年代別構成(左:今回調査の男性=363、右:前回調査男性=286)



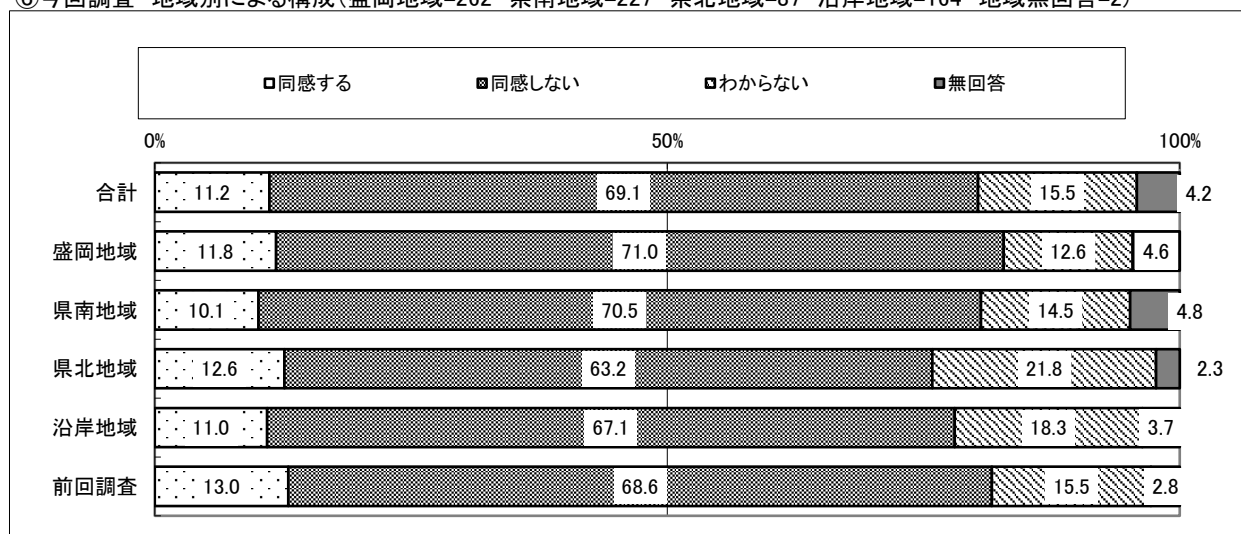
年代別・男女別にみると、女性で「同感する」と回答したものは「70歳以上」（11.3%）の割合が最も高く、最も低い「18歳～19歳」「20歳代」では0.0となっている。
 「同感しない」と回答したものは「18歳～19歳」（100%）の割合が最も高く、最も低い「70歳以上」（62.9%）との差は37.1ポイントである。
 前回調査と比較すると、「同感しない」と回答した「20歳代」（95.2%）は前回調査（79.1%）より16.1ポイント増加した。

⑤性別・年代別構成(左:今回調査の女性=374、右:前回調査女性=355)



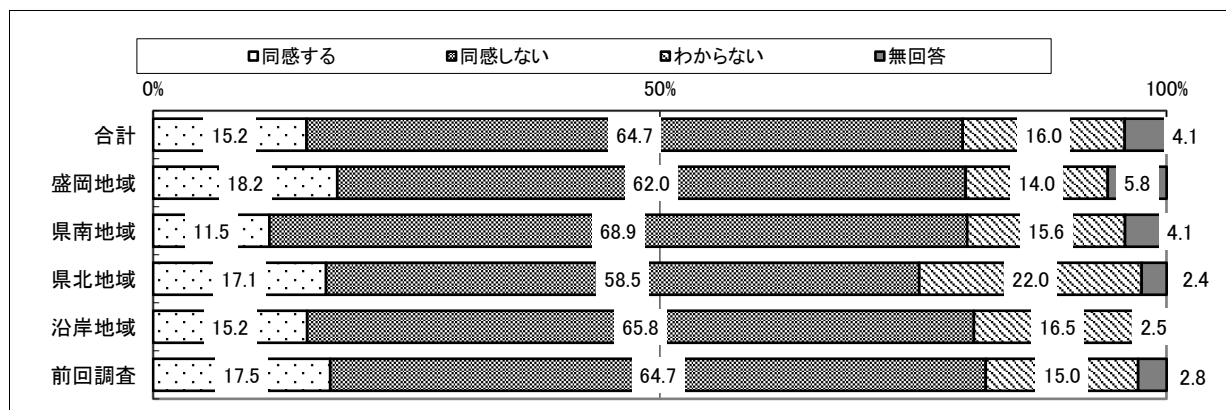
地域別にみると、「同感する」と回答した割合が最も高いのは「県北地域」(12.6%)である。最も低い「県南地域」(10.1%)との差は2.5ポイントである。「同感しない」と回答した割合が最も高いのは「盛岡地域」(71.0%)であり、最も低い「県北地域」(63.2%)との差は7.8ポイントである。

⑥今回調査 地域別による構成(盛岡地域=262 県南地域=227 県北地域=87 沿岸地域=164 地域無回答=2)

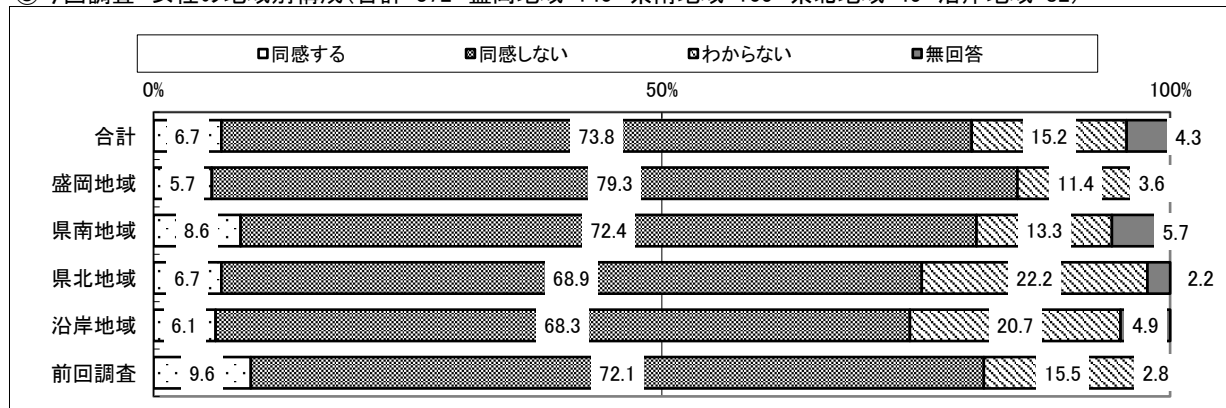


地域別・男女別にみると、男性で「同感する」と回答した割合が最も高いのは「盛岡地域」(18.2%)である。女性で「同感する」と回答した割合が最も高いのは、「県南地域」(8.6%)である。「同感する」と回答したもので、男女の差が最も大きいのは「盛岡地域」であり、男性(18.2%)と女性(5.7%)では、男性の方が12.5ポイント高い。

⑦今回調査 男性の地域別構成(合計=363 盛岡地域=121 県南地域=122 県北地域=41 沿岸地域=79)



⑧今回調査 女性の地域別構成(合計=372 盛岡地域=140 県南地域=105 県北地域=45 沿岸地域=82)



問7 現在結婚されている方にお伺いします。あなたのご家庭では、次あげるような家事などを、主に誰が分担していますか。次の①～⑩の項目ごとに1～6の中から1つずつ選んで○をつけてください。
(N=538 男性=275 女性=260 無回答=3)

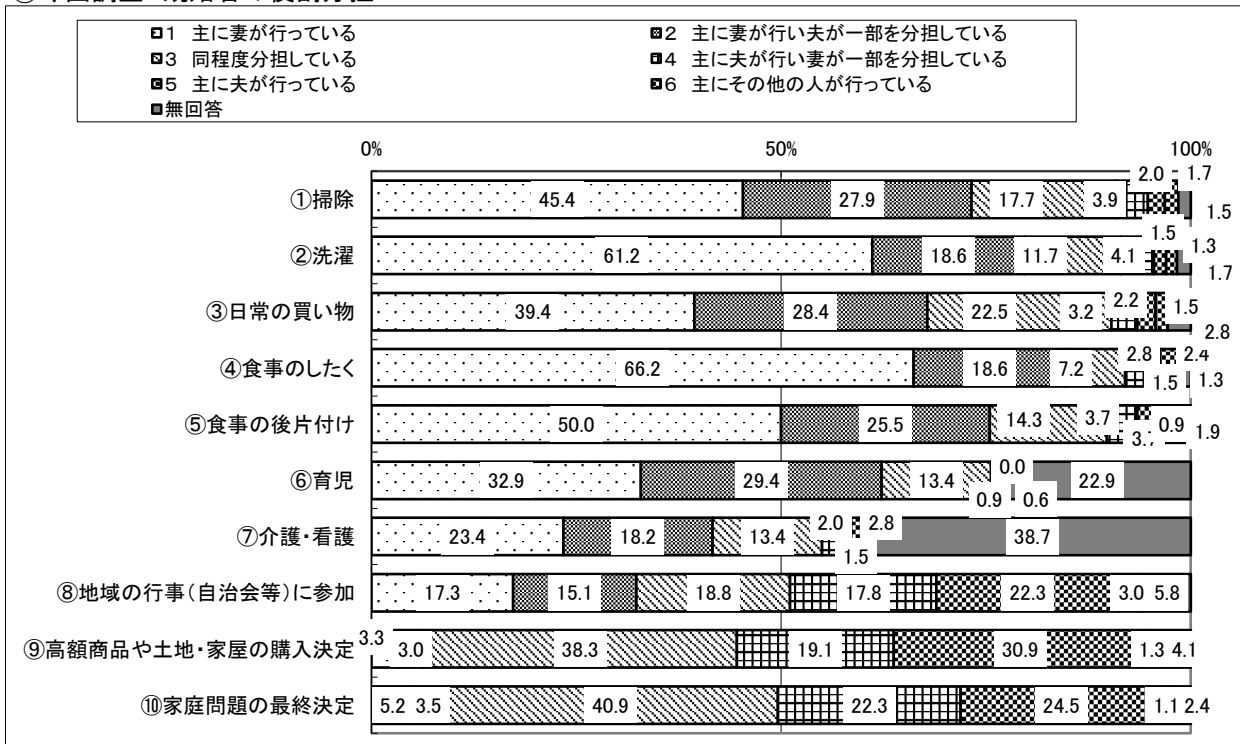
※「無効回答」がなかったためグラフから除いている。

令和3年度調査より従来の選択肢「その他」から「主にその他の人が行っている」に項目を変更した。

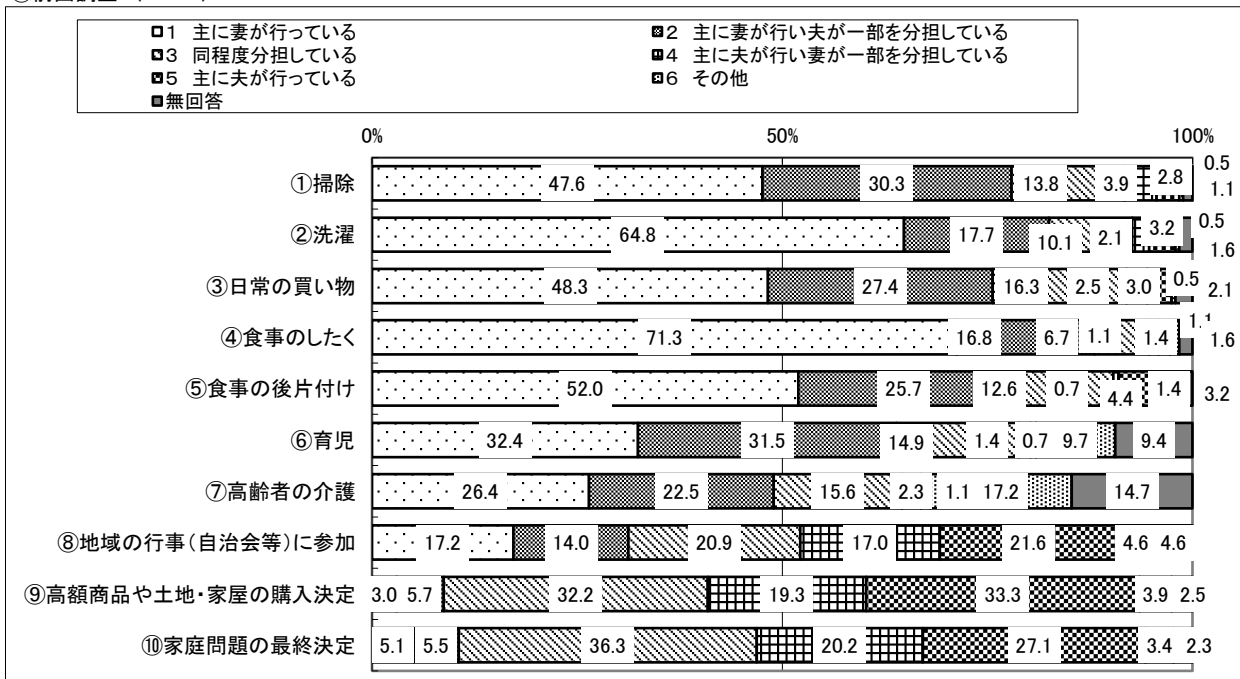
家事などを主に誰が分担しているかでは、「主に妻が行っている(夫が一部負担を含む)」と回答したものは「掃除」(84.8%)、「洗濯」(79.8%)、「食後の後片付け」(75.5%)、「掃除」(73.3%)、「日常の買い物」(67.8%)、「育児」(62.3%)であり、いわゆる家事・育児については過半数を超えて『主に妻が行っている』といえる。

「同等程度分担している」の割合が高い「高額商品や土地・家屋の購入決定」(38.3%)は、前回調査(32.2%)より6.1ポイント増加、「家庭問題の最終決定」(40.9%)は前回調査(36.3%)より

①今回調査 既婚者の役割分担



②前回調査 (N=434)



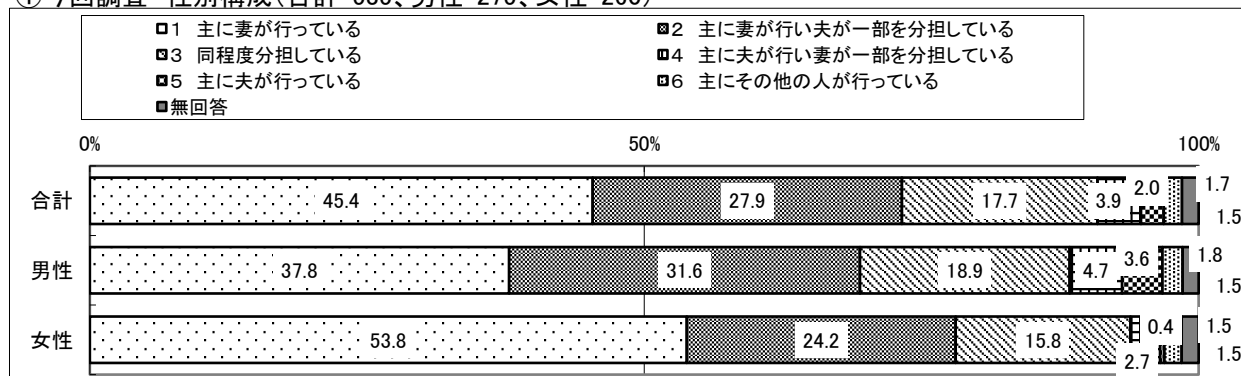
問7(1)掃除

掃除を主に誰が分担しているかは、「主に妻が行っている（夫が一部負担含む）」と回答したものは73.3%であり、前回調査（77.9%）より4.6ポイント減少している。

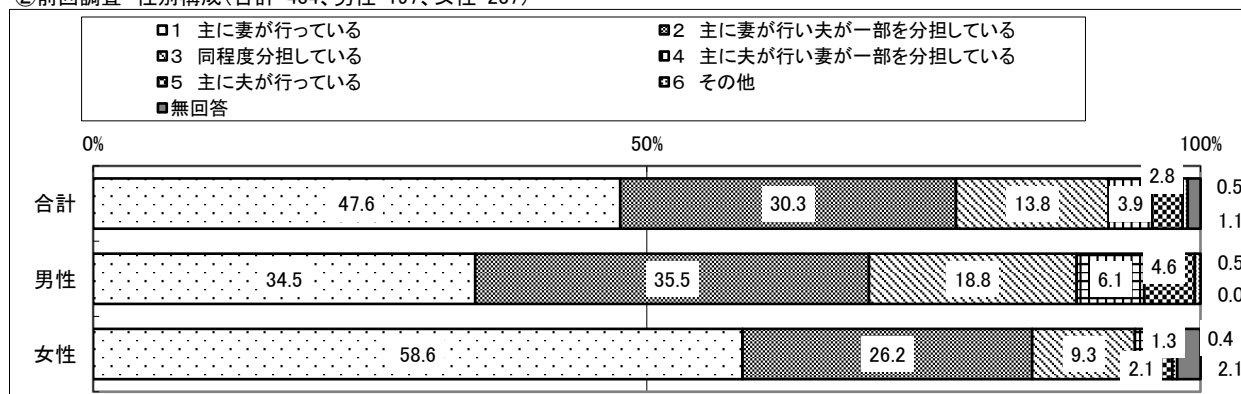
男女別にみると、「主に妻が行っている（夫が一部負担含む）」と回答した男性（69.4%）は前回調査（70.0%）より0.6ポイント微減とし、女性（78.0%）は前回調査（84.8%）より6.8ポイント減少している。

「主に妻が行っている（夫が一部負担含む）」と回答した男性（69.4%）と女性（78.0%）では、女性の方が8.6ポイント高い。

①今回調査 性別構成(合計=535、男性=275、女性=260)



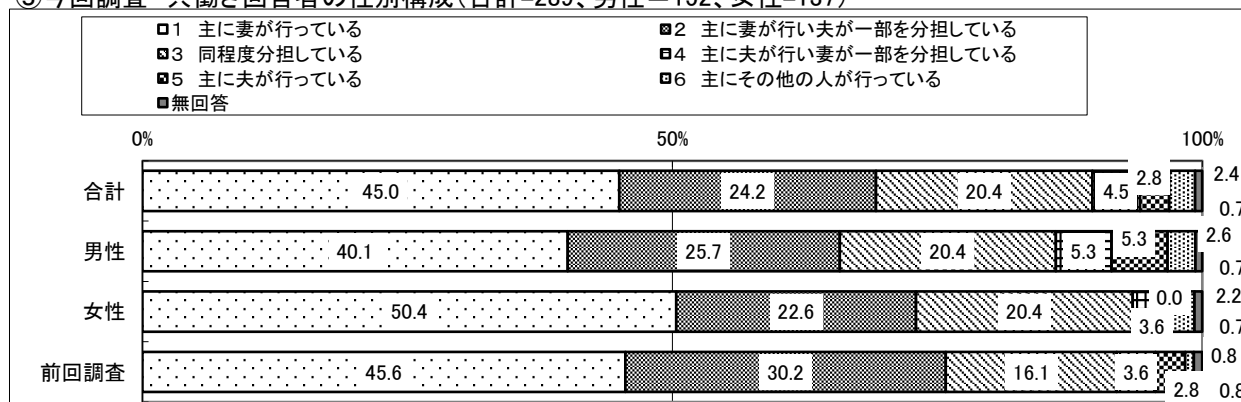
②前回調査 性別構成(合計=434、男性=197、女性=237)



共働きの回答者に着目すると、掃除を主に誰が分担しているかは「主に妻が行っている（夫が一部負担含む）」と回答したものは69.2%であり、既婚回答者全体（73.3%）より4.1ポイント少ない。前回調査（75.8%）と比較すると6.6ポイント減少している。

男女別にみると、男性（65.8%）は前回調査（65.4%）より0.4ポイント微増とし、女性（73.0%）は前回調査（83.7%）より10.7ポイント大幅に減少している。

③今回調査 共働き回答者の性別構成(合計=289、男性=152、女性=137)



※「共働き」とは、「Ⅲ 回答者の基本属性」において、①既婚であり、②回答者自身の職業が「無職（職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答）」以外、③配偶者の職業が「無職（職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答）」以外、④性別・年代の記載がある、以上すべての条件を満たすもの

既婚者全体を年代別・男女別にみると、「主に妻が行っている（夫が一部負担含む）」と回答したものの割合が最も高い年代は、男性では「60歳代」（76.7%）、女性では「70歳以上」（85.8%）である。

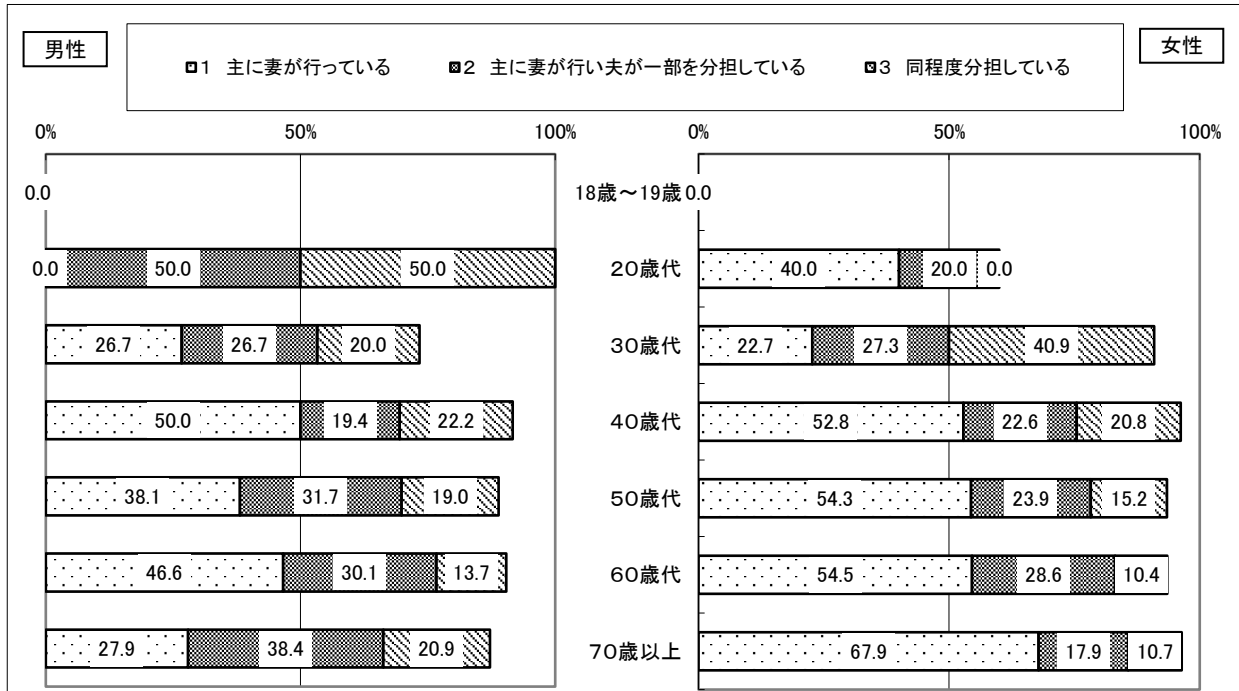
「主に妻が行っている（夫が一部負担含む）」と回答したもので、男女差が最も大きい年代は「70歳以上」であり、男性（66.3%）と女性（85.8%）では女性の方が19.5ポイント高く、次いで「20歳代」では、男性（50.0%）と女性（60.0%）では、女性の方が10.0ポイント高い。前回調査と比較すると、「女性」・「30歳代」（50.0%）は前回調査（84.6%）より34.6ポイント大きく減少、また「女性」・「40歳代」（75.4%）は前回調査（90.7%）より15.3ポイント減少している。

N=535

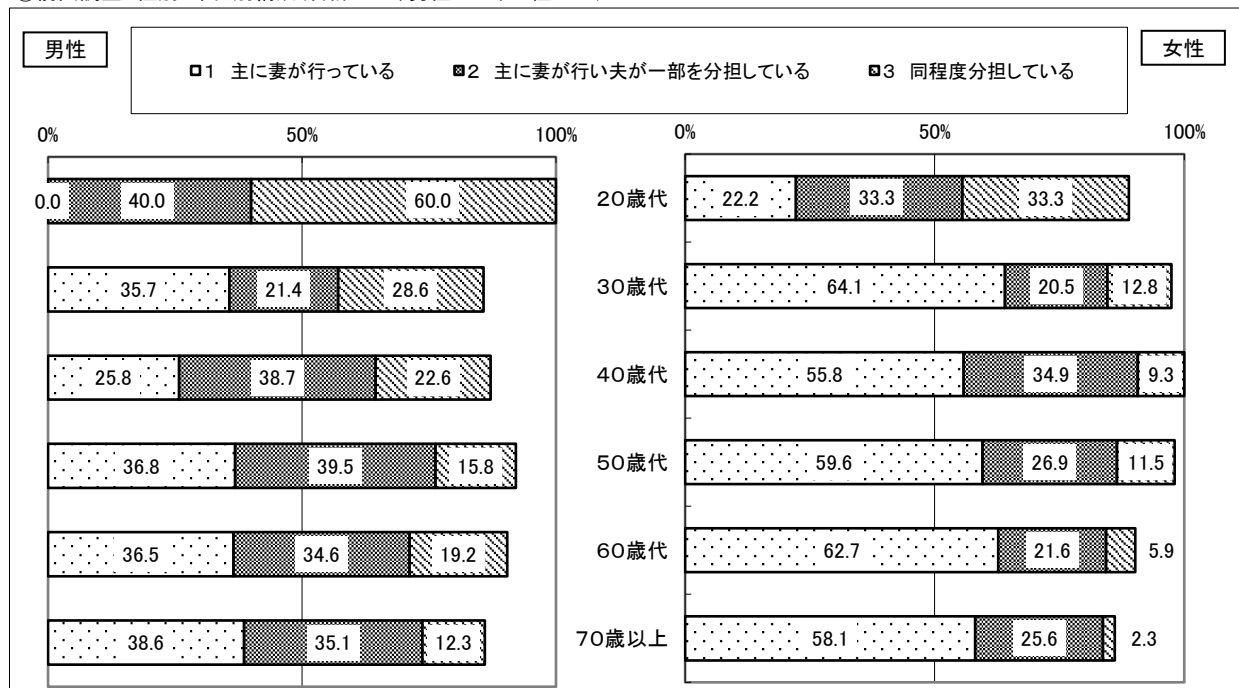
④今回調査

【男性】 18歳～19歳=0 20歳代=2 30歳代=15 40歳代=36 50歳代=63 60歳代=73 70歳以上=86

【女性】 18歳～19歳=0 20歳代=5 30歳代=22 40歳代=53 50歳代=46 60歳代=77 70歳以上=56



⑤前回調査 性別・年代別構成(合計=434、男性=197、女性=237)



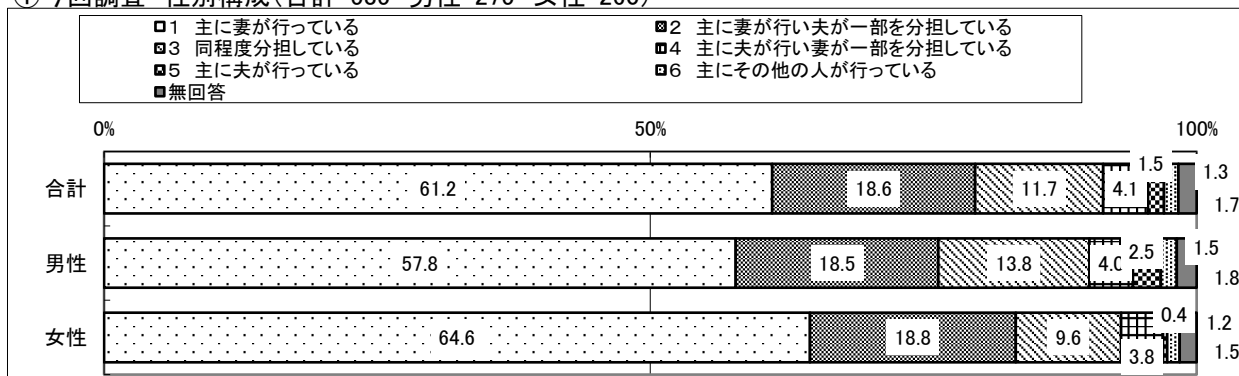
問7(2)洗濯

洗濯を主に誰が分担しているかは、「主に妻が行っている（夫が一部負担含む）」と回答したものは79.8%であり、前回調査（82.5%）より2.7ポイント減少している。

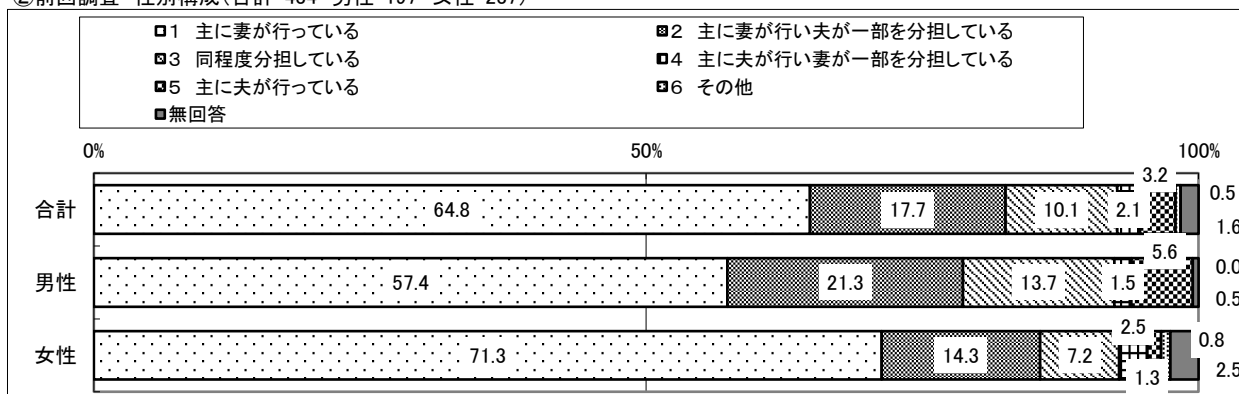
男女別にみると、「主に妻が行っている（夫が一部負担含む）」と回答した男性（76.3%）は前回調査（78.7%）より2.4ポイント、女性（83.4%）は前回調査（85.6%）より2.2ポイントそれぞれ減少している。

「主に妻が行っている（夫が一部負担含む）」と回答した男性（76.3%）と女性（83.4%）では、女性の方が7.1ポイント高い。

①今回調査 性別構成(合計=535 男性=275 女性=260)



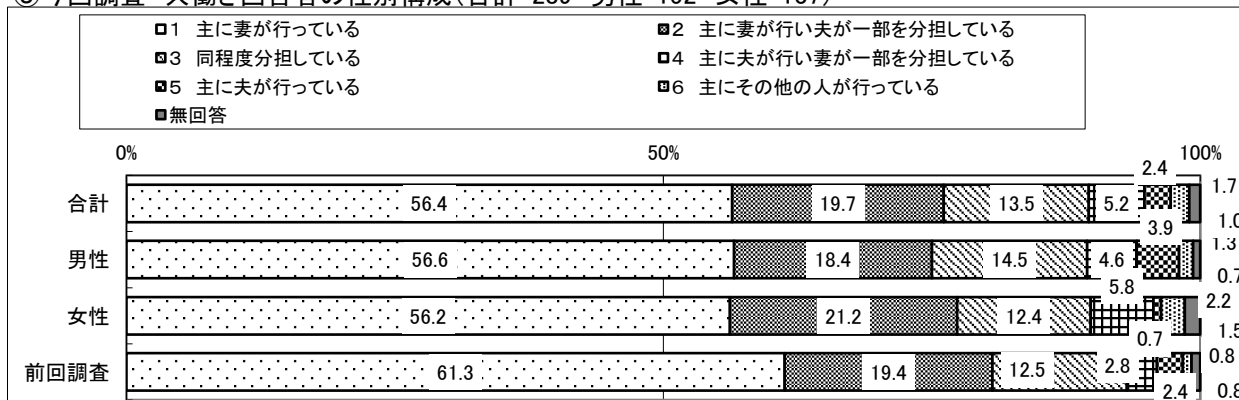
②前回調査 性別構成(合計=434 男性=197 女性=237)



共働きの回答者に着目すると、洗濯を主に誰が分担しているかは「主に妻が行っている（夫が一部負担含む）」と回答したものは76.1%であり、既婚回答者全体（79.8%）より3.7ポイント少ない。前回調査（80.7%）と比較すると4.6ポイント減少している。

男女別にみると、男性（75.0%）は前回調査（74.8%）より0.2ポイントと増加し、女性（77.4%）は前回調査（85.1%）より7.7ポイント減少している。

③今回調査 共働き回答者の性別構成(合計=289 男性=152 女性=137)



※「共働き」とは、「Ⅲ 回答者の基本属性」において、①既婚であり、②回答者自身の職業が「無職（職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答）」以外、③配偶者の職業が「無職（職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答）」以外、④性別・年代の記載がある、以上すべての条件を満たすもの

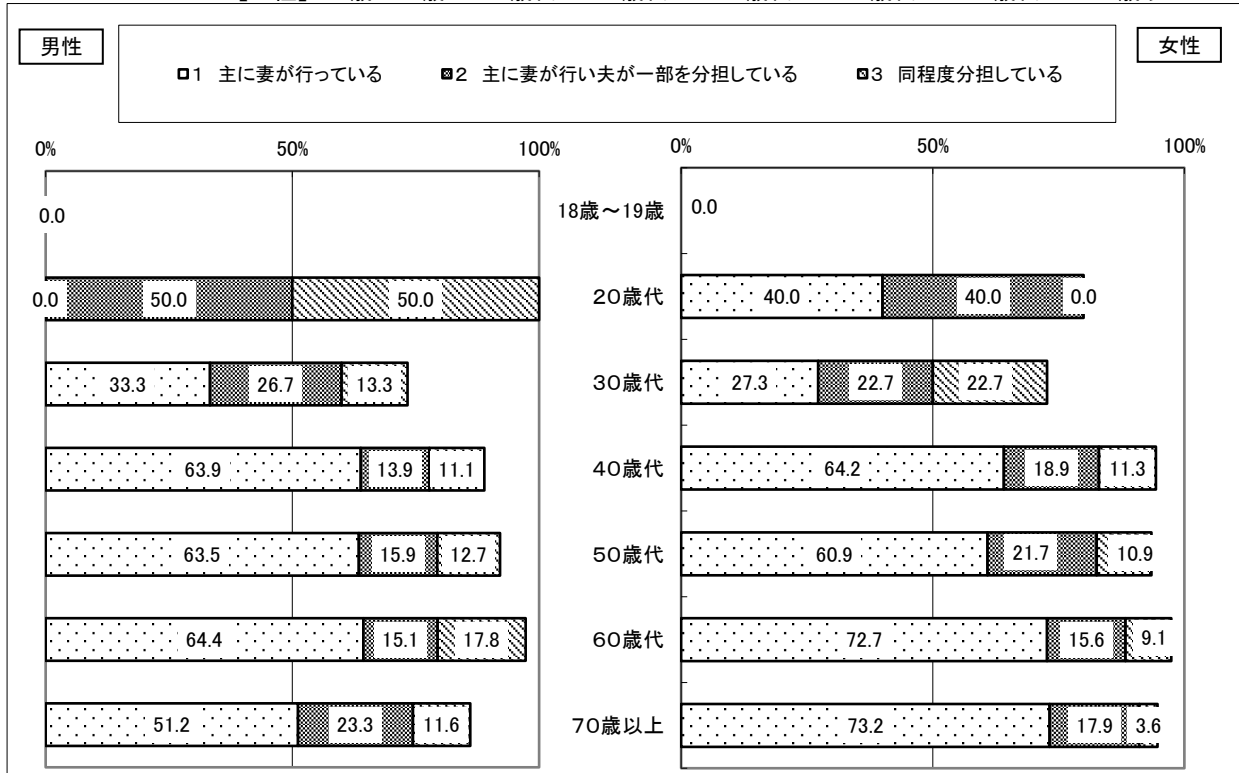
既婚者全体を年代別・男女別にみると、「主に妻が行っている（夫が一部負担含む）」と回答したものの割合が最も高い年代は、男性では「60歳代」（79.5%）、女性では「70歳以上」（91.1%）である。

今回調査で1番高いのは男性は「60歳代」（79.5%）、女性は「70歳以上」（91.1%）であるが、前回調査では男性「60歳代」（84.7%）は同じく最多、しかし女性「70歳以上」（91.1%）は前回調査（76.7%）から14.4ポイント増加している。

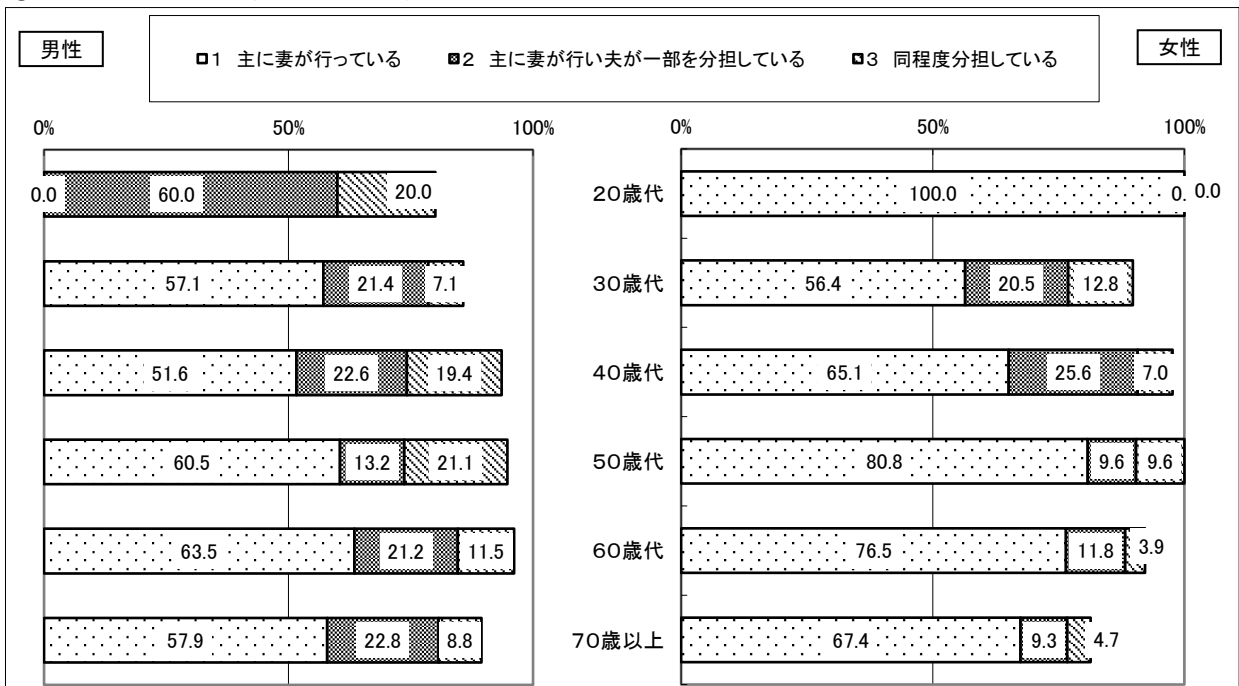
「主に妻が行っている（夫が一部負担含む）」と回答したもので、男女差が最も大きい年代は「20歳代」であり、男性（50.0%）と女性（80.0%）では30.0ポイント女性高く、次いで「70歳以上」で男性（74.5%）と女性（91.1%）では16.6ポイント女性が高い。

N=535

- ④今回調査 【男性】 18歳～19歳=0 20歳代=2 30歳代=15 40歳代=36 50歳代=63 60歳代=73 70歳以上=86
 【女性】 18歳～19歳=0 20歳代=5 30歳代=22 40歳代=53 50歳代=46 60歳代=77 70歳以上=56



⑤前回調査 性別・年代別構成(合計=434 男性=197 女性=237)



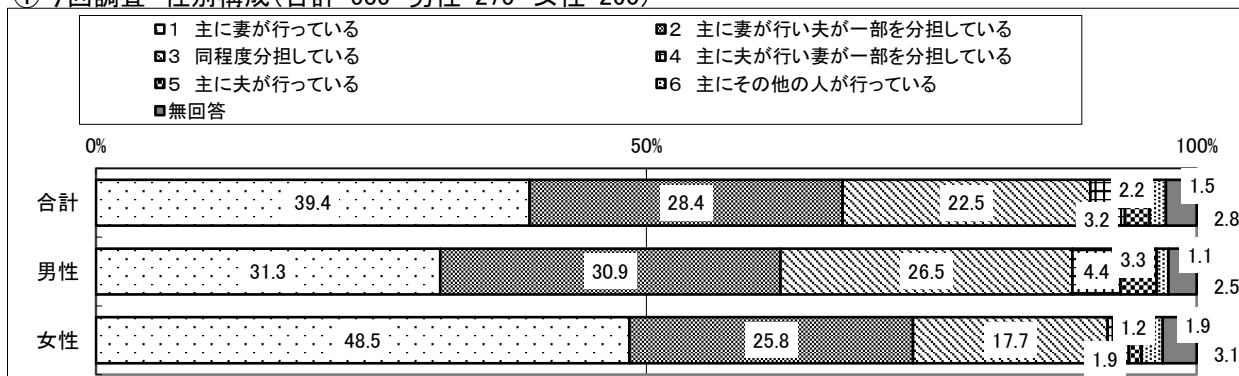
問7(3)日常の買い物

日常の買い物を主に誰が分担しているかは、「主に妻が行っている（夫が一部負担含む）」と回答したものは67.8%であり、前回調査（75.7%）より7.9ポイント減少している。

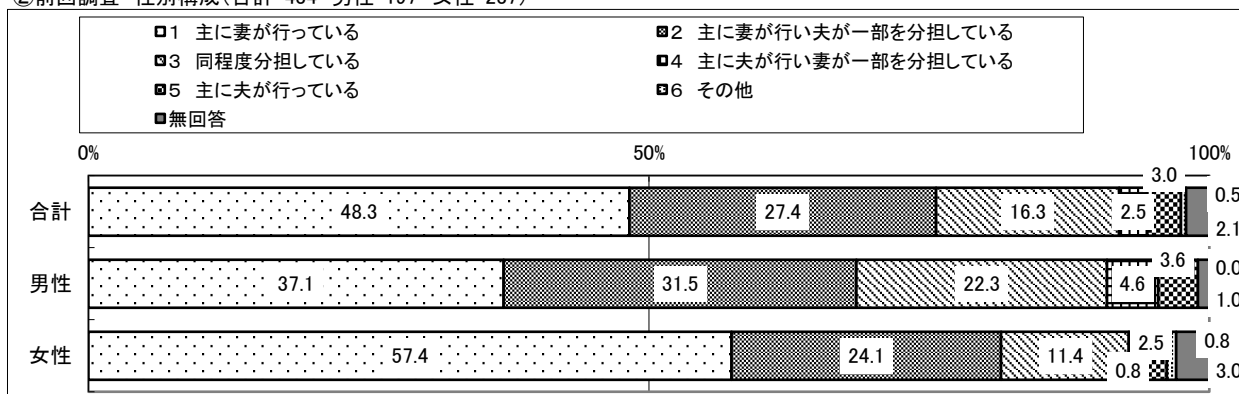
男女別にみると、「主に妻が行っている（夫が一部負担含む）」と回答した男性（62.2%）は前回調査（68.6%）より6.4ポイント減少し、女性（74.3%）は前回調査（81.5%）より7.2ポイント減少している。

「主に妻が行っている（夫が一部負担含む）」と回答した男性（62.2%）と女性（74.3%）では、女性の方が12.1ポイント高い。

①今回調査 性別構成(合計=535 男性=275 女性=260)



②前回調査 性別構成(合計=434 男性=197 女性=237)

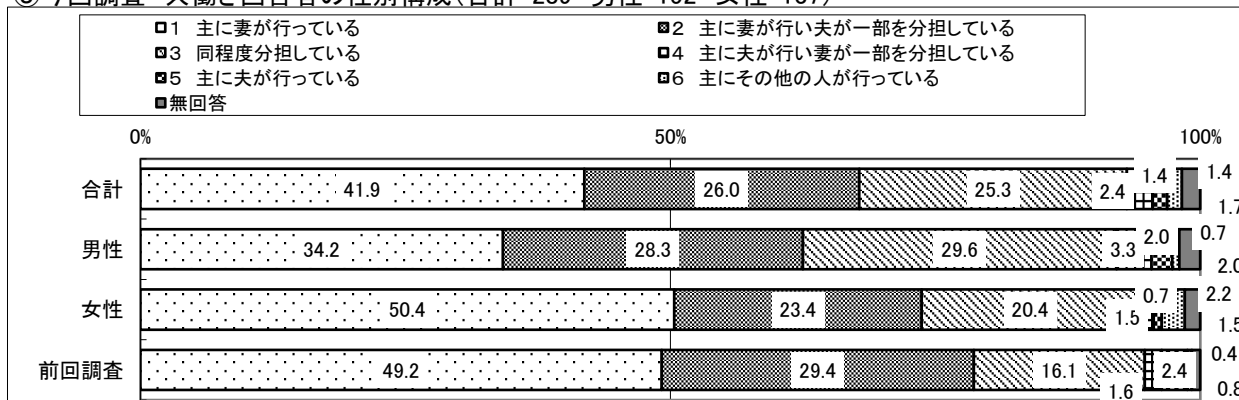


共働きの回答者に着目すると、日常の買い物を主に誰が分担しているかは「主に妻が行っている（夫が一部負担含む）」と回答したものは67.9%であり、既婚回答者全体（67.8%）より0.1ポイント低い。

前回調査（78.6%）と比較すると10.7ポイント減少している。

男女別にみると、男性（62.5%）は前回調査（72.9%）より10.4ポイント減少し、女性（73.8%）は前回調査（82.9%）より9.1ポイント減少している。

③今回調査 共働き回答者の性別構成(合計=289 男性=152 女性=137)



※「共働き」とは、「Ⅲ 回答者の基本属性」において、①既婚であり、②回答者自身の職業が「無職（職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答）」以外、③配偶者の職業が「無職（職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答）」以外、④性別・年代の記載がある、以上すべての条件を満たすもの

既婚者全体を年代別・男女別にみると「主に妻が行っている（夫が一部負担含む）」と回答したものの割合が最も高い年代は、男女ともに「60歳代」で、男性（72.6%）、女性（81.8%）である。

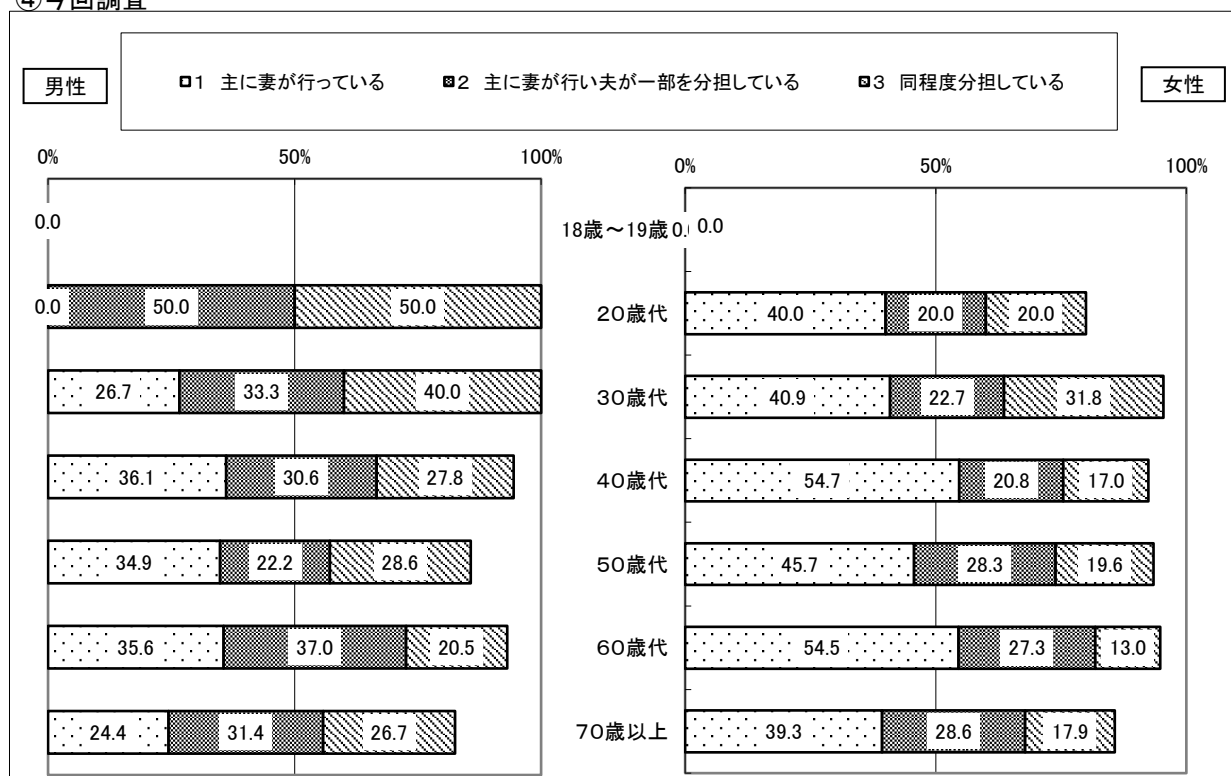
「主に妻が行っている（夫が一部負担含む）」と回答したもので、男女差が最も大きい年代は「50歳代」であり、男性（57.1%）と女性（74.0%）では16.9ポイント女性が高く、次いで「70歳代

N=535

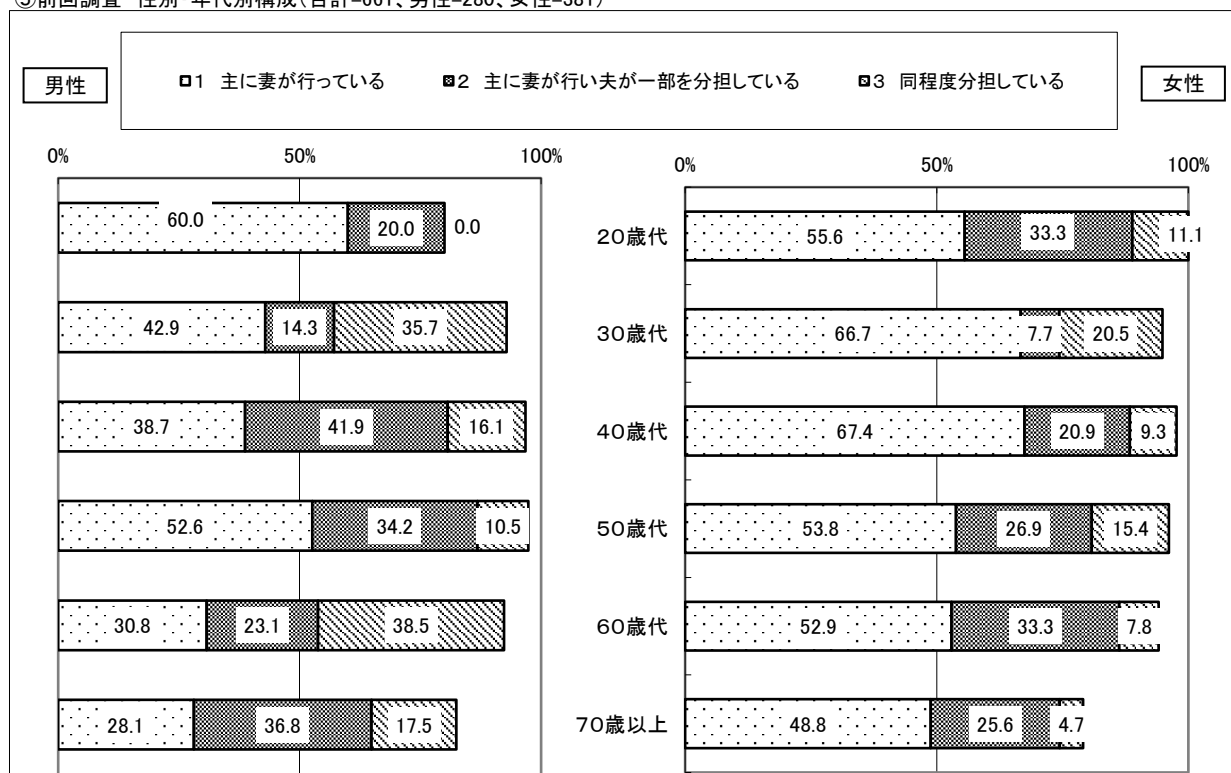
【男性】 18歳～19歳=0 20歳代=2 30歳代=15 40歳代=36 50歳代=63 60歳代=73 70歳以上=86

【女性】 18歳～19歳=0 20歳代=5 30歳代=22 40歳代=53 50歳代=46 60歳代=77 70歳以上=56

④今回調査



⑤前回調査 性別・年代別構成(合計=661、男性=280、女性=381)

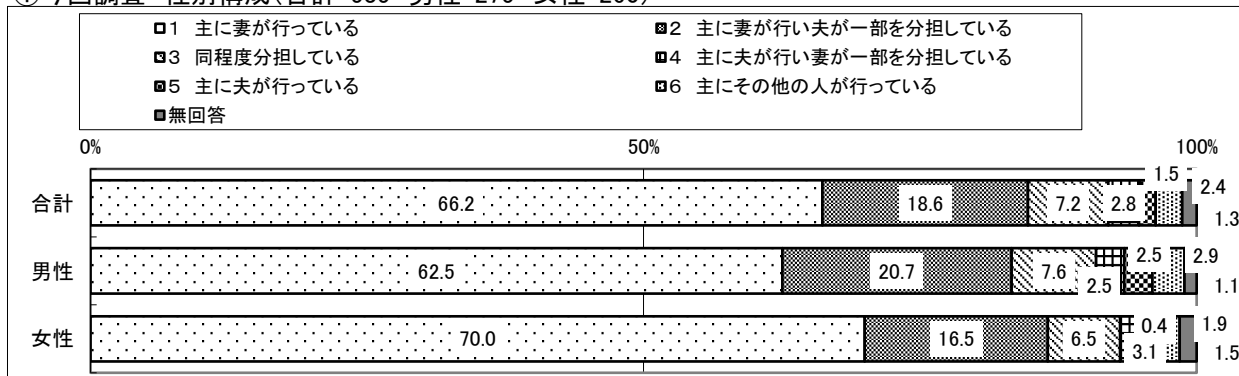


問7(4)食事のしたく

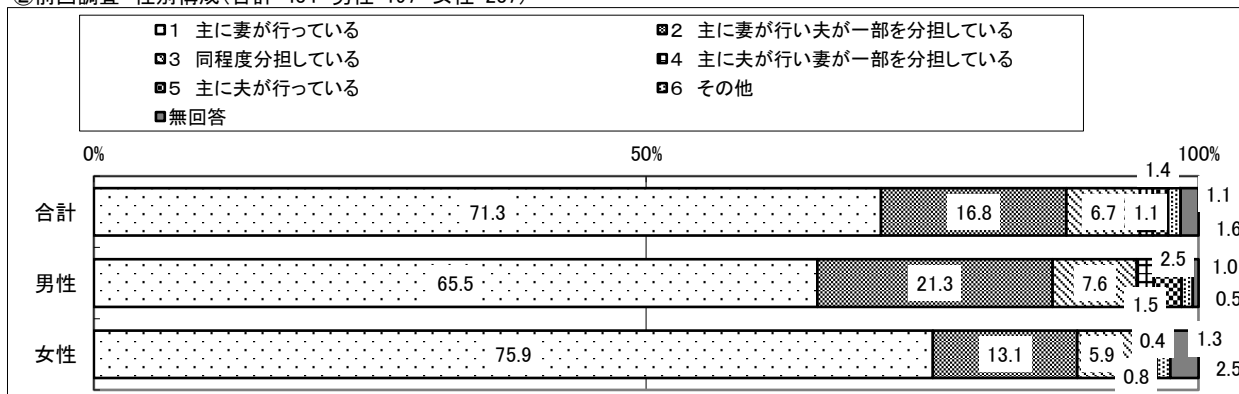
食事のしたくを主に誰が分担しているかは、「主に妻が行っている（夫が一部負担含む）」と回答したものは84.8%であり、前回調査（88.1%）より3.3ポイント減少している。

男女別にみると、「主に妻が行っている（夫が一部負担含む）」と回答した男性（83.2%）は前回調査（86.8%）より3.6ポイント減少し、女性（86.5%）は前回調査（89.0%）より2.5ポイント減少している。「主に妻が行っている（夫が一部負担含む）」と回答した男性（83.2%）と女性（86.5%）では、女性の方が3.3ポイント高い。

①今回調査 性別構成(合計=535 男性=275 女性=260)



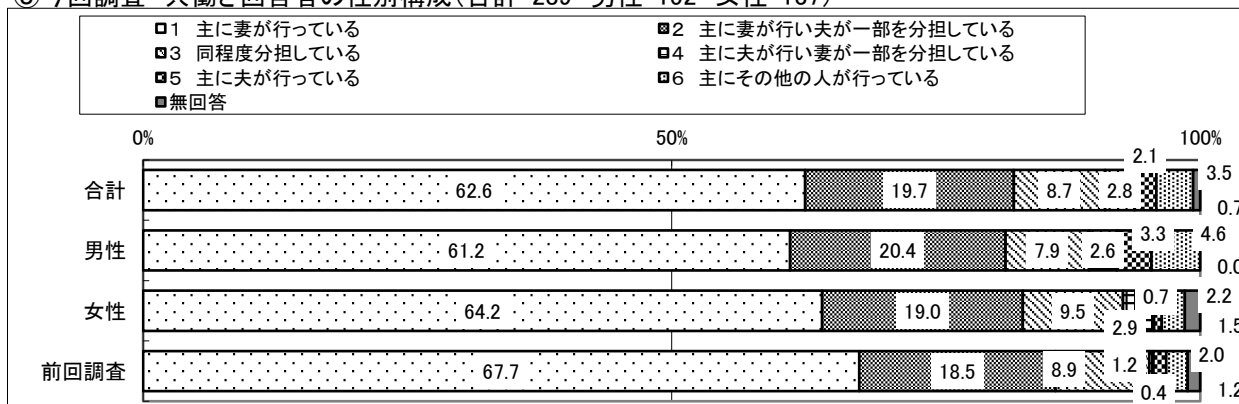
②前回調査 性別構成(合計=434 男性=197 女性=237)



共働きの回答者に着目すると、食事のしたくを主に誰が分担しているかは「主に妻が行っている（夫が一部負担含む）」と回答したものは82.3%であり、既婚回答者全体（84.8%）より2.5ポイント低い。前回調査（86.2%）と比較すると3.9ポイント減少している。

男女別にみると、男性（81.6%）は前回調査（86.9%）より5.3ポイント減少し、女性（83.2%）は前回調査（85.8%）より2.6ポイント減少している。

③今回調査 共働き回答者の性別構成(合計=289 男性=152 女性=137)



※「共働き」とは、「Ⅲ 回答者の基本属性」において、①既婚であり、②回答者自身の職業が「無職（職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答）」以外、③配偶者の職業が「無職（職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答）」以外、④性別・年代の記載がある、以上すべての条件を満たすもの

既婚者全体を年代別・男女別にみると「主に妻が行っている（夫が一部負担含む）」と回答したものの割合が最も高い年代は、男性では「60歳代」（89.0%）、女性では「70歳以上」（94.6%）である。

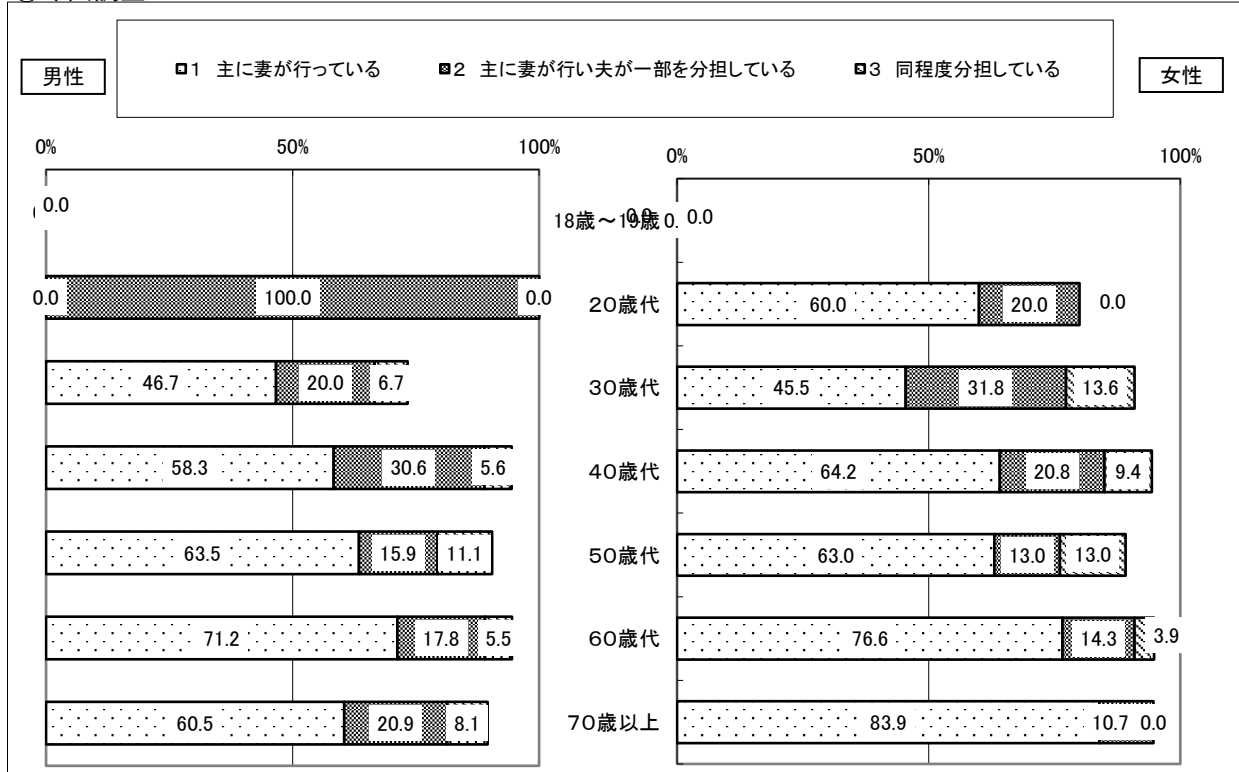
「主に妻が行っている（夫が一部負担含む）」と回答したもので、男女差が最も大きい年代は「20歳代」であり、男性（100%）と女性（80.0%）では20.0ポイント男性が高く、次いで「70歳以上」で男性（81.4%）と女性（94.6%）では13.2ポイント女性が高い。

N=535

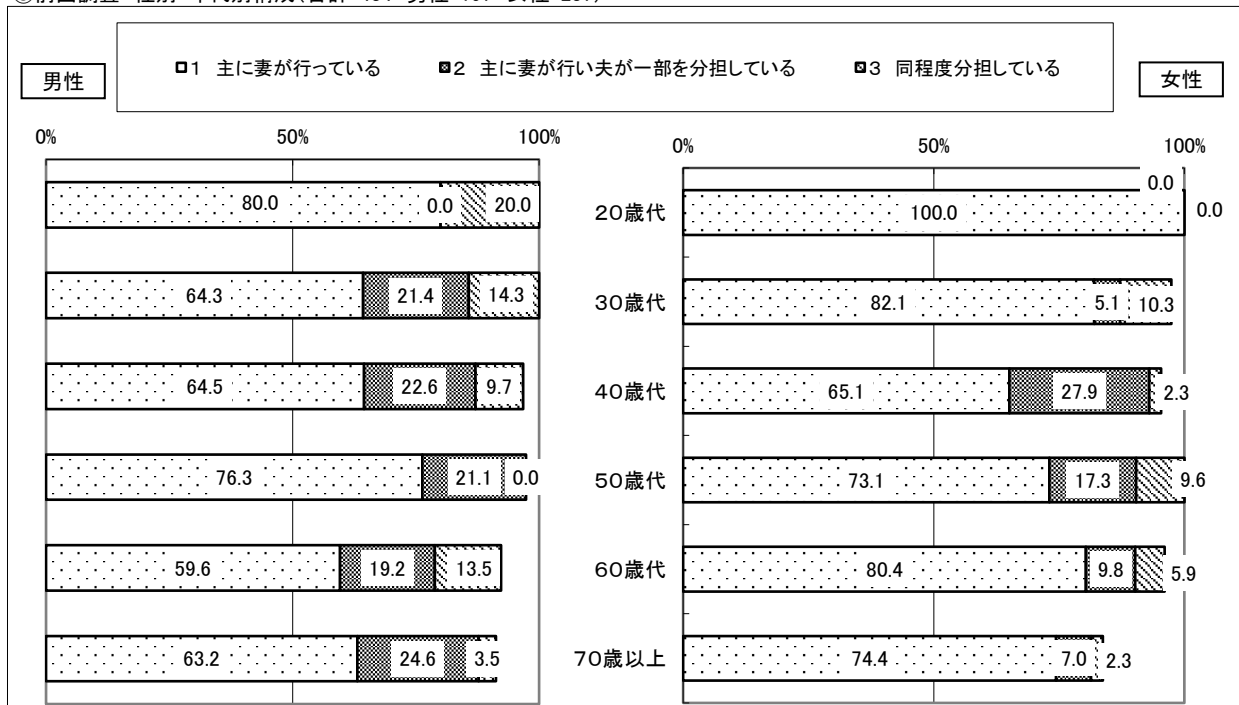
【男性】 18歳～19歳=0 20歳代=2 30歳代=15 40歳代=36 50歳代=63 60歳代=73 70歳以上=86

【女性】 18歳～19歳=0 20歳代=5 30歳代=22 40歳代=53 50歳代=46 60歳代=77 70歳以上=56

④今回調査



⑤前回調査 性別・年代別構成(合計=434 男性=197 女性=237)

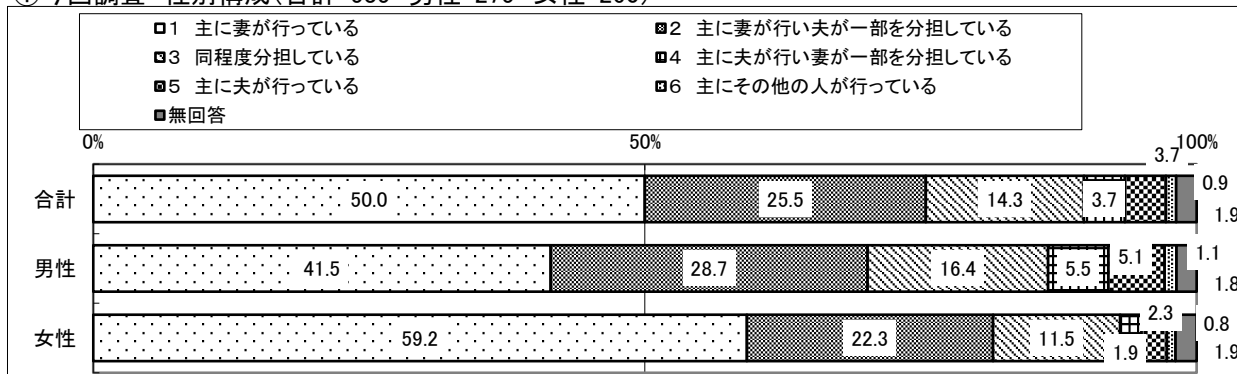


問7(5)食事の後片付け

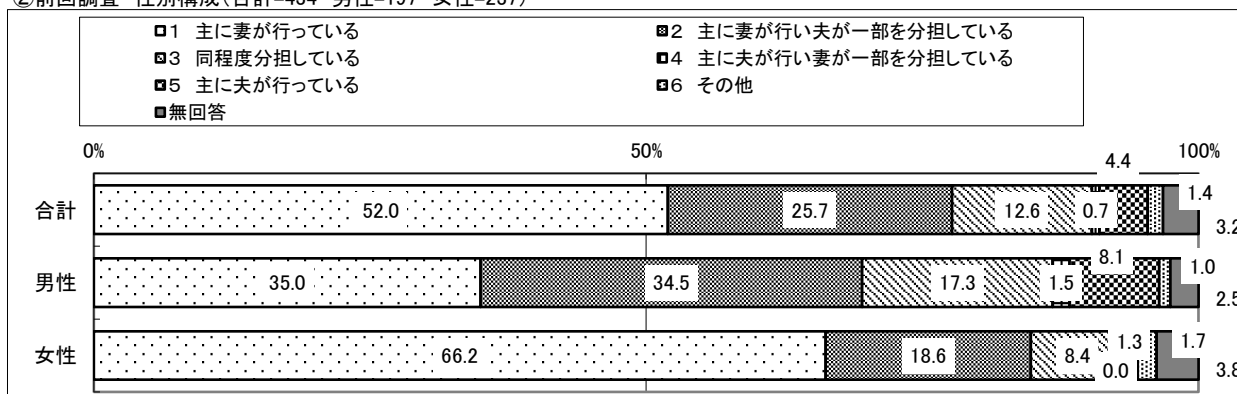
食事の後片付けを主に誰が分担しているかは、「主に妻が行っている（夫が一部負担含む）」と回答したものは75.5%であり、前回調査（77.7%）より2.2ポイント減少している。

男女別にみると、「主に妻が行っている（夫が一部負担含む）」と回答した男性（70.2%）は前回調査（69.5%）より0.7ポイント微増とし、女性（81.5%）は前回調査（84.8%）より3.3ポイント減少している。「主に妻が行っている（夫が一部負担含む）」と回答した男性（70.2%）と女性（81.5%）では、女性の方が11.3ポイント高い。

①今回調査 性別構成(合計=535 男性=275 女性=260)



②前回調査 性別構成(合計=434 男性=197 女性=237)

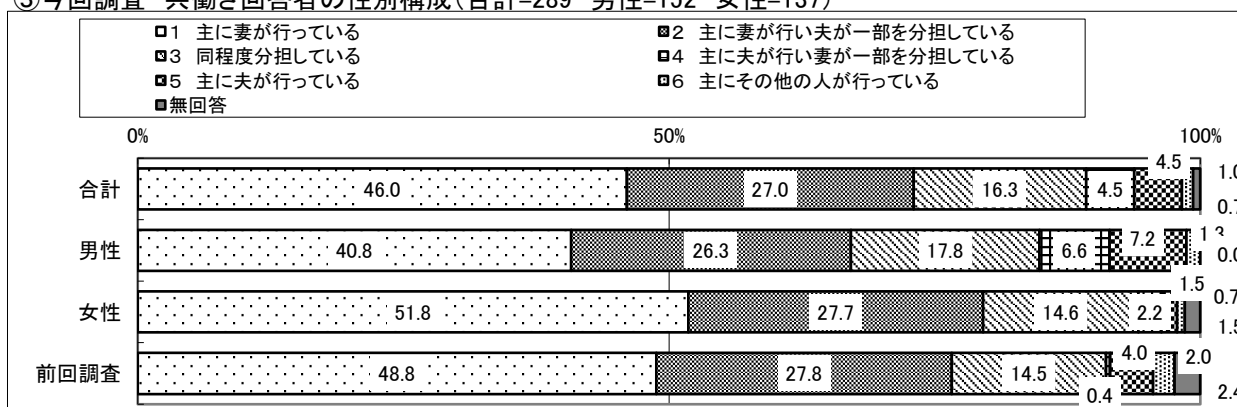


共働きの回答者に着目すると、食事の後片付けを主に誰が分担しているかは「主に妻が行っている（夫が一部負担含む）」と回答したものは73.0%であり、既婚回答者全体（75.5%）より2.5ポイント低い。

前回調査（76.6%）と比較すると3.6ポイント減少している。

男女別にみると、男性（67.1%）は前回調査（67.3%）より0.2ポイント微減とし、女性（79.5%）は前回調査（83.7%）より4.2ポイント減少している。

③今回調査 共働き回答者の性別構成(合計=289 男性=152 女性=137)



※「共働き」とは、「Ⅲ 回答者の基本属性」において、①既婚であり、②回答者自身の職業が「無職（職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答）」以外、③配偶者の職業が「無職（職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答）」以外、④性別・年代の記載がある、以上すべての条件を満たすもの

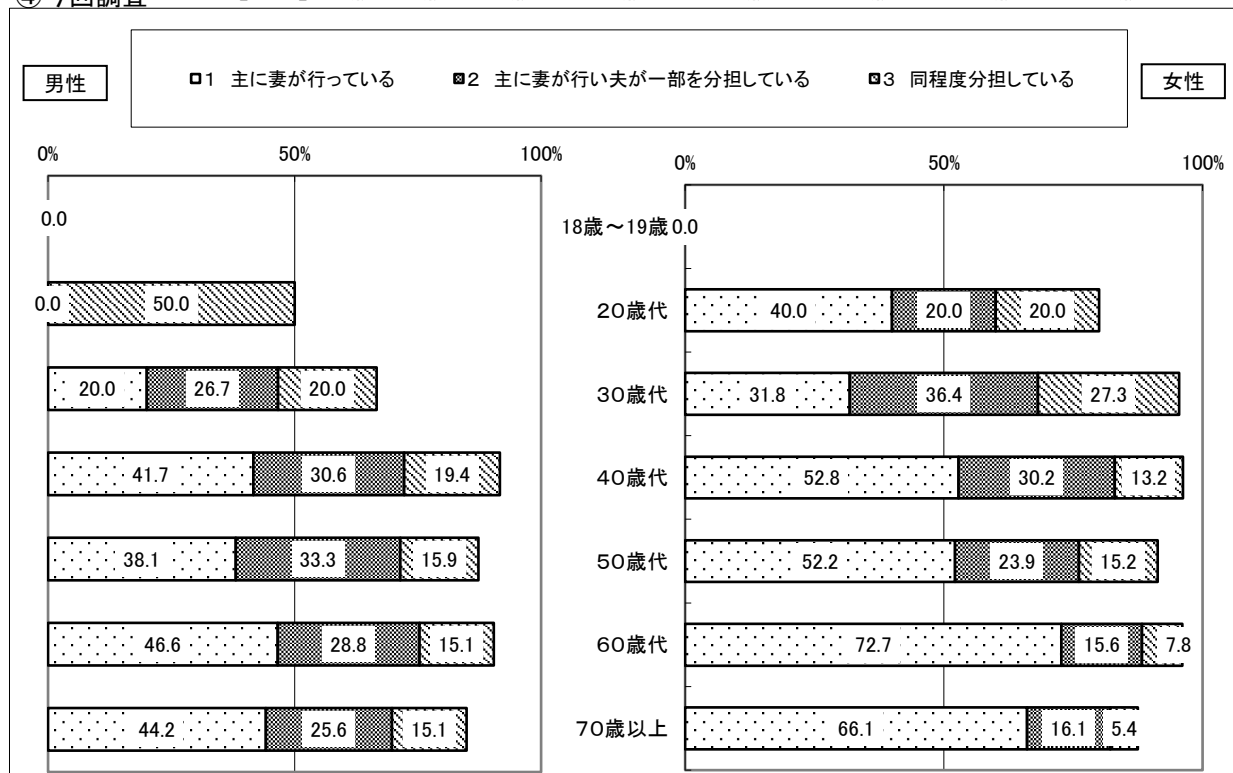
既婚者全体を年代別・男女別にみると「主に妻が行っている（夫が一部負担含む）」と回答したものの割合が最も高い年代は、男女ともに「60歳代」で男性（75.4%）、女性（88.3%）である。「主に妻が行っている（夫が一部負担含む）」と回答したもので、男女差が最も大きい年代は「20歳代」であり、男性（0.0%）と女性（60.0%）では60.0ポイント女性が大きく、次いで「30歳代」で男性（46.7%）と女性（68.2%）では21.5ポイント女性が大きい。

N=535

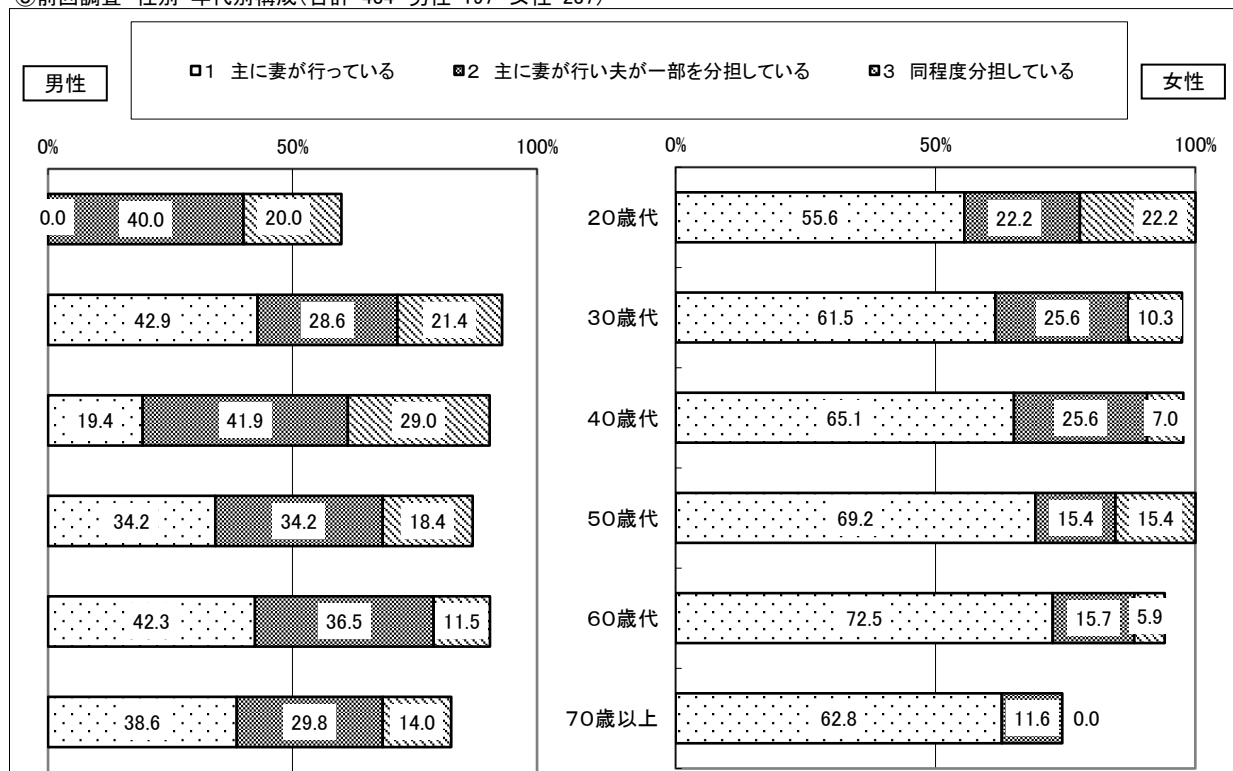
【男性】 18歳～19歳=0 20歳代=2 30歳代=15 40歳代=36 50歳代=63 60歳代=73 70歳以上=86

【女性】 18歳～19歳=0 20歳代=5 30歳代=22 40歳代=53 50歳代=46 60歳代=77 70歳以上=56

④今回調査



⑤前回調査 性別・年代別構成(合計=434 男性=197 女性=237)

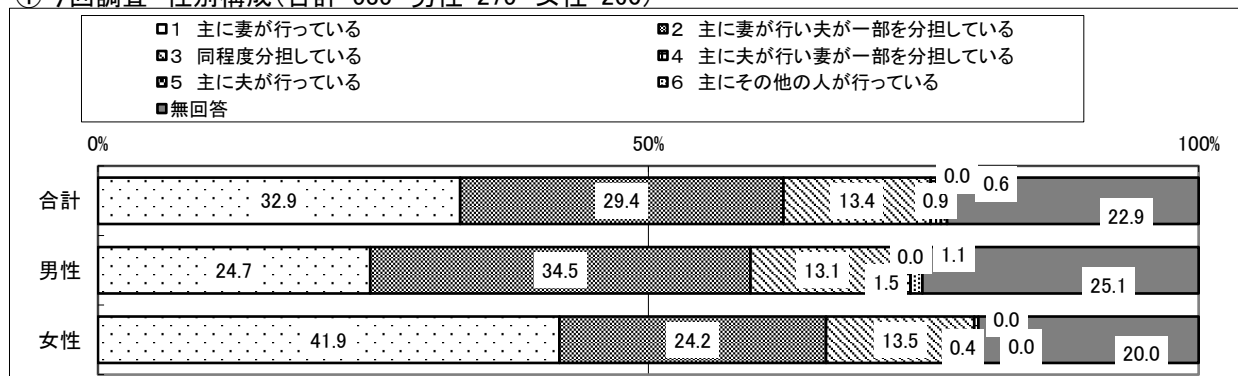


問7(6)育児

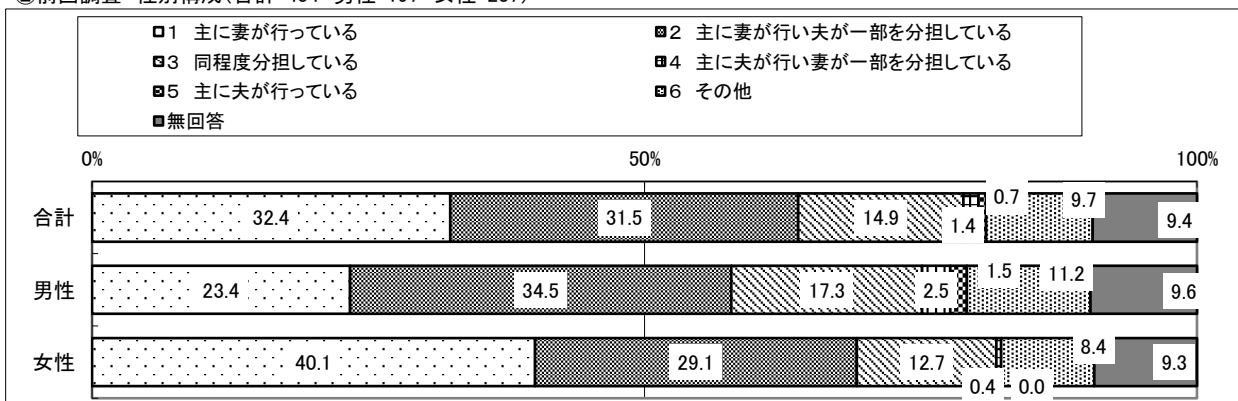
育児を主に誰が分担しているかは、「主に妻が行っている（夫が一部負担含む）」と回答したものは62.3%であり、前回調査（63.9%）より1.6ポイント減少している。

男女別にみると、「主に妻が行っている（夫が一部負担含む）」と回答した男性（59.2%）は、前回調査（57.9%）より1.3ポイント増加し、女性（66.1%）は前回調査（69.2%）より3.1ポイント減少している。「主に妻が行っている（夫が一部負担含む）」と回答した男性（59.2%）と女性（66.1%）では、女性の方が6.9ポイント高い。

①今回調査 性別構成(合計=535 男性=275 女性=260)



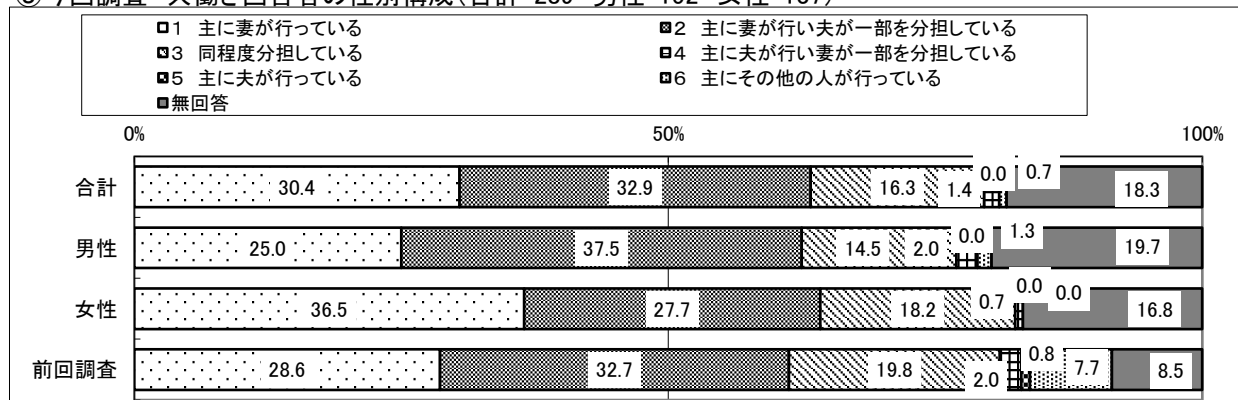
②前回調査 性別構成(合計=434 男性=197 女性=237)



共働きの回答者に着目すると、育児を主に誰が分担しているかは「主に妻が行っている（夫が一部負担含む）」と回答したものは63.3%であり、既婚回答者全体（62.3%）より1.0ポイント高い。前回調査（61.3%）と比較すると2.0ポイント増加している。

男女別にみると、男性（62.5%）は前回調査（51.4%）より11.1ポイントと大幅に増加し、女性（64.2%）は前回調査（68.5%）より4.6ポイント減少している。

③今回調査 共働き回答者の性別構成(合計=289 男性=152 女性=137)



※「共働き」とは、「Ⅲ 回答者の基本属性」において、①既婚であり、②回答者自身の職業が「無職（職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答）」以外、③配偶者の職業が「無職（職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答）」以外、④性別・年代の記載がある、以上すべての条件を満たすもの

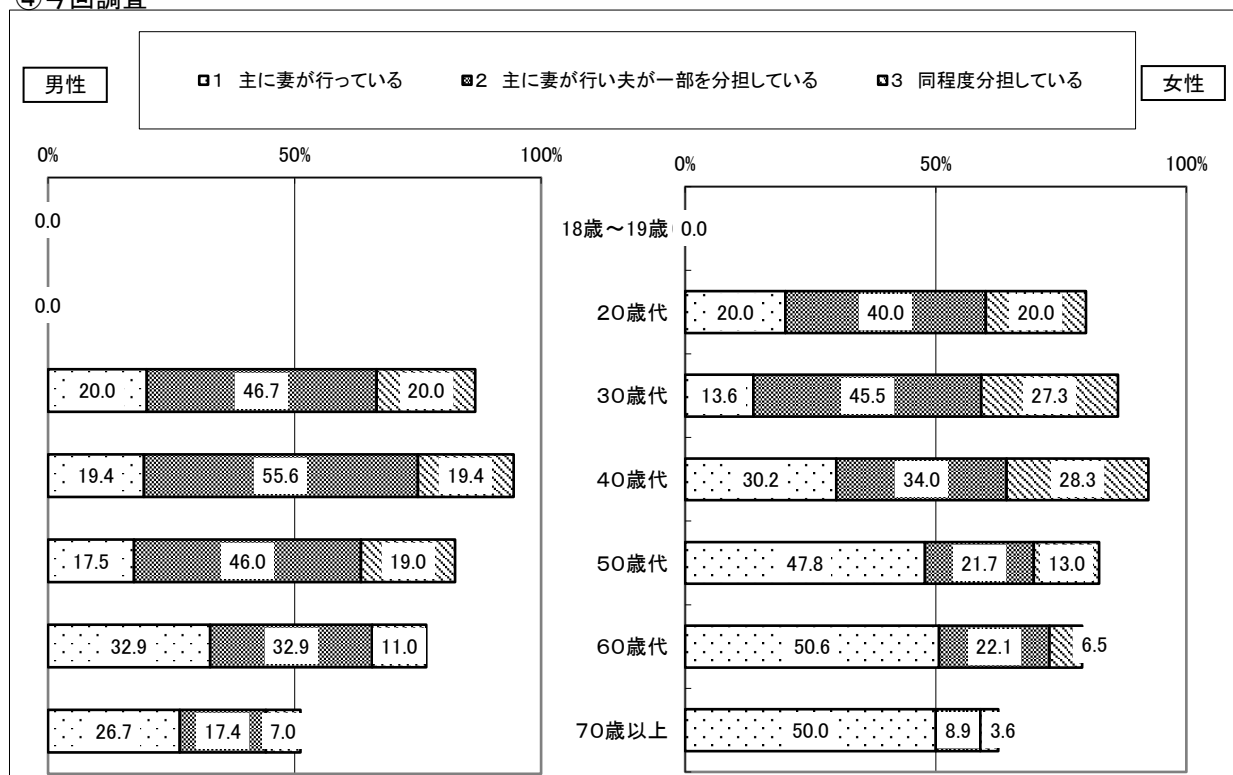
既婚者全体を年代別・男女別にみると「主に妻が行っている（夫が一部負担含む）」と回答したものの割合が最も高い年代は、男性では「40歳代」（75.0%）、女性では「60歳代」（72.7%）である。

「主に妻が行っている（夫が一部負担含む）」と回答したもので、男女差が最も大きい年代は「20歳代」であり、男性（0.0%）と女性（60.0%）では女性の方が60.0ポイント高く、次いで「70歳以上」では男性（44.1%）と女性（58.9%）では女性の方が14.8ポイント高い。

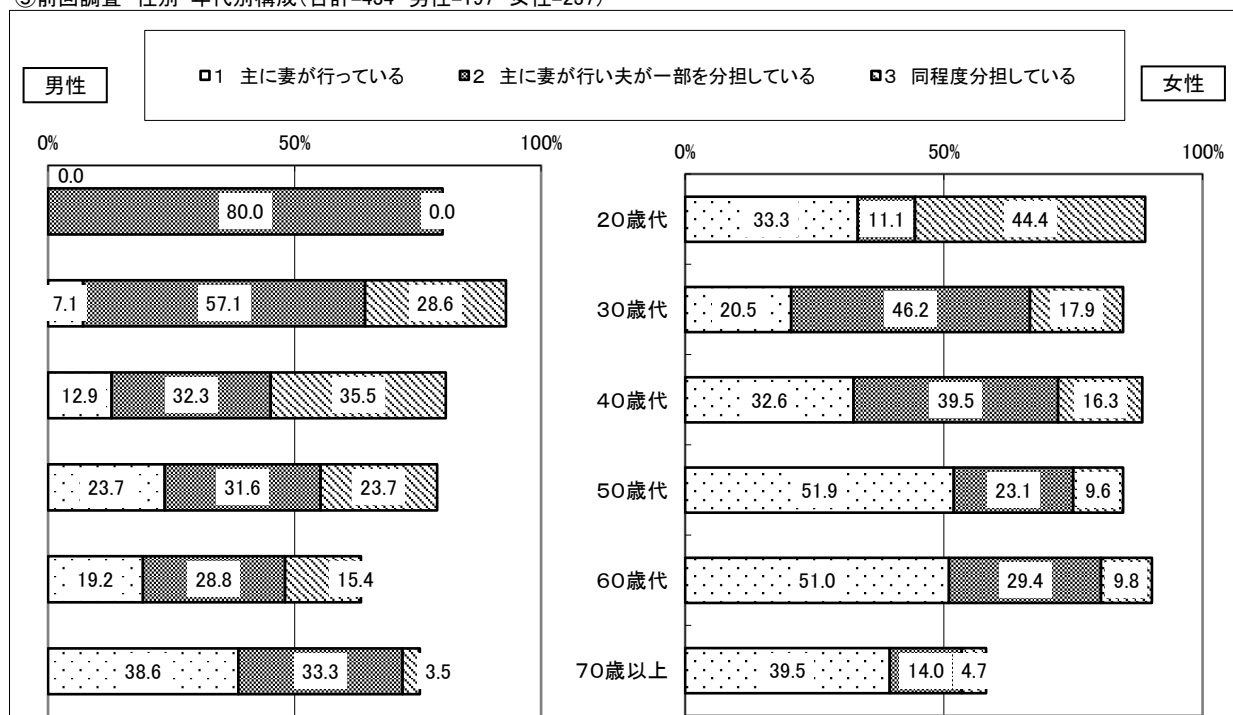
N=535

【男性】 18歳～19歳=0 20歳代=2 30歳代=15 40歳代=36 50歳代=63 60歳代=73 70歳以上=86

④今回調査



⑤前回調査 性別・年代別構成(合計=434 男性=197 女性=237)



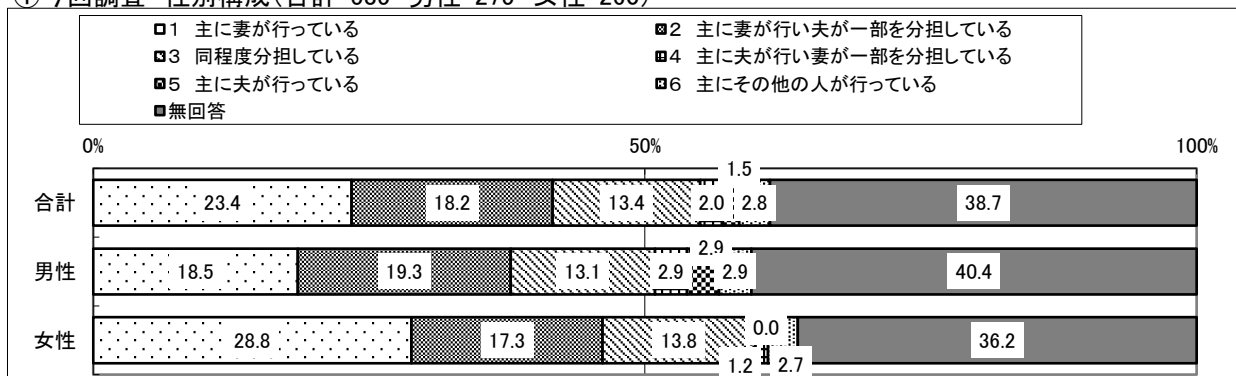
問7(7)介護・看護

介護・看護を主に誰が分担しているかは、「主に妻が行っている（夫が一部負担含む）」と回答したものは41.6%であり、前回調査（48.9%）より7.3ポイント減少している。

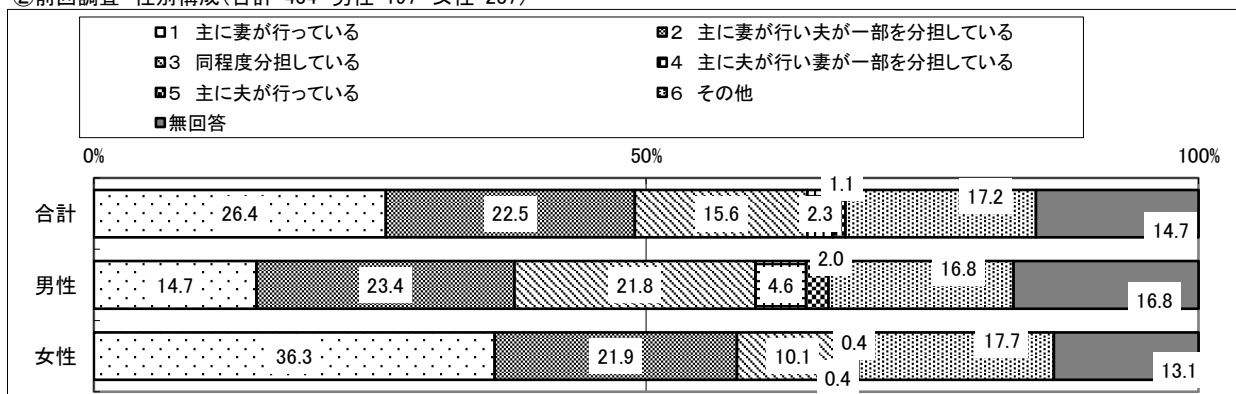
男女別にみると、「主に妻が行っている（夫が一部負担含む）」と回答した男性（37.8%）は前回調査（38.1%）より0.3ポイント微減とし、女性（46.1%）は前回調査（58.2%）より12.1ポイント減少している。

「主に妻が行っている（夫が一部負担含む）」と回答した男性（37.8%）と女性（46.1%）では、女性の方が8.3ポイント高い。

①今回調査 性別構成(合計=535 男性=275 女性=260)



②前回調査 性別構成(合計=434 男性=197 女性=237)

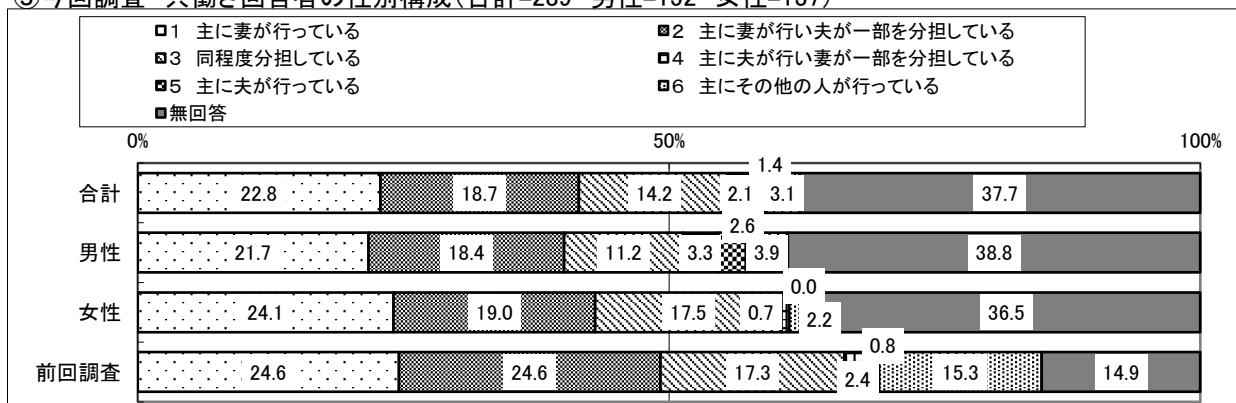


共働きの回答者に着目すると、介護・看護を主に誰が分担しているかは「主に妻が行っている（夫が一部負担含む）」と回答したものは41.5%であり、既婚回答者全体（41.6%）より0.1ポイント低い。

前回調査（49.2%）と比較すると7.7ポイント減少している。

男女別にみると、男性（40.1%）は前回調査（32.7%）より7.4ポイント増加し、女性（43.1%）は前回調査（61.7%）より18.6ポイント減少している。

③今回調査 共働き回答者の性別構成(合計=289 男性=152 女性=137)



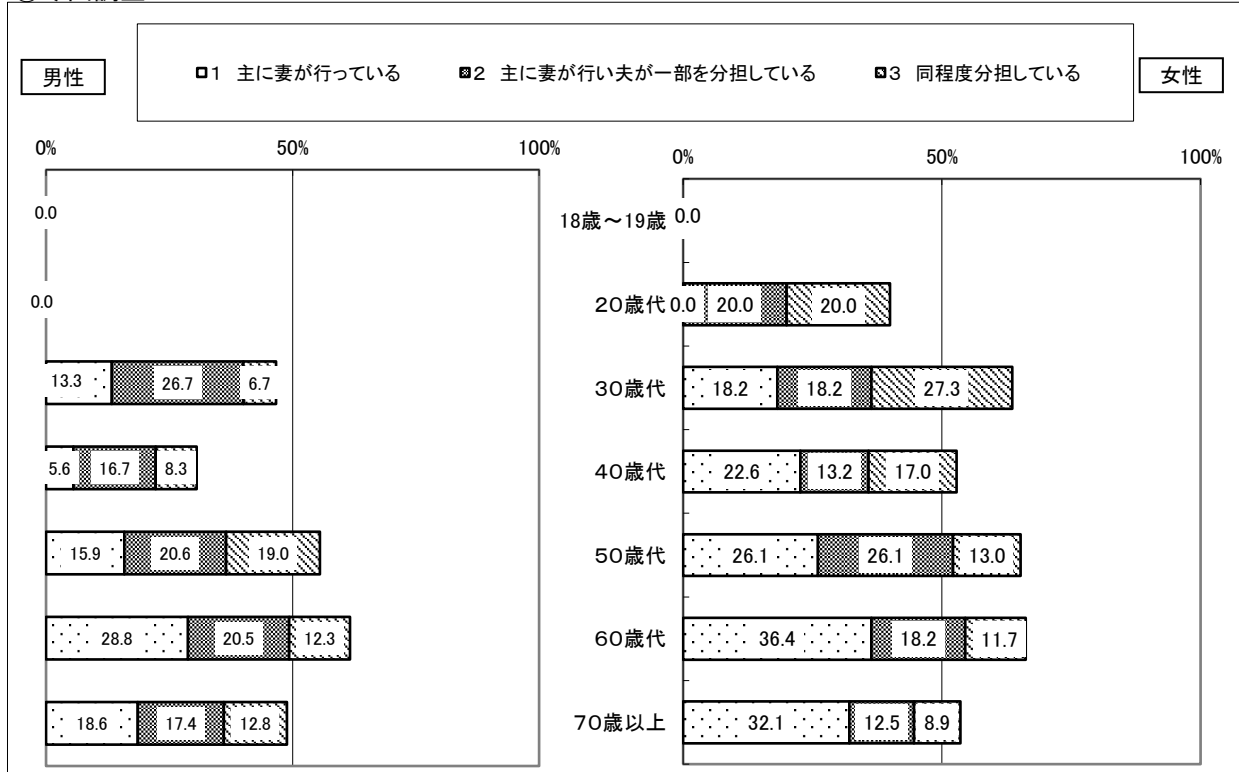
※「共働き」とは、「Ⅲ 回答者の基本属性」において、①既婚であり、②回答者自身の職業が「無職（職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答）」以外、③配偶者の職業が「無職（職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答）」以外、④性別・年代の記載がある、以上すべての条件を満たすもの

既婚者全体を年代別・男女別にみると「主に妻が行っている（夫が一部負担含む）」と回答したものの割合が最も高い年代は、男女ともに「60歳代」で男性（49.3%）、女性（54.6%）である。
 「主に妻が行っている（夫が一部負担含む）」と回答したもので、男女差が最もあった年代は「20歳代」であり、男性（0.0%）と女性（20.0%）では女性の方が20.0ポイント高く、次いで「50歳代」で男性（36.5%）と女性（52.2%）では女性の方が15.7ポイント高い。

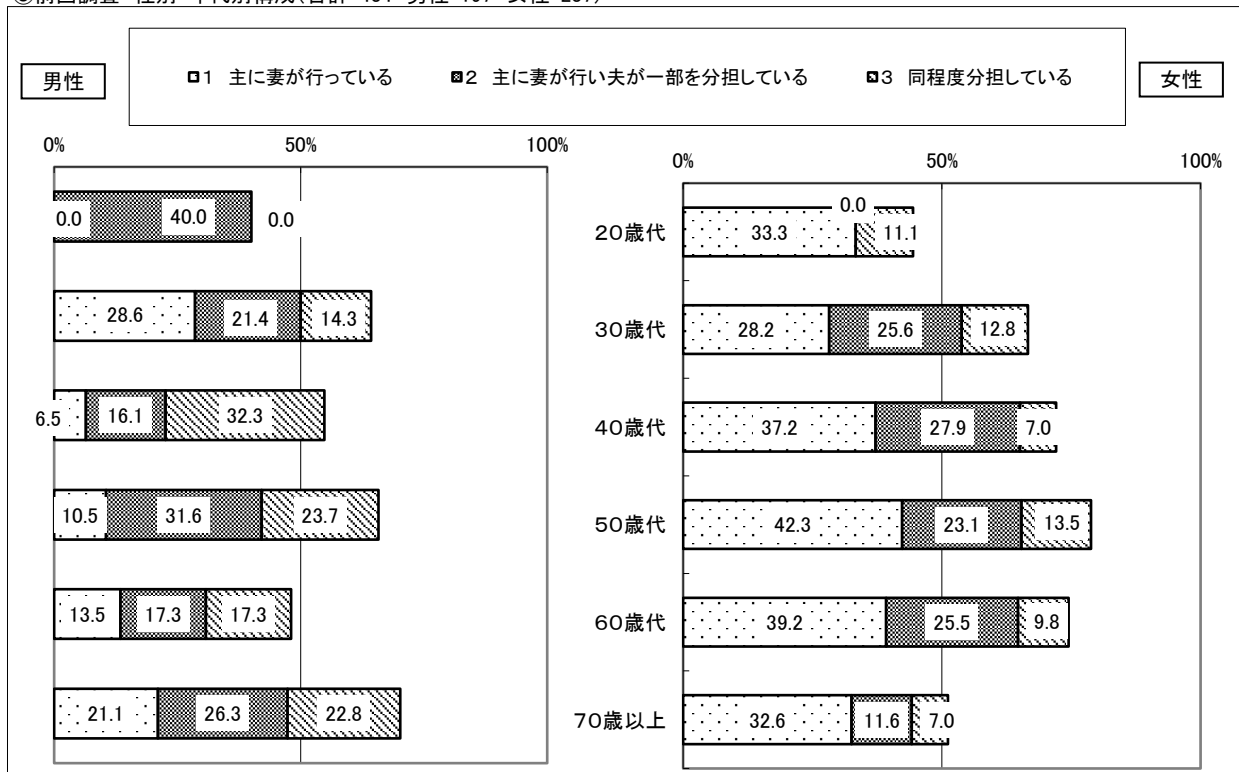
N=535

【男性】 18歳～19歳=0 20歳代=2 30歳代=15 40歳代=36 50歳代=63 60歳代=73 70歳以上=86
 【女性】 18歳～19歳=0 20歳代=5 30歳代=22 40歳代=53 50歳代=46 60歳代=77 70歳以上=56

④今回調査



⑤前回調査 性別・年代別構成(合計=434 男性=197 女性=237)



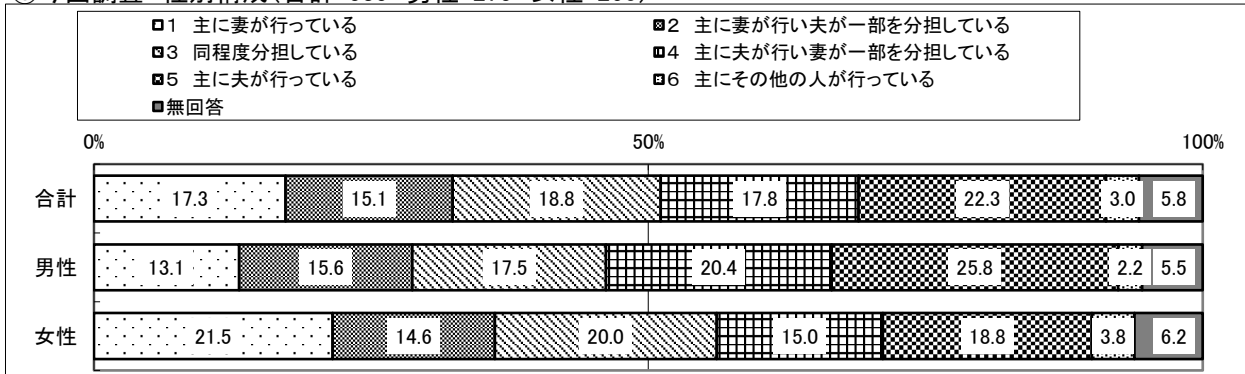
問7(8)地域の行事に参加

地域の行事に参加を主に誰が分担しているかは、「主に妻が行っている（夫が一部負担含む）」と回答したものは32.4%であり、前回調査（31.2%）より1.2ポイント増加している。

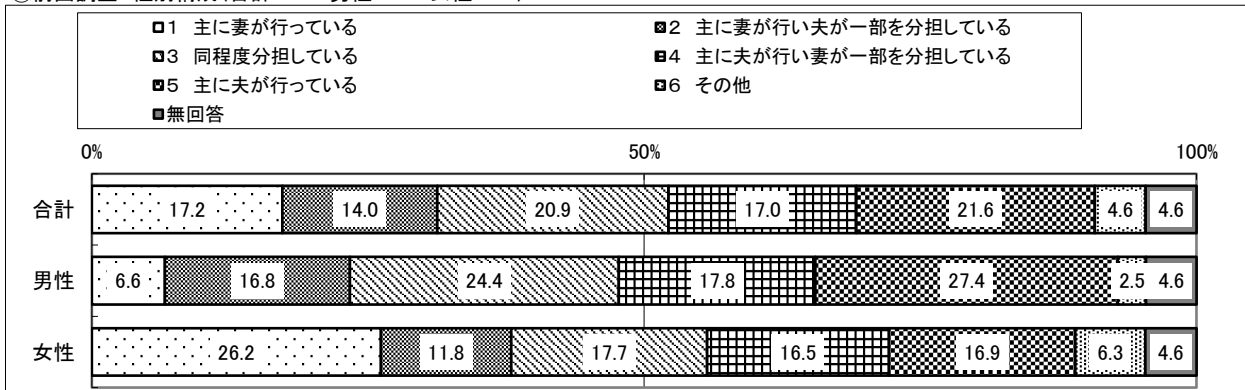
男女別にみると、「主に妻が行っている（夫が一部負担含む）」と回答した男性（28.7%）は前回調査（23.4%）より5.3ポイント増加し、女性（36.1%）は前回調査（38.0%）より1.9ポイント減少している。

「主に妻が行っている（夫が一部負担含む）」と回答した男性（28.7%）と女性（36.1%）では、女性の方が7.4ポイント高い。

①今回調査 性別構成(合計=535 男性=275 女性=260)



②前回調査 性別構成(合計=434 男性=197 女性=237)

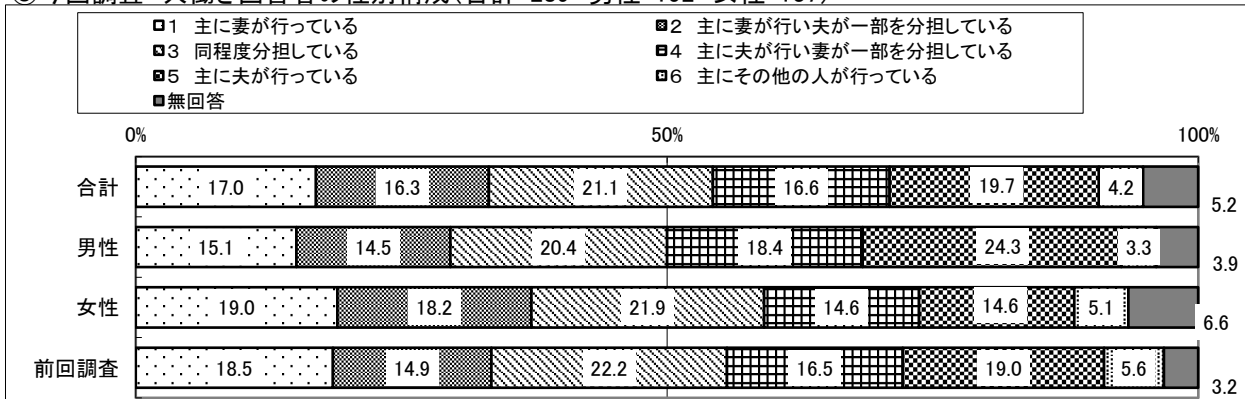


共働きの回答者に着目すると、地域の行事に参加を主に誰が分担しているかは「主に妻が行っている（夫が一部負担含む）」と回答したものは33.3%であり、既婚回答者全体（32.4%）より0.9ポイント高い。

前回調査（33.4%）と比較すると0.1ポイント微減としている。

男女別にみると、男性（29.6%）は前回調査（23.3%）より6.3ポイント増加、女性（37.2%）は前回調査（41.2%）より4.0ポイントそれぞれ減少している。

③今回調査 共働き回答者の性別構成(合計=289 男性=152 女性=137)



※「共働き」とは、「Ⅲ 回答者の基本属性」において、①既婚であり、②回答者自身の職業が「無職（職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答）」以外、③配偶者の職業が「無職（職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答）」以外、④性別・年代の記載がある、以上すべての条件を満たすもの

既婚者全体を年代別・男女別にみると「主に妻が行っている（夫が一部負担含む）」と回答したものの割合が最も高い年代は、男女共に「40歳代」で男性（41.7%）、女性（47.1%）である。

「主に妻が行っている（夫が一部負担含む）」と回答したもので、男女差が最も大きい年代は「20歳代」であり、男性（0.0%）と女性（20.0%）では女性の方が20.0ポイント高く、次いで「60歳代」であり男性（26.0%）と女性（37.7%）では女性の方が11.7ポイント高い。

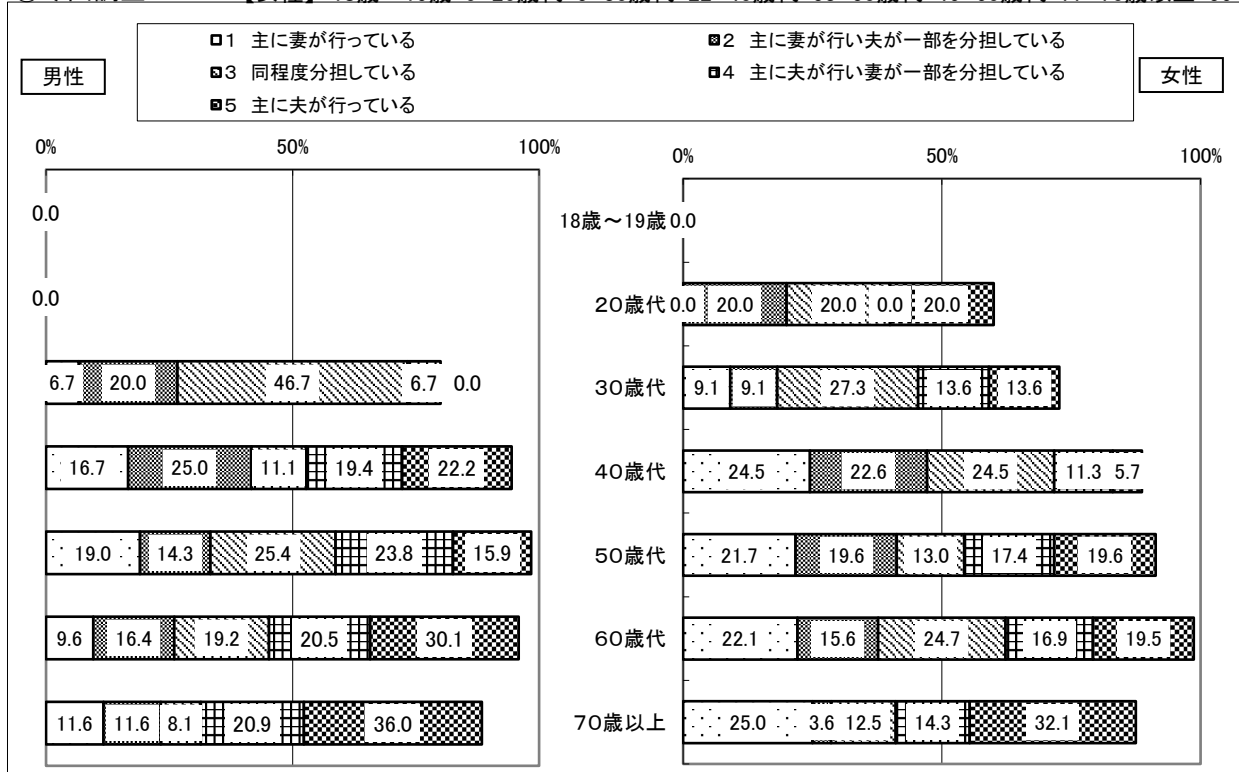
今回調査で「主に妻が行っている」と最も高い回答をしていた「40歳代男性」（41.7%）は、前回調査では19.3%増加している。

N=535

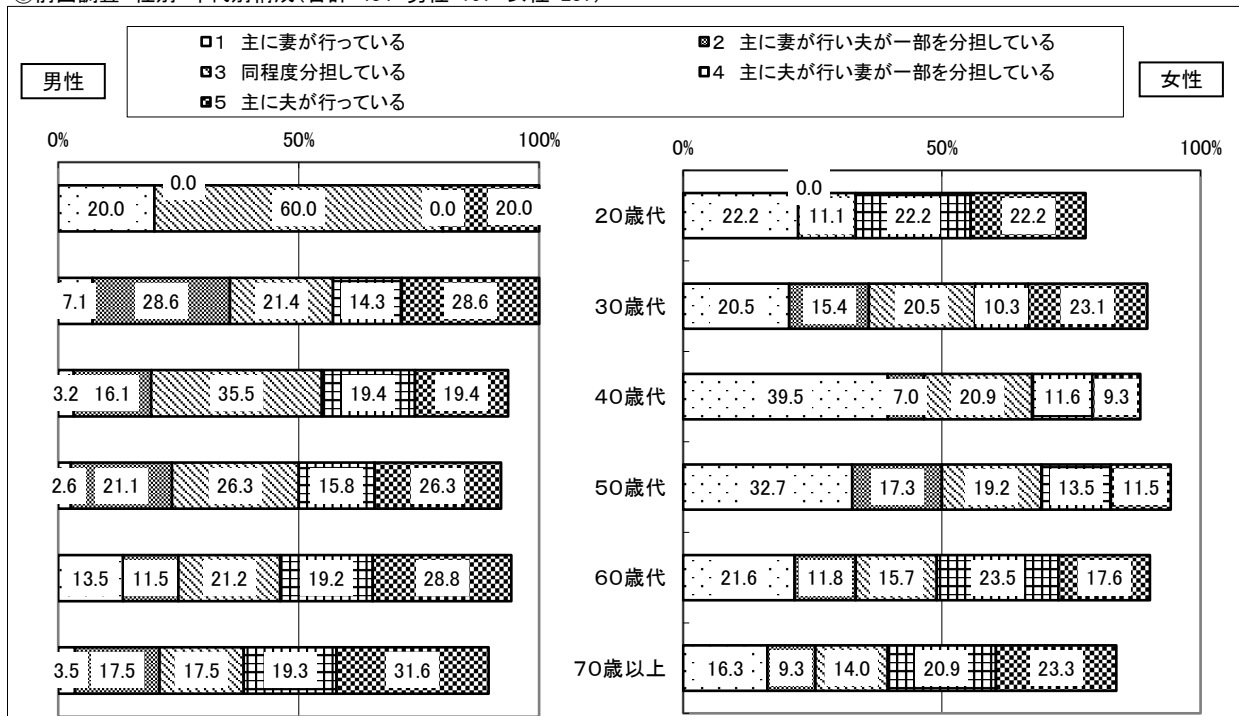
【男性】 18歳～19歳=0 20歳代=2 30歳代=15 40歳代=36 50歳代=63 60歳代=73 70歳以上=86

④今回調査

【女性】 18歳～19歳=0 20歳代=5 30歳代=22 40歳代=53 50歳代=46 60歳代=77 70歳以上=56



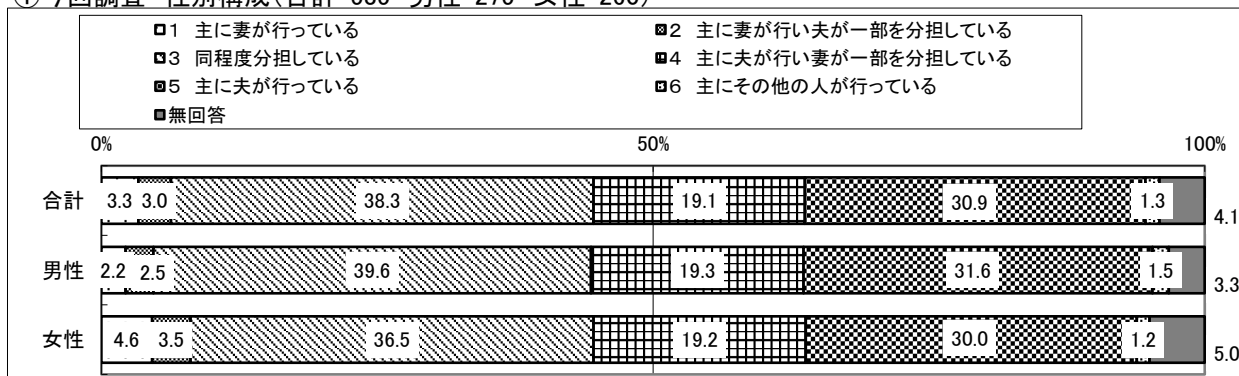
⑤前回調査 性別・年代別構成(合計=434 男性=197 女性=237)



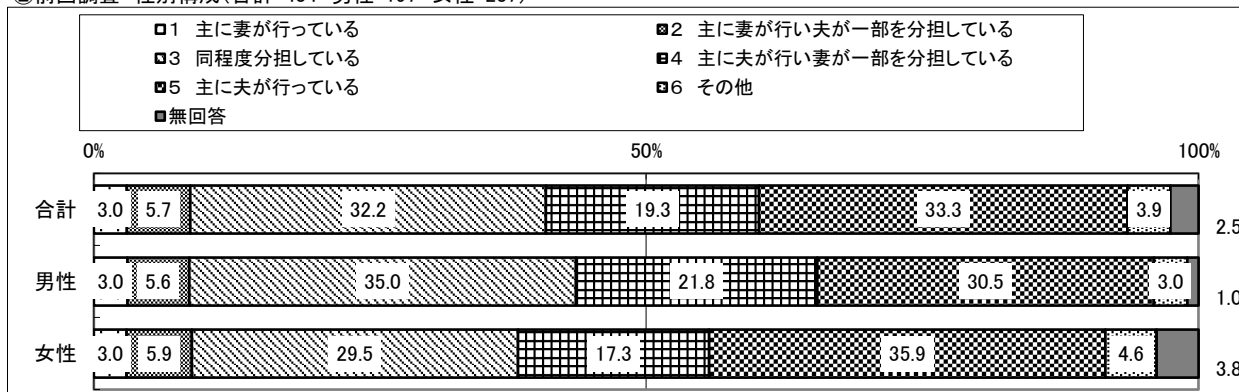
問7(9)高額商品や土地・家屋の購入の決定

高額商品や土地・家屋の購入の決定を主に誰が分担しているかは、「同程度分担している」(38.3%)と回答した割合が最も高く、次いで「主に夫が行っている」(30.9%)と続く。「主に夫が行い妻が一部を分担している」(19.1%)または「主に夫が行っている」(30.9%)と回答したものをあわせると50.0%であり、妻より夫が分担していると回答したものが多い。この傾向は前回調査と同様である。「同程度分担している」(38.3%)と回答したものは、前回調査(32.2%)より6.1ポイント増加している。

①今回調査 性別構成(合計=535 男性=275 女性=260)

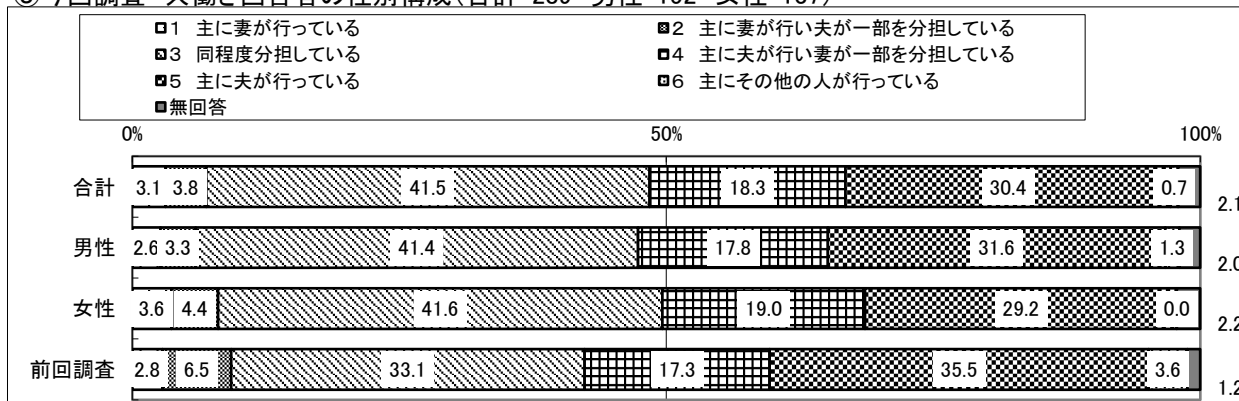


②前回調査 性別構成(合計=434 男性=197 女性=237)



共働きの回答者に着目すると、高額商品や土地・家屋の購入の決定を主に誰が分担しているかは「同程度分担している」(41.5%)の割合が最も高く、既婚回答者全体(38.3%)の回答よりも3.2ポイント高い。また、前回調査(33.1%)と比較すると8.4ポイント増加している。男女別にみると、「主に夫が行っている」と回答した男性(31.6%)は前回調査(33.6%)より2.0ポイント、女性(29.2%)は前回調査(36.9%)より7.7ポイントそれぞれ減少している。

③今回調査 共働き回答者の性別構成(合計=289 男性=152 女性=137)



※「共働き」とは、「Ⅲ 回答者の基本属性」において、①既婚であり、②回答者自身の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答)」以外、③配偶者の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答)」以外、④性別・年代の記載がある、以上すべての条件を満たすもの

既婚者全体を年代別・男女別にみると「主に夫が行っている（妻が一部負担含む）」と回答したものの割合が最も高い年代は、男性では「40歳代」（63.8%）、女性では「50歳代」（60.9%）である。

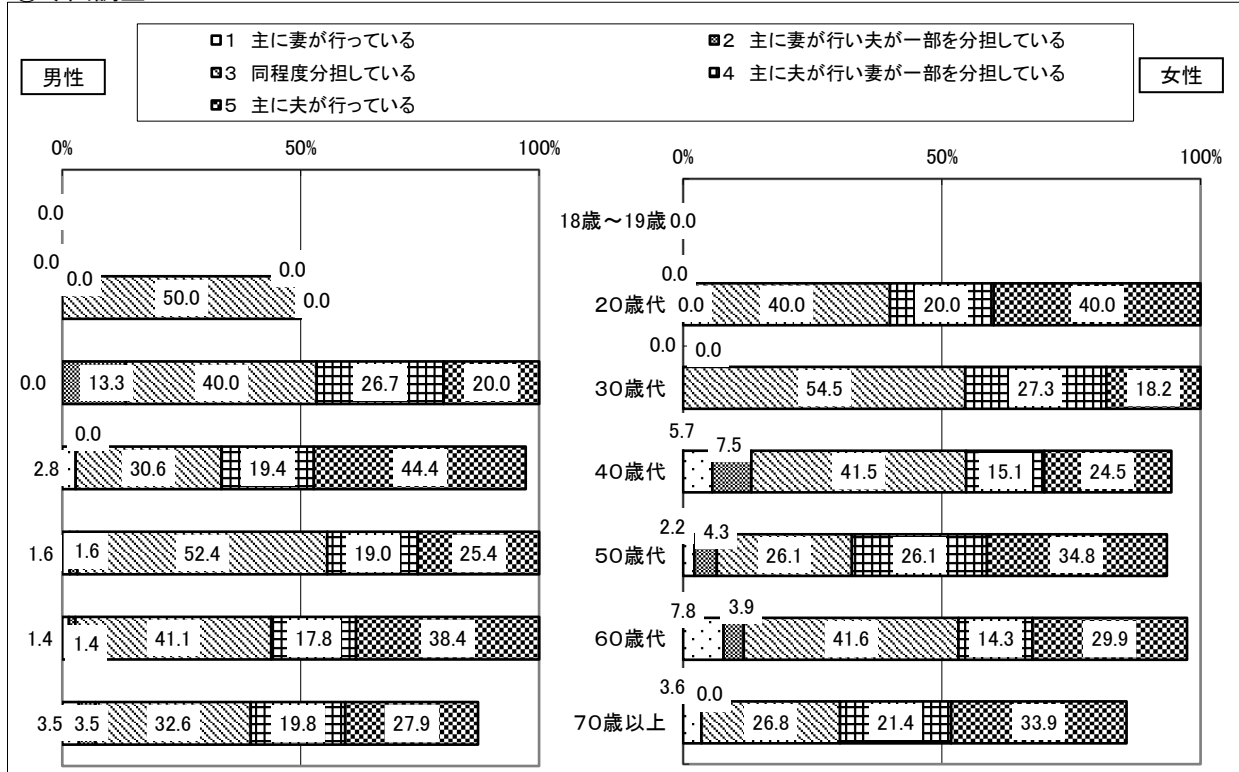
「同程度分担している」と回答したもので、男女差が最も大きい年代は「50歳代」であり、男性（52.4%）と女性（26.1%）では26.3ポイント男性が高く、次いで「30歳代」では男性（40.0%）と女性（54.5%）では14.5ポイント女性が高い。

N=535

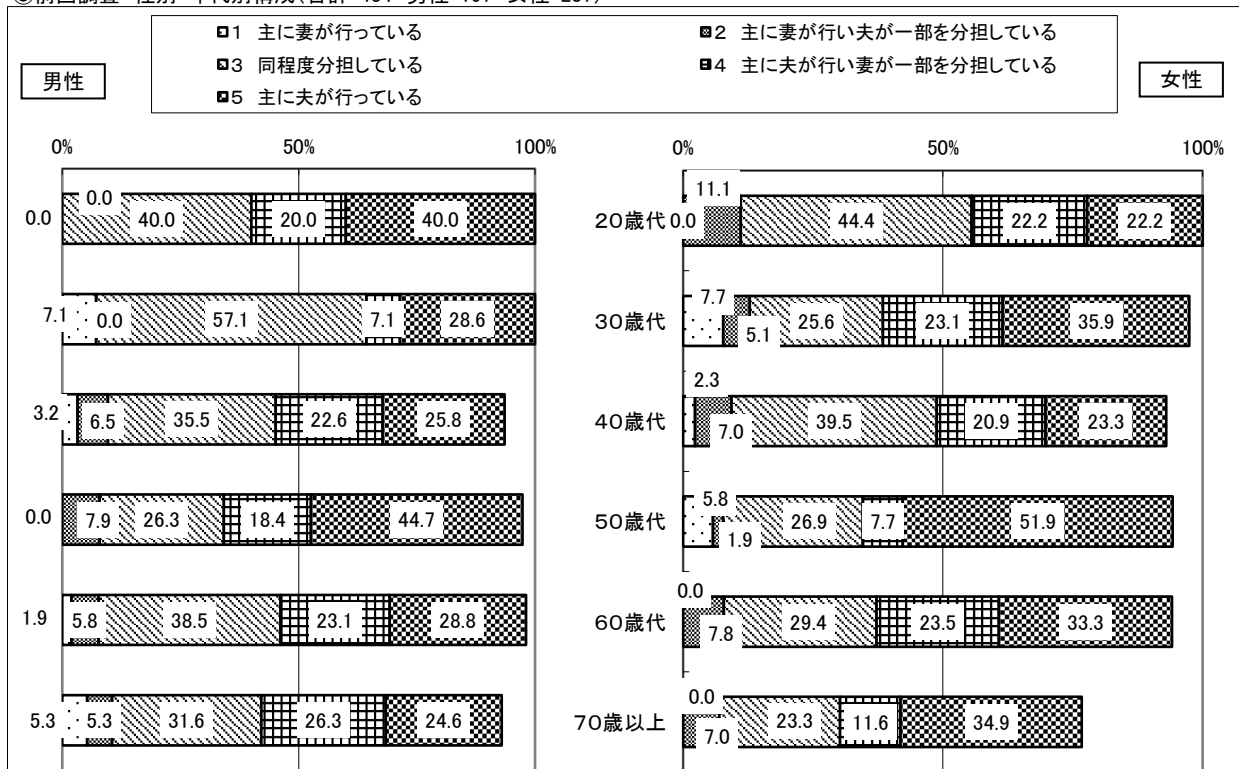
【男性】 18歳～19歳=0 20歳代=2 30歳代=15 40歳代=36 50歳代=63 60歳代=73 70歳以上=86

【女性】 18歳～19歳=0 20歳代=5 30歳代=22 40歳代=53 50歳代=46 60歳代=77 70歳以上=56

④今回調査



⑤前回調査 性別・年代別構成(合計=434 男性=197 女性=237)



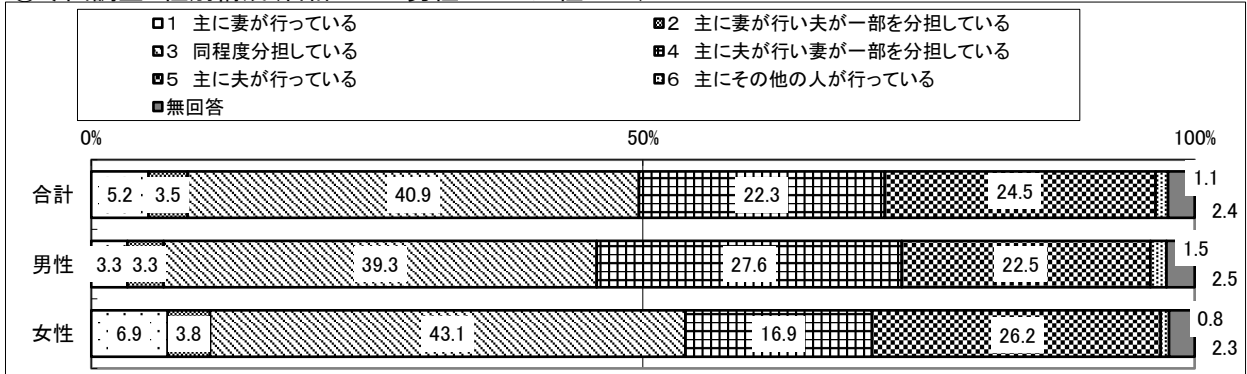
問7(10)家庭問題の最終決定

家庭問題の最終決定を主に誰が分担しているかは、「同程度分担している」と回答したものの割合が高く、40.9%である。

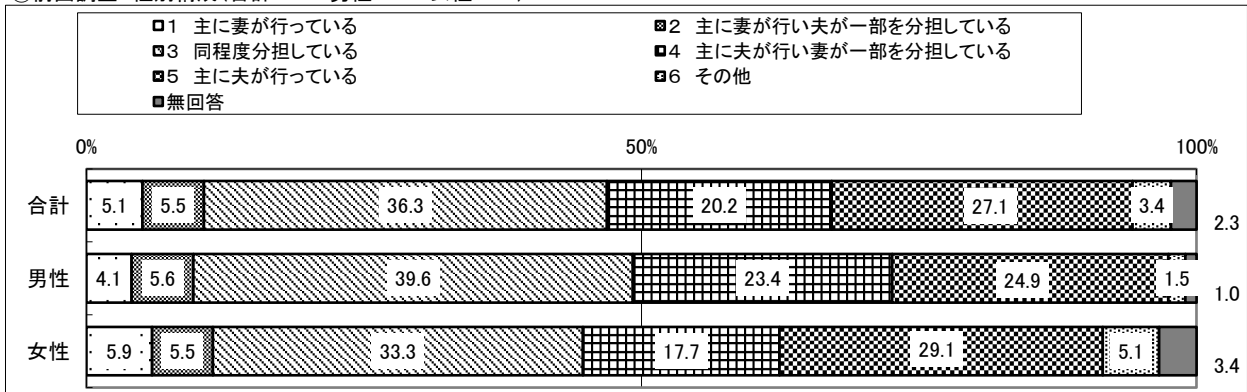
「主に妻が行っている（夫が一部負担含む）」と回答したものは8.7%であり、「主に夫が行っている（妻が一部負担含む）」と回答したものは46.8%である。

「同程度分担している」（40.9%）は前回調査（36.3%）より4.6ポイント増加し、「主に夫が行っている（妻が一部負担含む）」（46.8%）は前回調査（47.3%）より0.5ポイント微減している。

①今回調査 性別構成(合計=535 男性=275 女性=260)



②前回調査 性別構成(合計=434 男性=197 女性=237)

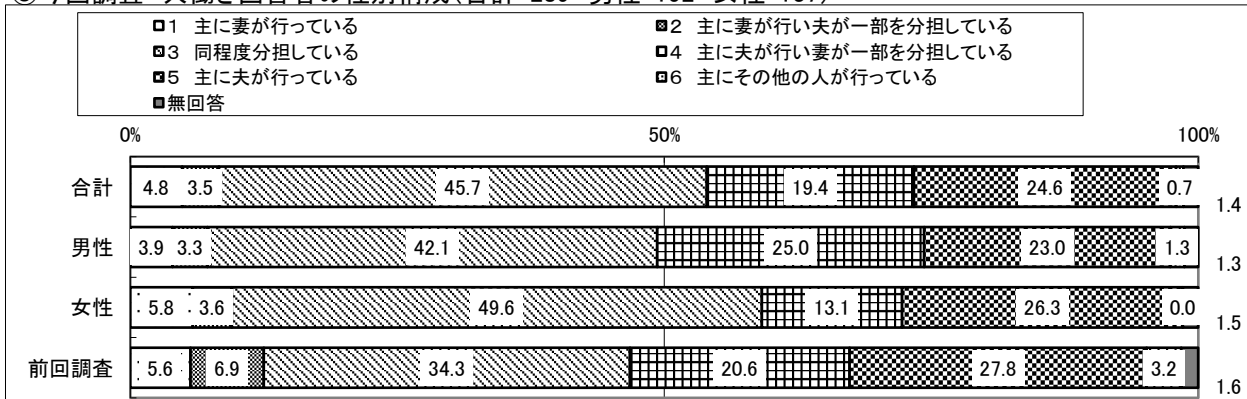


共働きの回答者に着目すると、家庭問題の最終決定を主に誰が分担しているかは「同程度分担している」と回答したものが45.7%であり、既婚回答者全体（40.9%）より4.8ポイント高い。

前回調査（34.3%）と比較すると11.4ポイント増加している。

「同程度分担している」と回答した男性（42.1%）と女性（49.6%）では、男性の方が7.5ポイント高い。

③今回調査 共働き回答者の性別構成(合計=289 男性=152 女性=137)



※「共働き」とは、「Ⅲ 回答者の基本属性」において、①既婚であり、②回答者自身の職業が「無職（職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答）」以外、③配偶者の職業が「無職（職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答）」以外、④性別・年代の記載がある、以上すべての条件を満たすもの

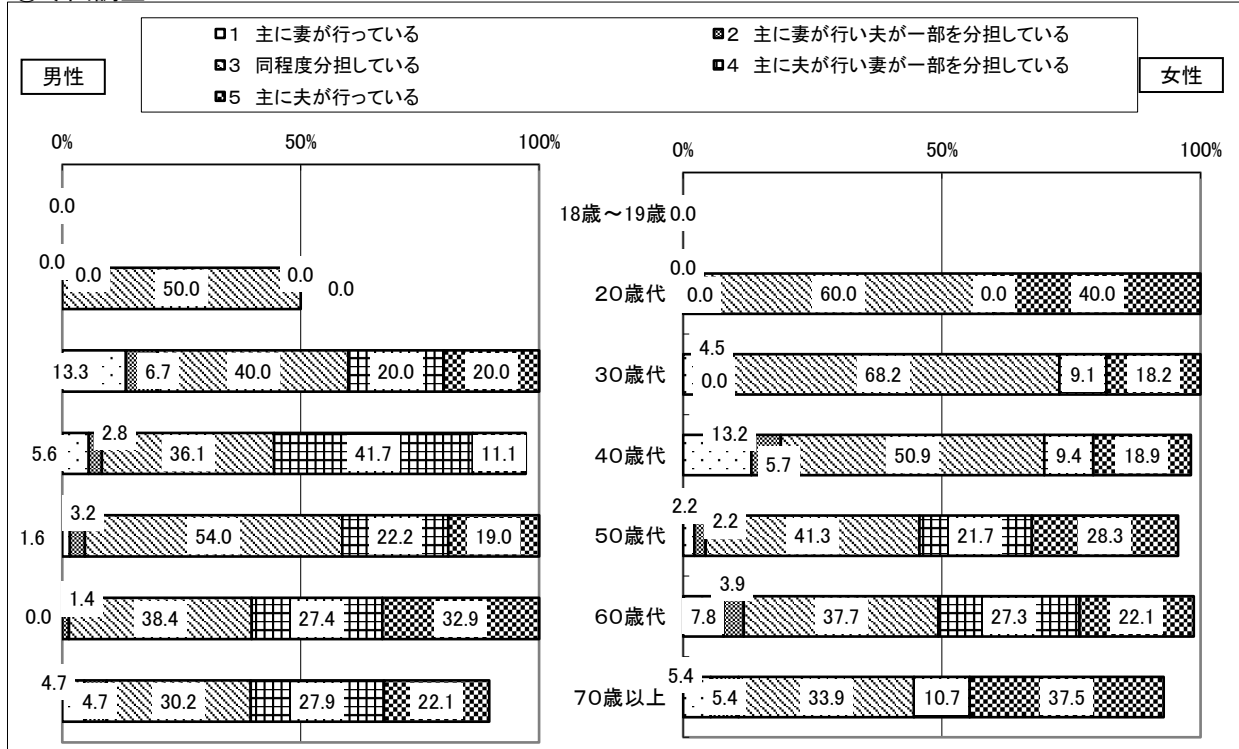
既婚者全体を年代別・男女別にみると、「同程度分担している」と回答したものの割合が最も高いのは男性では「50歳代」（54.0%）であり、女性では「30歳代」（68.2%）である。今回調査で、女性の一番高かった「30歳代」（68.2%）が前回調査では41.0%であり、27.2ポイントと大幅に増加している。尚、「主に妻が行っている」もしくは「主に妻が行っている（夫が一部負担含む）」と回答したものの割合が最も高いのは、男性では「30歳代」（20.0%）、女性では「40歳代」（18.9%）である。

N=535

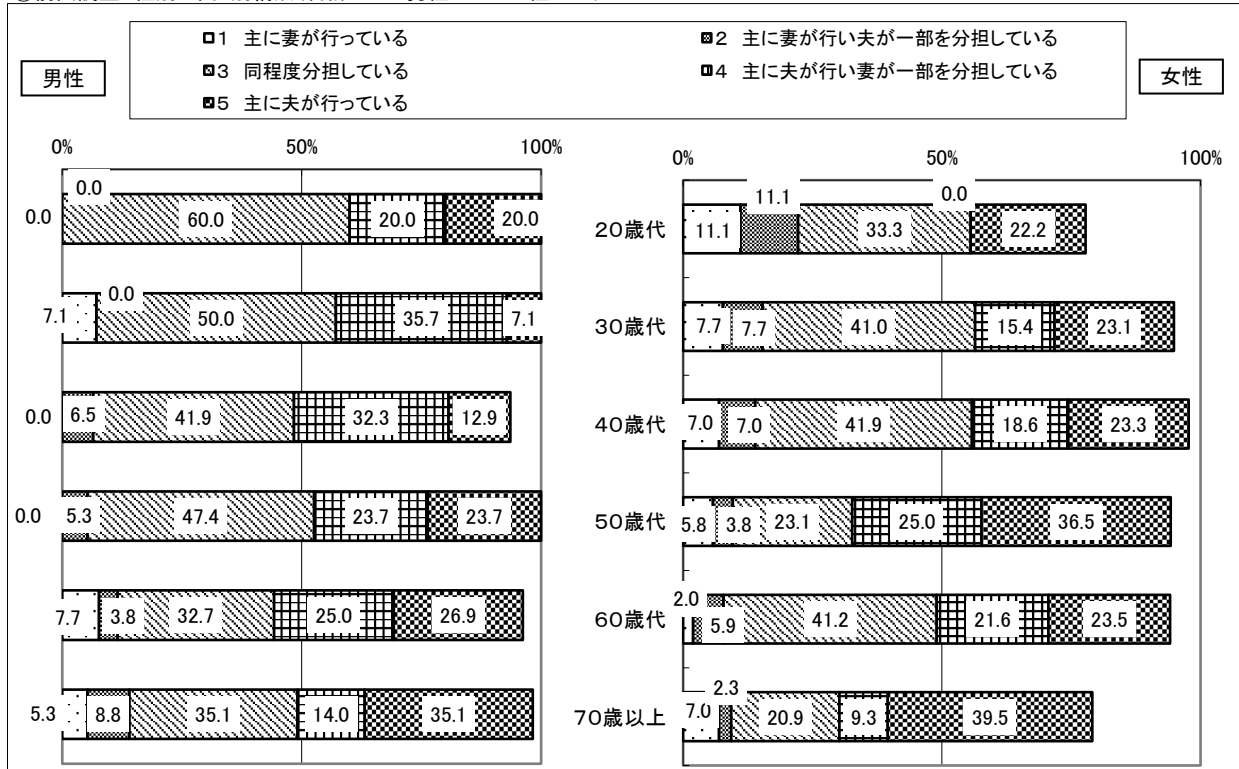
【男性】 18歳～19歳=0 20歳代=2 30歳代=15 40歳代=36 50歳代=63 60歳代=73 70歳以上=86

【女性】 18歳～19歳=0 20歳代=5 30歳代=22 40歳代=53 50歳代=46 60歳代=77 70歳以上=56

④今回調査



⑤前回調査 性別・年代別構成(合計=434 男性=197 女性=237)

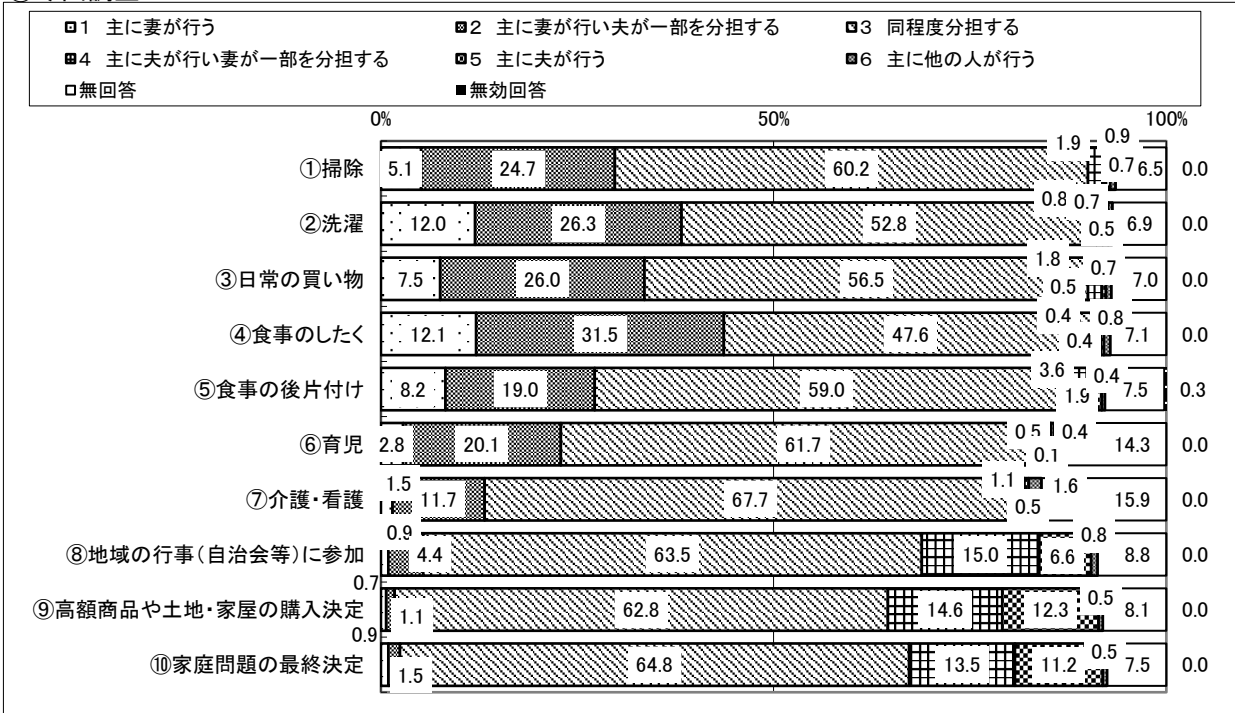


問8 理想としては、どのように分担するのがよいとお考えですか。
 次の①～⑩の項目ごとに1～5の中から1つずつ選んで○をつけてください。
 (N=742 男性=363 女性=374 その他=0 性別無回答=5)

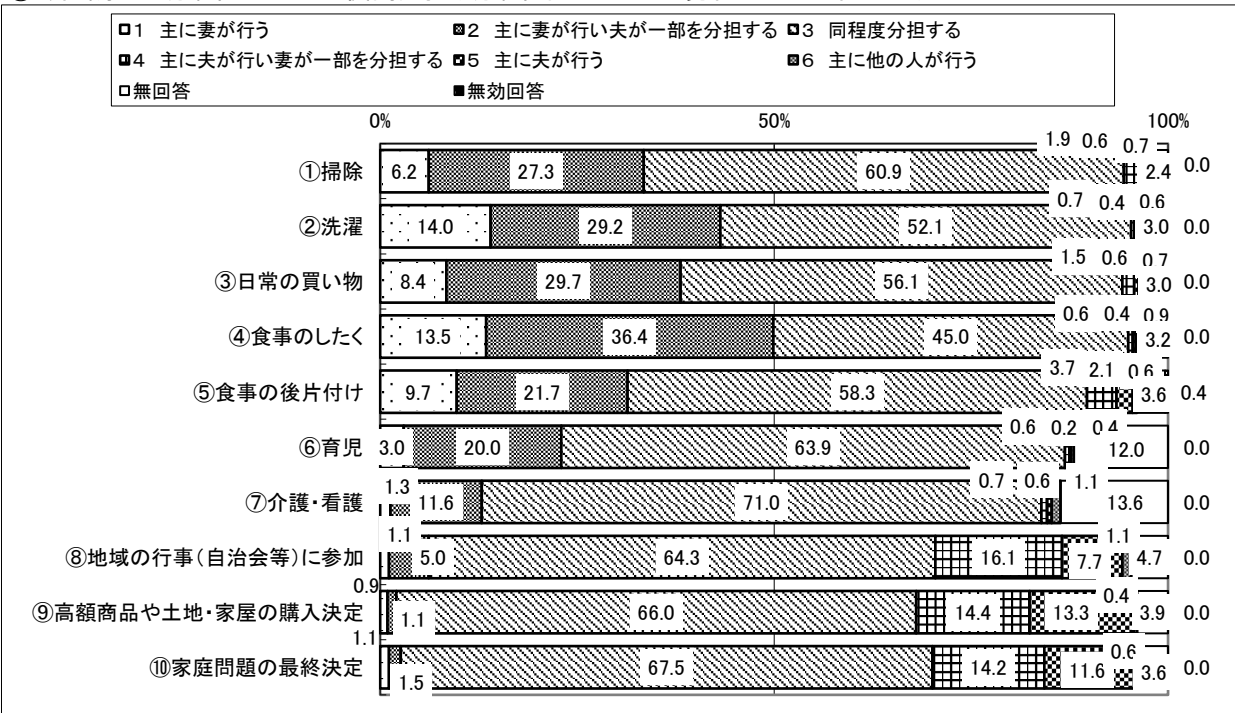
令和3年度調査より選択肢に「主に他の人が行う」が新たに追加された。

家事、家庭生活の役割分担の理想について、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答した割合が最も高いのは「食事のしたく」(43.6%)、次いで「洗濯」(38.3%)、「日常の買い物」(33.5%)であり、この傾向は前回調査と同様である。上位3つの項目以外は「同程度分担する」と回答した割合が高く、なかでも「介護・看護」については67.7%と最も高かった。
 既婚者の理想の役割分担を聞いたところ、全回答と概ね同じ傾向を示すが「介護・看護」以外では「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答した割合が高くなった。

①今回調査



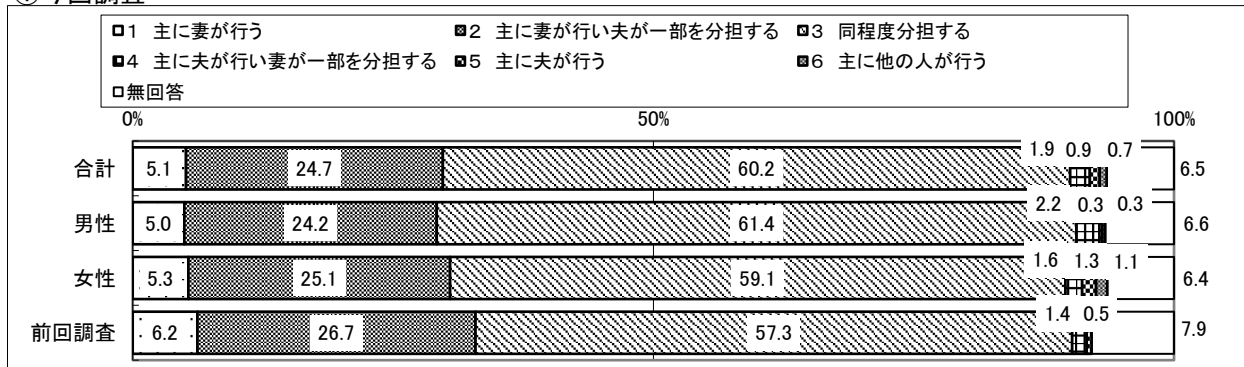
②今回調査 既婚者の理想の役割分担(既婚者合計N=535 男性=275 女性=260)



問8(1)理想の役割分担 掃除

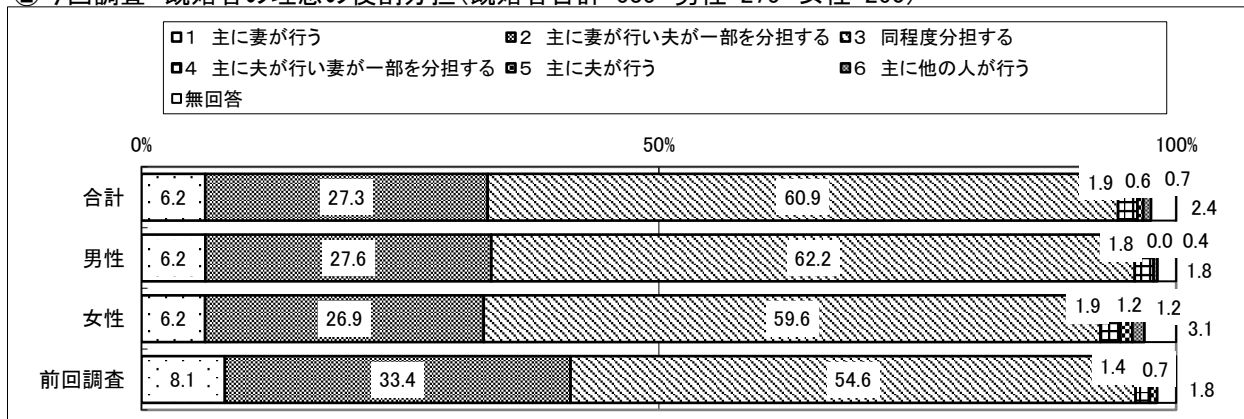
掃除の役割分担の理想については「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは29.8%であり、前回調査(32.9%)より3.1ポイント減少している。
男女別にみると、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答した男性(29.2%)は前回調査(31.8%)より2.6ポイント減少し、女性(30.4%)は前回調査(34.1%)より3.7ポイント減少している。

①今回調査



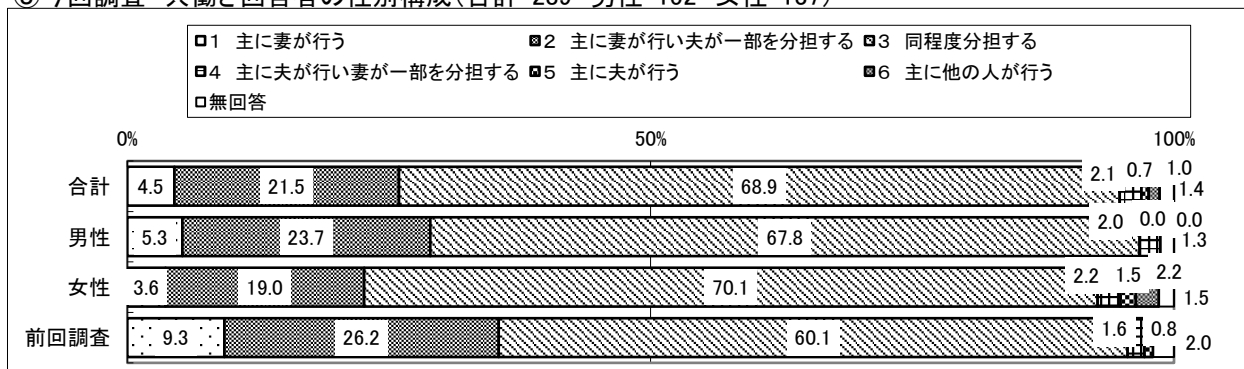
既婚者の回答に着目すると、既婚者の理想は、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは33.5%であり、回答者全体(29.8%)と比較すると、3.7ポイント高い。
「同程度分担する」は回答者全体(60.2%)、既婚者(60.9%)とともに5割を超えている。

②今回調査 既婚者の理想の役割分担(既婚者合計=535 男性=275 女性=260)



共働きの回答者に着目すると、掃除を主に誰が担当するかの理想は、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは26.0%であり、回答者全体(29.8%)より3.8ポイント低い。
前回調査(35.5%)と比較すると、9.5ポイント減少している。
男女別にみると、男性(29.0%)は前回調査(31.7%)より2.7ポイント減少、女性(22.6%)は前回調査(38.3%)より15.7ポイント減少している。

③今回調査 共働き回答者の性別構成(合計=289 男性=152 女性=137)



※「共働き」とは、「Ⅲ 回答者の基本属性」において、①既婚であり、②回答者自身の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答)」以外、③配偶者の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答)」以外、④性別・年代の記載がある、以上すべての条件を満たすもの

N=736

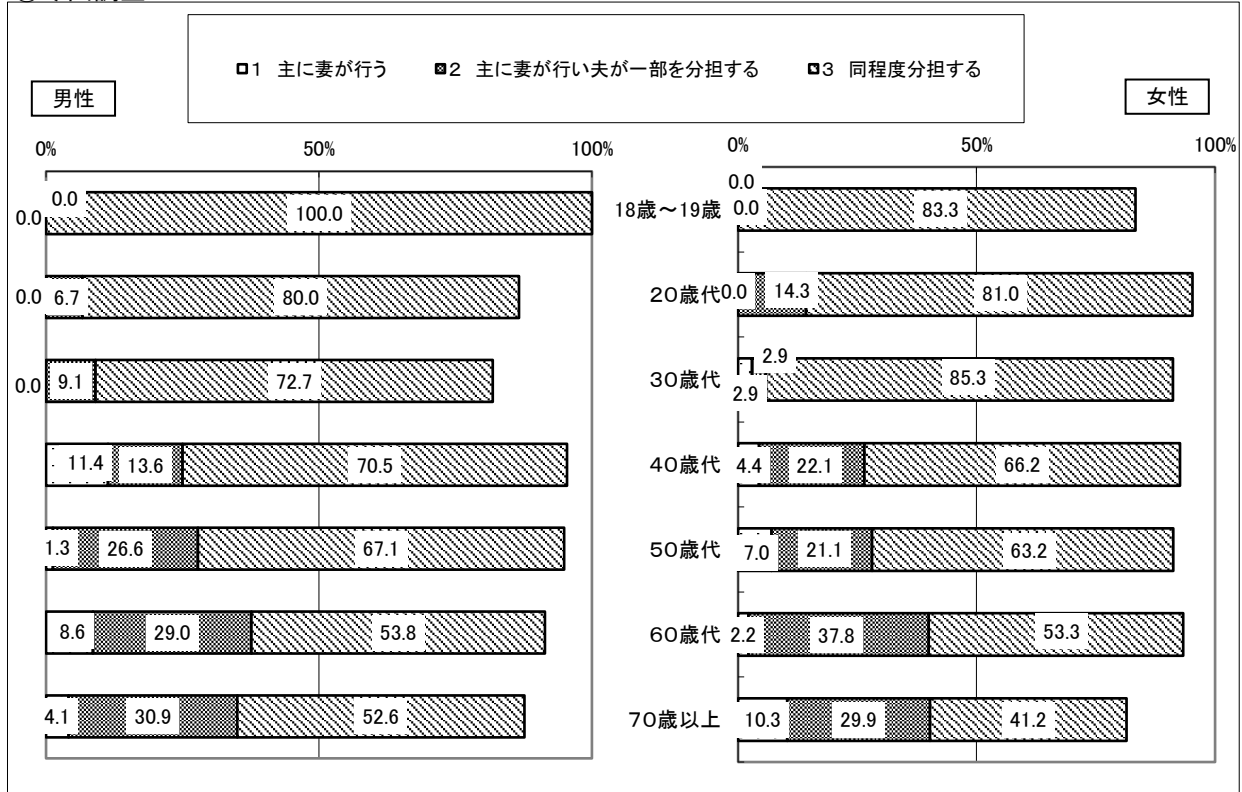
【男性】 18歳～19歳=2 20歳代=15 30歳代=33 40歳代=44 50歳代=79 60歳代=93 70歳以上=97

【女性】 18歳～19歳=6 20歳代=21 30歳代=34 40歳代=68 50歳代=57 60歳代=90 70歳以上=97

年代別・男女別にみると、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものの割合が最も高い年代は、男性は「60歳代」(37.6%)、女性は「70歳以上」(40.2%)である。

「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したもので、男女差が最も大きい年代は「20歳代」であり、男性(6.7%)と女性(14.3%)では、女性が7.6ポイント高い。

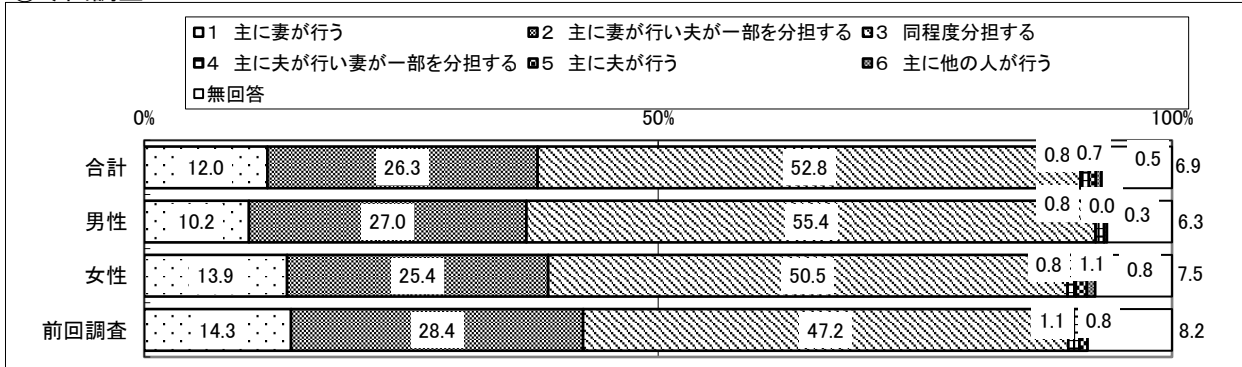
④今回調査



問8(2)理想の役割分担 洗濯

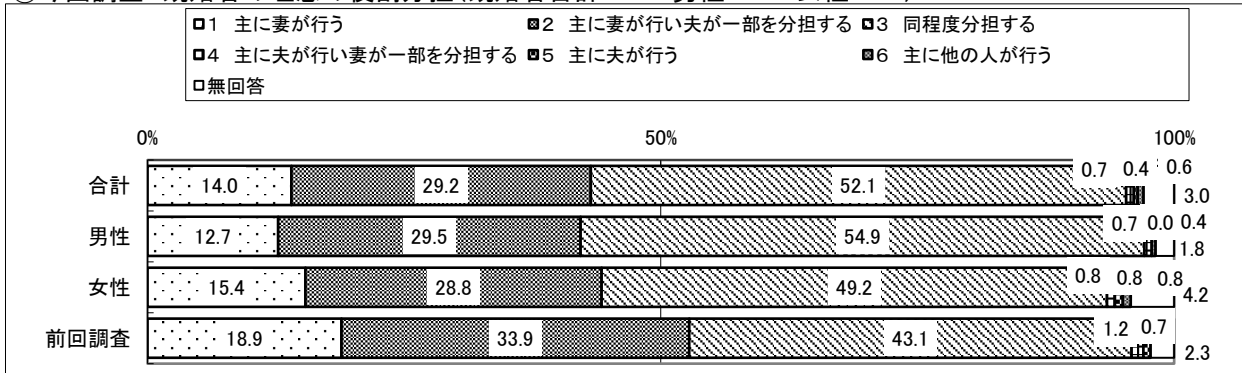
洗濯の役割分担の理想については「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは38.3%であり、前回調査(42.7%)より4.4ポイント増加している。
男女別にみると、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答した男性(37.2%)は前回調査(39.5%)より2.3ポイント減少し、女性(39.3%)は前回調査(45.3%)より6.0ポイント減少している。

①今回調査



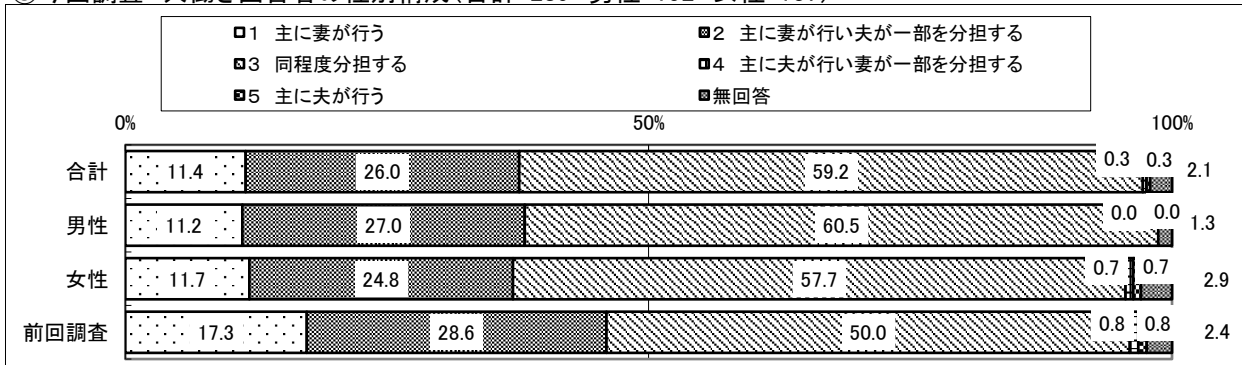
既婚者の回答に着目すると、既婚者の理想は、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは43.2%であり、回答者全体(38.3%)と比較すると4.9ポイント高い。

②今回調査 既婚者の理想の役割分担(既婚者合計=535 男性=275 女性=260)



共働きの回答者に着目すると、洗濯を主に誰が分担するかの理想は、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは37.4%であり、回答者全体(38.3%)より0.9ポイント低い。
前回調査(45.9%)と比較すると、8.5ポイント減少している。
男女別にみると、男性(38.2%)は前回調査(40.2%)より2.0ポイント減少、女性(36.5%)は前回調査(50.4%)より13.9ポイント減少している。

③今回調査 共働き回答者の性別構成(合計=289 男性=152 女性=137)



※「共働き」とは、「Ⅲ 回答者の基本属性」において、①既婚であり、②回答者自身の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答)」以外、③配偶者の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答)」以外、④性別・年代の記載がある、以上すべての条件を満たすもの

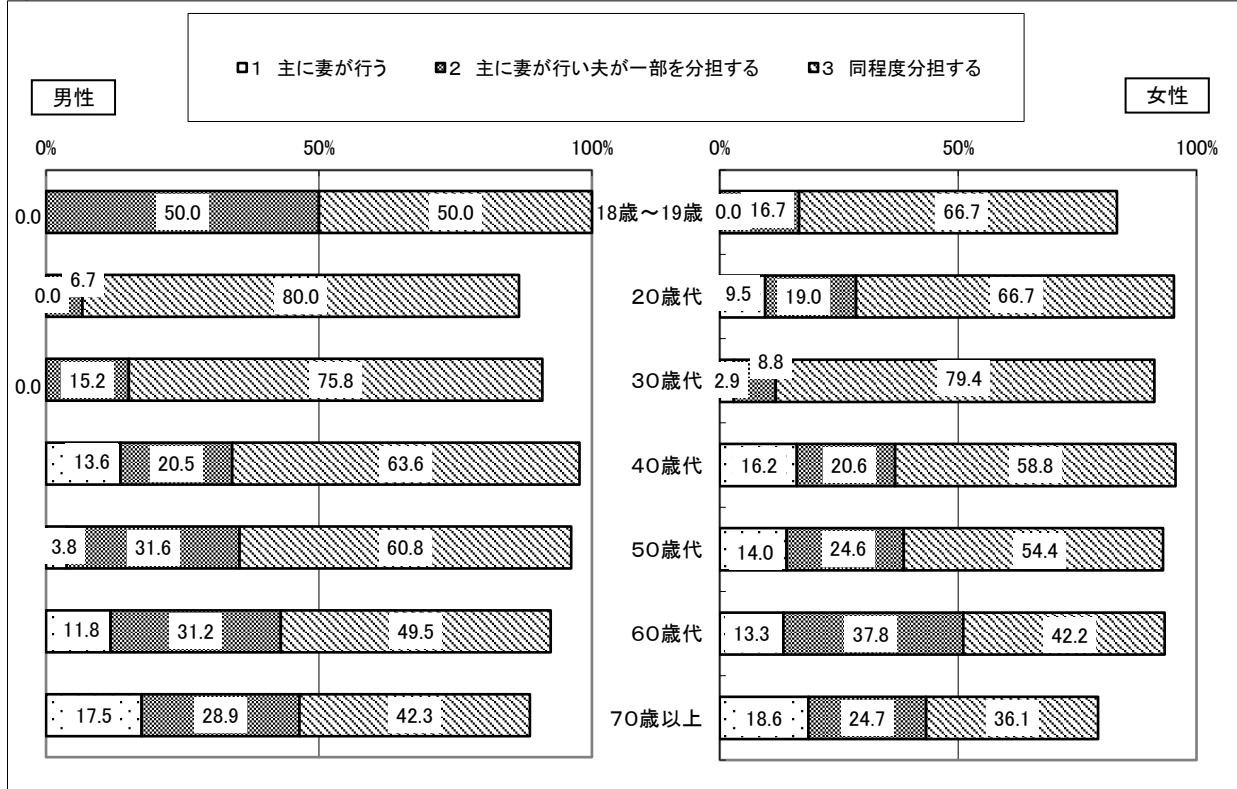
N=736

【男性】 18歳～19歳=2 20歳代=15 30歳代=33 40歳代=44 50歳代=79 60歳代=93 70歳以上=97

【女性】 18歳～19歳=6 20歳代=21 30歳代=34 40歳代=68 50歳代=57 60歳代=90 70歳以上=97

年代別・男女別にみると、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものの割合が最も高い年代は男性では「18歳～19歳」(50.0%)であり、女性では「60歳代」(51.1%)である。「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したもので、男女差が最も大きい年代は「18歳～19歳」であり、男性(50.0%)と女性(16.7%)では、男性が33.3ポイント高い。次いで「20歳代」男性(6.7%)、女性(28.5%)では女性が21.8ポイント高い。

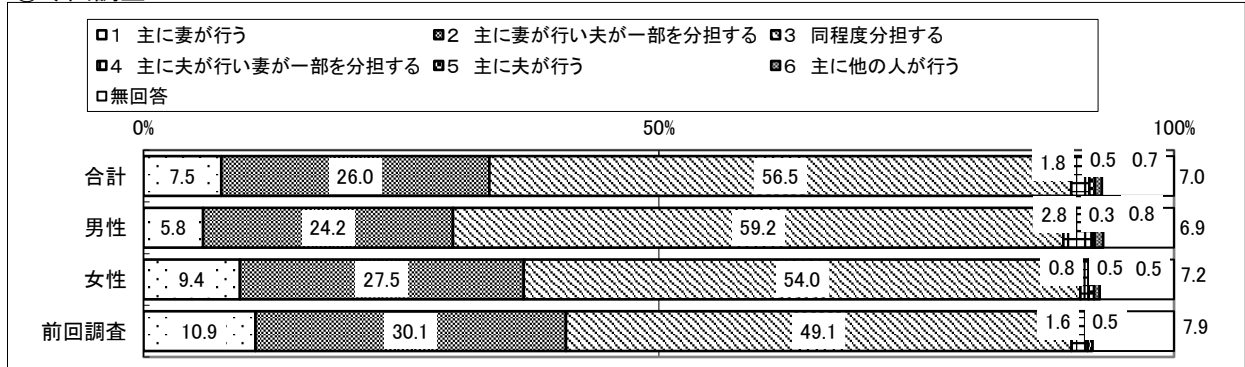
④今回調査



問8(3)理想の役割分担 日常の買い物

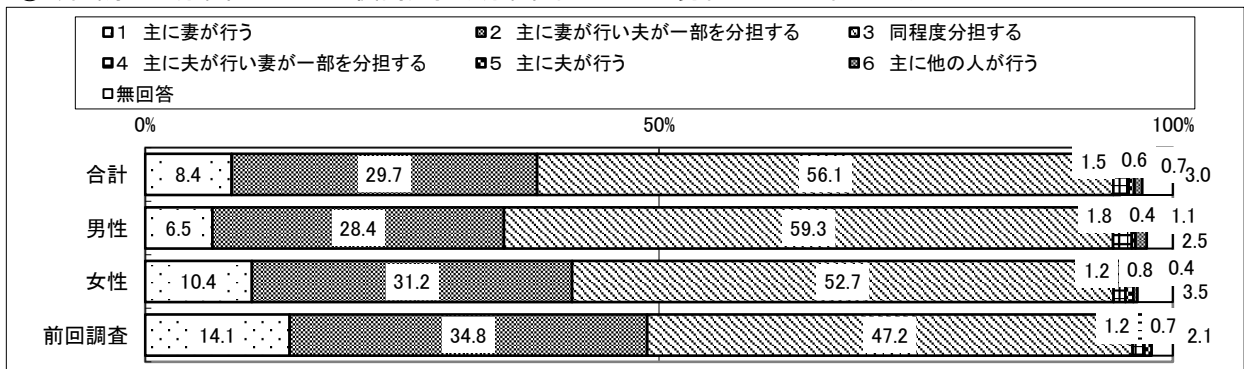
日常の買い物の役割分担の理想については「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは33.5%であり、前回調査(41.0%)より7.5ポイント減少している。
男女別にみると、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答した男性(30.0%)は前回調査(36.0%)より6.0ポイント減少し、女性(41.4%)は前回調査(45.0%)より3.6ポイント減少している。

①今回調査



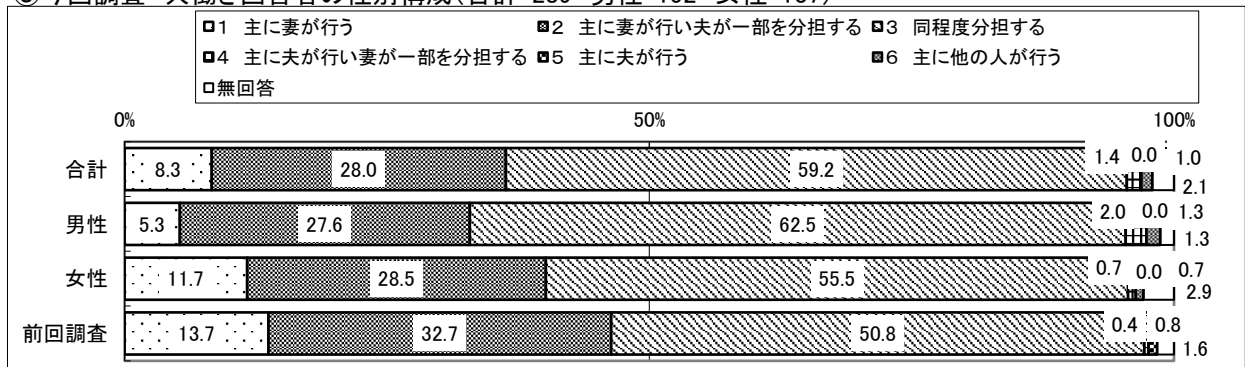
既婚者の回答に着目すると、既婚者の理想は、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは38.1%であり、回答者全体(33.5%)と比較すると4.6ポイント高い。

②今回調査 既婚者の理想の役割分担(既婚者合計=535 男性=275 女性=260)



共働きの回答者に着目すると、日常の買い物を主に誰が分担するか理想は、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは36.3%であり、回答者全体(33.5%)より2.8ポイント高い。
前回調査(46.4%)と比較すると、10.1ポイント減少している。
男女別にみると、男性(32.3%)は前回調査(38.3%)より6.0ポイント減少、女性(40.2%)は前回調査(52.5%)より12.3ポイント減少している。

③今回調査 共働き回答者の性別構成(合計=289 男性=152 女性=137)



※「共働き」とは、「Ⅲ 回答者の基本属性」において、①既婚であり、②回答者自身の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答)」以外、③配偶者の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答)」以外、④性別・年代の記載がある、以上すべての条件を満たすもの

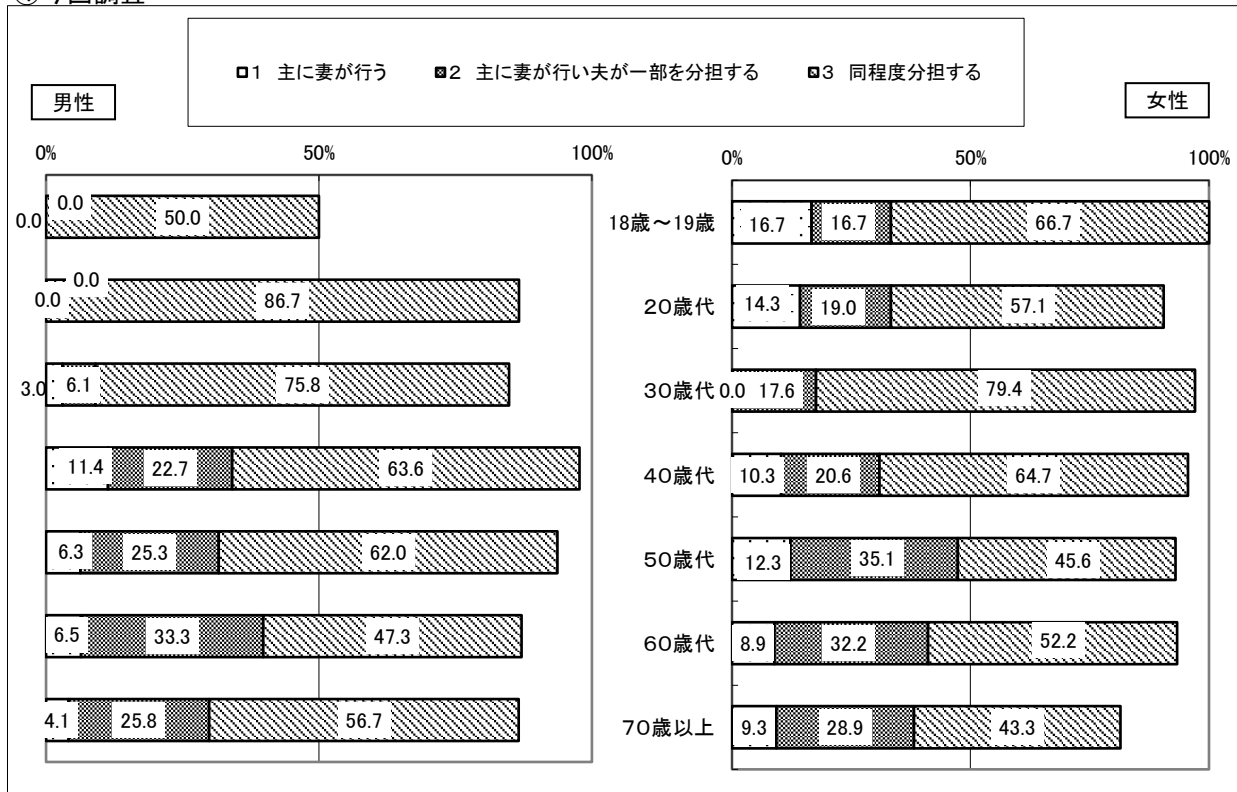
N=736

【男性】 18歳～19歳=2 20歳代=15 30歳代=33 40歳代=44 50歳代=79 60歳代=93 70歳以上=97

【女性】 18歳～19歳=6 20歳代=21 30歳代=34 40歳代=68 50歳代=57 60歳代=90 70歳以上=97

年代別・男女別にみると、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものの割合が最も高い年代は、男性では「60歳代」(39.8%)であり、女性では「50歳代」(47.4%)である。「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したもので、男女差が最も大きい年代は「18歳～19歳」であり、男性(0.0%)と女性(33.4%)では、女性が33.4ポイント高い。次いで「20歳代」男性(0.0%)、女性(33.3%)では女性が33.3ポイント高い。

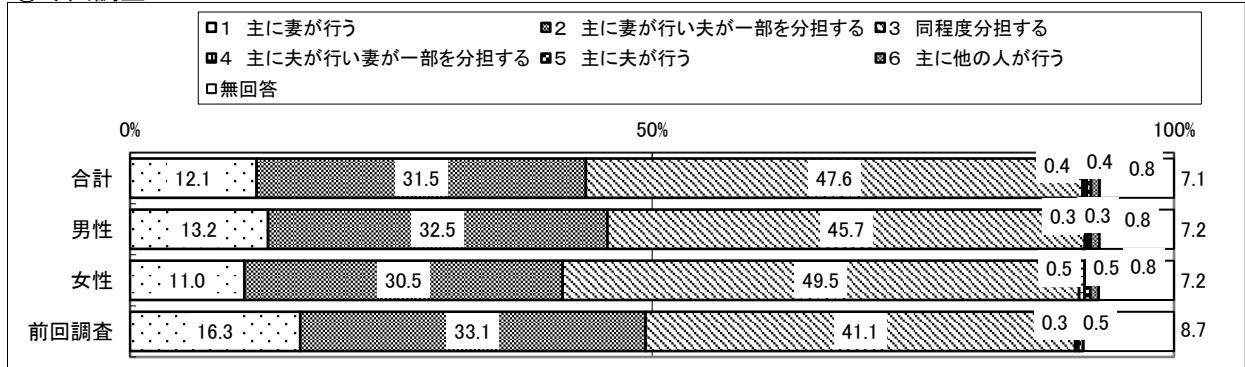
④今回調査



問8(4)理想の役割分担 食事のしたく

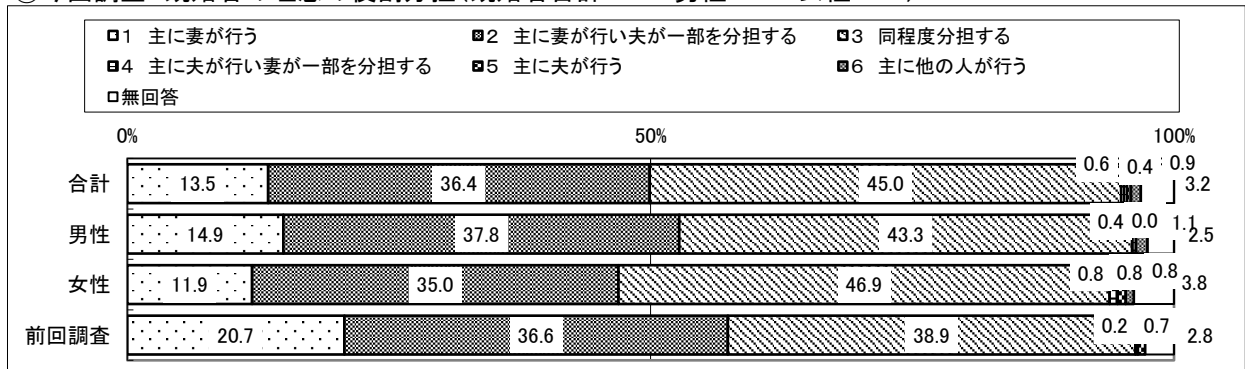
食事のしたくの役割分担の理想については「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは43.6%であり、前回調査(49.4%)より5.8ポイント減少している。
男女別にみると、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答した男性(45.7%)は前回調査(48.3%)より2.6ポイント減少し、女性(41.5%)は前回調査(50.4%)より8.9ポイント減少している。

①今回調査



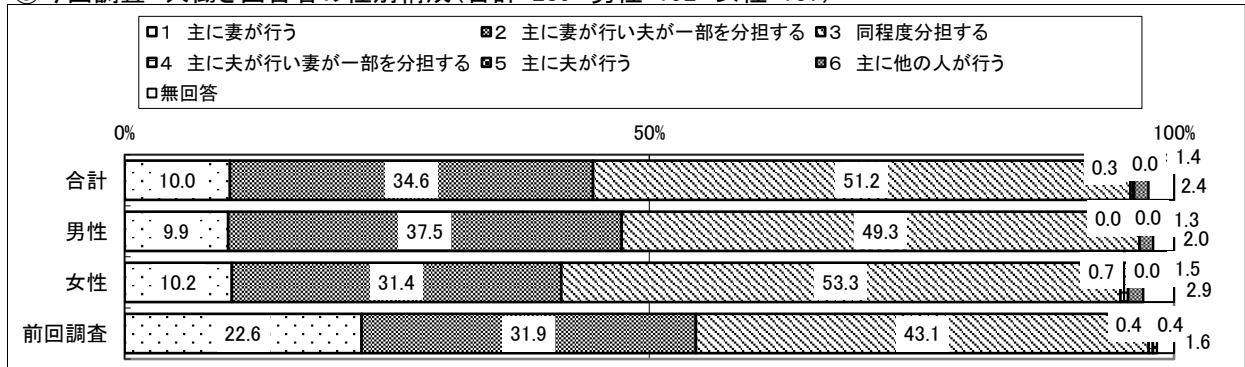
既婚者の回答に着目すると、既婚者の理想は、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは49.9%であり、回答者全体(43.6%)と比較すると6.3ポイント高い。

②今回調査 既婚者の理想の役割分担(既婚者合計=535 男性=275 女性=260)



共働きの回答者に着目すると、食事のしたくを主に誰が分担するかの理想は、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは44.6%であり、回答者全体(43.6%)より1.0ポイント高い。
前回調査(54.5%)と比較すると、9.9ポイント減少している。
男女別にみると、男性(47.4%)は前回調査(50.5%)より3.1ポイント減少、女性(41.6%)は前回調査(57.4%)より15.8ポイント減少している。

③今回調査 共働き回答者の性別構成(合計=289 男性=152 女性=137)



※「共働き」とは、「Ⅲ 回答者の基本属性」において、①既婚であり、②回答者自身の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答)」以外、③配偶者の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答)」以外、④性別・年代の記載がある、以上すべての条件を満たすもの

N=736

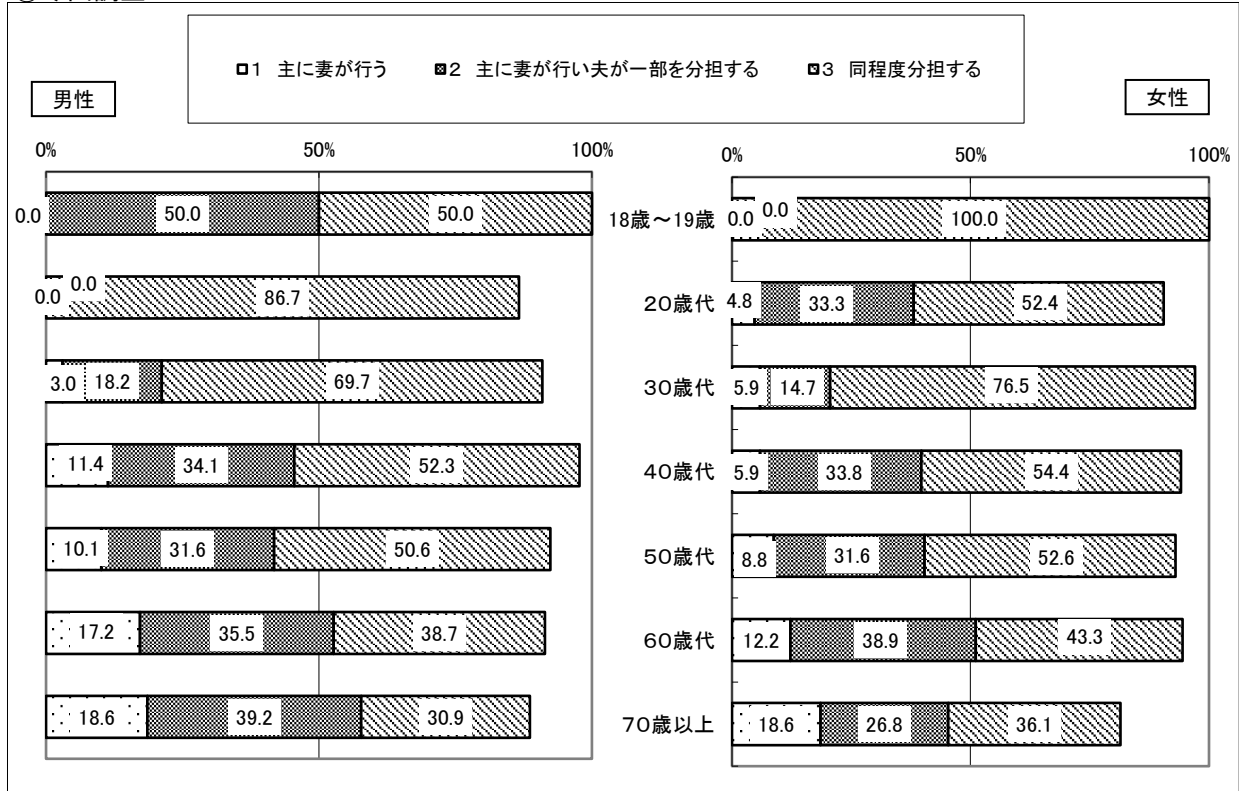
【男性】 18歳～19歳=2 20歳代=15 30歳代=33 40歳代=44 50歳代=79 60歳代=93 70歳以上=97

【女性】 18歳～19歳=6 20歳代=21 30歳代=34 40歳代=68 50歳代=57 60歳代=90 70歳以上=97

年代別・男女別にみると、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものの割合が最も高い年代は、男性では「70歳以上」(57.8%)であり、女性では「60歳代」(51.1%)である。

「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したもので、男女差が最も大きい年代は「18歳～19歳」であり、男性(50.0%)と女性(0.0%)では、男性が50.0ポイント高い。次いで「20歳代」であり、男性(0.0%)、女性(38.1%)では女性が38.1ポイント高い。

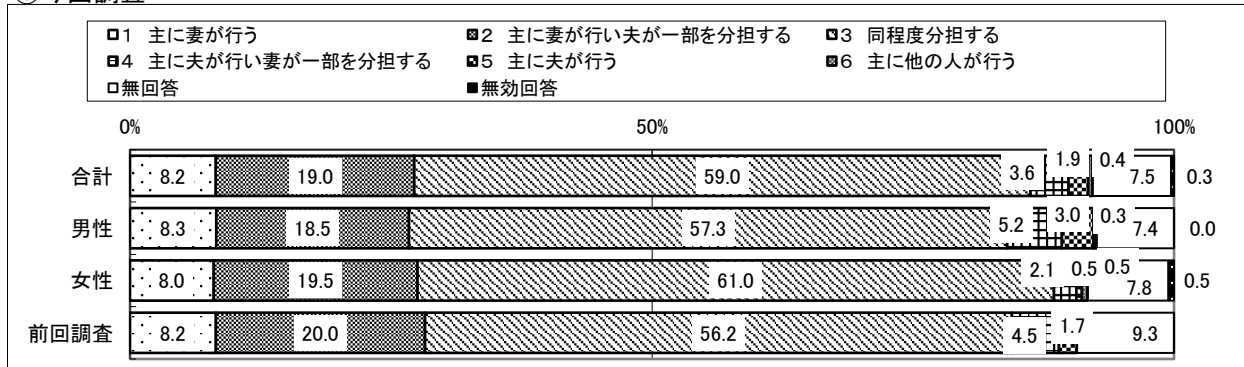
④今回調査



問8(5)理想の役割分担 食事の後片付け

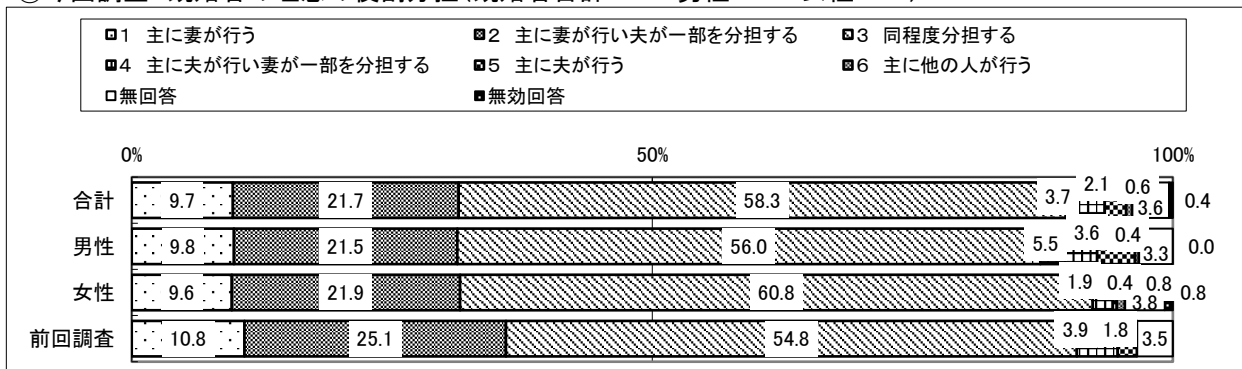
食事の後片付けの役割分担の理想については「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは27.2%であり、前回調査(28.2%)より1.0ポイント減少している。
男女別にみると、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答した男性(26.8%)は前回調査(23.8%)より3.0ポイント増加し、女性(27.5%)は前回調査(32.1%)より4.6ポイント減少している。

①今回調査



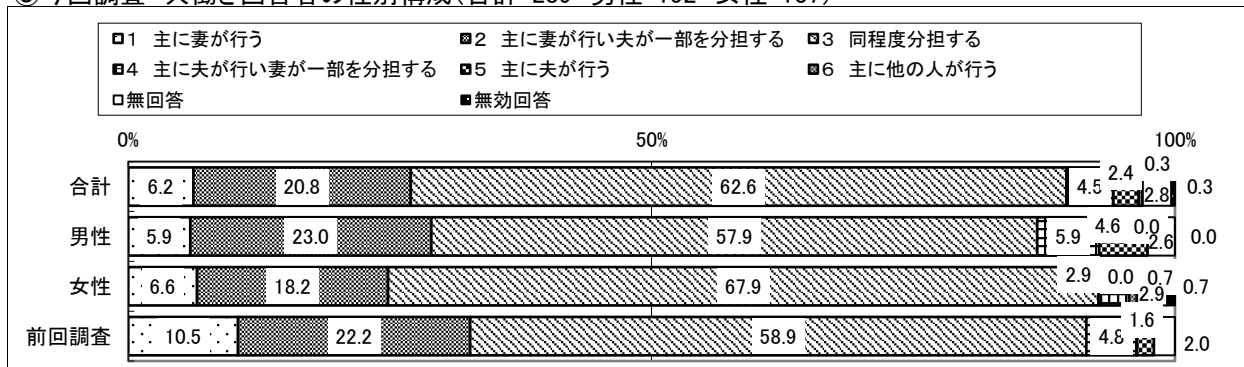
既婚者の回答に着目すると、既婚者の理想は、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは31.4%であり、回答者全体(27.2%)と比較すると4.2ポイント高い。「同程度分担する」は回答者全体(59.0%)と既婚者(58.3%)ともに過半数を超えている。

②今回調査 既婚者の理想の役割分担(既婚者合計=535 男性=275 女性=260)



共働きの回答者に着目すると、食事の後片付けを主に誰が分担するか理想は、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは27.0%であり、回答者全体(27.2%)より0.2ポイント低い。前回調査(32.7%)と比較すると、5.7ポイント減少している。
男女別にみると、男性(28.9%)は前回調査(27.1%)より1.8ポイント増加、女性(24.8%)は前回調査(36.9%)より12.1ポイント大幅に減少している。

③今回調査 共働き回答者の性別構成(合計=289 男性=152 女性=137)



※「共働き」とは、「Ⅲ 回答者の基本属性」において、①既婚であり、②回答者自身の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答)」以外、③配偶者の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答)」以外、④性別・年代の記載がある、以上すべての条件を満たすもの

N=736

【男性】 18歳～19歳=2 20歳代=15 30歳代=33 40歳代=44 50歳代=79 60歳代=93 70歳以上=97

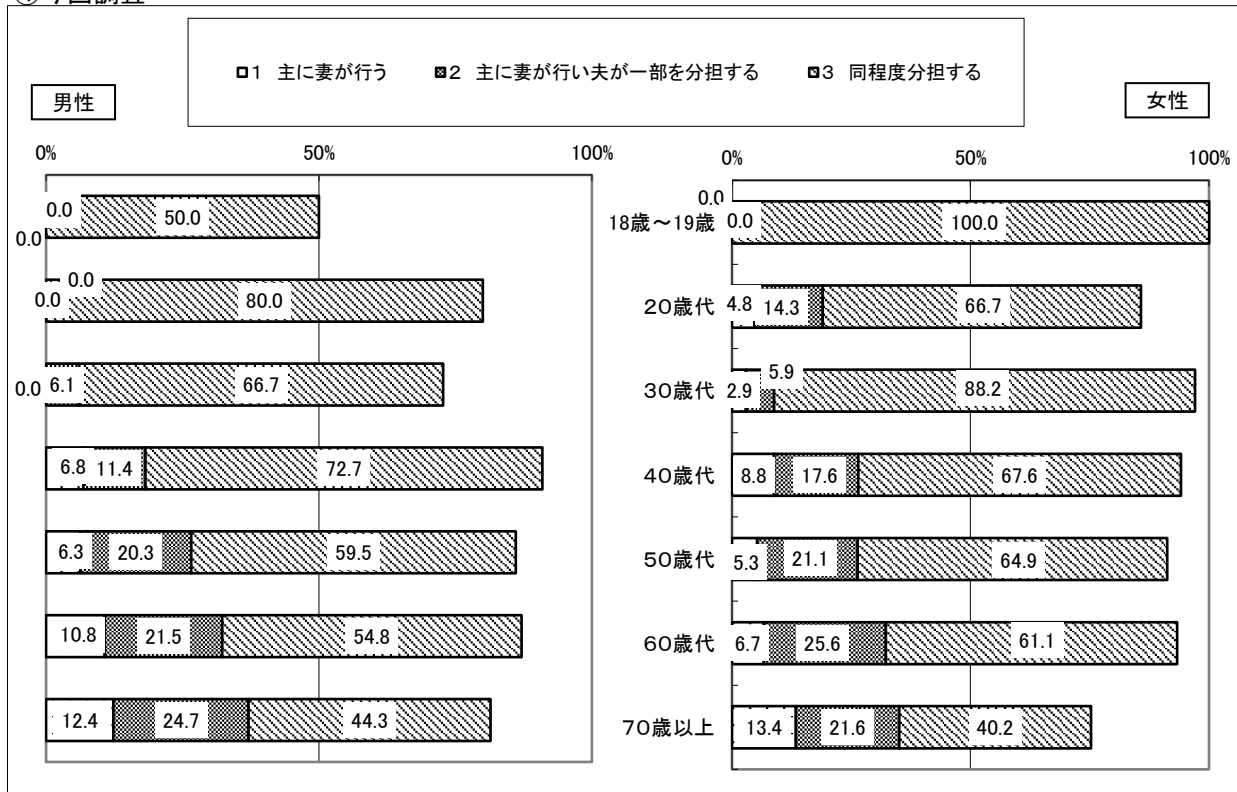
【女性】 18歳～19歳=6 20歳代=21 30歳代=34 40歳代=68 50歳代=57 60歳代=90 70歳以上=97

年代別・男女別にみると、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものの割合が最も高い年代は男性では男女共に「70歳以上」で男性(37.1%)、女性(35.0%)である。

「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したもので、男女差が最も大きい年代は「20歳代」であり、男性(0.0%)と女性(19.1%)では、女性の方が19.1ポイント高い。次いで「40歳代」で男性(18.2%)、女性(26.4%)で女性が8.2ポイント高い。

「同程度分担する」と回答した女性は、「70歳以上」を除き全ての年代で5割を超えている。

④今回調査

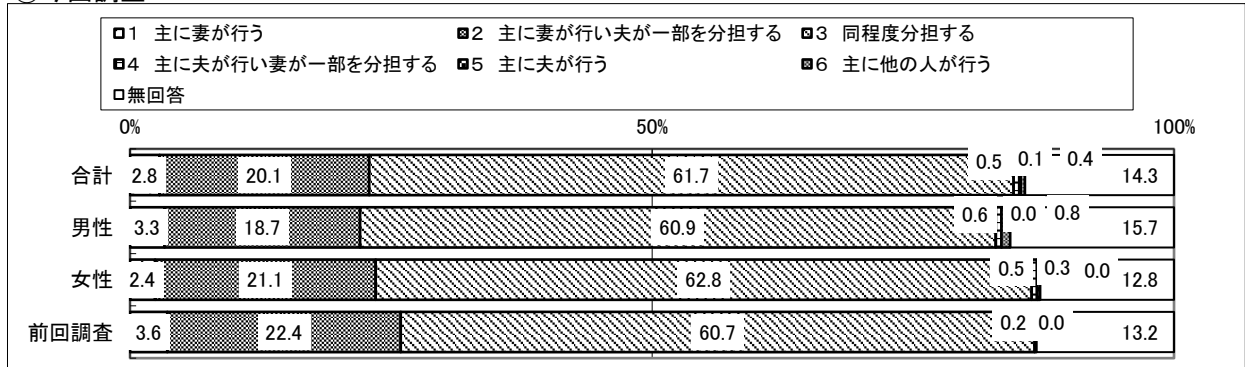


問8(6)理想の役割分担 育児

育児の役割分担の理想については「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは22.9%であり、前回調査(26.0%)より3.1ポイント減少している。

男女別にみると、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答した男性(22.0%)は前回調査(26.9%)より4.9ポイント減少し、女性(23.5%)は前回調査(25.1%)より1.6ポイント減少している。

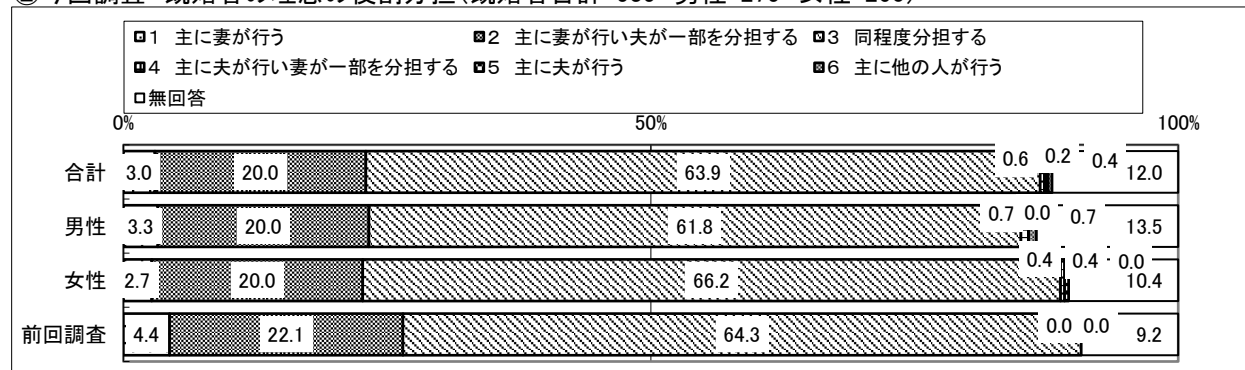
①今回調査



既婚者の回答に着目すると、既婚者の理想は、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは23.0%であり、回答者全体(22.9%)と比較すると0.1ポイント高い。

「同程度分担する」は回答者全体(61.7%)においても、既婚者(63.9%)においても6割を超えている。

②今回調査 既婚者の理想の役割分担(既婚者合計=535 男性=275 女性=260)



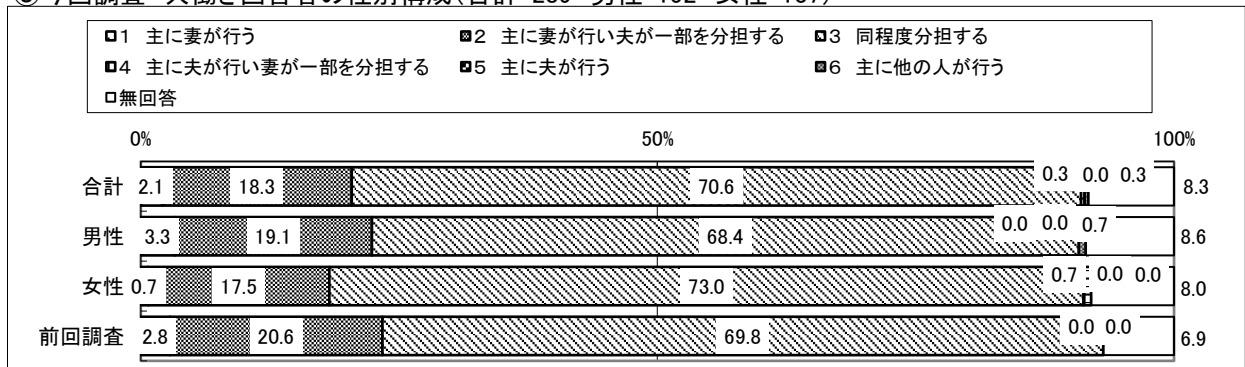
共働きの回答者に着目すると、育児を主に誰が分担するかの理想は、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは20.4%であり、回答者全体(22.9%)より2.5ポイント低い。

前回調査(23.4%)と比較すると3.0ポイント減少している。

男女別にみると、男性(22.4%)は前回調査(19.6%)より2.8ポイント増加、女性(18.2%)は前回調査(26.2%)より8.0ポイント減少している。

「同程度分担する」と回答したものは70.6%であり、回答者全体(61.7%)より8.9ポイント高く、既婚者回答者(63.9%)より6.7ポイント高い。

③今回調査 共働き回答者の性別構成(合計=289 男性=152 女性=137)



※「共働き」とは、「Ⅲ 回答者の基本属性」において、①既婚であり、②回答者自身の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答)」以外、③配偶者の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答)」以外、④性別・年代の記載がある、以上すべての条件を満たすもの

N=736

【男性】 18歳～19歳=2 20歳代=15 30歳代=33 40歳代=44 50歳代=79 60歳代=93 70歳以上=97

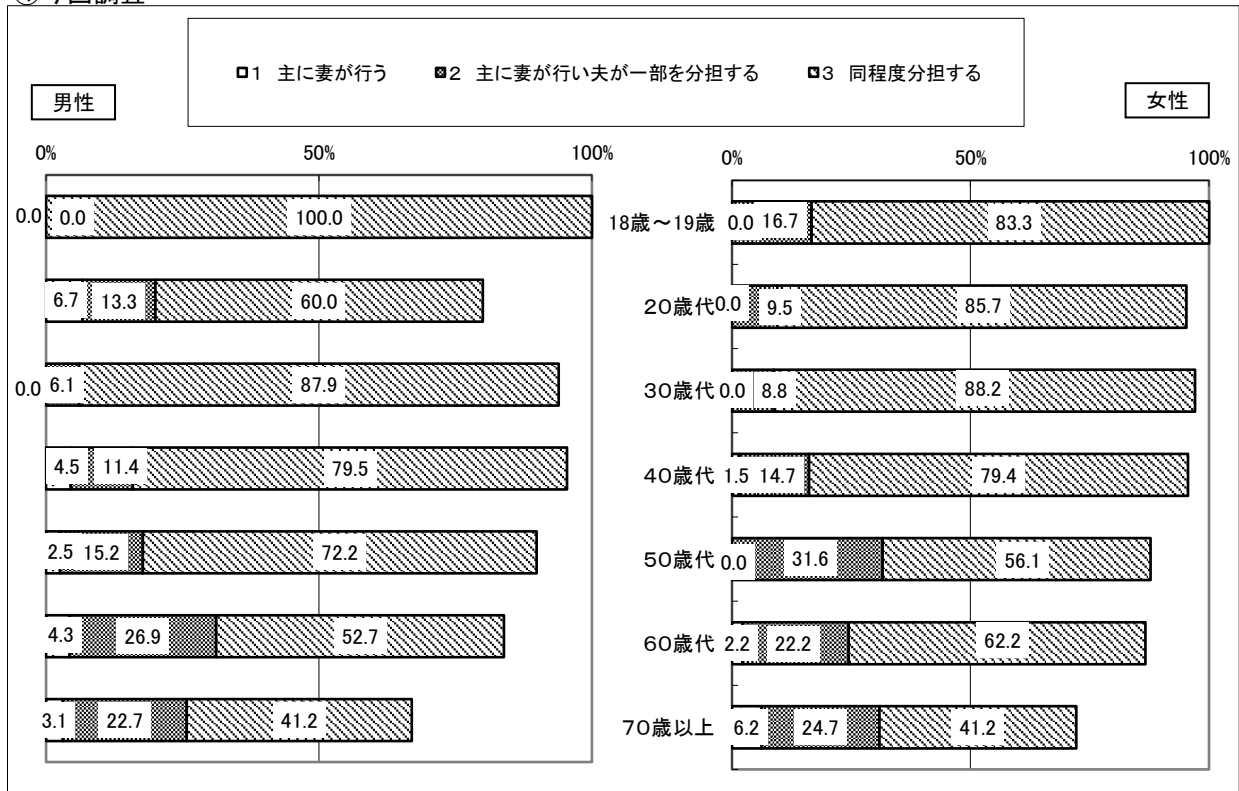
【女性】 18歳～19歳=6 20歳代=21 30歳代=34 40歳代=68 50歳代=57 60歳代=90 70歳以上=97

年代別・男女別にみると、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものの割合が最も高い年代は男性では「60歳代」(31.2%)であり、女性では「50歳代」(31.6%)である。

「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したもので、男女差が最も大きい年代は「18歳～19歳」であり、男性(0.0%)と女性(16.7%)では、女性が16.7ポイント高い。次いで「50歳代」で、男性(17.7%)と女性(31.6%)では、女性が13.3ポイント高い。

男女共に「同程度分担する」と回答したものが7割を超えたのは男性では「18歳～19歳」(100%)、「30歳代」(87.9%)、「40歳代」(79.5%)、「50歳代」(72.2%)、女性では「18歳～19歳」(83.3%)、「20歳代」(85.7%)、「30歳代」(88.2%)、「40歳代」(79.4%)であった。

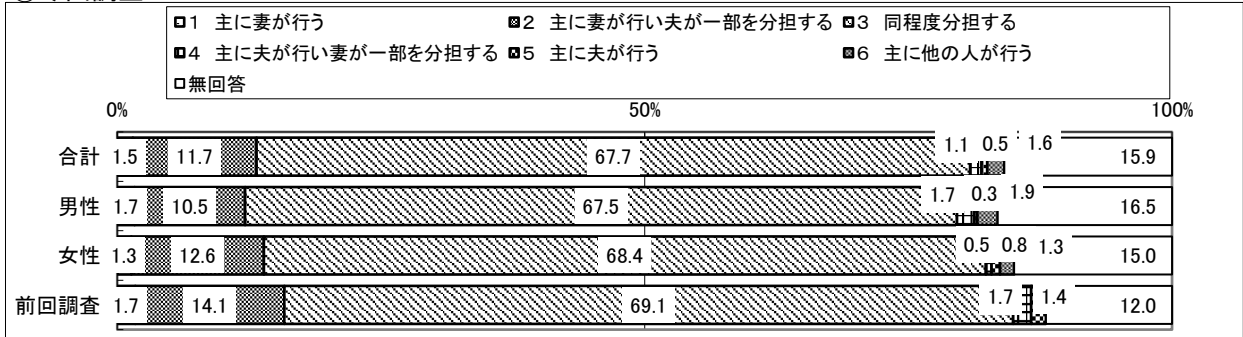
④今回調査



問8(7)理想の役割分担 介護・看護

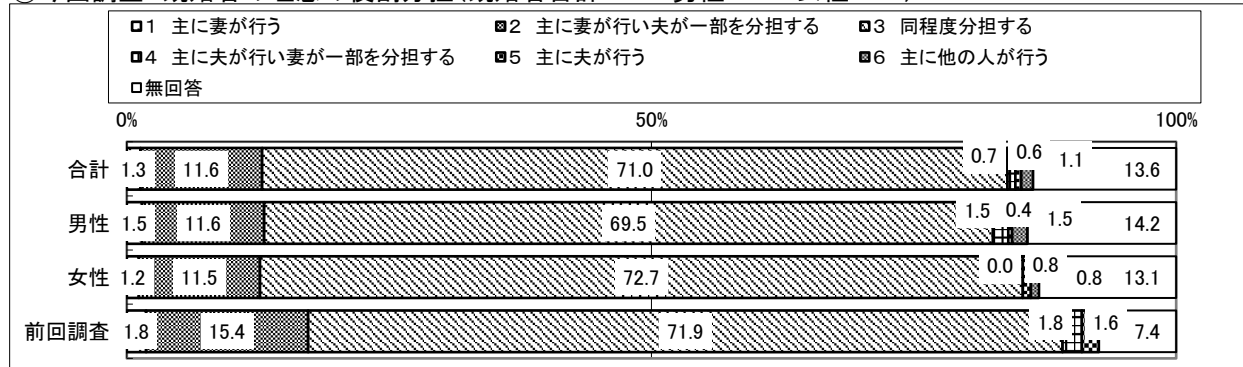
介護・看護の役割分担の理想については「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは13.2%であり、前回調査(15.8%)より2.6ポイント減少している。
 男女別にみると、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答した男性(12.2%)は前回調査(15.0%)より2.8ポイント減少し、女性(13.9%)は前回調査(16.6%)より2.7ポイント減少している。
 「同程度分担する」と回答したものは67.7%であり、前回調査(69.1%)より1.4ポイント減少してい

①今回調査



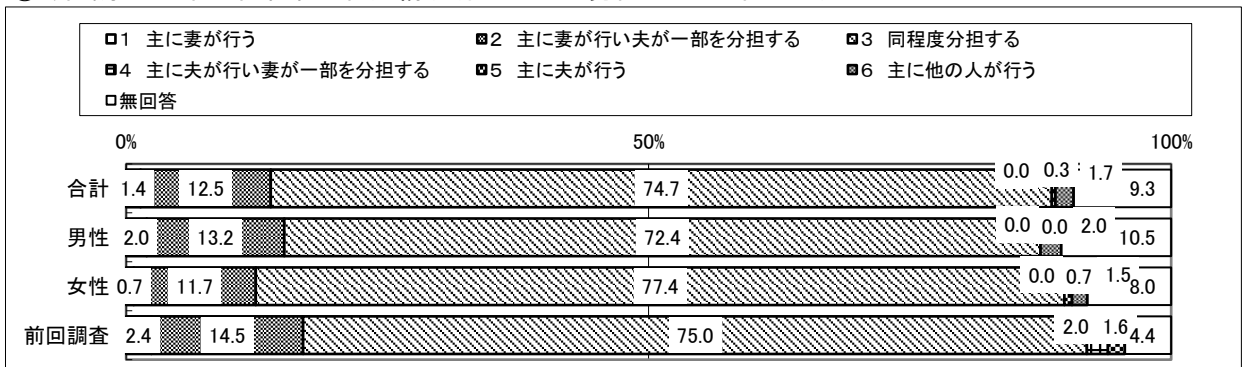
既婚者の回答に着目すると、既婚者の理想は、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは12.9%であり、回答者全体(13.2%)と比較すると0.3ポイント低い。
 「同程度分担する」と回答したものは71.0%であり、前回調査(71.9%)より0.9ポイント減少している。

②今回調査 既婚者の理想の役割分担(既婚者合計=535 男性=275 女性=260)



共働きの回答者に着目すると、介護・看護を主に誰が分担するかの理想は、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは13.9%であり、回答者全体(13.2%)より0.7ポイント高い。
 前回調査(16.9%)と比較すると、3.0ポイント減少している。
 男女別にみると、男性(15.2%)は前回調査(12.2%)より3.0ポイント増加、女性(12.4%)は前回調査(20.5%)より8.1ポイント減少している。
 「同程度分担する」と回答したものは74.7%であり、前回調査(75.0%)より0.3ポイント微減としており、男女ともに7割を超えている。

③今回調査 共働き回答者の性別構成(合計=289 男性=152 女性=137)



※「共働き」とは、「Ⅲ 回答者の基本属性」において、①既婚であり、②回答者自身の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答)」以外、③配偶者の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答)」以外、④性別・年代の記載がある、以上すべての条件を満たすもの

N=736

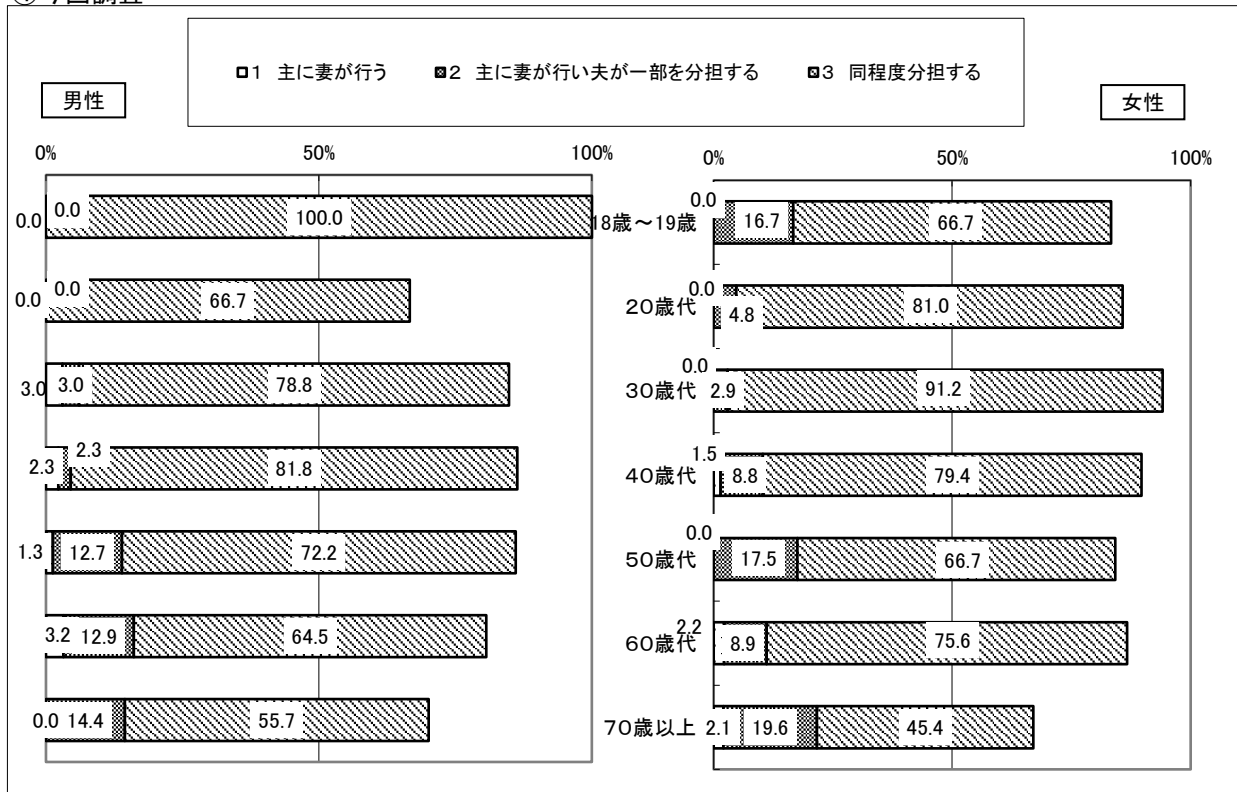
【男性】 18歳～19歳=2 20歳代=15 30歳代=33 40歳代=44 50歳代=79 60歳代=93 70歳以上=97

【女性】 18歳～19歳=6 20歳代=21 30歳代=34 40歳代=68 50歳代=57 60歳代=90 70歳以上=97

年代別・男女別にみると、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものの割合が最も高い年代は、男性では「60歳代」(16.1%)であり女性では「70歳以上」(21.7%)である。男女差が最も大きい年代は「18歳～19歳」であり男性(0.0%)、女性(16.7%)で女性が16.7ポイント高い。次いで「70歳以上」で男性(14.4%)、女性(21.7%)で女性が7.3ポイント高い。

「同程度分担する」と回答したものの割合が最も高い年代は、男性「18歳～19歳」(100%)、女性「30歳代」(91.2%)であった。

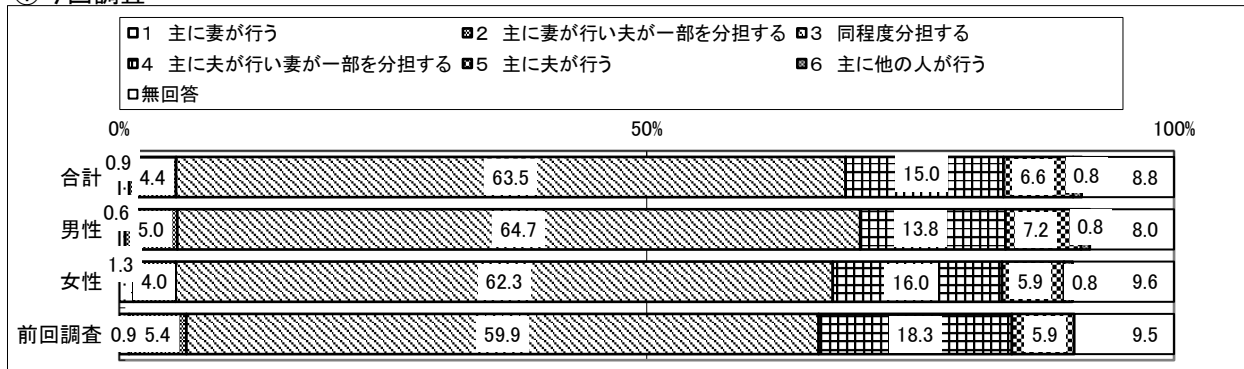
④今回調査



問8(8)理想の役割分担 地域の行事に参加

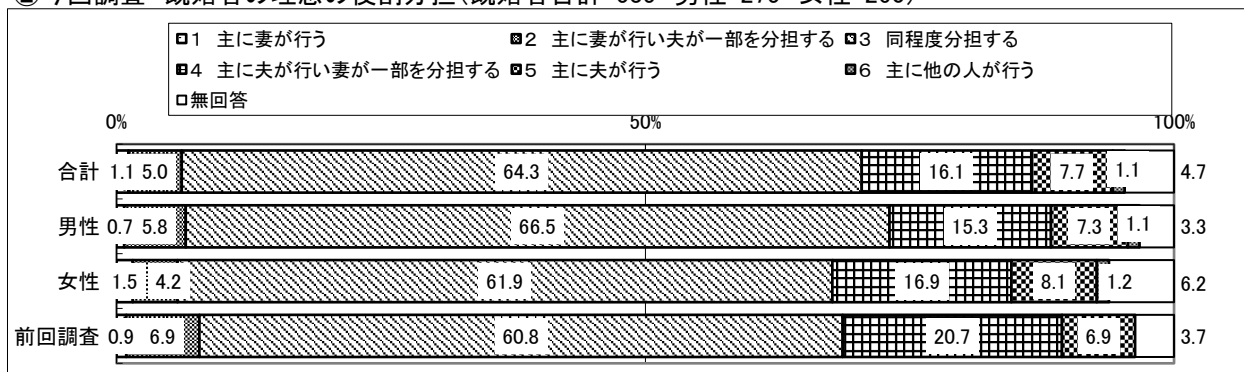
地域の行事に参加の役割分担の理想については「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは5.3%であり、前回調査(6.3%)より1.0ポイント減少している。
「同程度分担する」と回答したものは63.5%であり、前回調査(59.9%)より3.6ポイント増加している。

①今回調査



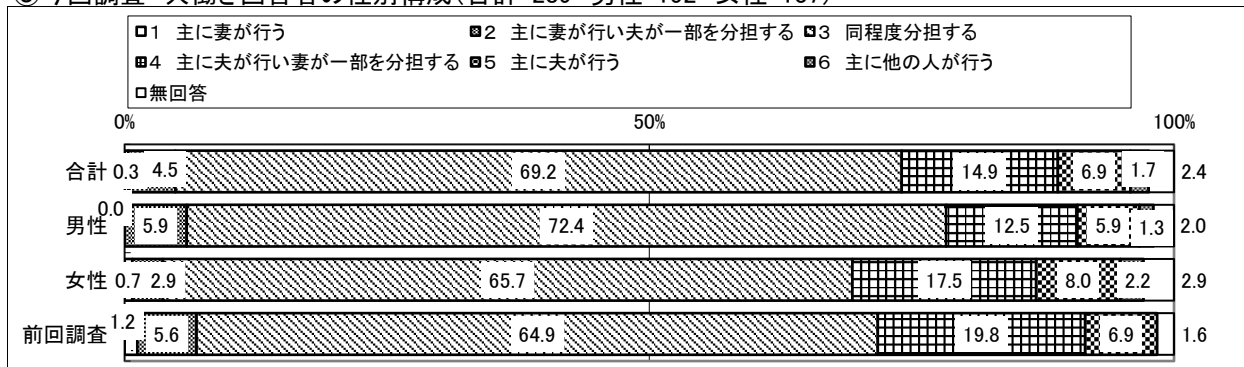
既婚者の回答に着目すると、既婚者の理想は、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは6.1%であり、回答者全体(5.3%)と比較すると0.8ポイント高い。
「同程度分担する」と回答したものは64.3%であり、前回調査(60.8%)より3.5ポイント増加している。

②今回調査 既婚者の理想の役割分担(既婚者合計=535 男性=275 女性=260)



共働きの回答者に着目すると、地域の行事に参加を主に誰が分担するかの理想は、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは4.8%であり、前回調査(6.8%)と比較すると、2.0ポイント減少している。
「同程度分担する」と回答したものは69.2%であり、回答者全体(63.5%)より5.7ポイント高く、既婚者回答者(64.3%)より4.9ポイント高い。

③今回調査 共働き回答者の性別構成(合計=289 男性=152 女性=137)



※「共働き」とは、「Ⅲ 回答者の基本属性」において、①既婚であり、②回答者自身の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答)」以外、③配偶者の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答)」以外、④性別・年代の記載がある、以上すべての条件を満たすもの

N=736

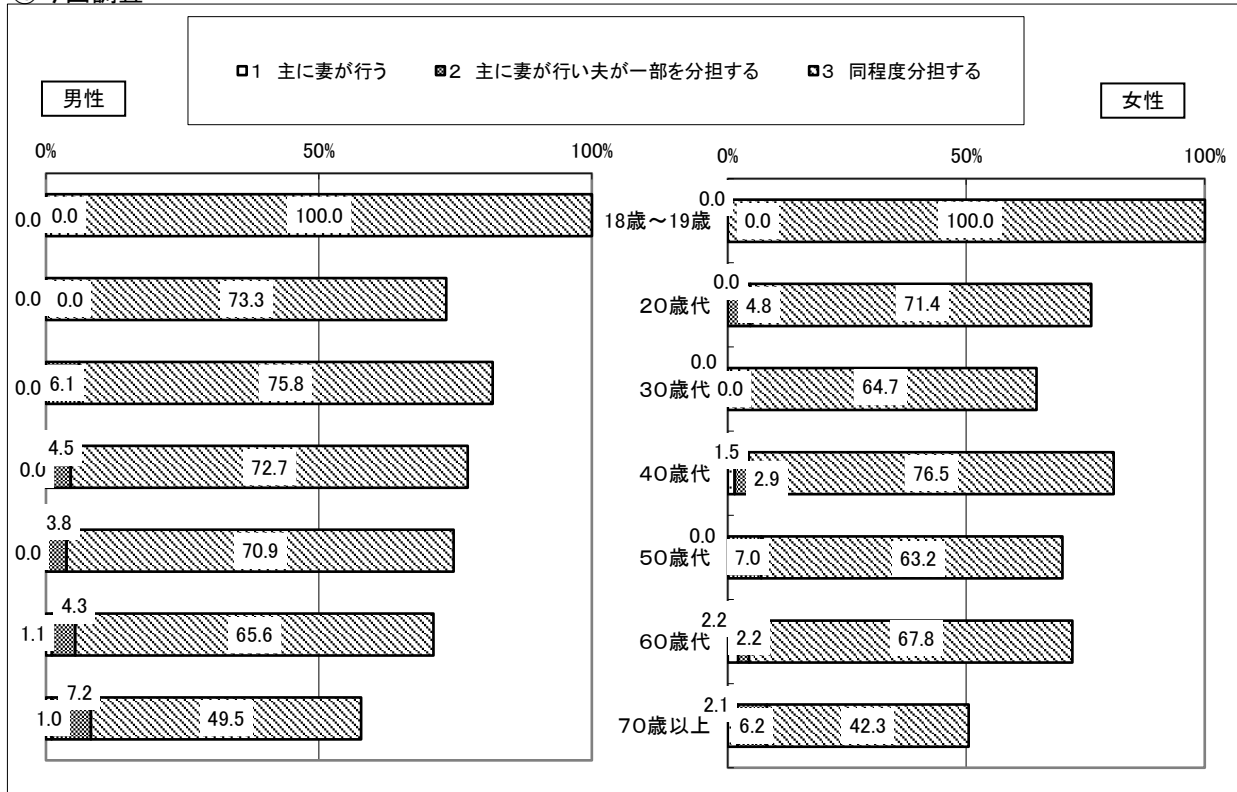
【男性】 18歳～19歳=2 20歳代=15 30歳代=33 40歳代=44 50歳代=79 60歳代=93 70歳以上=97

【女性】 18歳～19歳=6 20歳代=21 30歳代=34 40歳代=68 50歳代=57 60歳代=90 70歳以上=97

年代別・男女別にみると、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものの割合が最も高い年代は、男女ともに「70歳以上」で男性(8.2%)、女性(8.3%)である。

「同程度分担する」と回答したものの割合が最も高い年代は、男女ともに「18歳～19歳」であり、男性(100%)、女性(100%)である。

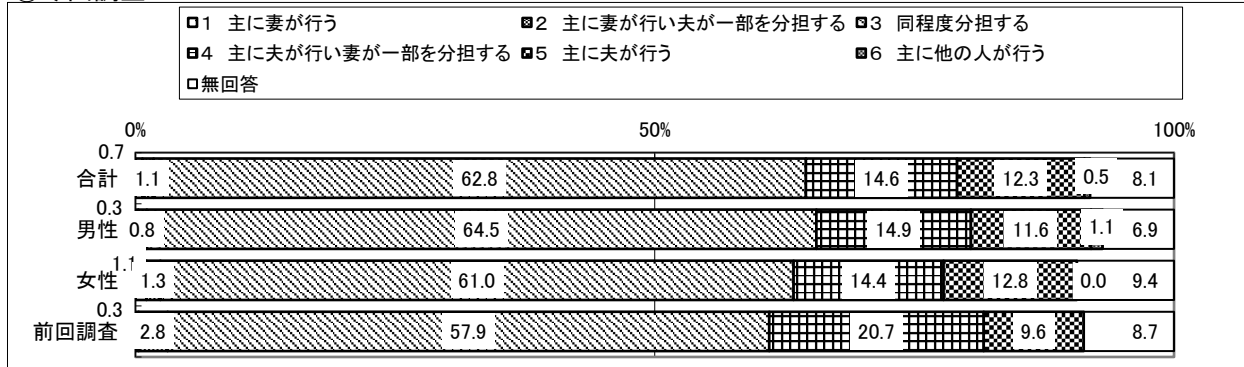
④今回調査



問8(9)理想の役割分担 高額商品や土地・家屋の購入の決定

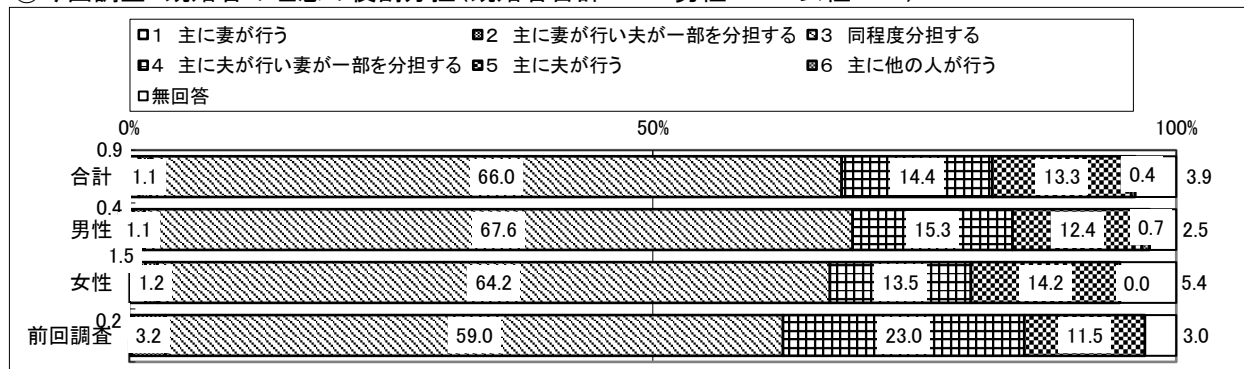
高額商品や土地・家屋の購入の決定の役割分担の理想については「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは1.8%であり、前回調査(3.1%)より1.3ポイント減少している。
男女別に見ると、「同程度分担する」と回答した男性(64.5%)は前回調査(60.1%)より4.4ポイント増加し、女性(61.0%)は前回調査(56.3%)より4.7ポイント増加している。
「同程度分担する」と回答したものは62.8%であり、前回調査(57.9%)より4.9ポイント増加してい

①今回調査



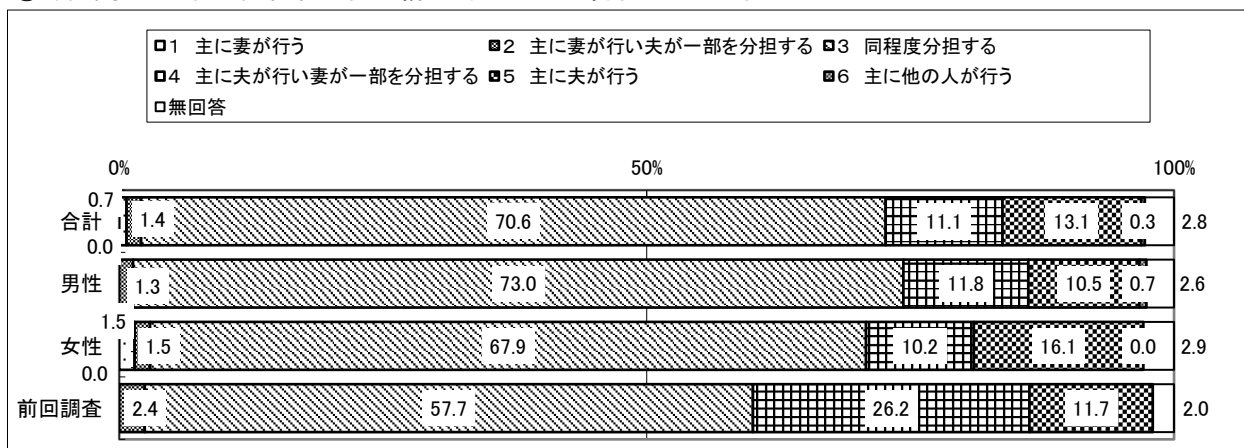
既婚者の回答に着目すると、既婚者の理想は、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは2.0%であり、前回調査(3.4%)と比較すると1.4ポイント減少している。
「同程度分担する」と回答した既婚者は66.0%であり、回答者全体(62.8%)より3.2ポイント高い。

②今回調査 既婚者の理想の役割分担(既婚者合計=535 男性=275 女性=260)



共働きの回答者に着目すると、高額商品や土地・家屋の購入をを主に誰が分担するかの理想は、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは2.1%であり、回答者全体(2.4%)より0.3ポイント低い。
「同程度分担する」と回答したものは70.6%であり、前回調査(57.7%)より12.9ポイント増加してい

③今回調査 共働き回答者の性別構成(合計=289 男性=152 女性=137)



※「共働き」とは、「Ⅲ 回答者の基本属性」において、①既婚であり、②回答者自身の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答)」以外、③配偶者の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答)」以外、④性別・年代の記載がある、以上すべての条件を満たすもの

N=736

【男性】 18歳～19歳=2 20歳代=15 30歳代=33 40歳代=44 50歳代=79 60歳代=93 70歳以上=97

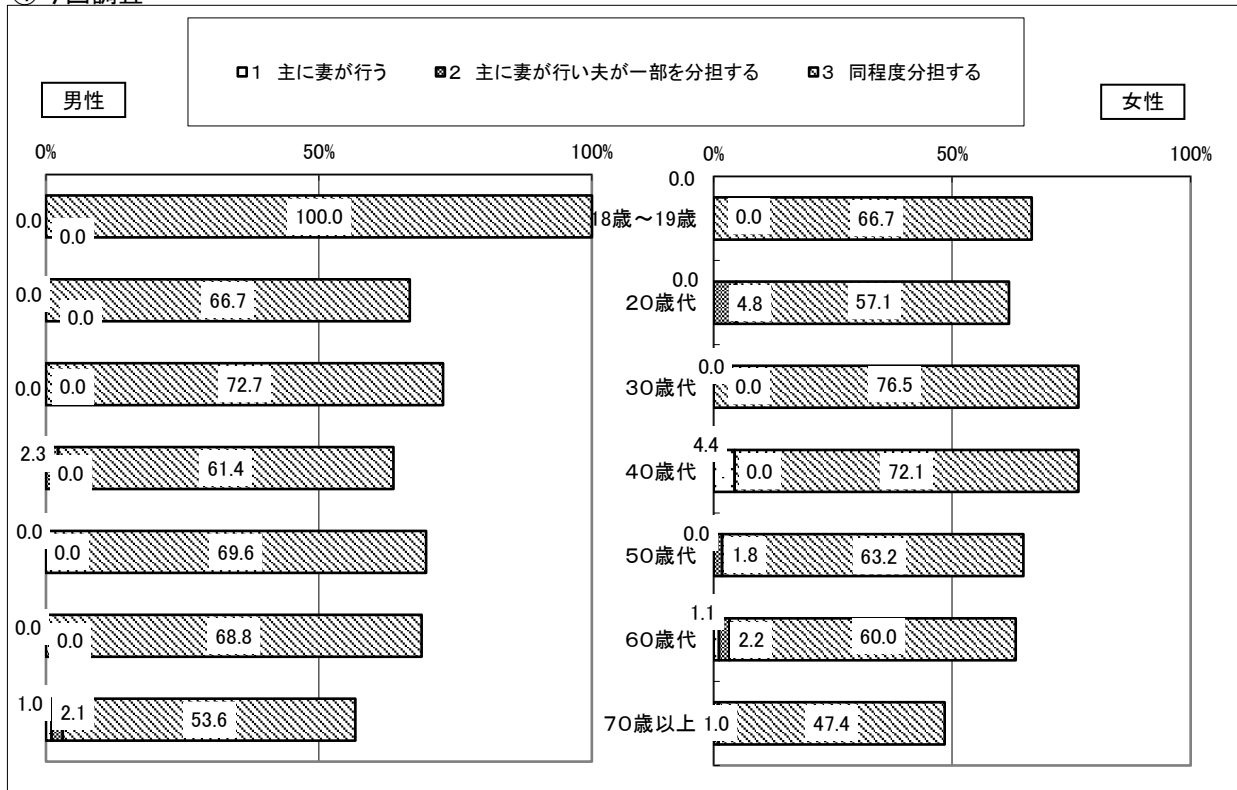
【女性】 18歳～19歳=6 20歳代=21 30歳代=34 40歳代=68 50歳代=57 60歳代=90 70歳以上=97

年代別・男女別にみると、男性は「70歳以上」以外全ての年代で、女性は「40歳代」、「60歳代」以外の年代で「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものはなかった。

「同程度分担する」と回答したものの割合が最も高いのは男性は「18歳～19歳」(100%)、女性は「30歳代」(76.5%)である。

「同程度分担する」と回答したものは、男性では全ての年代で、女性では「70歳以上」以外の全ての年代で5割を超えている。

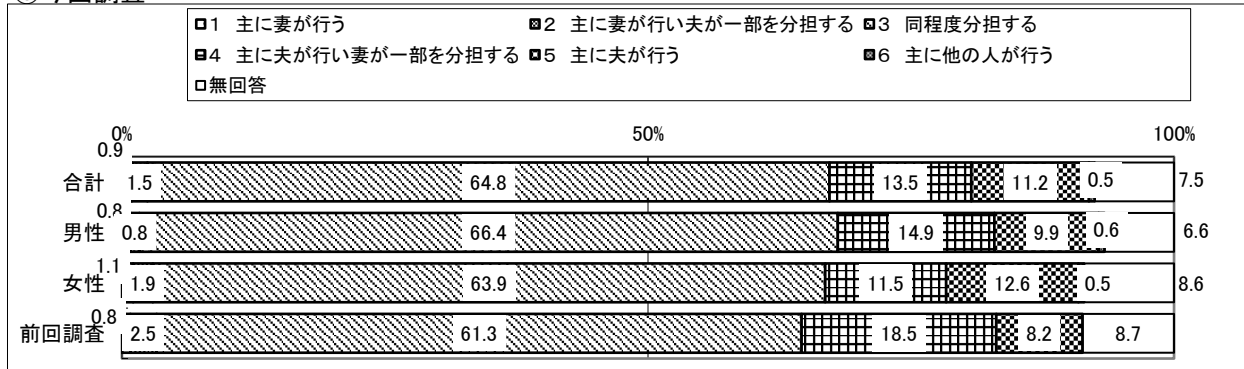
④今回調査



問8(10)理想の役割分担 家庭問題の最終決定

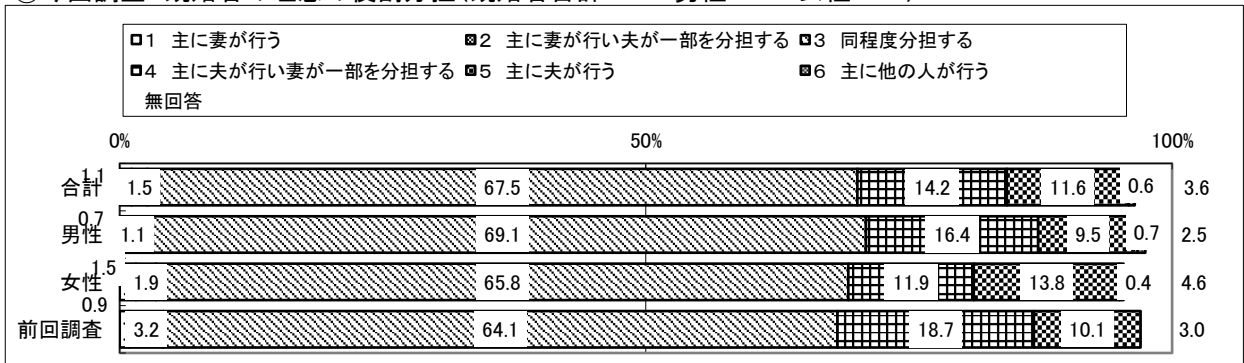
家庭問題の最終決定の役割分担の理想については「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは2.4%であり、前回調査(3.3%)より0.9ポイント減少した。
「同程度分担する」と回答したものは64.8%と、前回調査(61.3%)より3.5ポイント増加した。

①今回調査



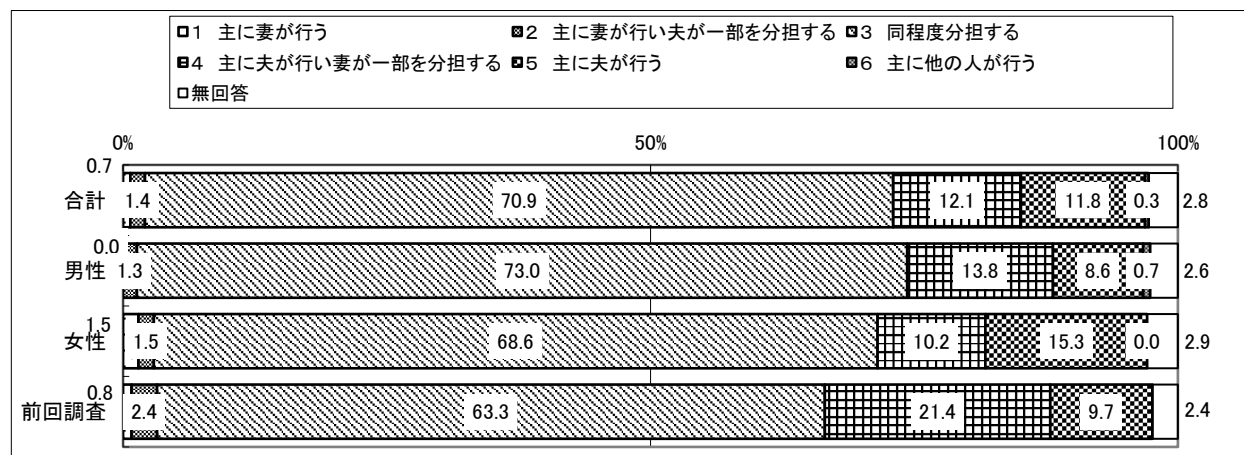
既婚者の回答に着目すると、既婚者の理想は、「同程度分担する」と回答したものは67.5%であり、回答者全体(64.8%)と比較すると2.7ポイント高い。

②今回調査 既婚者の理想の役割分担(既婚者合計=535 男性=275 女性=260)



共働きの回答者に着目すると、家庭問題の最終決定を主に誰が分担するかの理想は、「同程度分担する」と回答したものは70.9%であり、回答者全体(64.8%)より6.1ポイント高く、既婚者(67.5%)より3.4ポイント高い。
「同程度分担する」と回答した男性は73.0%で前回調査(68.2%)より4.8ポイント増加、女性は68.6%で前回(59.6%)と9.0ポイント増加し、男女ともに増加している。

③今回調査 共働き回答者の性別構成(合計=289 男性=152 女性=137)



※「共働き」とは、「Ⅲ 回答者の基本属性」において、①既婚であり、②回答者自身の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答)」以外、③配偶者の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答)」以外、④性別・年代の記載がある、以上すべての条件を満たすもの

N=736

【男性】 18歳～19歳=2 20歳代=15 30歳代=33 40歳代=44 50歳代=79 60歳代=93 70歳以上=97

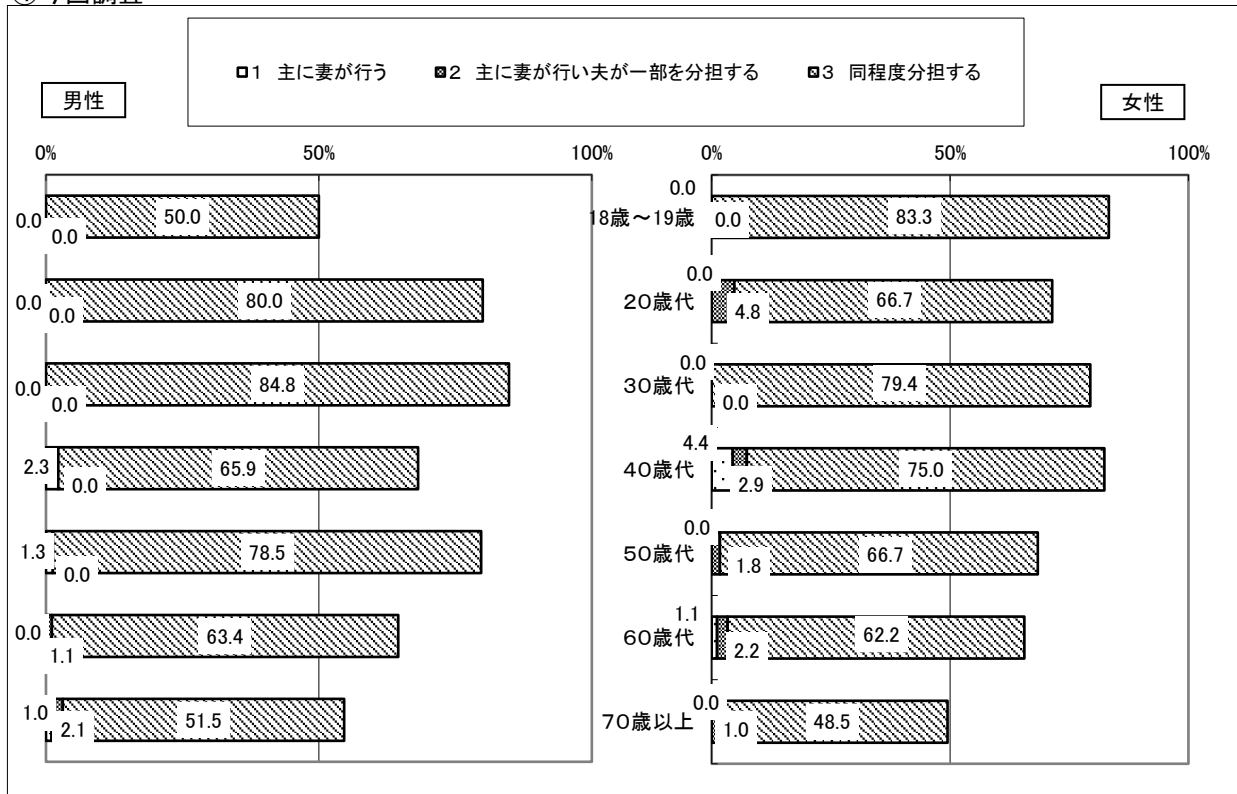
【女性】 18歳～19歳=6 20歳代=21 30歳代=34 40歳代=68 50歳代=57 60歳代=90 70歳以上=97

年代別・男女別にみると、男性は全ての年代で、女性は「70歳以上」以外全ての年代で「同程度分担する」と回答したものは5割を超えている。

「同程度分担する」と回答したものの割合が最も高いのは、男性は「30歳代」(84.8%)、女性は「18歳～19歳」(83.3%)である。

「同程度分担する」と回答したもので男女差が最も大きい年代は「18歳～19歳」であり男性(50.0%)と女性(83.3%)では女性のほうが33.3ポイント高い。次いで「20歳代」で男性(80.0%)と女性(66.7%)では男性のほうが13.3ポイント高い。

④今回調査



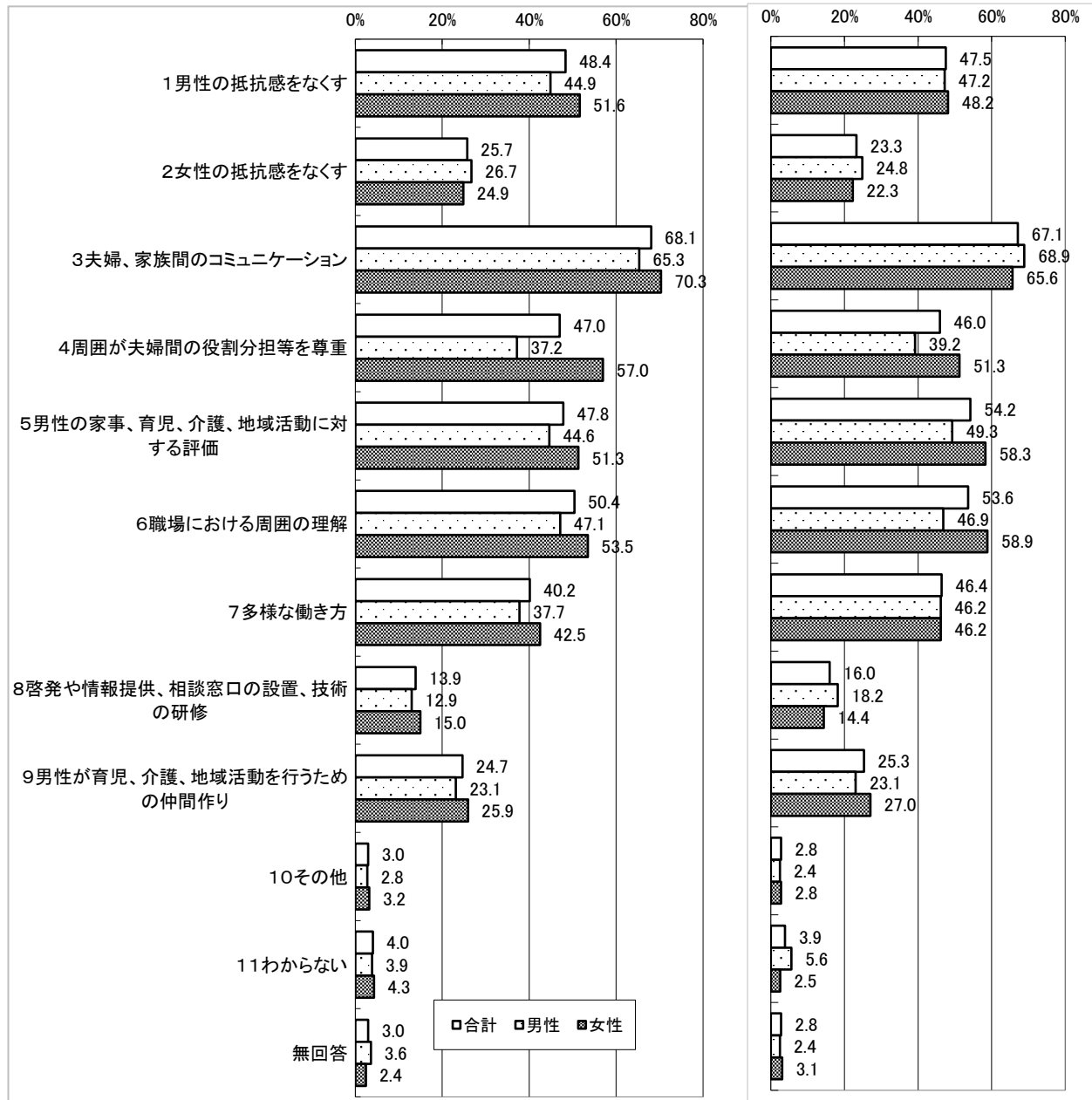
問9 男女がともに家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んで○をつけてください。
(N=742 男性=363 女性=374 その他=0 性別無回答=5)

男女がともに家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なことは、「夫婦、家族間のコミュニケーション」(68.1%)の割合が最も高く、次いで「職場における周囲の理解」(50.4%)、「男性の抵抗感をなくす」(48.4%)が続く。

前回調査と比較すると、「社会の中、男性による家事、育児、介護、地域活動についても、その評価を高めること」(47.8%)は、前回調査(54.2%)より6.4ポイント減少。「多様な働き方の普及により、仕事以外の時間をより多くもてるようにすること」(40.2%)も、前回調査(46.4%)より6.4ポイント減少している。

男女差が最も大きいのは「周囲が夫婦間の役割分担等を尊重」であり、男性(37.2%)と女性(57.0%)では、女性の方が19.8ポイント高い。

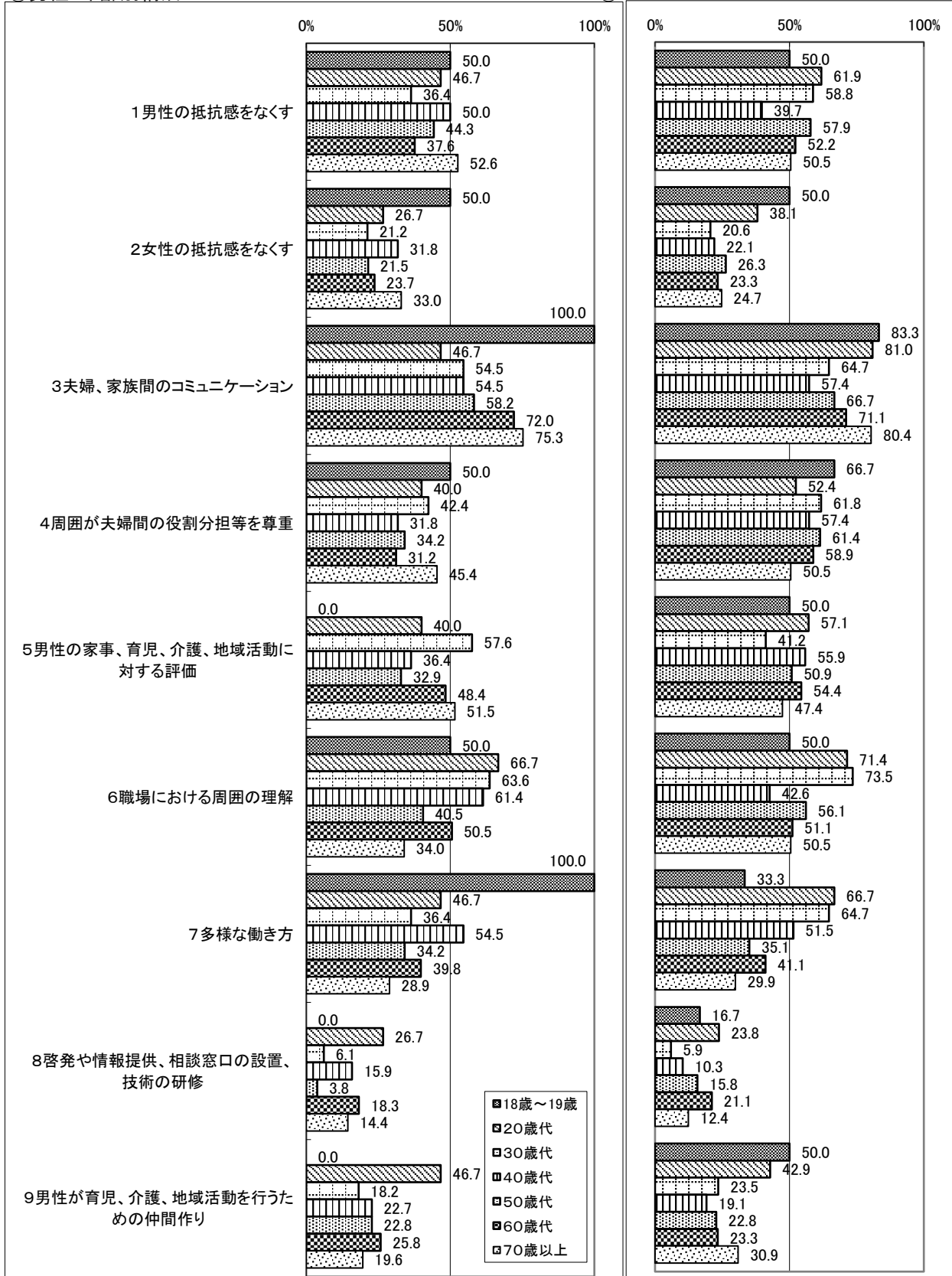
①性別構成(今回調査)



年代別・男女別にみると、男性では全ての年代にて5割を超えたものはなかったが、女性では「夫婦、家族間のコミュニケーションをよくはかること」と「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること」で、全ての年代で5割を超えている。
 男女差が最も大きいのは、「夫婦、家族間のコミュニケーションをよくはかること」と回答した「20歳代」（男性：46.7%、女性：81.0%）であり、女性の方が34.3ポイント高い。次いで「多様な働き方の普及により、仕事以外の時間をより多くもてるようにすること」と回答した「30歳代」（男性：36.4%、女性：64.7%）では女性の方が28.3ポイント高い。

②男性・年齢別構成

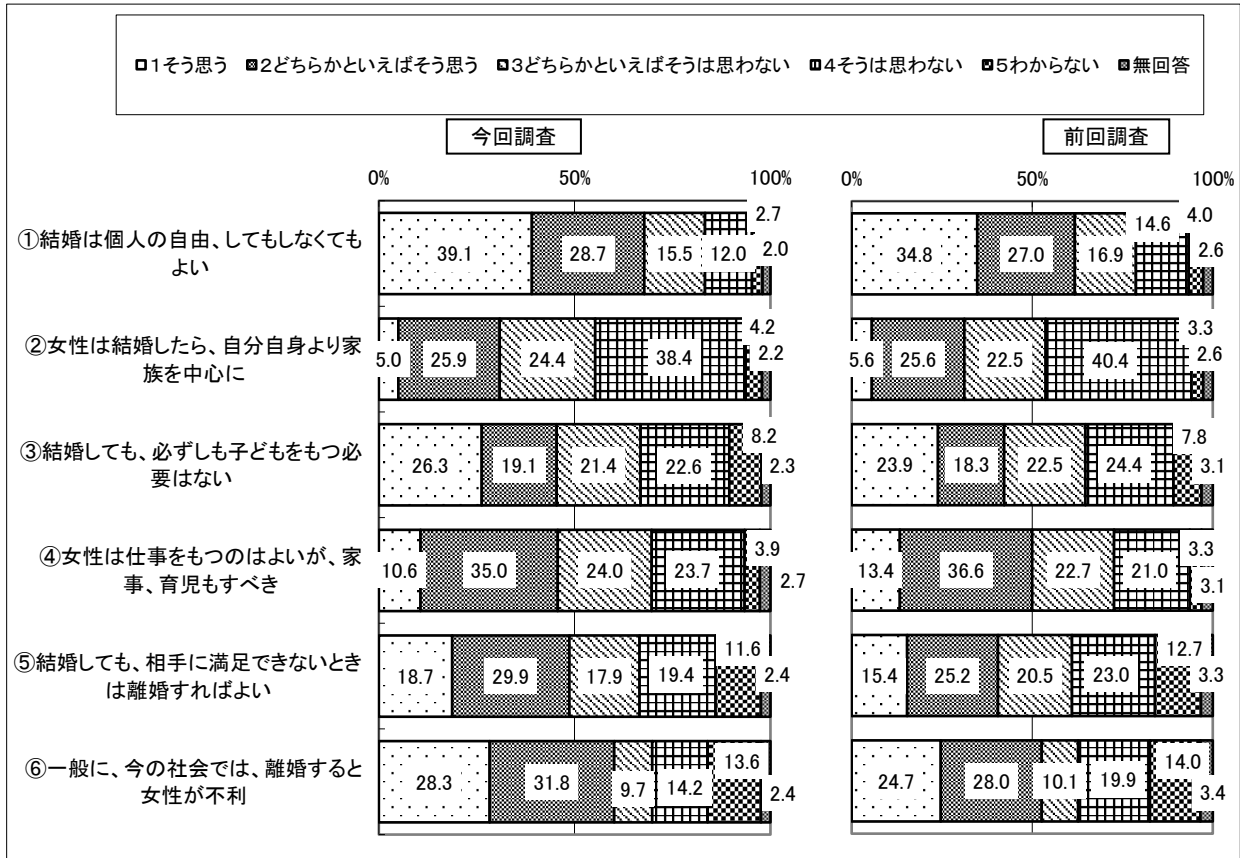
③女性・年齢別構成



問10 次のうち、あなたのご意見に近いものはどれでしょうか。次の①～⑥の項目ごとに1～5の中から1つずつ選んで番号に○をしてください。
(N=742 男性=363 女性=374 その他=0 性別無回答=5)

「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答したものについて、前回調査と比較して最も多く増加したのは「結婚しても、相手に満足できないときは離婚すればよい」(48.6%)であり、前回調査(40.6%)より8.0ポイント増加した。次いで増加したのは「一般に、今の社会では、離婚すると女性が不利」(60.1%)で前回調査(52.7%)より7.4ポイント増加した。「結婚しても、必ずしも子どもをもつ必要はない」(45.4%)は、前回調査(42.2%)より3.2ポイント増加した。一方、減少したのは「女性は仕事をつのはよいが、家事、育児もすべき」(45.6%)であり、前回調査(50.0%)より4.4ポイント減少した。

①合計(総数)の経年推移(今回調査=742 前回調査=644)



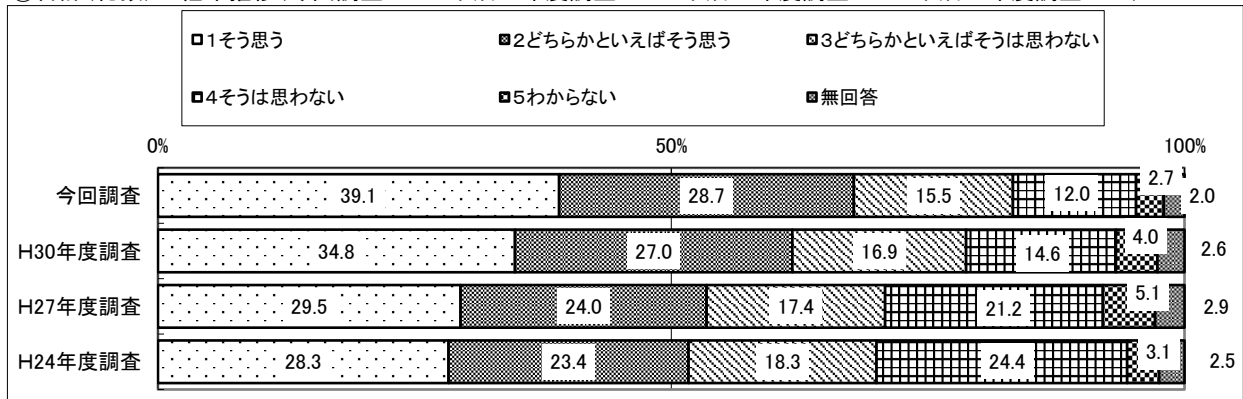
※以下、各テーマごとに行った分析では、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答したものを『そう思う』、「どちらかといえばそう思わない」または「そうは思わない」と回答したものを『そうは思わない』と表記する。

問10(1)結婚について

設問「①結婚は個人の自由であるから、人は結婚してもしなくてもどちらでもよい」

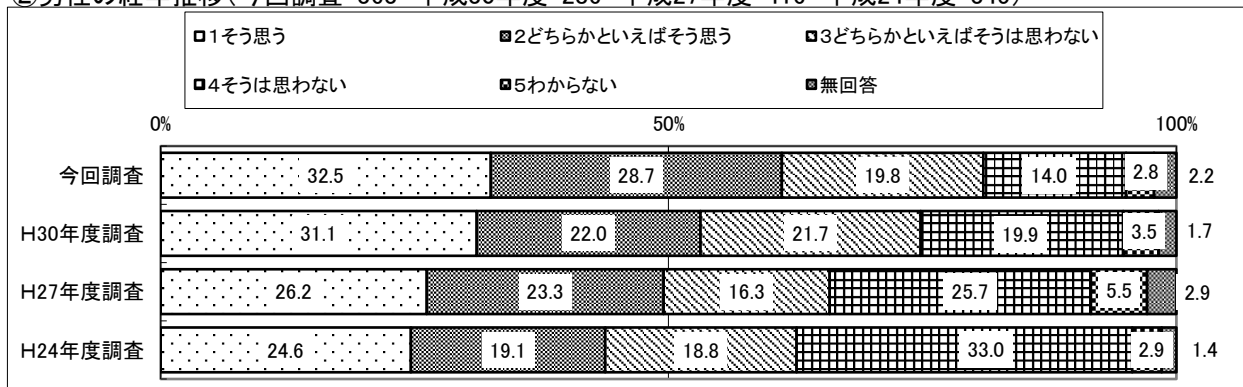
人は結婚してもしなくてもどちらでもよいに対して「そう思う」(39.1%)または「どちらかというと思う」(28.7%) (以下、『そう思う』)と回答したものは67.8%であり、前回調査(61.8%)より6.0ポイント増加した。調査回数を重ねるごとに増加しており、増加傾向にある。「そうは思わない」(12.0%)または「どちらかというと思うは思わない」(15.5%) (以下、『そうは思わない』)と回答したものは27.5%であり、前回調査(31.5%)より4.0ポイント減少し

①合計(総数)の経年推移(今回調査=737 平成30年度調査=641 平成27年度調査=943 平成24年度調査=770)

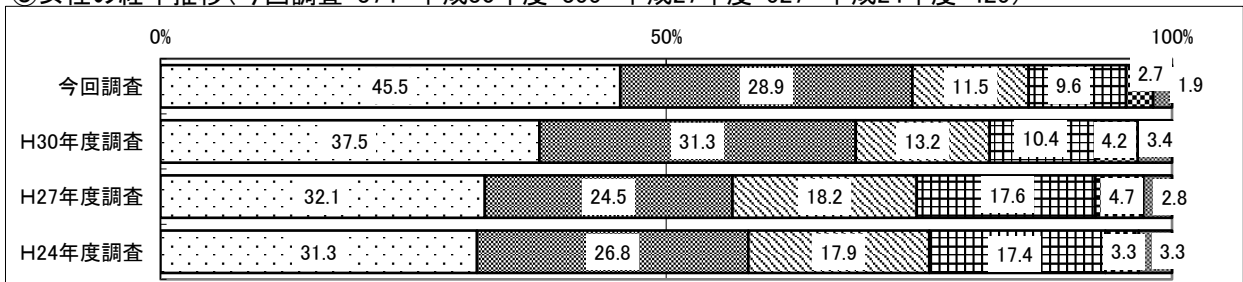


男女別にみると、男性で『そう思う』と回答したものは61.2%であり、前回調査(53.1%)より8.1ポイント増加し6割を超えた。女性で『そう思う』と回答したものは74.4%であり、前回調査(68.8%)より5.6ポイントと増加し、7割を超えた。男性より女性の方が『そう思う』と回答したものが多く傾向は前年調査と同様である。

②男性の経年推移(今回調査=363 平成30年度=286 平成27年度=416 平成24年度=345)



③女性の経年推移(今回調査=374 平成30年度=355 平成27年度=527 平成24年度=425)



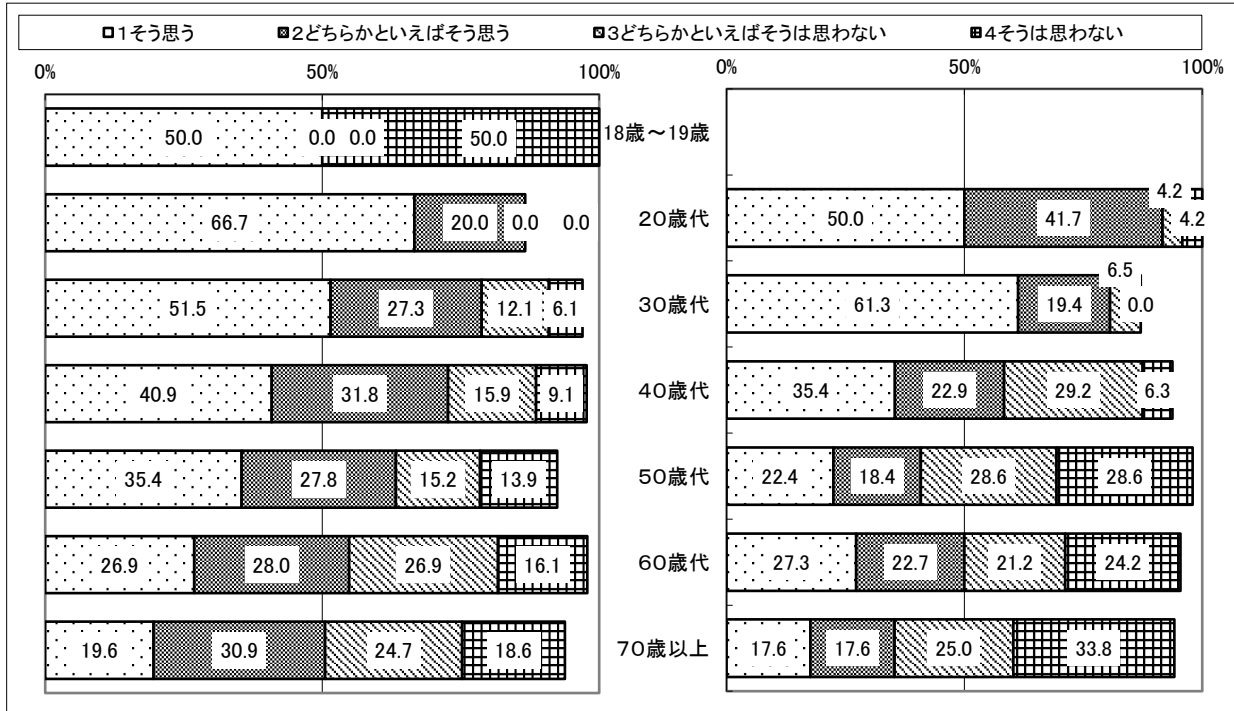
年代別・男女別にみると、『そう思う』と回答したものの最も高い年代は、男性では「20歳代」(86.7%)、女性では「18～19歳」・「20歳代」(それぞれ100.0%)である。

男女ともに若年層になるほど『そう思う』の割合が高くなる傾向になる。

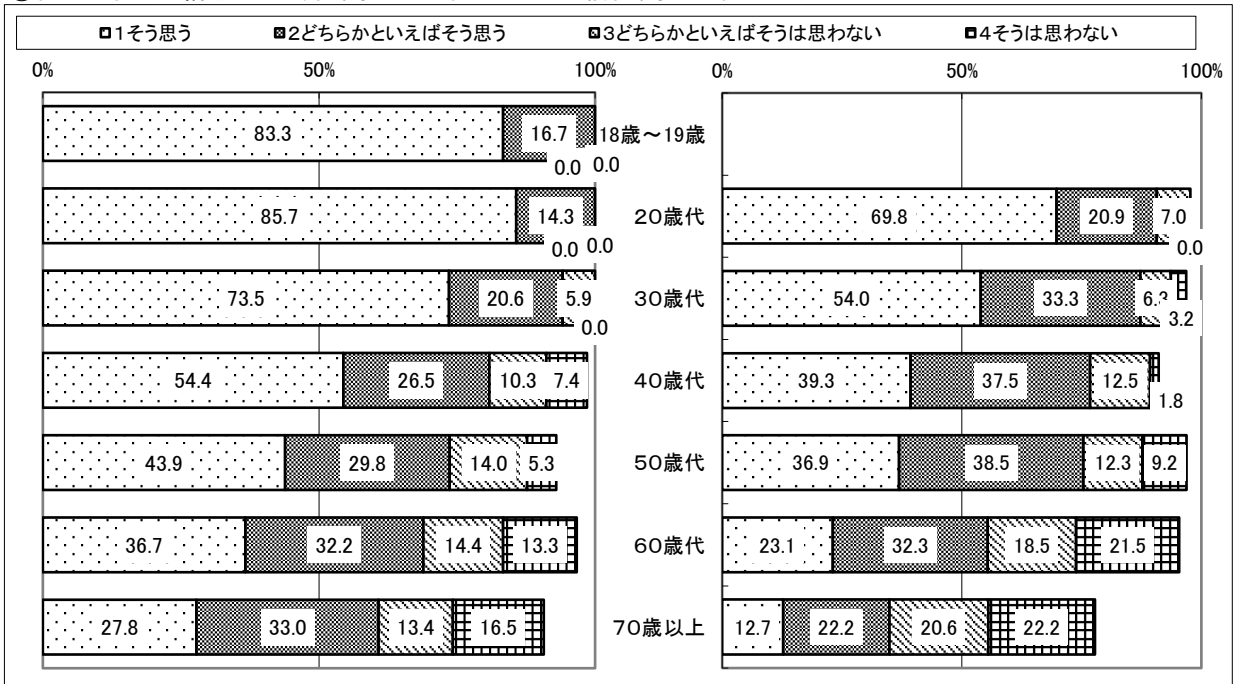
前回調査と比較すると『そう思う』は、男性では「50歳代」(63.2%)は前回調査(40.8%)より22.4ポイント大きく増加している。女性では「70歳以上」(60.8%)は前回調査(34.9%)より25.9ポイントと大きく増加している。

『そう思う』と回答したもので、男女差の最も大きい年代は「30歳代」であり、男性(78.8%)と女性(94.1%)では、女性が15.3ポイント高い。

④性別・年代別構成(左:今回調査の男性=363 右:前回調査男性=286)



⑤性別・年代別構成(左:今回調査の女性=374 右:前回調査女性=355)

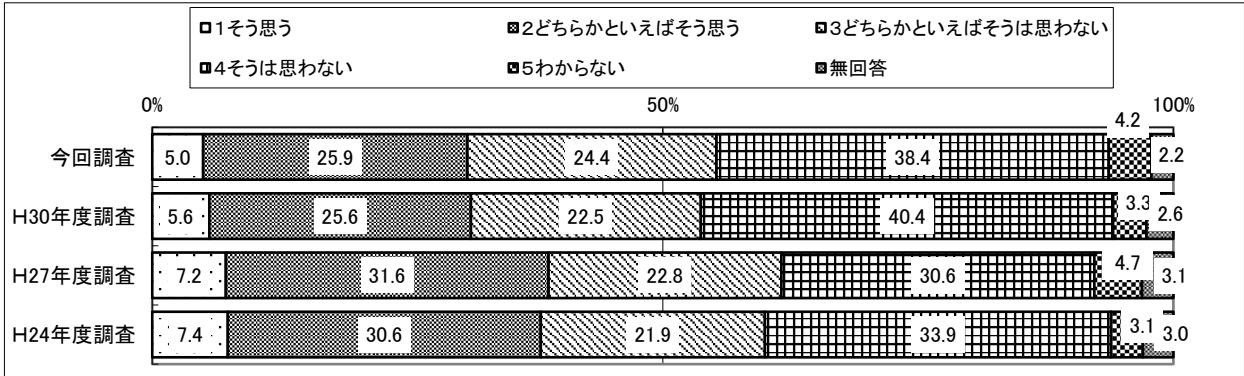


問10(2)家庭について

設問「②女性は結婚したら、自分自身のことより夫や子どもなど、家族を中心に考えて生活したほうがよい」

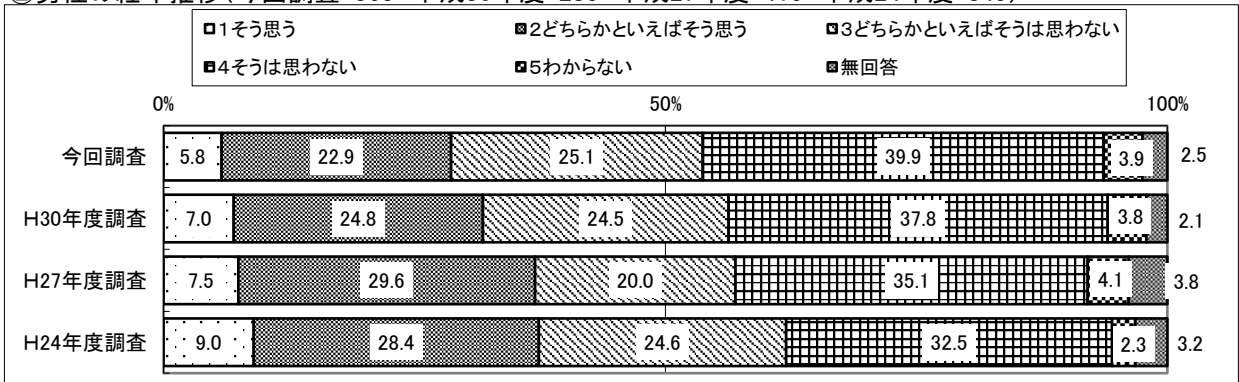
女性は結婚したら、自分自身のことより家族を中心に考えて生活したほうがよいに対して『そう思う』と回答したものは30.9%であり、前回調査(31.2%)より0.3ポイント減少した。
『そうは思わない』と回答したものは62.8%であり、前回調査(62.9%)より0.1ポイント微減とした。

①合計(総数)の経年推移(今回調査=737 平成30年度調査=641 平成27年度調査=943 平成24年度調査=770)

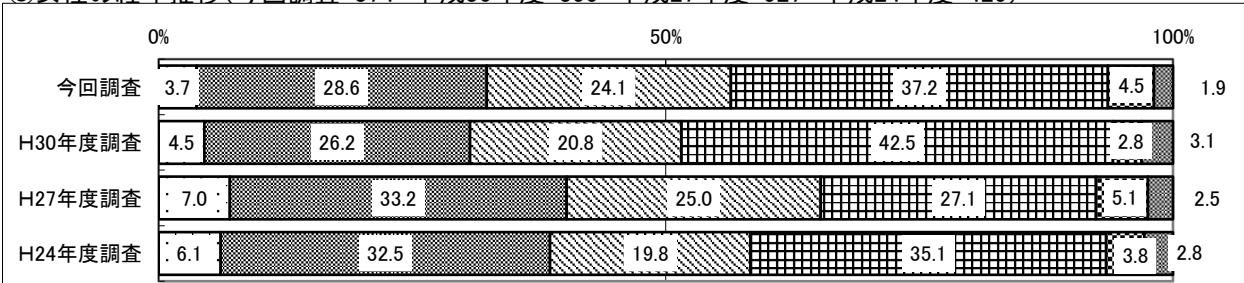


男女別にみると、男性で『そう思う』と回答したものは28.7%であり、前回調査(31.8%)より3.1ポイント減少している。調査回数を重ねるごとに減少傾向にある。
女性で『そう思う』と回答したものは32.3%であり、前回調査(30.7%)より1.6ポイント増加している。

②男性の経年推移(今回調査=363 平成30年度=286 平成27年度=416 平成24年度=345)



③女性の経年推移(今回調査=374 平成30年度=355 平成27年度=527 平成24年度=425)

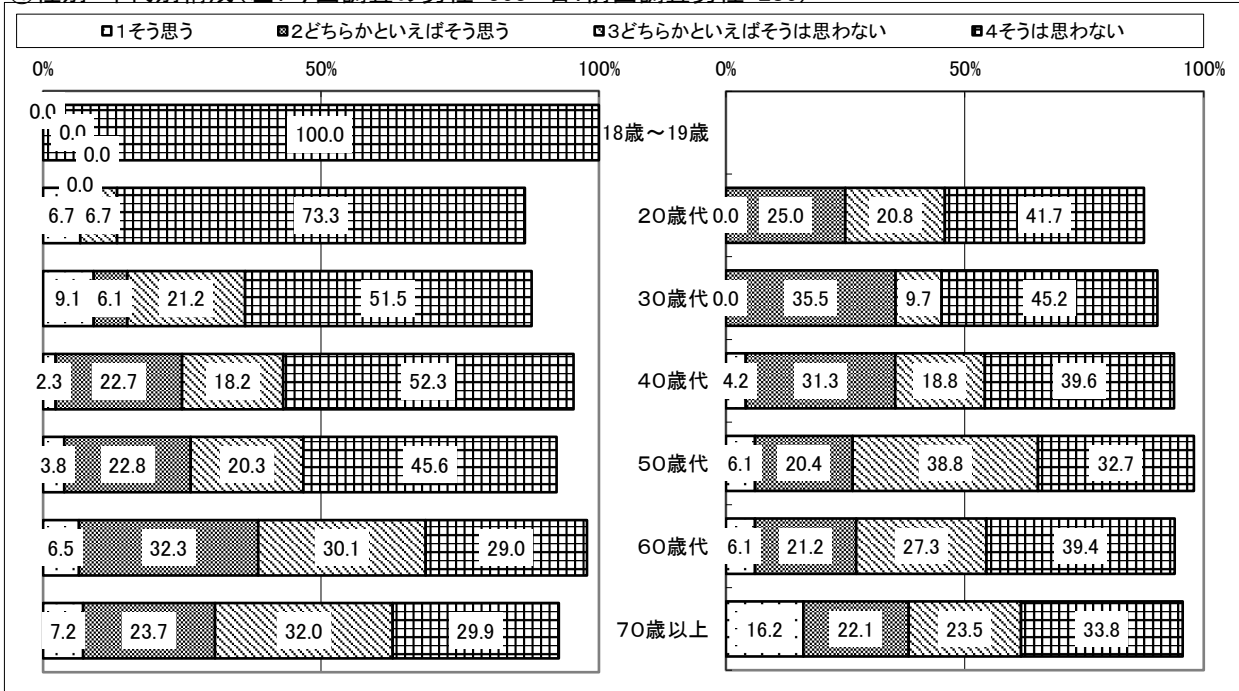


年代別・男女別にみると、『そう思う』と回答したものの最も高い年代は、男性では「60歳代」(38.8%)、女性では「70歳以上」(42.2%)である。

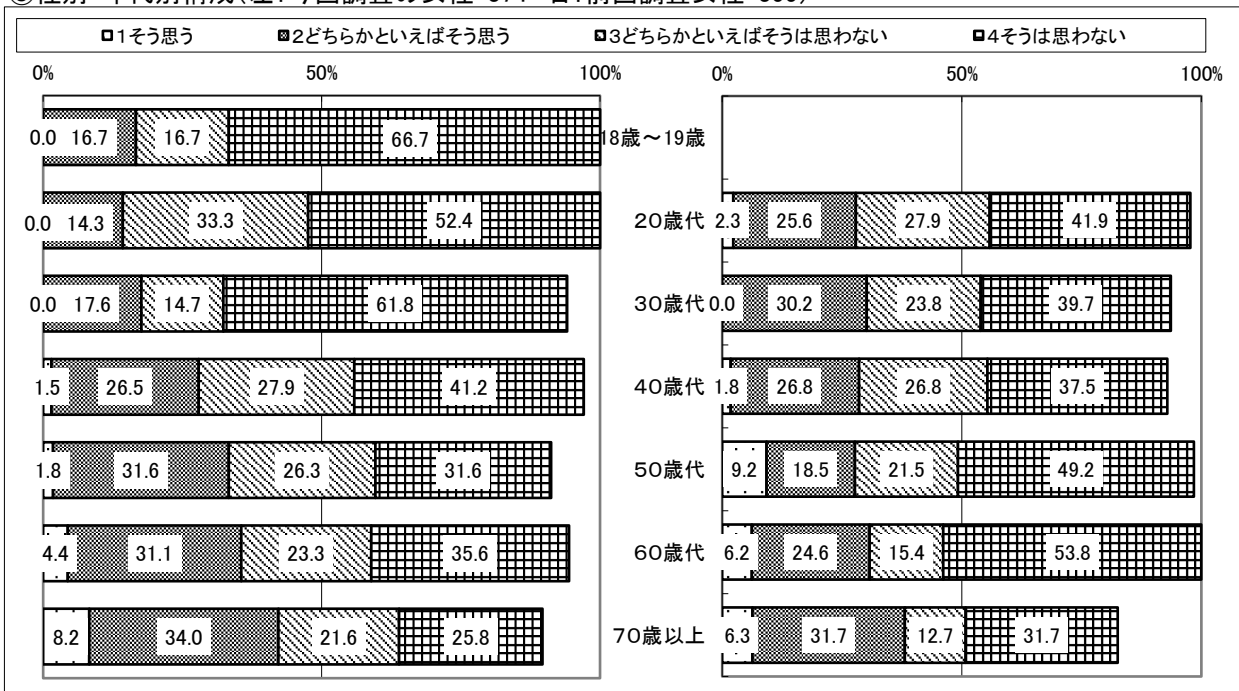
前回調査と比較すると『そう思う』は、男性では「30歳代」(15.2%)は前回調査(35.5%)より20.3ポイント大きく減少している。女性では「20歳代」(14.3%)は前回調査(27.9%)より13.6ポイント減少している。

『そう思う』と回答したもので、男女差の最も大きい年代は「70歳以上」であり、男性(30.9%)と女性(42.2%)では、女性が11.3ポイント高い。

④性別・年代別構成(左:今回調査の男性=363 右:前回調査男性=286)



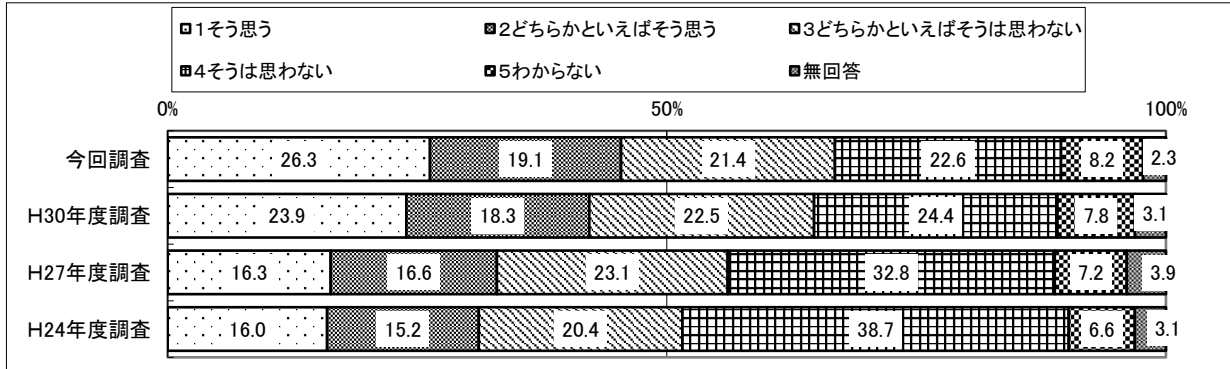
⑤性別・年代別構成(左:今回調査の女性=374 右:前回調査女性=355)



設問「③結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」

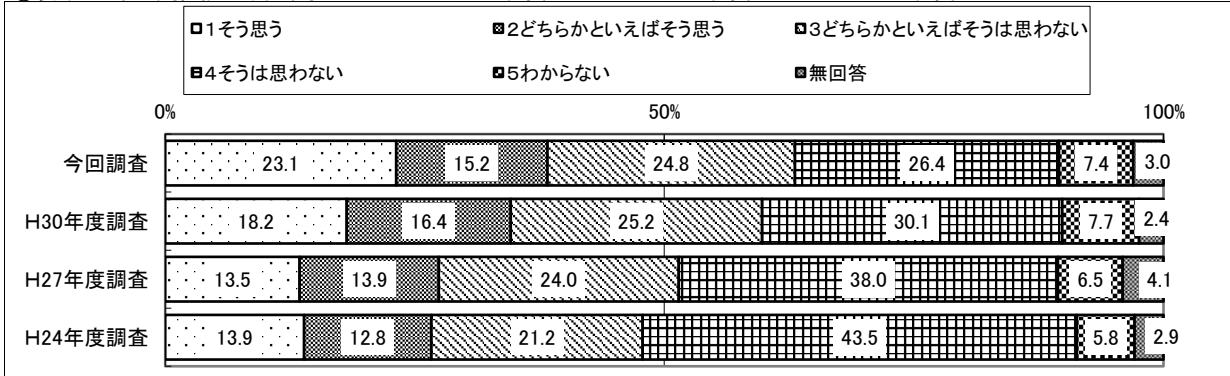
結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はないに対して『そう思う』と回答したものは45.4%であり、前回調査(42.2%)より3.2ポイント増加した。
また、『そうは思わない』と回答したものは44.0%であり、前回調査(46.9%)より2.9ポイント減少している。
調査回数を重ねるごとに『そう思う』は増加し、『そうは思わない』は減少している。

①合計(総数)の経年推移(今回調査=737 平成30年度調査=641 平成27年度調査=943 平成24年度調査=770)

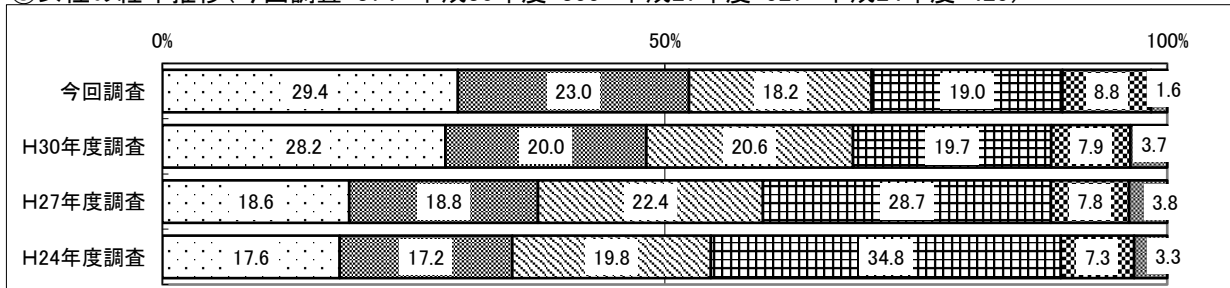


男女別にみると、男性で『そう思う』と回答したものは38.3%であり、前回調査(34.6%)より3.7ポイント増加している。
女性で『そう思う』と回答したものは52.4%であり、前回調査(48.2%)より4.2ポイント増加している。また、女性で『そう思う』と回答したものは、調査回数を重ねるごとに増加している。全ての調査年度においても、男性より女性の方の割合が高い。

②男性の経年推移(今回調査=363 平成30年度=286 平成27年度=416 平成24年度=345)



③女性の経年推移(今回調査=374 平成30年度=355 平成27年度=527 平成24年度=425)

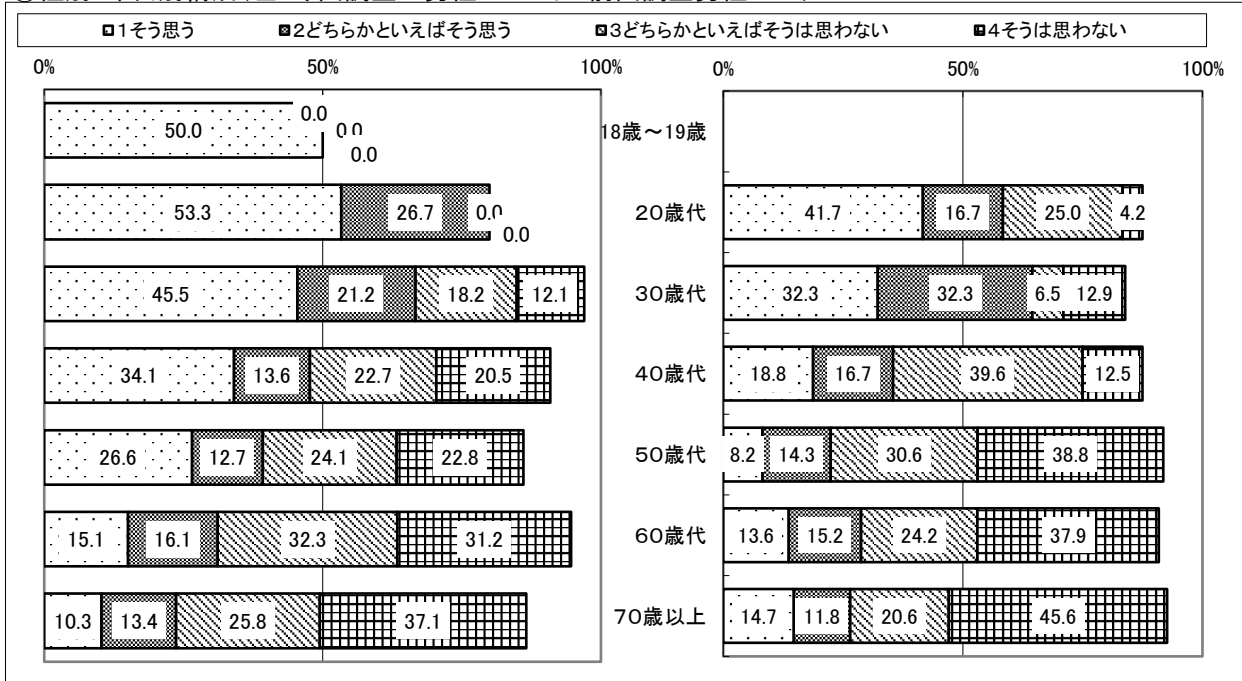


年代別・男女別にみると、『そう思う』と回答したものの最も高い年代は、男女共に「20歳代」で男性（80.0%）、女性（95.2%）である。

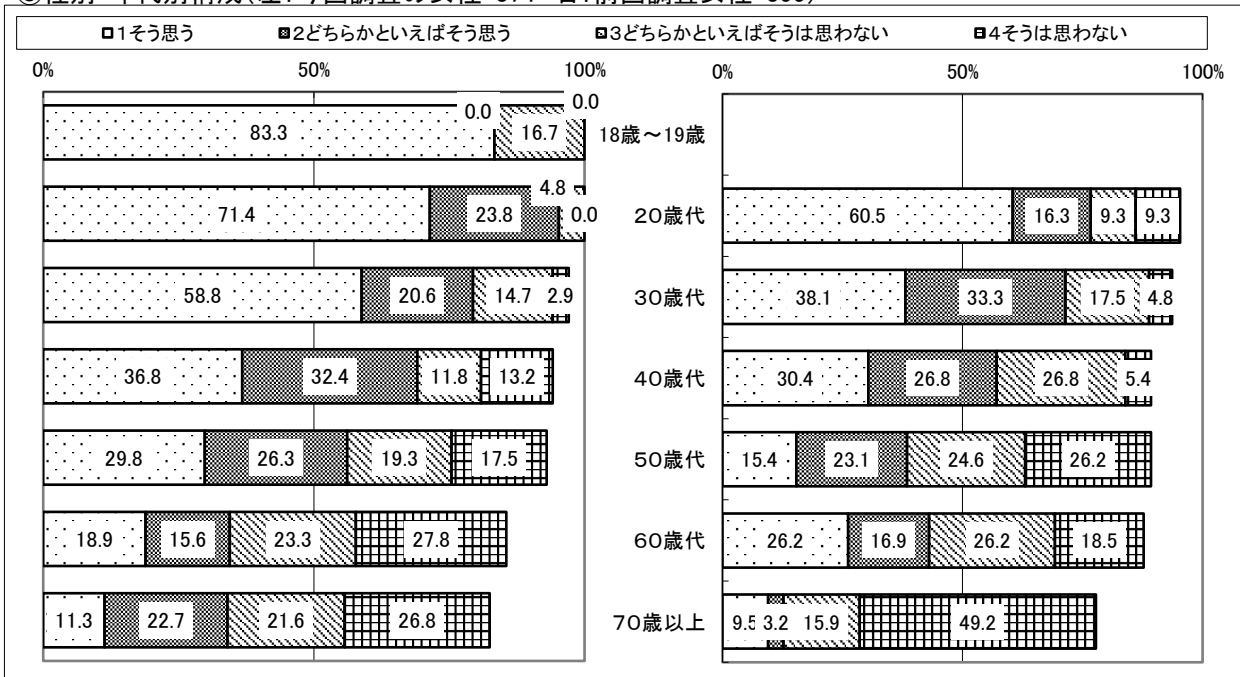
前回調査と比較すると『そう思う』は、男性では「20歳代」（80.0%）は前回調査（58.4%）より21.6ポイント減少している。女性では「70歳以上」（34.0%）は前回調査（12.7%）より21.3ポイント大きく増加している。

『そう思う』と回答したもので、男女差の最も大きい年代は「70歳以上」であり、男性（30.9%）と女性（42.2%）では、女性が11.3ポイント高い。

④性別・年代別構成(左:今回調査の男性=363 右:前回調査男性=286)



⑤性別・年代別構成(左:今回調査の女性=374 右:前回調査女性=355)

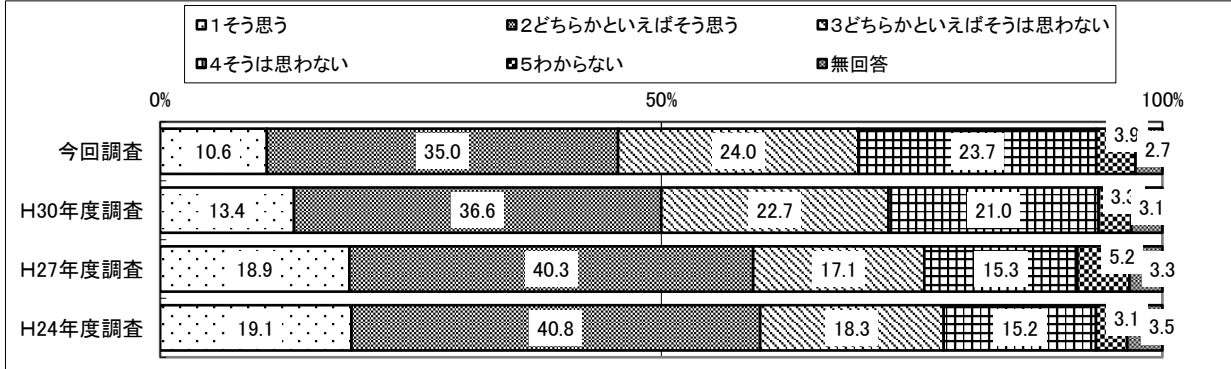


設問「④女性は仕事をもつのはよいが、家事、育児もきちんとすべきである」

女性は仕事をもつのはよいが、家事、育児もすべきであるに対して『そう思う』と回答したものは45.6%であり、前回調査(50.0%)より4.4ポイント減少し、調査回数を重ねるごとに減少しており、減少傾向で推移している。

『そうは思わない』と回答したものは47.7%であり、前回調査(43.7%)より4.0ポイント増加している。

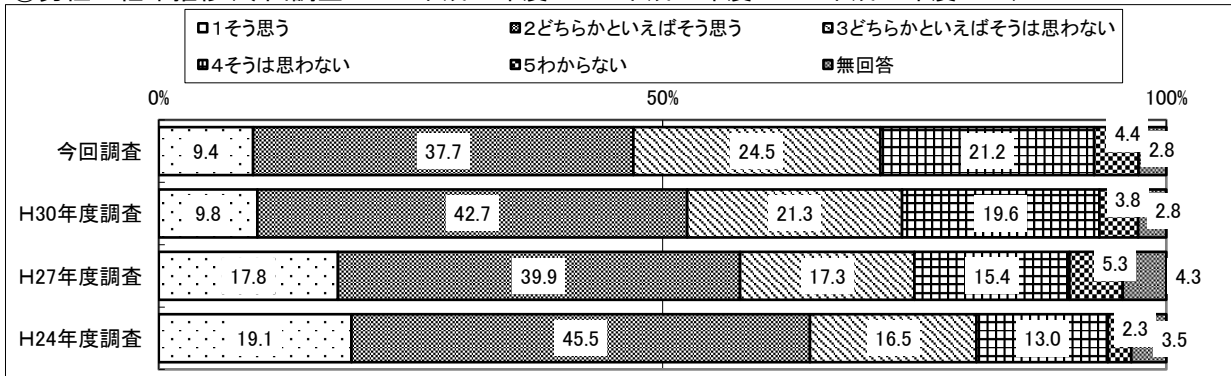
①合計(総数)の経年推移(今回調査=737 平成30年度調査=641 平成27年度調査=943 平成24年度調査=770)



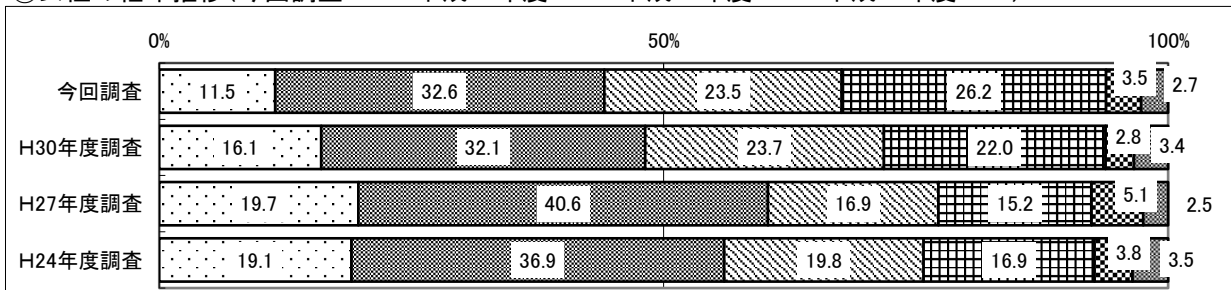
男女別にみると、男性で『そう思う』と回答したものは47.1%であり、前回調査(52.5%)より5.4ポイント減少している。

女性で『そう思う』と回答したものは44.1%であり、前回調査(48.2%)より4.1ポイント減少している。

②男性の経年推移(今回調査=363 平成30年度=286 平成27年度=416 平成24年度=345)

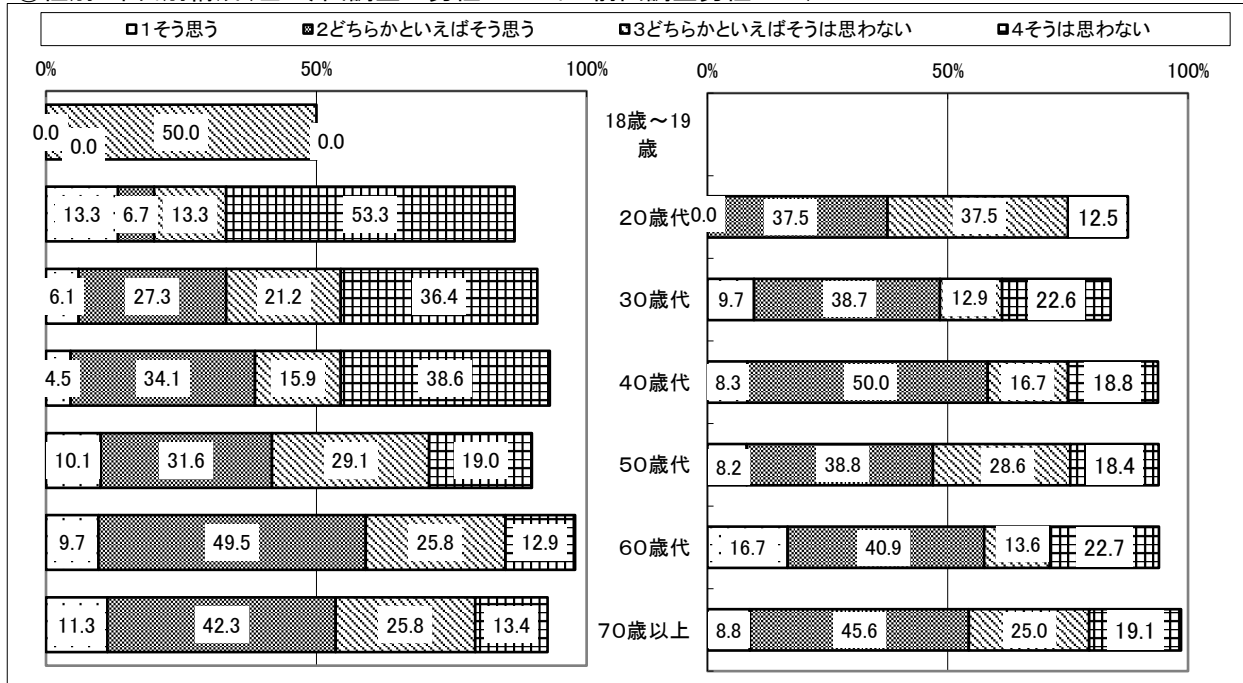


③女性の経年推移(今回調査=374 平成30年度=355 平成27年度=527 平成24年度=425)

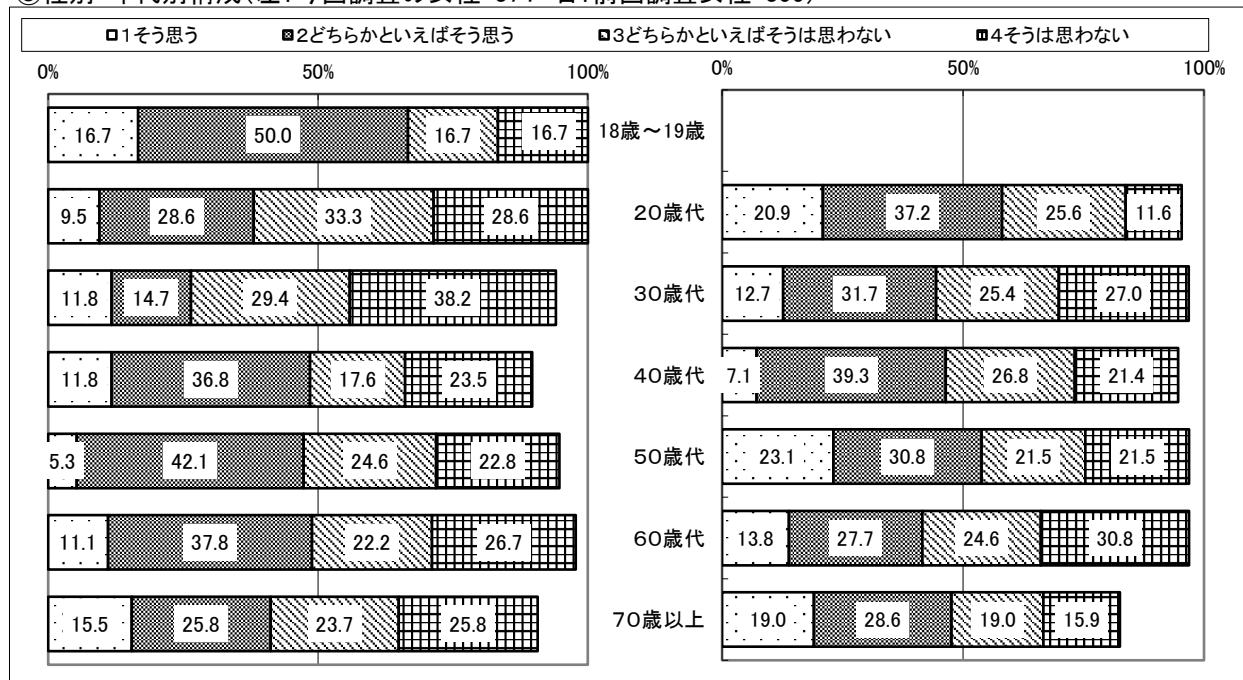


年代別・男女別にみると、『そう思う』と回答したものの最も高い年代は、男性では「60歳代」(59.2%)、女性では「18～19歳」(66.7%)である。
 前回調査と比較すると『そう思う』は、男性では「40歳代」(38.6%)は前回調査(58.3%)より19.7ポイント減少している。女性では「20歳代」(38.1%)は前回調査(58.1%)より20.0ポイント増加している。
 『そう思う』と回答したもので、男女差の最も大きい年代は「18～19歳」であり、男性(0.0%)と女性(66.7%)では、女性が66.7ポイント高い。

④性別・年代別構成(左:今回調査の男性=363 右:前回調査男性=286)



⑤性別・年代別構成(左:今回調査の女性=374 右:前回調査女性=355)



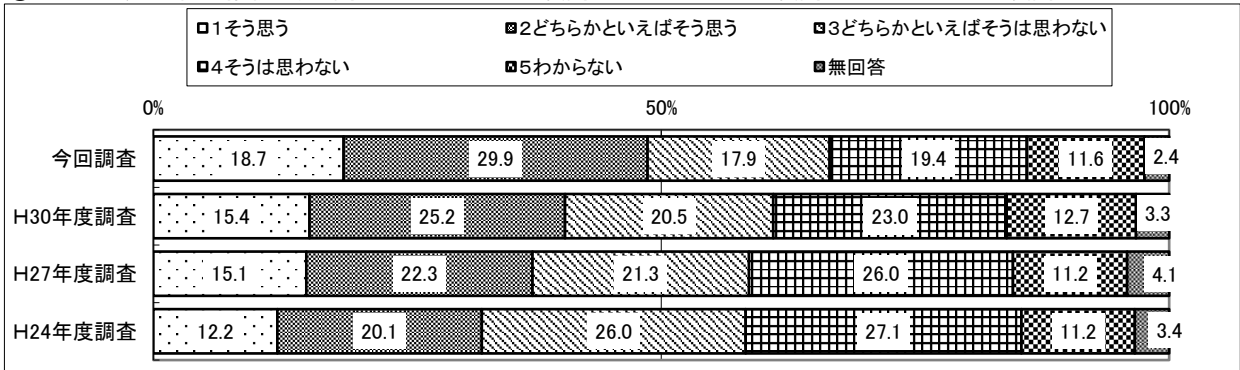
問10(3)離婚について

設問「⑤結婚しても、相手に満足できないときは離婚すればよい」

結婚しても、相手に満足できないときは離婚すればよいに対して『そう思う』と回答したものは48.6%であり、前回調査(40.6%)より8.0ポイント増加した。

『そうは思わない』と回答したものは37.3%であり、前回調査(43.5%)より6.2ポイント減少した。

①合計(総数)の経年推移(今回調査=737 平成30年度調査=641 平成27年度調査=943 平成24年度調査=770)

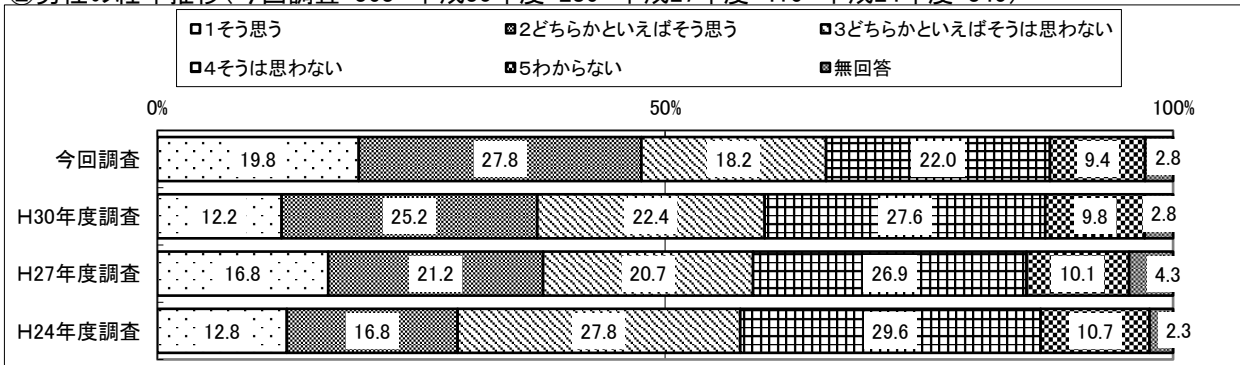


男女別にみると、男性で『そう思う』と回答したものは47.6%であり、前回調査(37.4%)より10.2ポイント増加している。

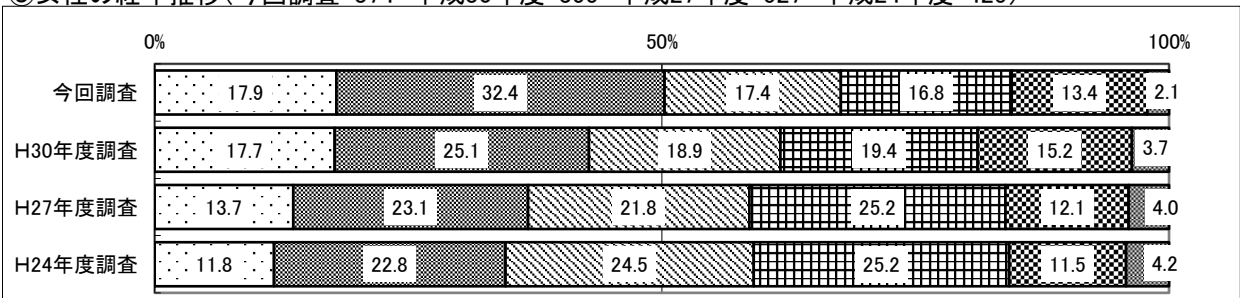
女性で『そう思う』と回答したものは50.3%であり、前回調査(42.8%)より7.5ポイント増加している。

男性(47.6%)と女性(50.3%)では、女性の方が2.7ポイント高い。

②男性の経年推移(今回調査=363 平成30年度=286 平成27年度=416 平成24年度=345)

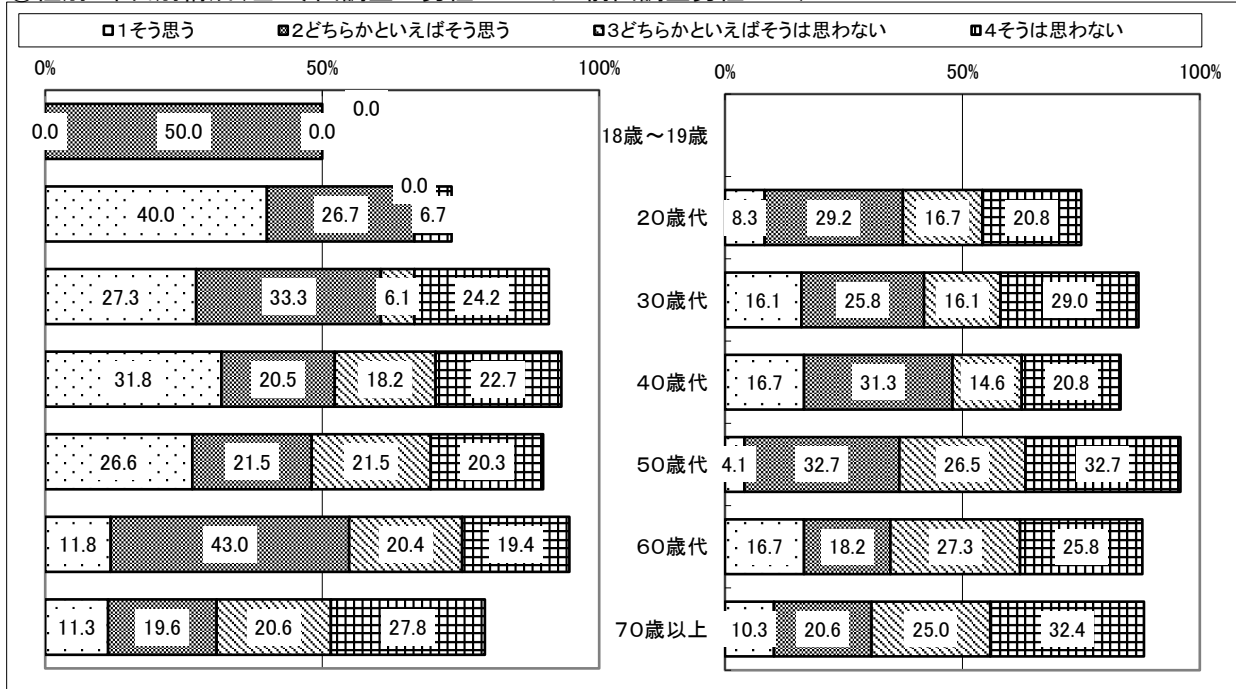


③女性の経年推移(今回調査=374 平成30年度=355 平成27年度=527 平成24年度=425)

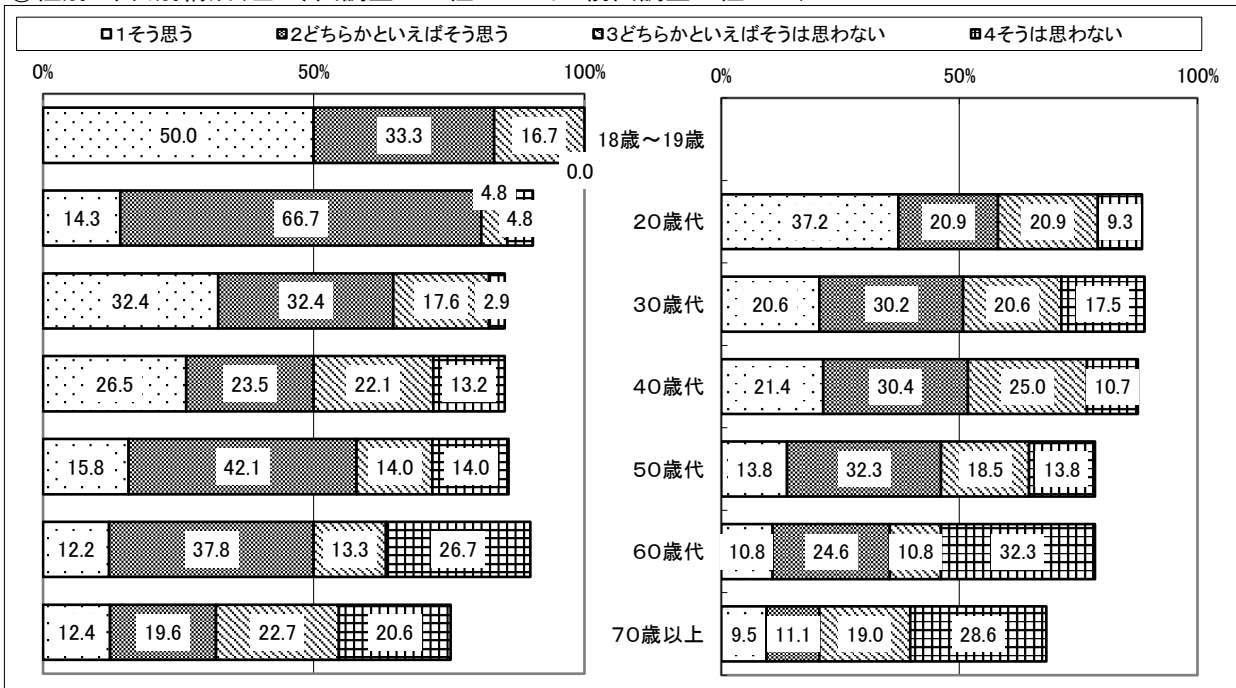


年代別・男女別にみると、『そう思う』と回答したものの最も高い年代は、男性では「20歳代」(66.7%)、女性では「18～19歳」(83.3%)である。
 前回調査と比較すると『そう思う』は、男性では「20歳代」(66.7%)は前回調査(37.5%)より29.2ポイント増加している。女性では「20歳代」(81.0%)は前回調査(58.1%)より22.9ポイント増加している。
 『そう思う』と回答したもので、男女差の最も大きい年代は「18～19歳」であり、男性(50.0%)と女性(83.3%)では、女性が33.3ポイント高い。

④性別・年代別構成(左:今回調査の男性=363 右:前回調査男性=286)



⑤性別・年代別構成(左:今回調査の女性=374 右:前回調査女性=355)

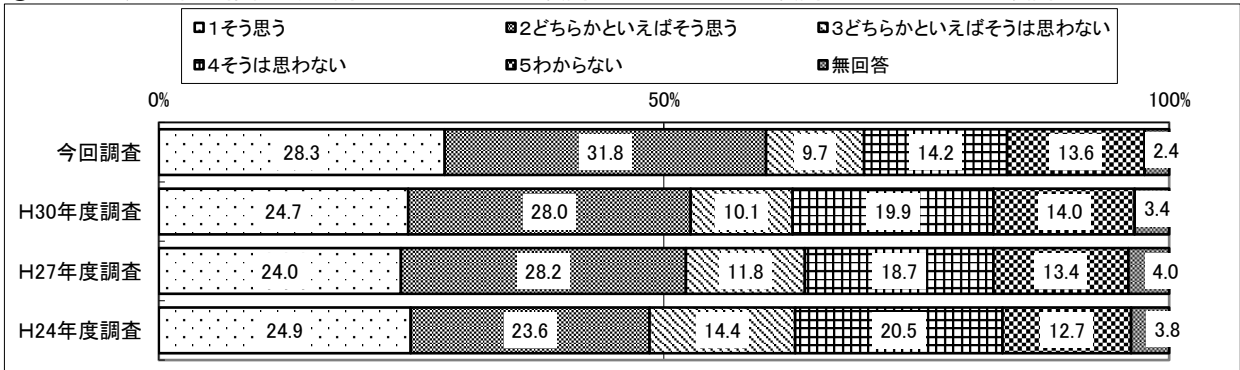


設問「⑥一般に、今の社会では、離婚すると女性の方が不利である」

離婚すると女性の方が不利であるかに対して『そう思う』と回答したものは60.1%であり、前回調査(52.7%)より7.4ポイント増加している。

『そうは思わない』と回答したものは23.9%であり、前回調査(30.0%)より6.1ポイント減少している。

①合計(総数)の経年推移(今回調査=737 平成30年度調査=641 平成27年度調査=943 平成24年度調査=770)

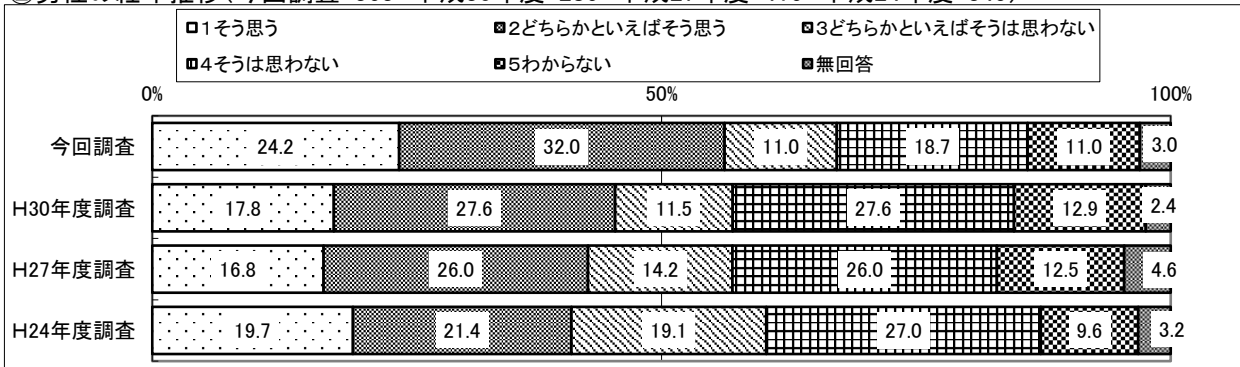


男女別にみると、男性で『そう思う』と回答したものは56.2%であり、前回調査(45.4%)より10.8ポイント増加している。

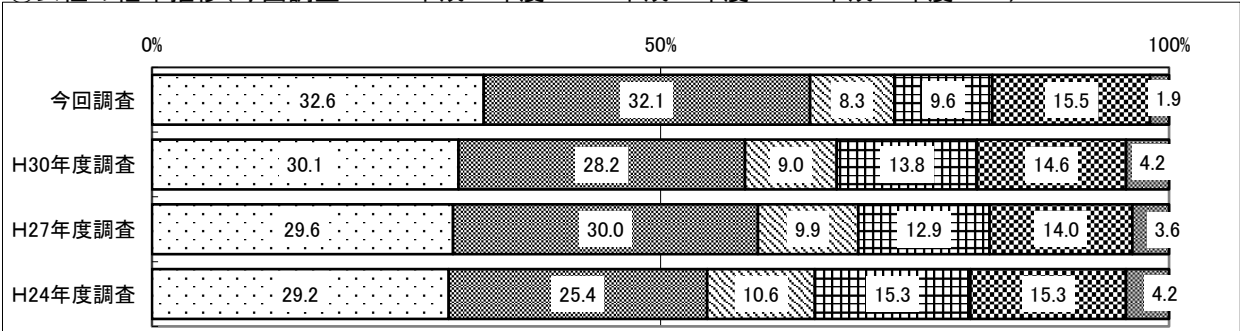
女性で『そう思う』と回答したものは64.7%であり、前回調査(58.3%)より6.4ポイント増加している。

『そう思う』と回答したものは、男性より女性の方が多く、この傾向はこれまでの調査と同じである。

②男性の経年推移(今回調査=363 平成30年度=286 平成27年度=416 平成24年度=345)



③女性の経年推移(今回調査=374 平成30年度=355 平成27年度=527 平成24年度=425)

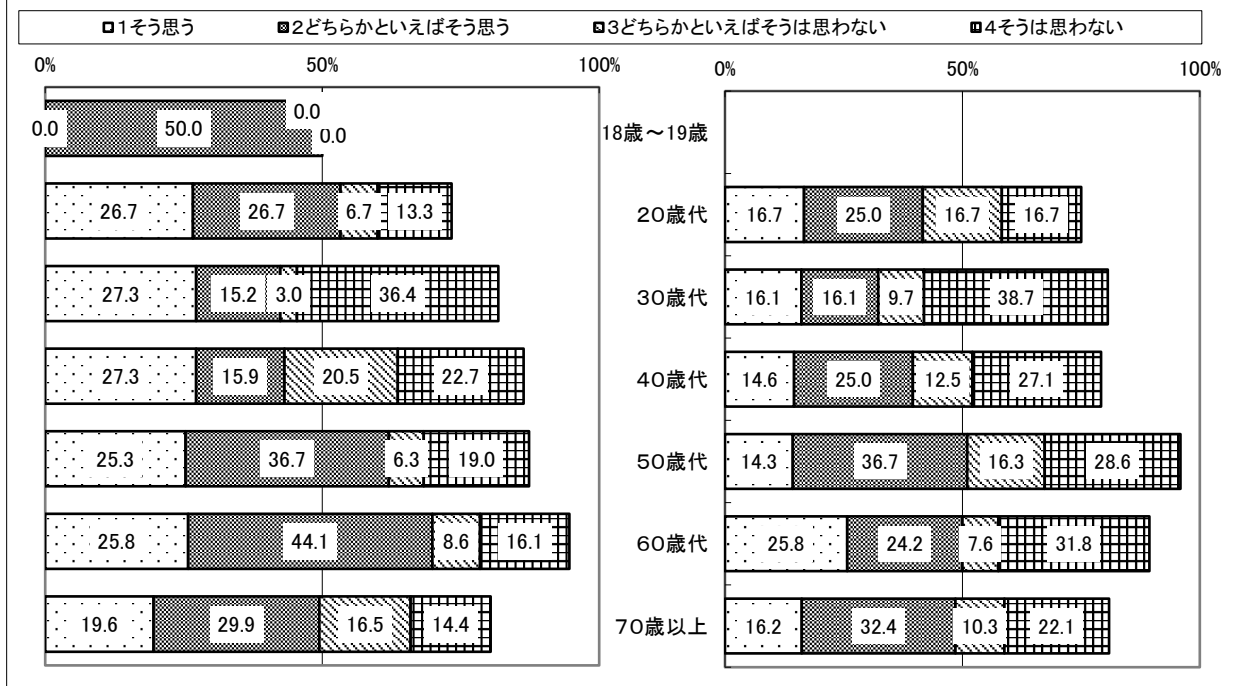


年代別・男女別にみると、『そう思う』と回答したものの最も高い年代は、男性では「60歳代」(69.9%)、女性では「40歳代」(75.0%)である。

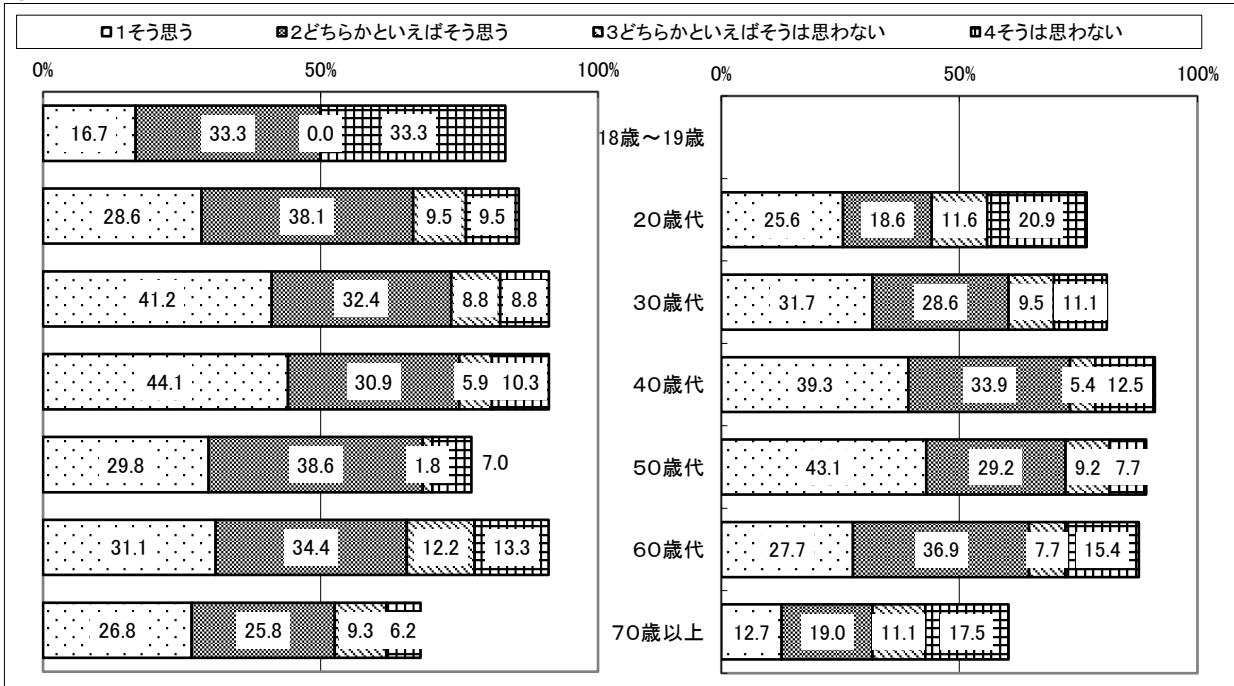
前回調査と比較すると『そう思う』は、男性では「60歳代」(69.9%)は前回調査(50.0%)より19.9ポイント増加している。女性では「20歳代」(66.7%)は前回調査(44.2%)より22.9ポイント増加している。

『そう思う』と回答したもので、男女差の最も大きい年代は「40歳代」であり、男性(43.2%)と女性(75.0%)では、女性が31.1ポイント、また「30歳代」で、男性(42.5%)と女性(73.6%)と、女性が31.1ポイント高い。

④性別・年代別構成(左:今回調査の男性=363 右:前回調査男性=286)



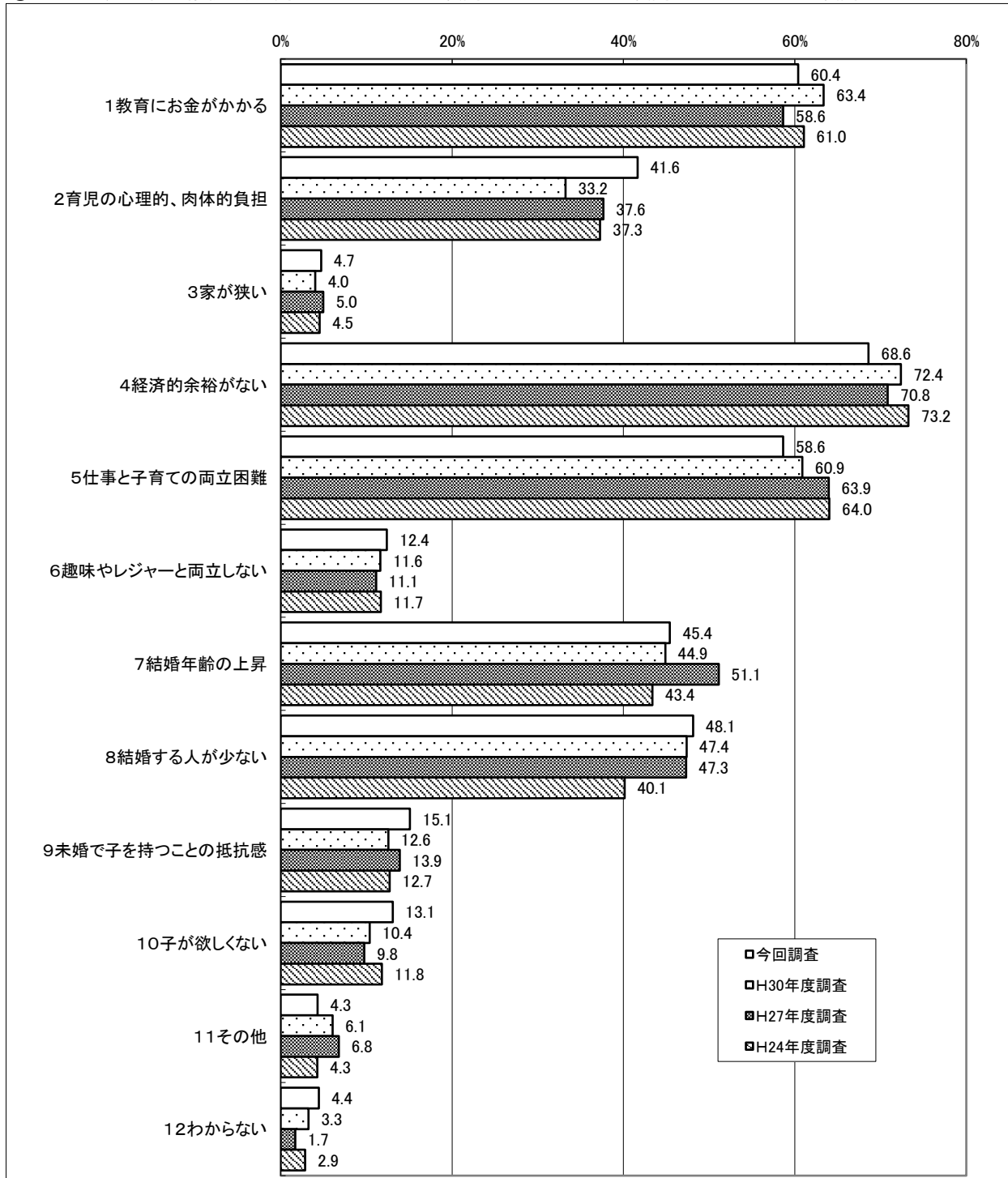
⑤性別・年代別構成(左:今回調査の女性=374 右:前回調査女性=355)



問11 最近、出生数が少なくなっていますが、あなたはその理由は何だと思いませんか。
 次の中からあてはまるものをすべて選んで○をつけてください。
 (N=742 男性=363 女性=374 その他=0 性別無回答=5)

出生数が少なくなっている理由は「経済的余裕がない」(68.6%)の割合が最も高く、次いで「教育にお金がかかる」(60.4%)、「仕事と子育ての両立困難」(58.6%)と続く。
 「経済的余裕がない」(68.6%)は前回調査(72.4%)より3.8ポイント減少、「教育にお金がかかる」(60.4%)は前回調査(63.4%)より3.0ポイント減少した。
 「仕事と子育ての両立困難」(58.6%)は前回調査(60.9%)より2.3ポイント減少しており、この項目は調査回数を重ねるごとに減少している。

①合計(総数)の経年推移(今回調査=737 平成30年度調査=641 平成27年度調査=943 平成24年度調査=770)

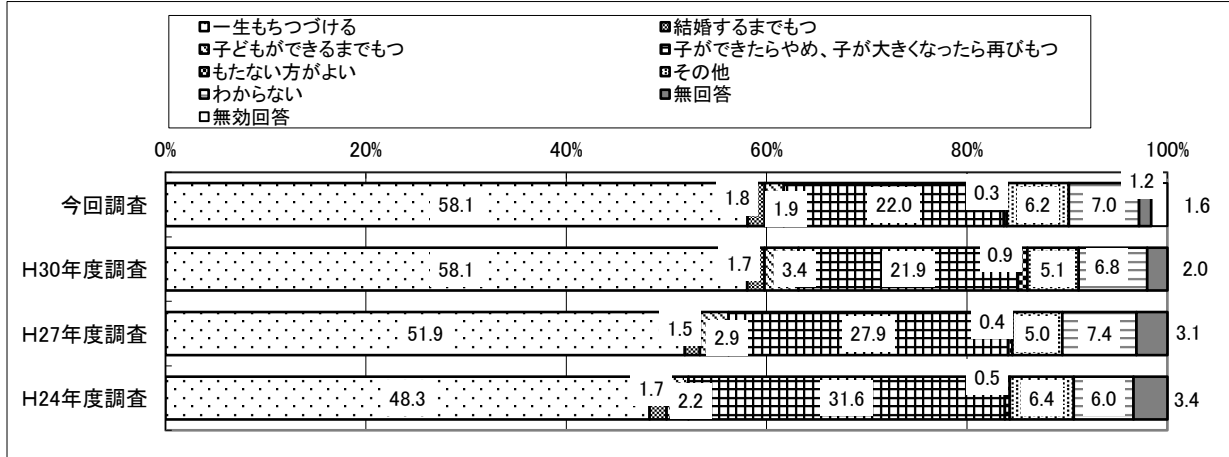


4 職業について

問12 一般的に、女性が職業をもつことについてどう思いますか。次の中から1つ選んで○をつけてください。
 (N=742 男性=363 女性=374 その他=0 性別無回答=5)

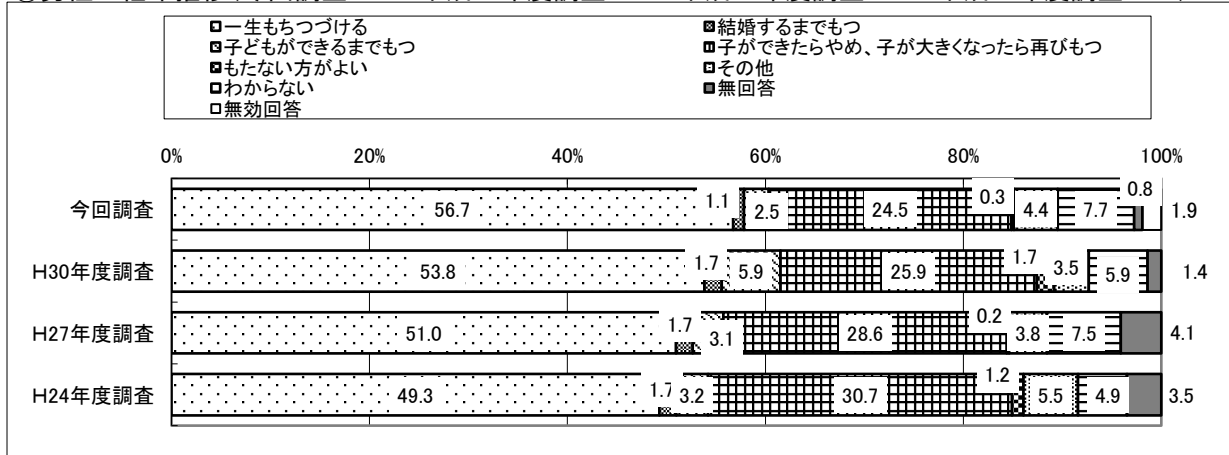
女性が職業をもつことについて、「一生もちつづける」(58.1%)が最も多く、次いで「子ができたらやめ、子が大きくなったら再びもつ」(22.0%)と続く。
 「一生もちつづける」(58.1%)は、前回調査(58.1%)と同割合。「子ができたらやめ、子が大きくなったら再びもつ」(22.0%)は、前回調査(21.9%)より0.1ポイント微増とし、前回調査と同じ傾向を示している。

①合計(総数)の経年推移(今回調査=737 平成30年度調査=641 平成27年度調査=94 平成24年度調査=770)

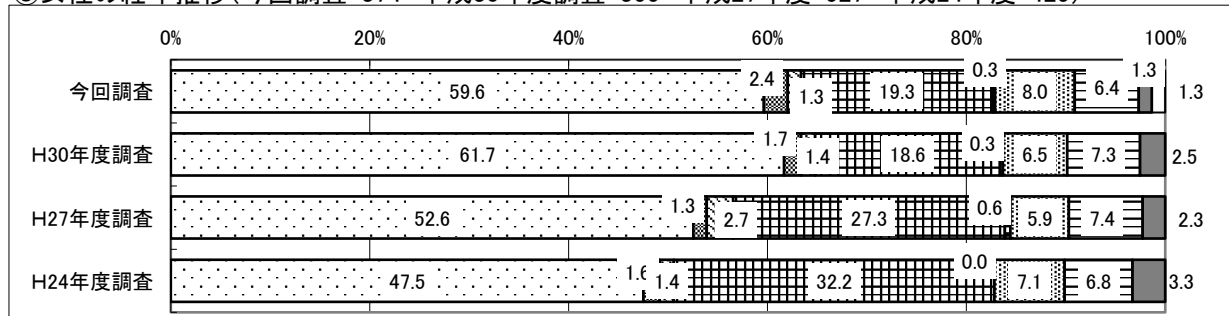


男女別にみると、男女共に「一生もちつづける」の割合が最も高く、男性は56.7%、女性は59.6%である。男女ともに過半数を超えているが、男性(56.7%)より女性(59.6%)の方が2.9ポイント高い。
 男性より女性の方が高い傾向はこれまでの調査と同じである。
 「子ができたらやめ、子が大きくなったら再びもつ」と回答した男性(24.5%)は前回調査(25.9%)より

②男性の経年推移(今回調査=363 平成30年度調査=286 平成27年度調査=416 平成24年度調査=345)

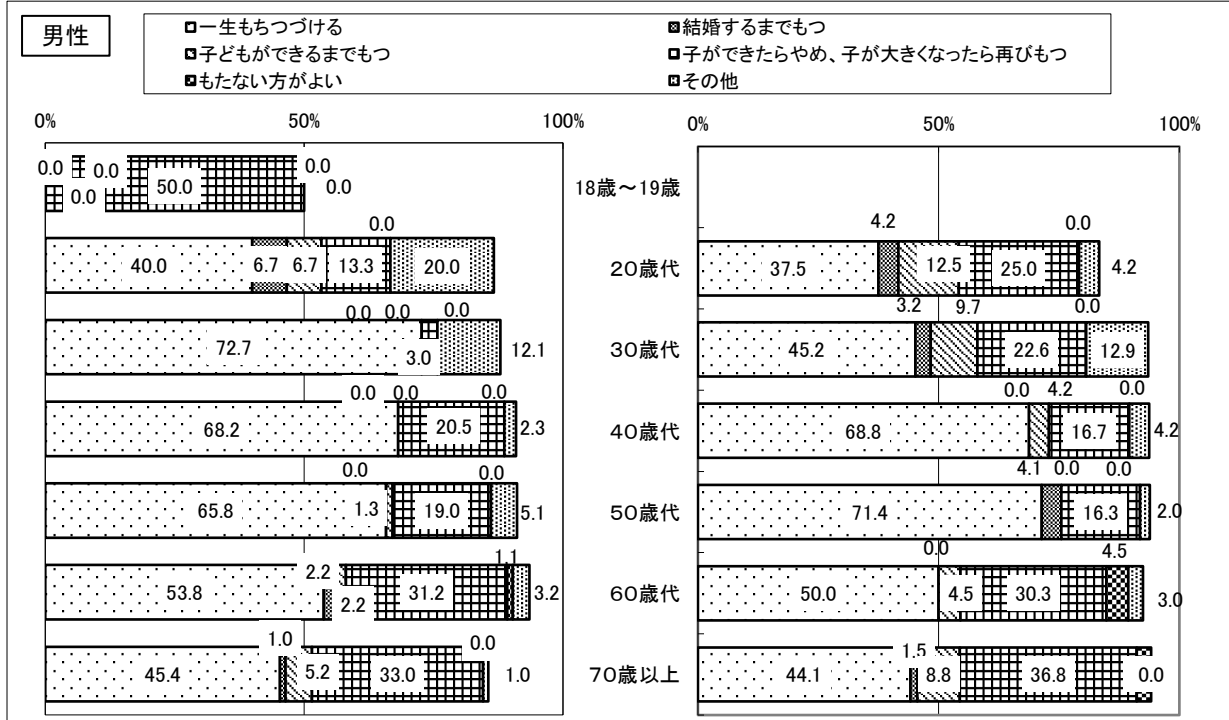


③女性の経年推移(今回調査=374 平成30年度調査=355 平成27年度=527 平成24年度=425)

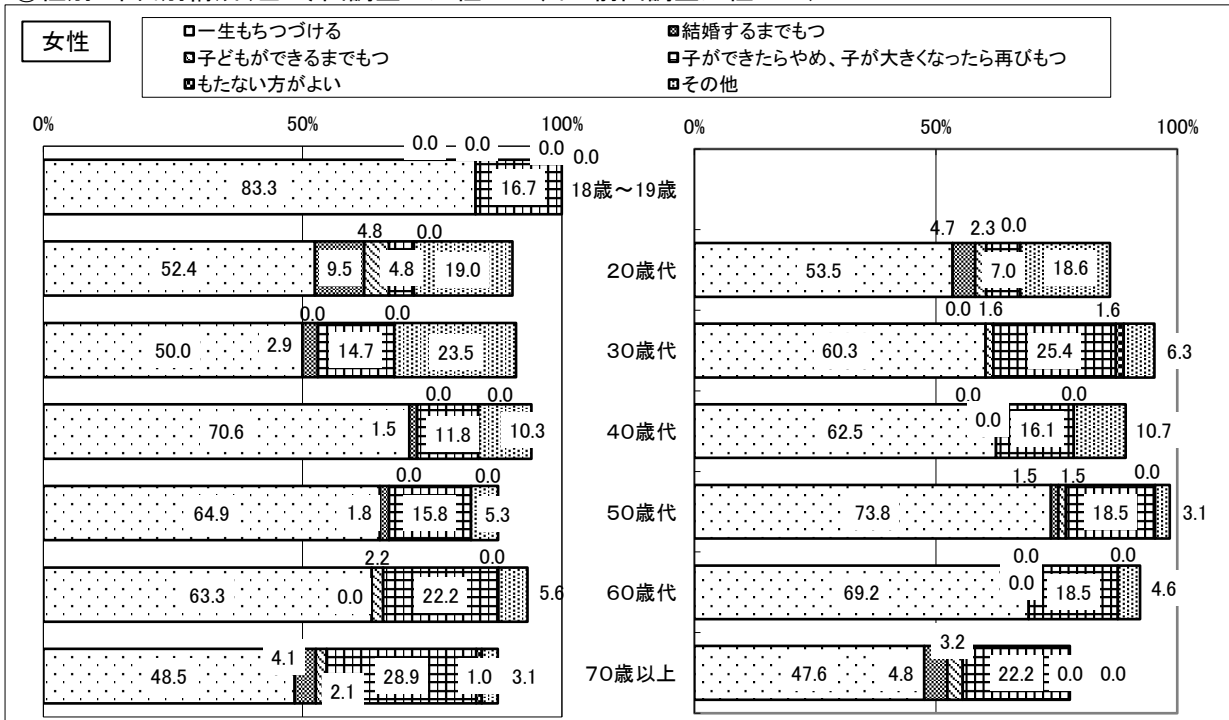


年代別・男女別にみると、男性で「一生もちつづける」と回答したものの割合が最も高い年代は「30歳代」(72.7%)であり、次いで「40歳代」(68.2%)、「50歳代」(65.8%)と続く。
 女性では「18～19歳」(83.3%)が最も高く、次いで「40歳代」(70.6%)、「50歳代」(64.9%)と続く。
 男女の差が最も大きい年代は「18～19歳」であり、男性(0.0%)と女性(83.3%)では、女性が83.3ポイント大きく差がついた。

⑤性別・年代別構成(左:今回調査の男性=363 右:前回調査男性=286)



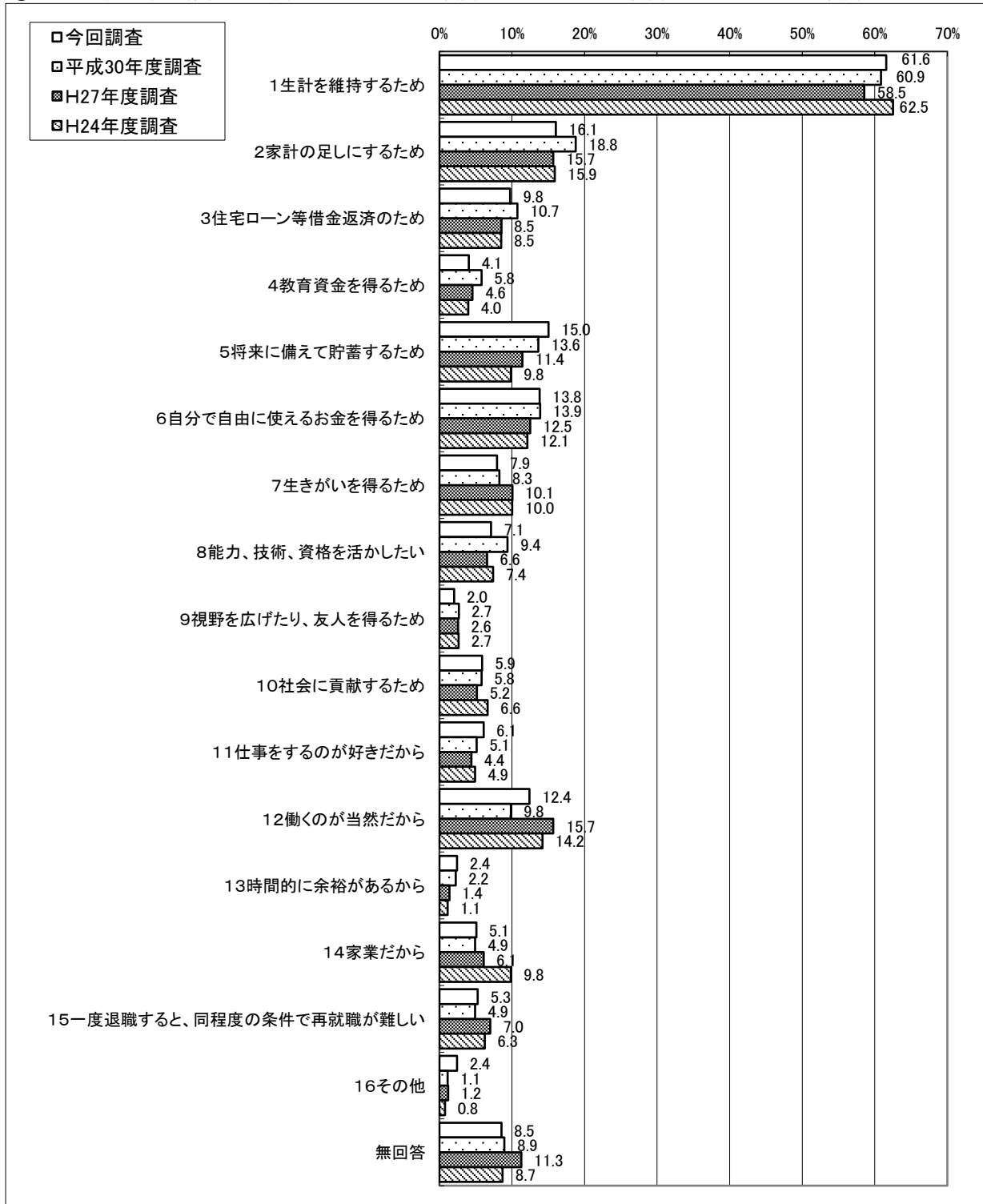
⑥性別・年代別構成(左:今回調査の女性=374、右:前回調査女性=355)



問13 現在職業をもっている方にお伺いします。職業をもっている主な理由は何ですか。
 次の中から2つ選んで○をつけてください。
 (N=492 男性=271 女性=219 その他=0 性別不明=2)

職業をもっている理由は「生計を維持するため」(61.6%)の割合が最も高く、次いで「家計の足しにするため」(16.1%)、「将来に備えて貯蓄するため」(15.0%)と続く。
 前回調査で3番目に高かった「自分で自由に使えるお金を得るため」(13.8%)は前回調査(13.9%)より0.1ポイント微減、一方で今回3番目となった「将来に備えて貯蓄するため」(15.0%)は前回(13.6%)より1.4ポイント増加し、平成24年調査から連続して増加傾向にある。

①合計(総数)の経年推移(今回調査=492 平成30年度調査=447 平成27年度調査=656 平成24年度調査=528)

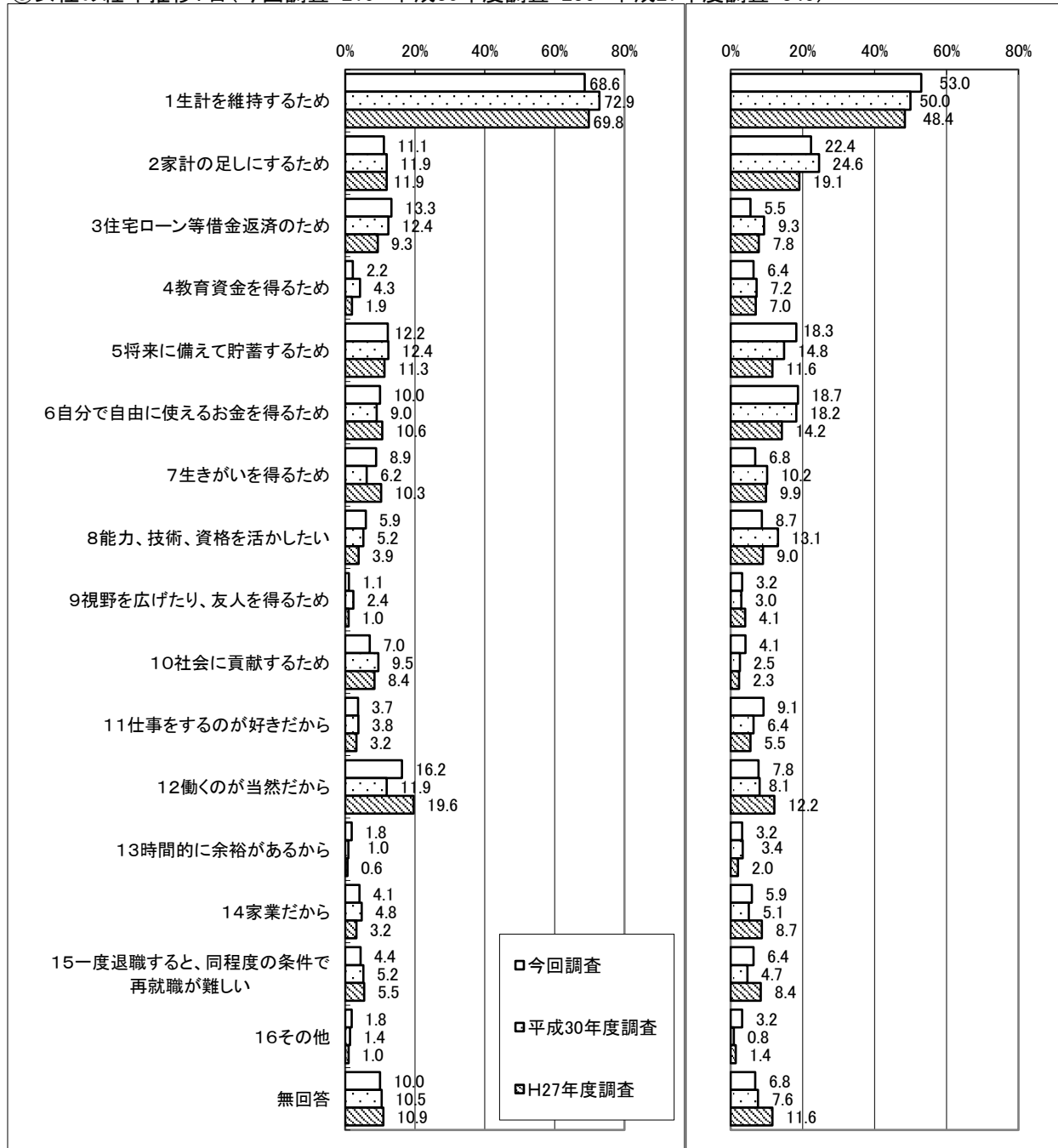


※全回答者のうち、「無職(専業主婦・主夫)」、「無職(学生)」、「無職(その他)」と主たる職業が「無回答」のものを除いて集計対象とした。
 ※グラフから「無効回答」は除く。

男女別にみると、職業を持っている理由は男性では「生計を維持するため」(68.6%)の割合が最も高く、次いで「働くのが当然だから」(16.2%)、「住宅ローン等借金返済のため」(13.3%)と続く。女性では「生計を維持するため」(53.0%)の割合が最も高く、次いで「家計の足しにするため」(22.4%)、「自分で自由に使えるお金を得るため」(18.7%)と続く。前回調査と比較すると、男性では「生計を維持するため」(68.6%)前回(72.9%)4.3ポイント減少、一方で「働くのが当然だから」(16.2%)が前回調査(11.9%)より4.3ポイント増加し、女性では、「将来に備えて貯蓄するため」(18.3%)が前回調査(14.8%)より3.5ポイント増加、また「生計を維持するため」(53.0%)前回(50.0%)より3.0ポイント増加している。

②男性の経年推移:左(今回調査=271 平成30年度調査=210 平成27年度調査=311)

③女性の経年推移:右(今回調査=219 平成30年度調査=236 平成27年度調査=345)



問14 現在の社会は、女性が働きやすい状況にあると思いますか。次の中から1つ選んで○をつけてください。
(N=742 男性=363 女性=374 その他=0 性別無回答=5)

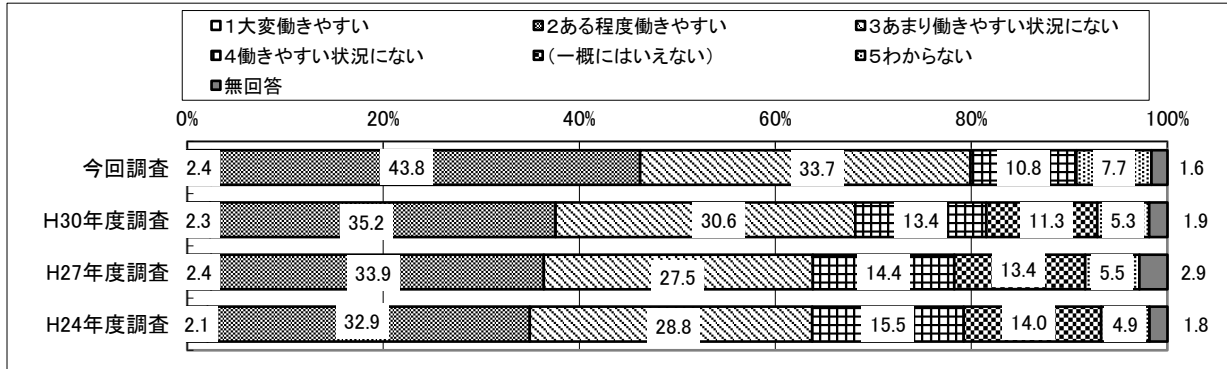
令和3年度調査より従来の選択肢「一概にいけない」をなくした。

女性が働きやすい状況にあるかについて、「大変働きやすい」(2.4%)または「ある程度働きやすい」(43.8%)と回答したもの(以下、『働きやすい』)は46.2%であり、前回調査(37.5%)より8.7ポイント増加している。

「あまり働きやすい状況にない」(33.7%)または「働きやすい状況にない」(10.8%)と回答したもの(以下、『働きにくい』)は44.5%であり、前回調査(44.0%)より0.5ポイント減少している。

『働きやすい』は調査回数を重ねるごとに増加している。

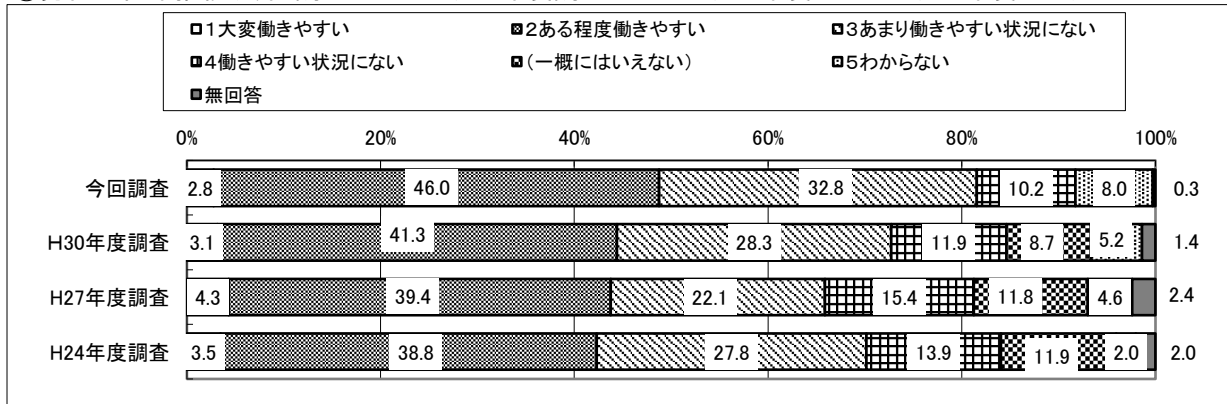
①合計(総数)の経年推移(今回調査=742 平成30年度調査=644 平成27年度調査=943 平成24年度調査=770)



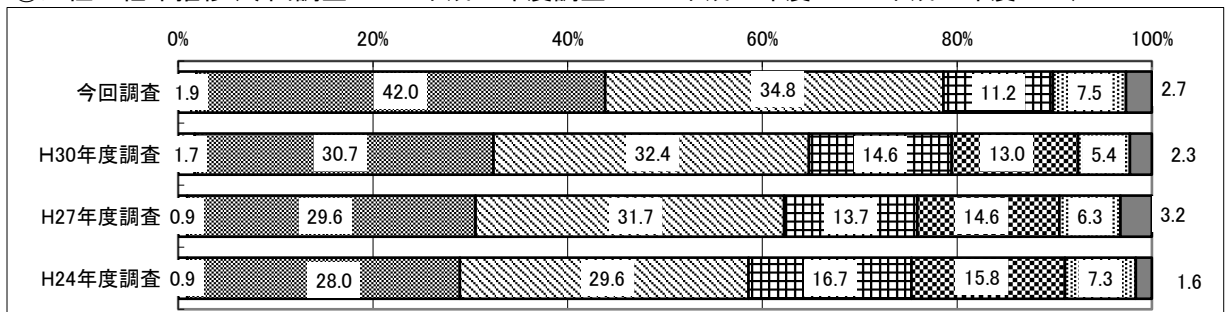
男女別に見ると、男性で『働きやすい』と回答したものは48.8%であり、前回調査(44.4%)より4.4ポイント増加している。女性は43.9%であり、前回調査(32.4%)より11.5ポイント大きく増加している。

『働きにくい』と回答したものは、男性43.0%、女性46.0%であり、女性が3.0ポイント高い。男性よりも、女性の方が『働きにくい』と回答したものが多く傾向は、これまでの調査と同じである。

②男性の経年推移(今回調査=363 平成30年度調査=286 平成27年度=416 平成24年度=345)



③女性の経年推移(今回調査=374 平成30年度調査=355 平成27年度=527 平成24年度=425)



N=736 男性=363 女性=373

【男性】18歳～19歳=2 20歳代=15 30歳代=33 40歳代=44 50歳代=79 60歳代=93 70歳以上=97

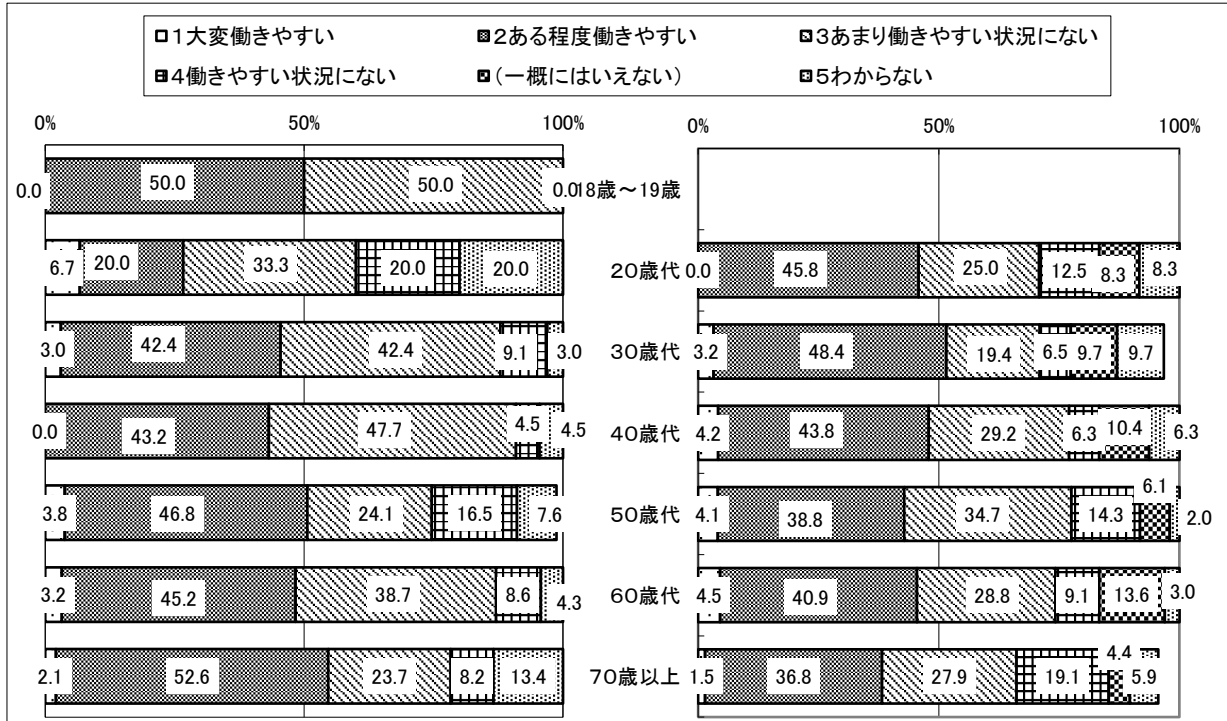
【女性】18歳～19歳=6 20歳代=21 30歳代=34 40歳代=68 50歳代=57 60歳代=90 70歳以上=97

年代別・男女別にみると、男性で『働きやすい』と回答したものの割合が最も高い年代は「70歳代」(54.7%)であり、女性では「20歳代」(57.1%)である。

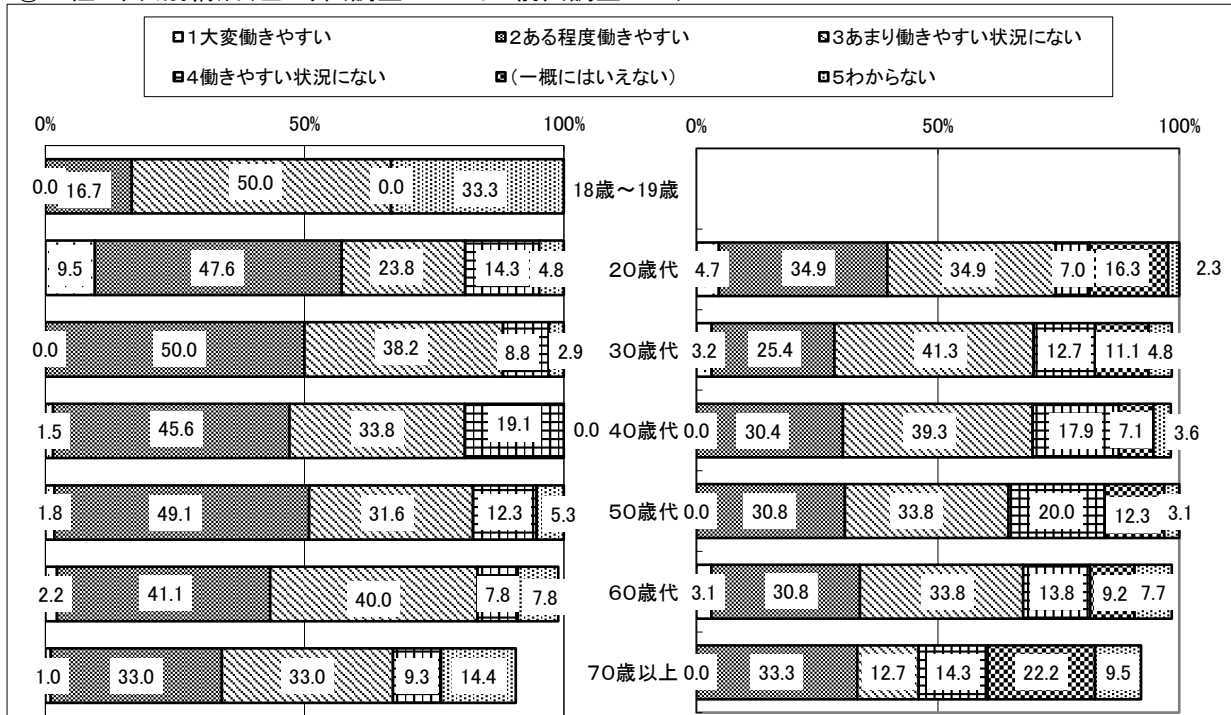
前回調査と比較すると、男性では「20歳代」(26.7%、前回45.8%)、「30歳代」(45.4%、前回51.6%)、「40歳代」(43.2%、前回48.0%)において『働きやすい』と回答した割合が減少。一方で「50歳代」以上では、前回調査より『働きやすい』との回答が増加している。女性では全ての年代において『働きやすい』が増加している。

男女で最も差が大きい年代は「18～19歳」で、男性(50.0%)と女性(16.7%)では、男性が33.3ポイント高い。一方で「20歳代」で、男性(26.7%)と女性(57.1%)では、女性が30.4ポイント高い。

④男性・年代別構成(左:今回調査=363 右:前回調査=286)



⑤女性・年代別構成(左:今回調査=373 右:前回調査=355)



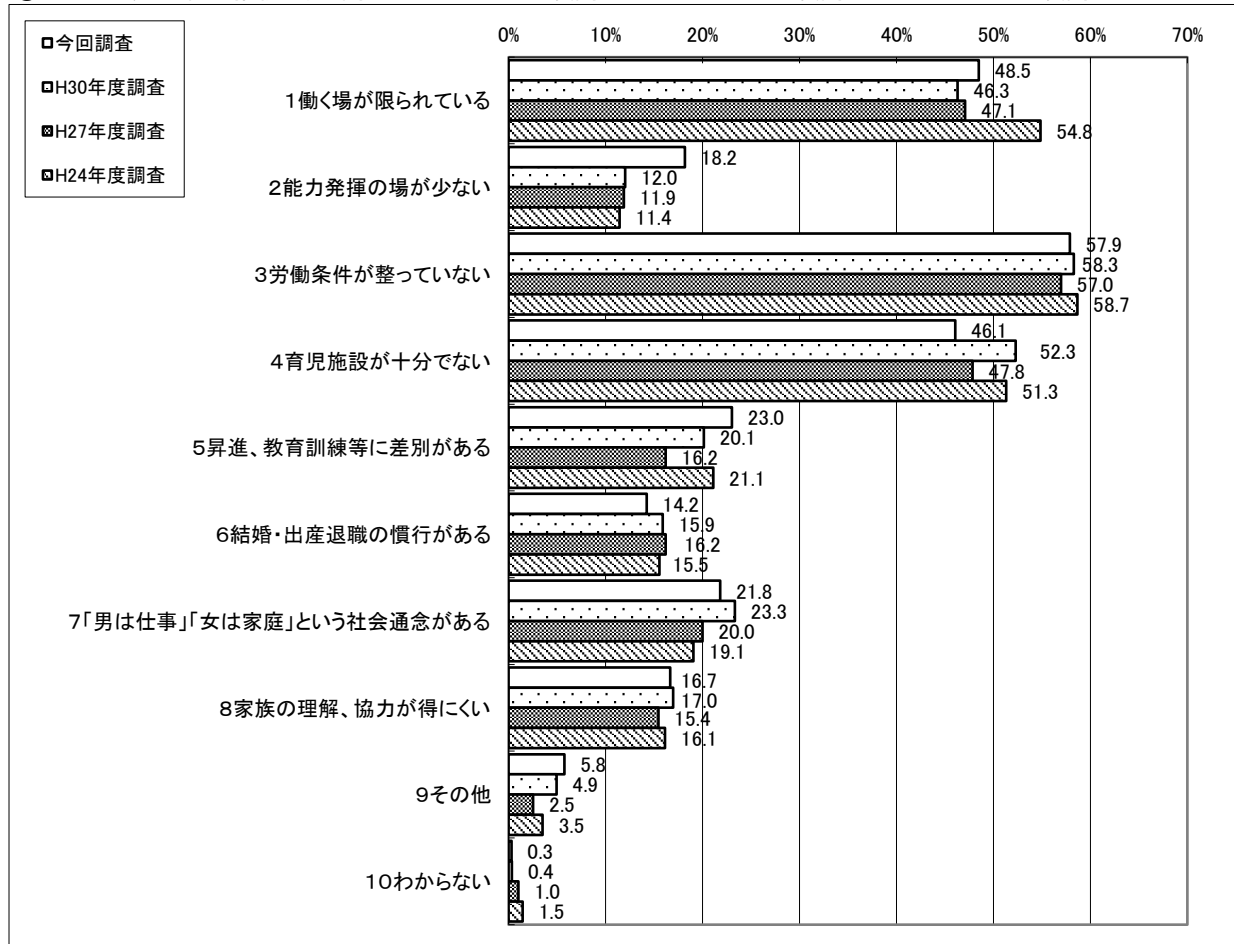
問15 [問14で「3あまり働きやすい状況にない」または「4働きやすい状況にない」と答えた方にお伺いします。]
それは、どのような理由からでしょうか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで○をつけてください。
(N=330 男性=156 女性=172 その他=0 性別不明=2)

問14において、「あまり働きやすい状況にない」または「働きやすい状況にない」と回答したものに、その理由についてたずねた。

回答の割合で最も高いのは「労働条件が整っていない」(57.9%)であり、次いで「働く場が限られている」(48.5%)、「育児施設が十分でない」(46.1%)と続き、2番目と3番目が逆転している。

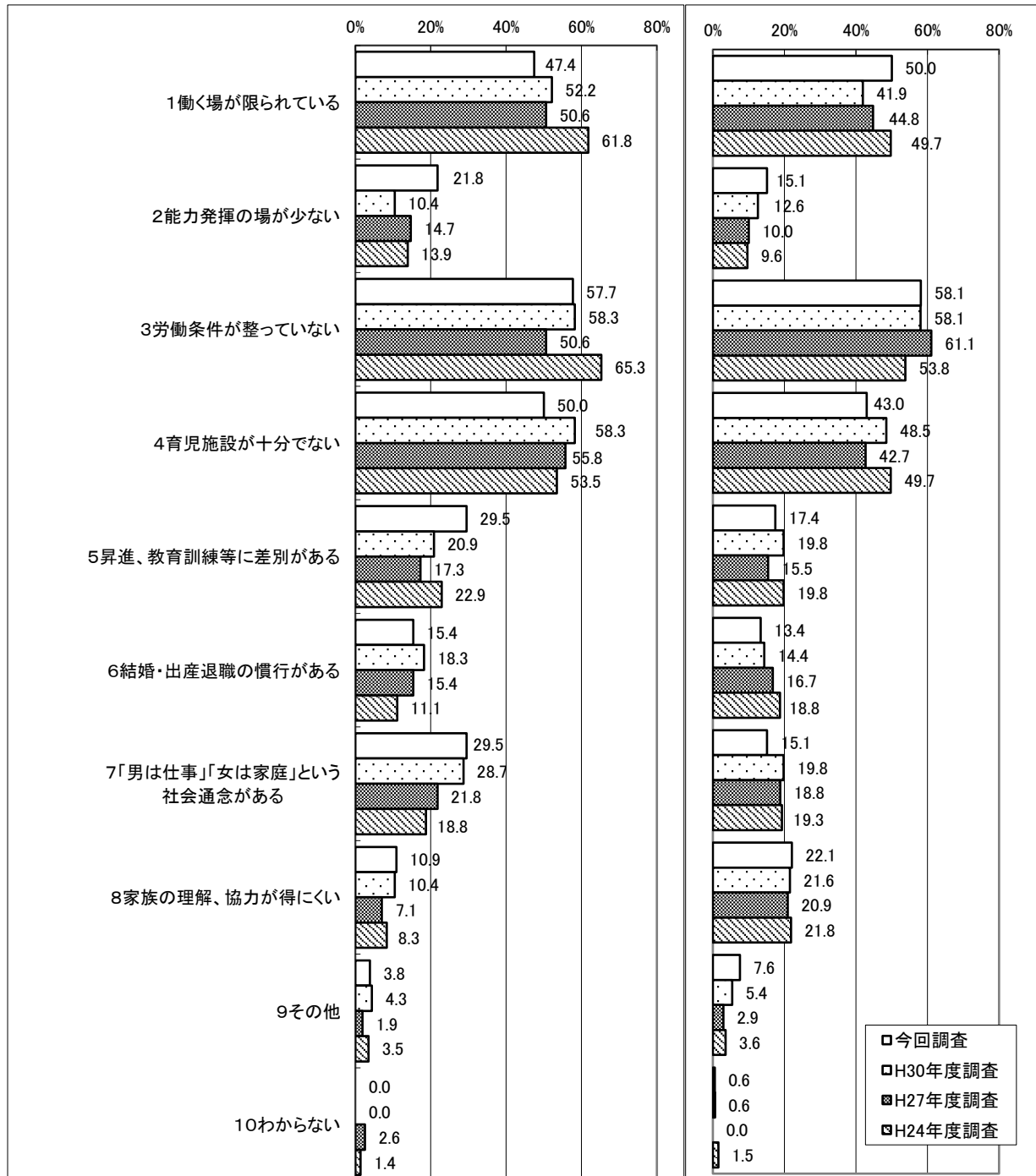
前回調査と比較すると、「能力発揮の場が少ない」(18.2%)の回答は、前回調査(12.0%)より6.2ポイント増加。一方「育児施設が十分ではない」(46.1%)は、前回調査(52.3%)より6.2ポイント減少している。

①合計(総数)の経年推移(今回調査=330 平成30年度調査=282 平成27年度調査=395 平成24年度調査=341)



男女別にみると、男性では「労働条件が整っていない」(57.7%)が最も高く、次いで「育児施設が十分でない」(50.0%)で「働く場が限られている」(47.4%)と続く。
 女性では「労働条件が整っていない」(58.1%)の割合が最も高く、次いで「働く場が限られている」(50.0%)、「育児施設が十分でない」(43.0%)と続く。
 男女差が最も大きいのは「男は仕事、女は家庭という社会通念がある」であり、男性(29.5%)と女性(15.1%)では、男性が14.4ポイント高い。また「家族の理解、協力が得にくい」では男性(10.9%)女性(22.1%)では、女性が11.2ポイント高い。

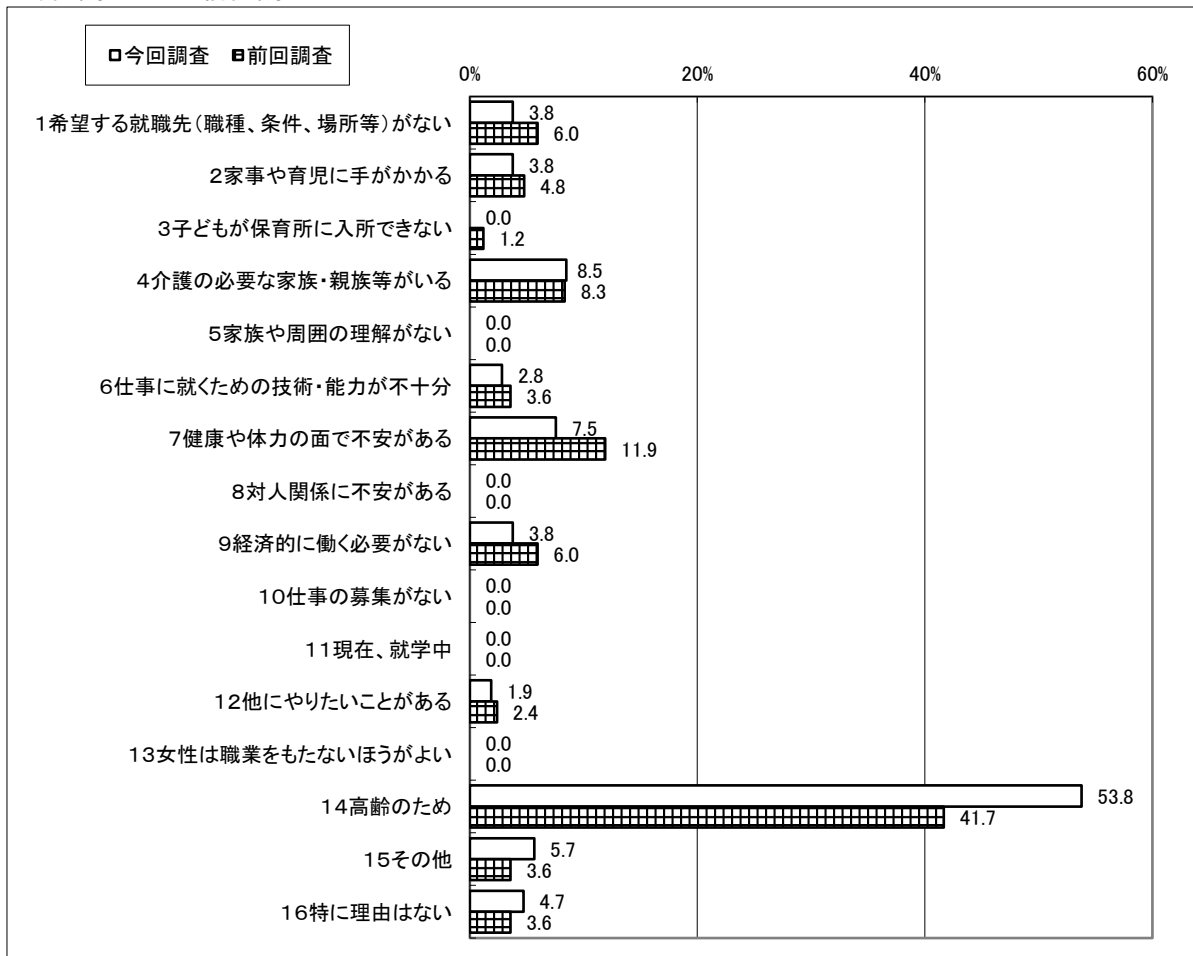
②男性の経年推移: 左(今回調査=156 平成30年度調査=115 平成27年度調査=156 平成24年度調査=144)
 ③女性の経年推移: 右(今回調査=172 平成30年度調査=167 平成27年度調査=239 平成24年度調査=197)



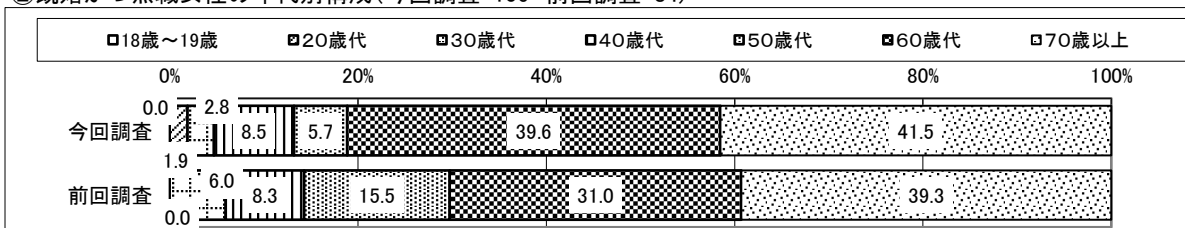
問16 [女性で、現在職業をもっていない方にお伺いします。]
 現在仕事に就いていないのは、主にどのような理由からですか。次の中から1つ選んで○をつけてください。
 (無職女性N=152 無職女性既婚=106 無職女性過去就業経験有=136 無職女性既婚過去就業経験有=98)

無職女性で職業をもっていないものの、職業に就いていない理由について調査した。
 既婚かつ無職女性では「高齢のため」(53.8%)と割合が最も高い回答であった。次いで「介護の必要な家族・親族等がいる」(8.5%)、「健康や体力の面で不安がある」(7.5%)と続く。
 「高齢のため」(53.8%)は前回調査(41.7%)より12.1ポイント増加した。

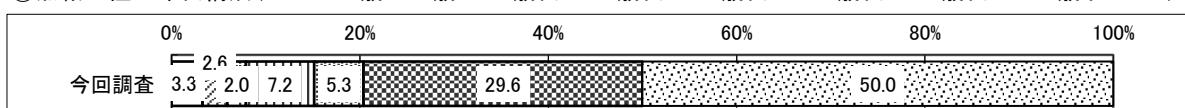
①既婚かつ無職女性の回答経年推移
 (今回調査=106 前回調査=84)



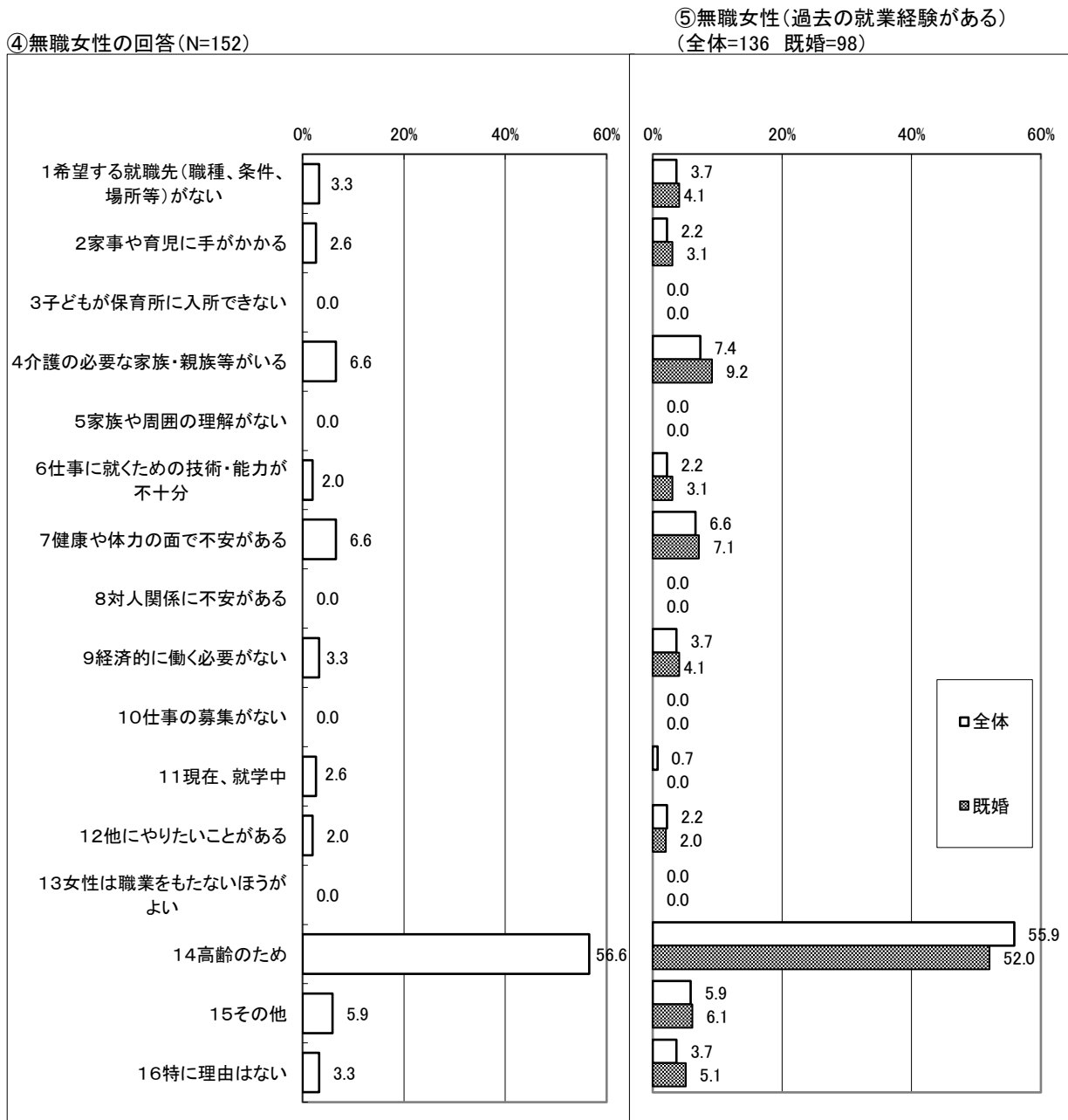
②既婚かつ無職女性の年代別構成(今回調査=106 前回調査=84)



③無職女性の年代構成(N=152 18歳~19歳=5 20歳代=4 30歳代=3 40歳代=11 50歳代=8 60歳代=45 70歳以上=76)

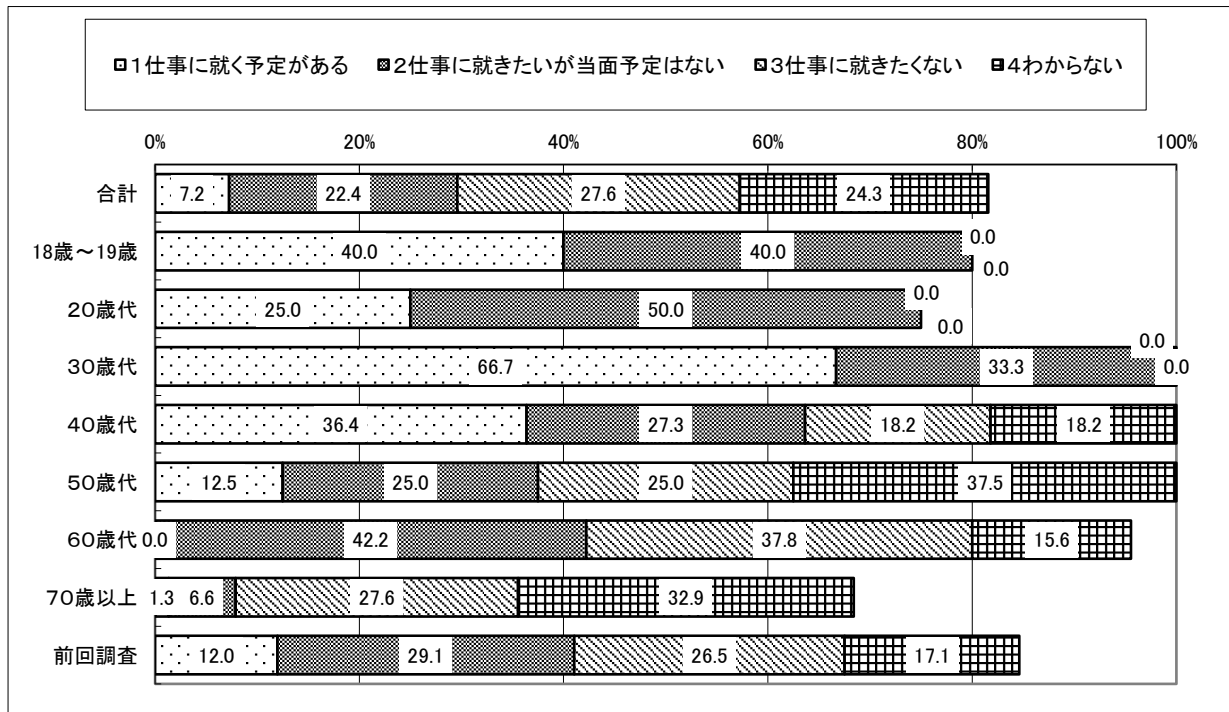


今回調査においては、④『無職女性全体』⑤『無職女性（過去の就業経験がある）』『無職女性（既婚過去の就業経験がある）』についてもそれぞれ比較した。
いずれも「高齢のため」の割合が最も高い回答である。



問17 [女性で、現在職業をもっていない方にお伺いします。]
 今後仕事に就きたいとお考えですか。次の中から1つ選んで○をつけてください。
 (N=152 18歳～19歳=5 20歳代=4 30歳代=3 40歳代=11 50歳代=8 60歳代=45 70歳以上=76)

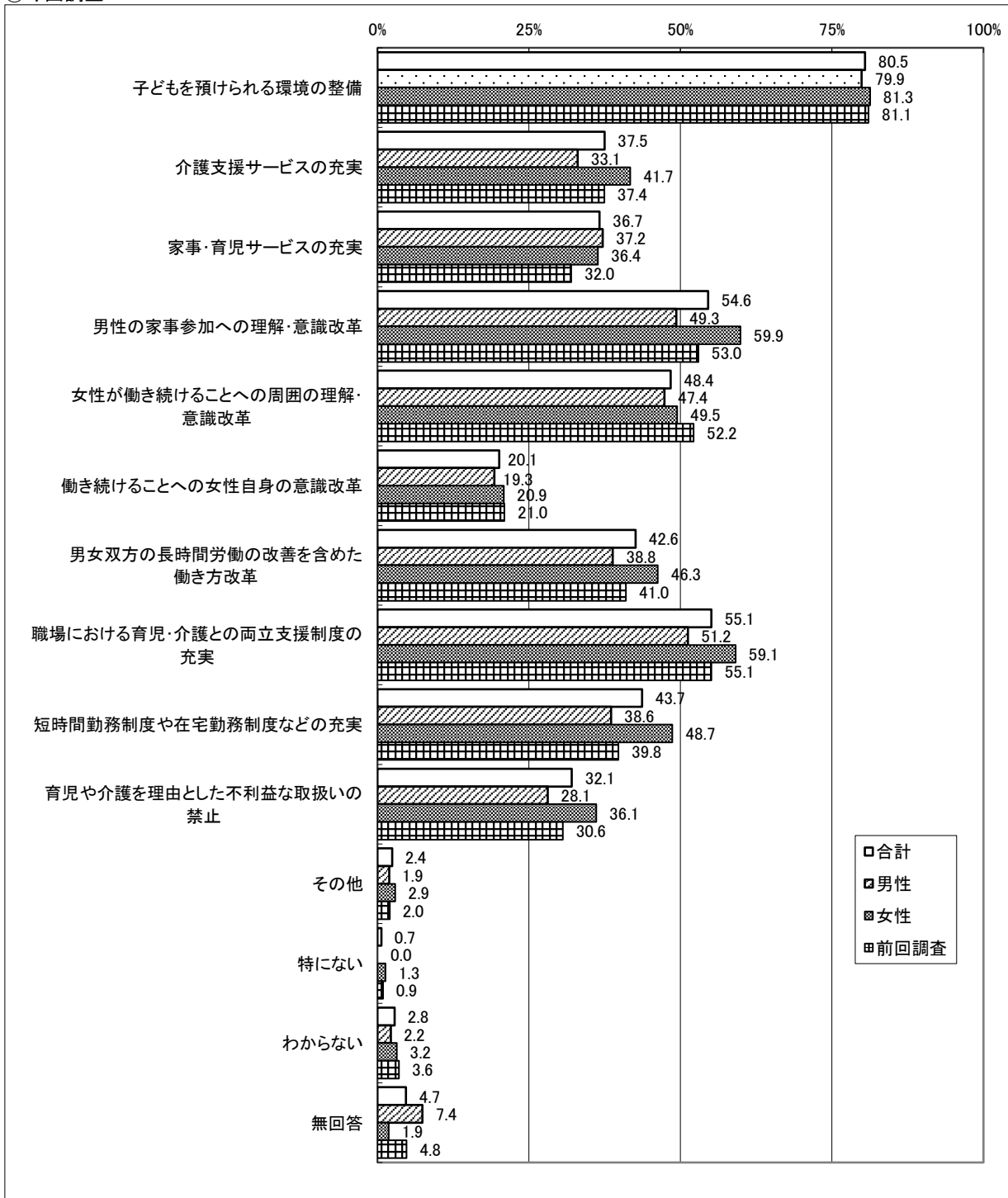
現在職業をもっていない女性に、今後仕事に就きたいかどうかを調査した。
 「仕事に就く予定がある」と回答したものは「30歳代」(66.7%)の割合が最も高く、次いで「18～19歳」(40.0%)であった。
 「仕事に就きたいが当面予定はない」と回答したものは、「20歳代」(50.0%)が最も高く、次いで「60歳代」(42.2%)と続く。
 「仕事に就きたくない」と回答したものは「60歳代」(37.8%)次いで「70歳以上」(27.6%)。「18～19歳」、「20歳代」、「30歳代」はいなかった。



問18 あなたは、女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要な事は何だと思えますか。次の中からあてはまるものをすべて選んで○をつけてください。
(N=742 男性=363 女性=374 その他=0 性別無回答=5)

女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために必要なことは、「子どもを預けられる環境の整備」(80.5%)の割合が最も高く、次いで「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」(55.1%)、「男性の家事参加への理解・意識改革」(54.6%)、「女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革」(48.4%)と続く。この傾向は前回調査と同様である。男女差が最も大きいのは「男性の家事参加への理解・意識改革」であり、男性(49.3%)と女性(59.9%)では、女性が10.6ポイント高い。

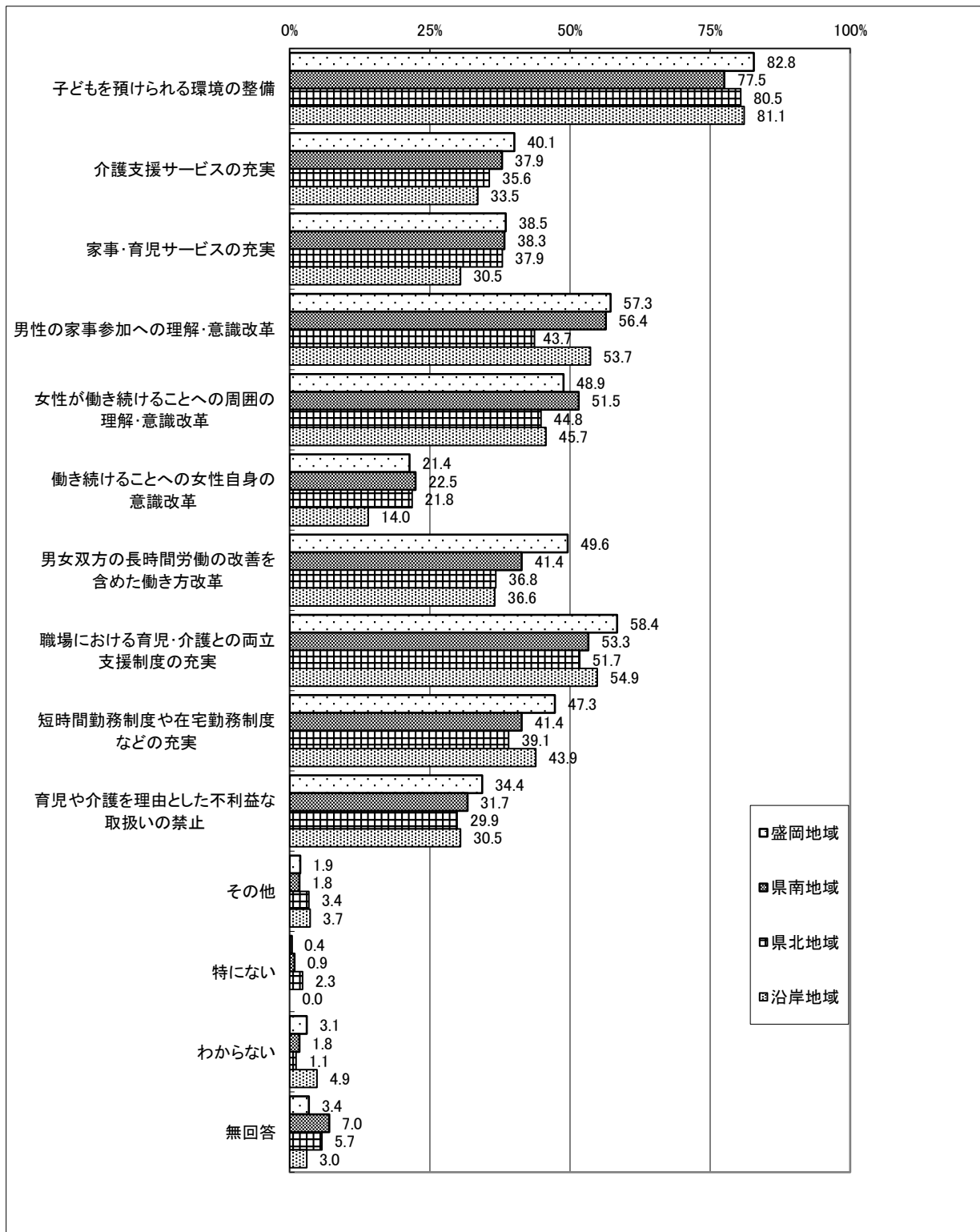
①今回調査



地域別にみると、全ての地域で5割を超えたのは「子どもを預けられる環境の整備」と「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」の2項目である。この傾向は前回調査と同様である。このほか「男性の家事参加への理解・意識改革」にて、盛岡地域(57.3%)と県南地域(56.4%)、沿岸地域(53.7%)で5割を超えるほか、「女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革」の県南地域(51.5%)も5割を超えている。地域差が最も大きいのは「男性の家事参加への理解・意識改革」であり、最も高い盛岡地域(57.3%)と最も低い県北地域(43.7%)では、盛岡地域が13.6ポイント高い。

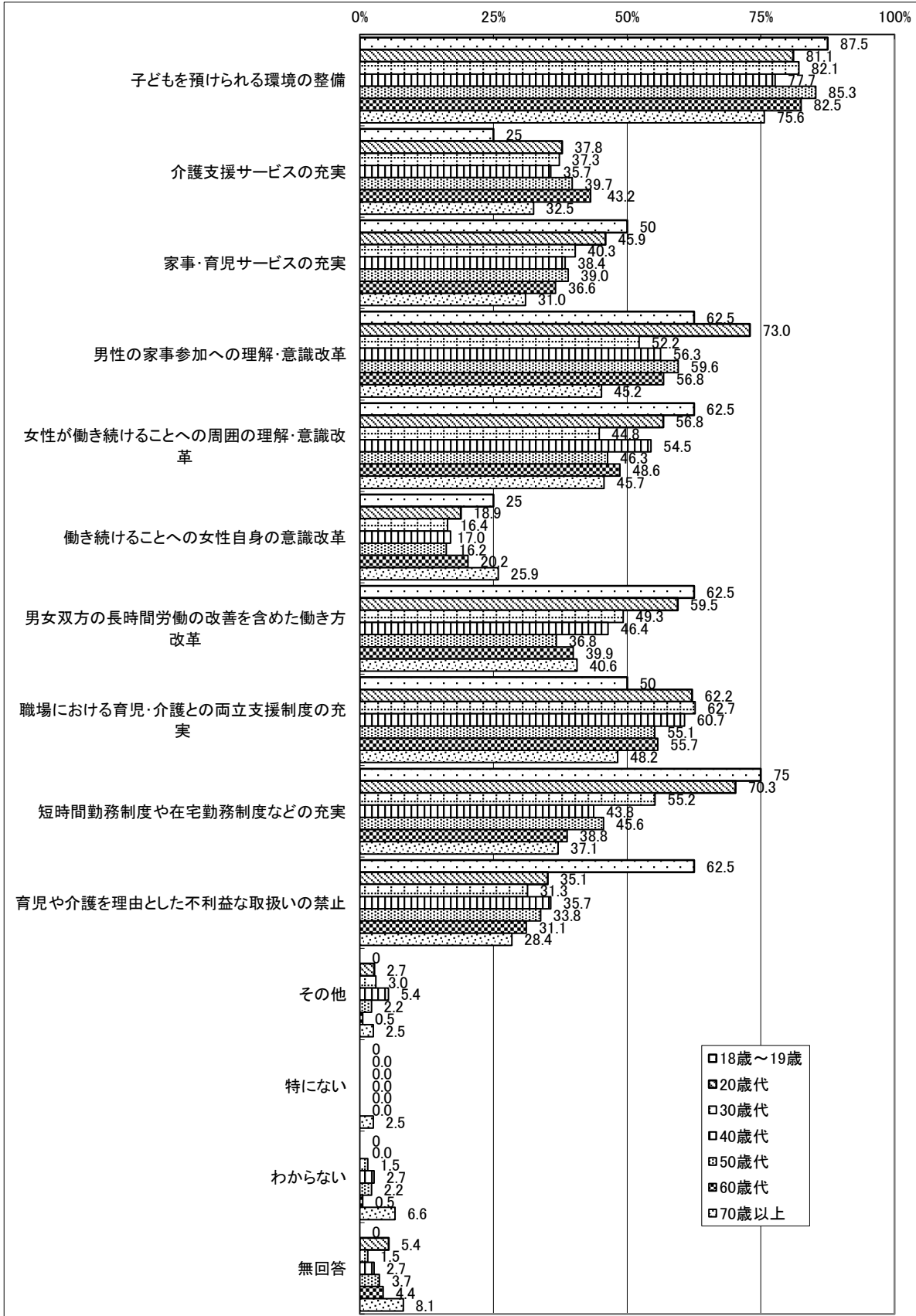
②今回調査(地域別)

(盛岡地域=262 県南地域=227 県北地域=87 沿岸地域=164 地域無回答=2)



年代別にみると、「子どもを預けられる環境の整備」は全ての年代で7割を超え、「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」は「70歳以上」以外で5割を超えた。
 年代差が最も大きいのは「短時間勤務制度や在宅勤務制度などの充実」であり、最も高い「18～19歳」(75.0%)と最も低い「70歳以上」(37.1%)では、「18～19歳代」が37.9ポイント高い。次いで「育児や介護を理由とした不利益な取扱いの禁止」では、最も高い「18～19歳」(62.5%)と最も低い

③今回調査(年代別)



5 仕事と家庭・社会活動の両立について

問19 仕事との関係において、家庭生活または町内会やボランティア、サークル活動などの社会活動をどのように位置づけるのが望ましいと思いますか。(1)女性及び(2)男性それぞれの場合について、望ましいと思うものを1つ選んで○をつけてください。
(N=742 男性=363 女性=374 その他=0 性別無回答=5)

※以下、「家庭生活又は社会活動よりも、仕事に専念する」または「家庭生活又は社会活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」と回答したものを『仕事優先』と表記し、「仕事にも携わるが、家庭生活又は社会活動を優先させる」または「仕事よりも、家庭生活又は社会活動に専念する」と回答したものを『家庭生活・社会活動優先』と表記する。

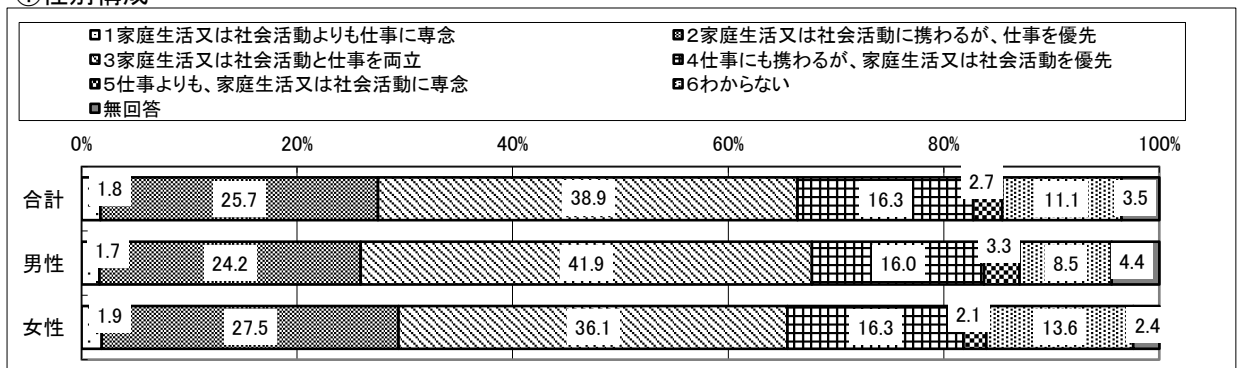
(1)女性についてはどうでしょうか。(男性の方もお答えください)

仕事と家庭生活・社会活動の望ましい位置づけについて、『仕事優先』と回答したものは27.5%、『家庭生活・社会活動優先』と回答したものは19.0%である。

『仕事優先』と回答したものは、男性(25.9%)は前回調査(29.7%)より3.8ポイント減少しているが、女性(29.4%)は前回調査(23.4%)より6.0ポイント増加した。

「家庭生活又は社会活動と仕事を両立」(以下、『両立』とする)と回答したものは38.9%であり、前回調査(38.2%)より0.7ポイント微減としている。

①性別構成



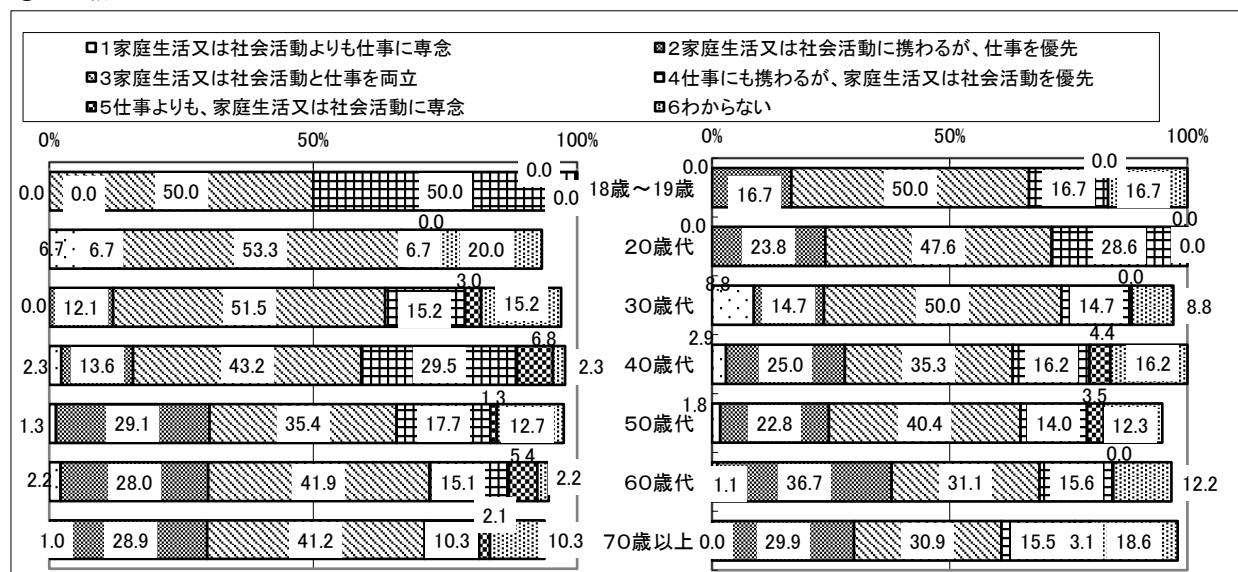
年代別にみると『仕事優先』と回答したものの割合が最も高いのは、男女共に「50歳以上」の男性(30.4%)、女性(37.8%)である。

「家庭生活又は社会活動よりも仕事に専念」と回答したものが全くいない年代は、男性では「18～19歳」、「30歳代」であり、女性では「18～19歳」、「20歳代」、「70歳以上」であった。

前回調査では『両立』が5割を超えた年代は、男性ではいなかったが、今回調査(男性)では「18～19歳」(50.0%)、「20歳代」(53.3%)、「30歳代」(51.5%)となり、女性では「18～19歳代」(50.0%)と「30歳代」(50.0%)であった。

【男性/左】 18歳～19歳=2 20歳代=15 30歳代=33 40歳代=44 50歳代=79 60歳代=93 70歳以上=97

②年代構成 【女性/右】 18歳～19歳=6 20歳代=21 30歳代=34 40歳代=68 50歳代=57 60歳代=90 70歳以上=97



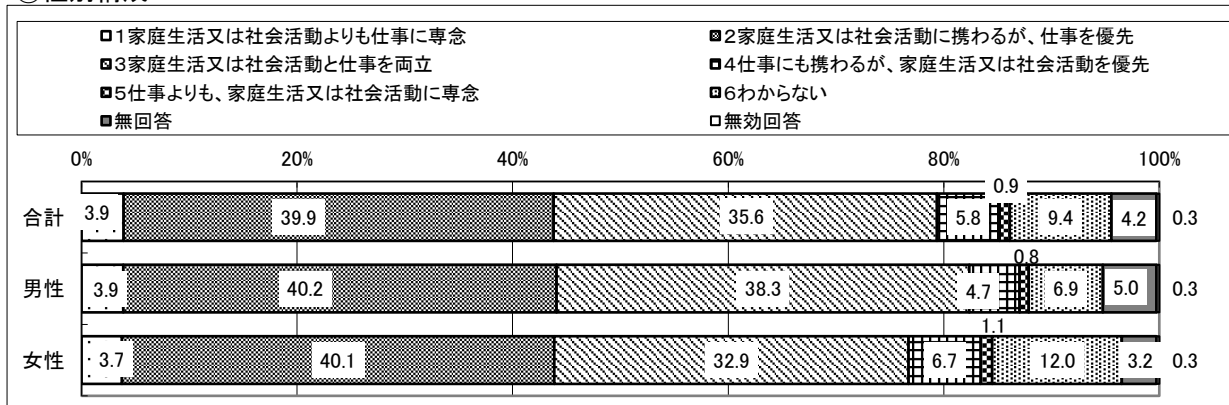
(2)男性についてはどうでしょうか。(女性の方もお答えください)

仕事と家庭生活・社会活動の望ましい位置づけについて、『仕事優先』と回答したものは43.8%であり、前回調査(43.3%)と比較すると0.5ポイント微増としている。

『仕事優先』と回答したものは、男性(44.1%)は前回調査(49.6%)より5.5ポイント減少したが、女性(40.1%)は前回調査(38.6%)より1.5ポイントと増加している。

『家庭生活・社会活動優先』と回答したものは6.7%で前回調査(5.8%)より0.9ポイント増加した。

①性別構成



年代別にみると『仕事優先』と回答したものは、男性では「70歳以上」(50.5%)、女性では「60歳代」(53.3%)が多く、それぞれ5割を超えている。

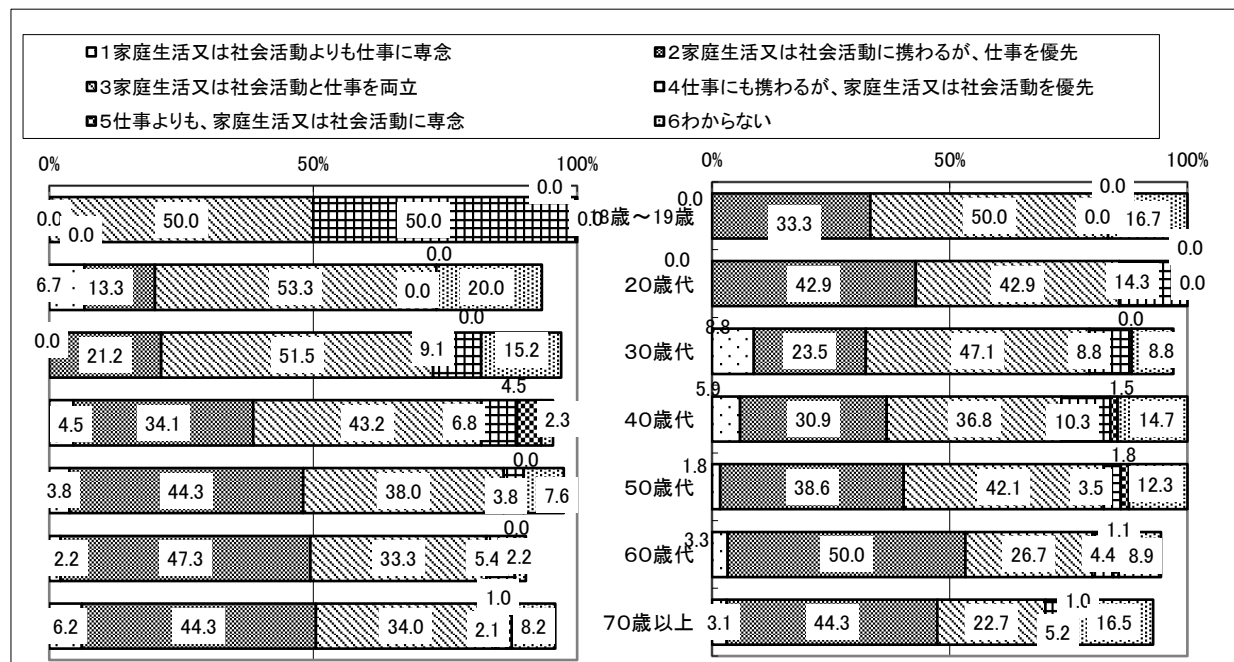
前回調査と比較すると、『仕事優先』と回答した男性は、「30歳代」(21.2%)は前回調査(45.2%)より24.0ポイント減少、「20歳代」(20.0%)は前回調査(33.3%)より13.3ポイント減少している。

女性では「30歳代」(32.3%)は前回調査(52.4%)より20.1ポイント減少、次いで「40歳代」(36.8%)は前回調査(40.0%)より15.4ポイント減少しており、概ね若年層の年代で減少傾向にある。

【男性/左】 18歳～19歳=2 20歳代=15 30歳代=33 40歳代=44 50歳代=79 60歳代=93 70歳以上=97

②年代別構成

【女性/右】 18歳～19歳=6 20歳代=21 30歳代=34 40歳代=68 50歳代=57 60歳代=90 70歳以上=97

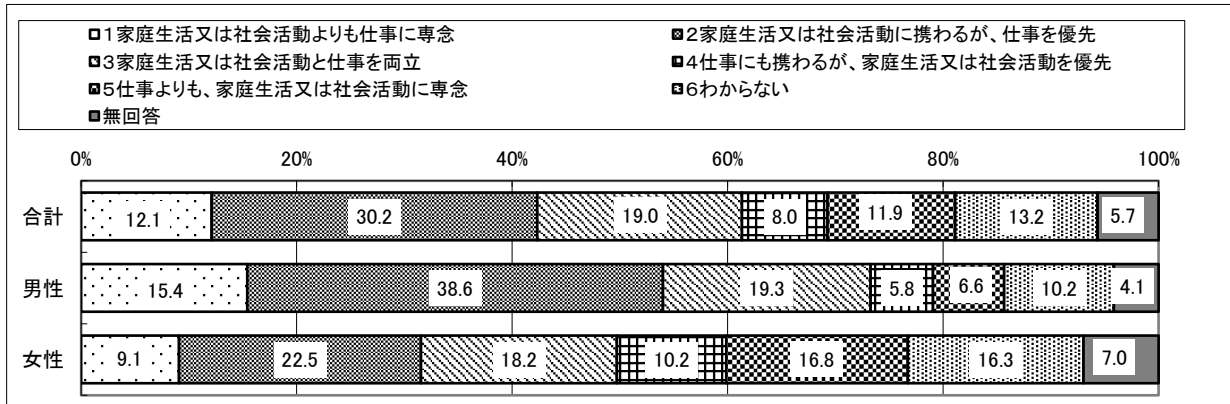


問20 (仕事と家庭・社会活動の両立について)

現在の状況では、あなたは次のどれに当てはまりますか。次の中から1つ選んで○をつけてください。
(N=742 男性=363 女性=374 その他=0 性別無回答=5)

回答者自身の仕事と家庭生活・社会活動の現状の位置づけについて、『仕事優先』と回答したものは42.3%であり、『家庭生活・社会生活優先』と回答したものは19.9%である。
『仕事優先』と回答した男性(54.0%)は、前回調査(55.6%)より1.6ポイント減少している。また『仕事優先』と回答した女性(31.6%)は前回調査(30.2%)より1.4ポイント減少した。

①性別構成



年代別にみると『仕事優先』と回答したものの割合が高いのは、男性では「40歳代」(77.2%)、女性では「20歳代」(66.6%)となる。

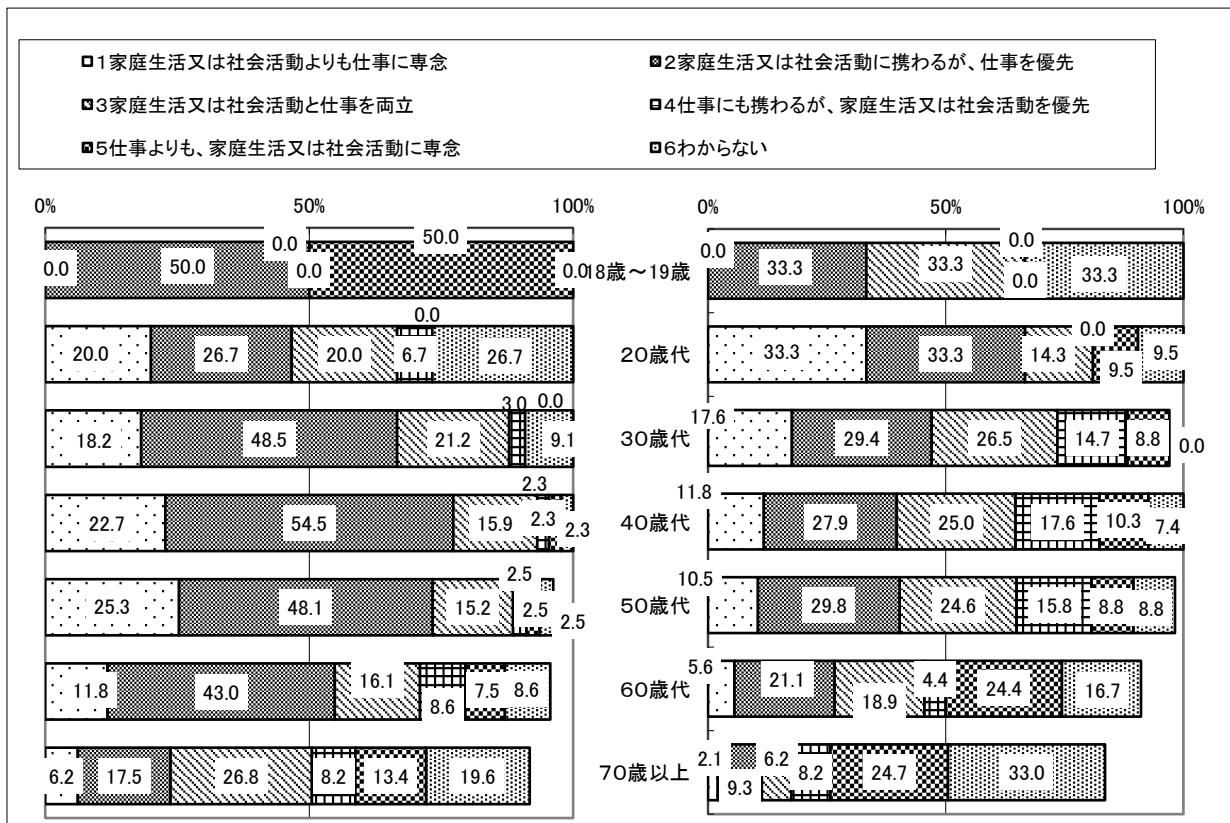
女性で5割を超えたのは「20歳代」(66.6%)のみである。

『家庭生活・社会活動優先』と回答したものの割合が最も高いのは、男性は「18～19歳」

【男性/左】 18歳～19歳=2 20歳代=15 30歳代=33 40歳代=44 50歳代=79 60歳代=93 70歳以上=97

【女性/右】 18歳～19歳=6 20歳代=21 30歳代=34 40歳代=68 50歳代=57 60歳代=90 70歳以上=97

②年代別構成



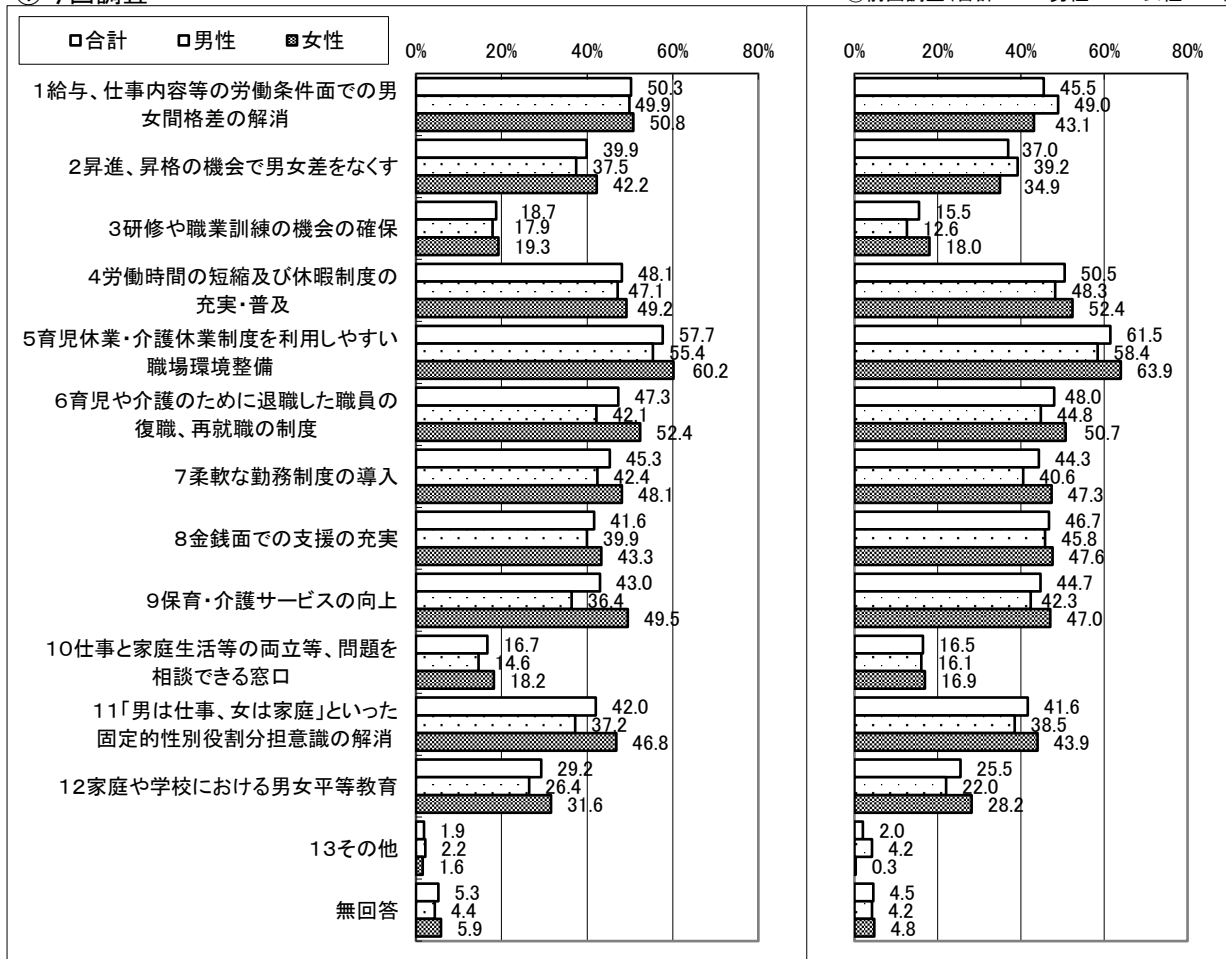
問21 一般に、男女が共に仕事と家庭・社会活動の両立を可能とするためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。
 (1)女性及び(2)男性それぞれの場合について、次の中からあてはまるものをすべて選んで○をつけてください。
 (N=742 男性=363 女性=374 その他=0 性別無回答=5)

(1)女性についてはどうでしょうか。(男性の方もお答えください。)

仕事と家庭・社会活動の両立を可能とするために必要なことは、「育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境整備」(57.7%)の割合が最も高く、次いで「給与、仕事内容等の労働条件面での男女間格差の解消」(50.3%)、「労働時間の短縮及び休暇制度の充実・普及」(48.1%)と続く。前回調査では、「育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境整備」(61.5%)の割合が最も高く、次いで「労働時間の短縮及び休暇制度の充実・普及」(50.5%)、「育児や介護のために退職した職員の復職又は再就職が可能となるような制度の導入」(48.0%)の順となっている。

①今回調査

②前回調査(合計=641 男性=286 女性=355)



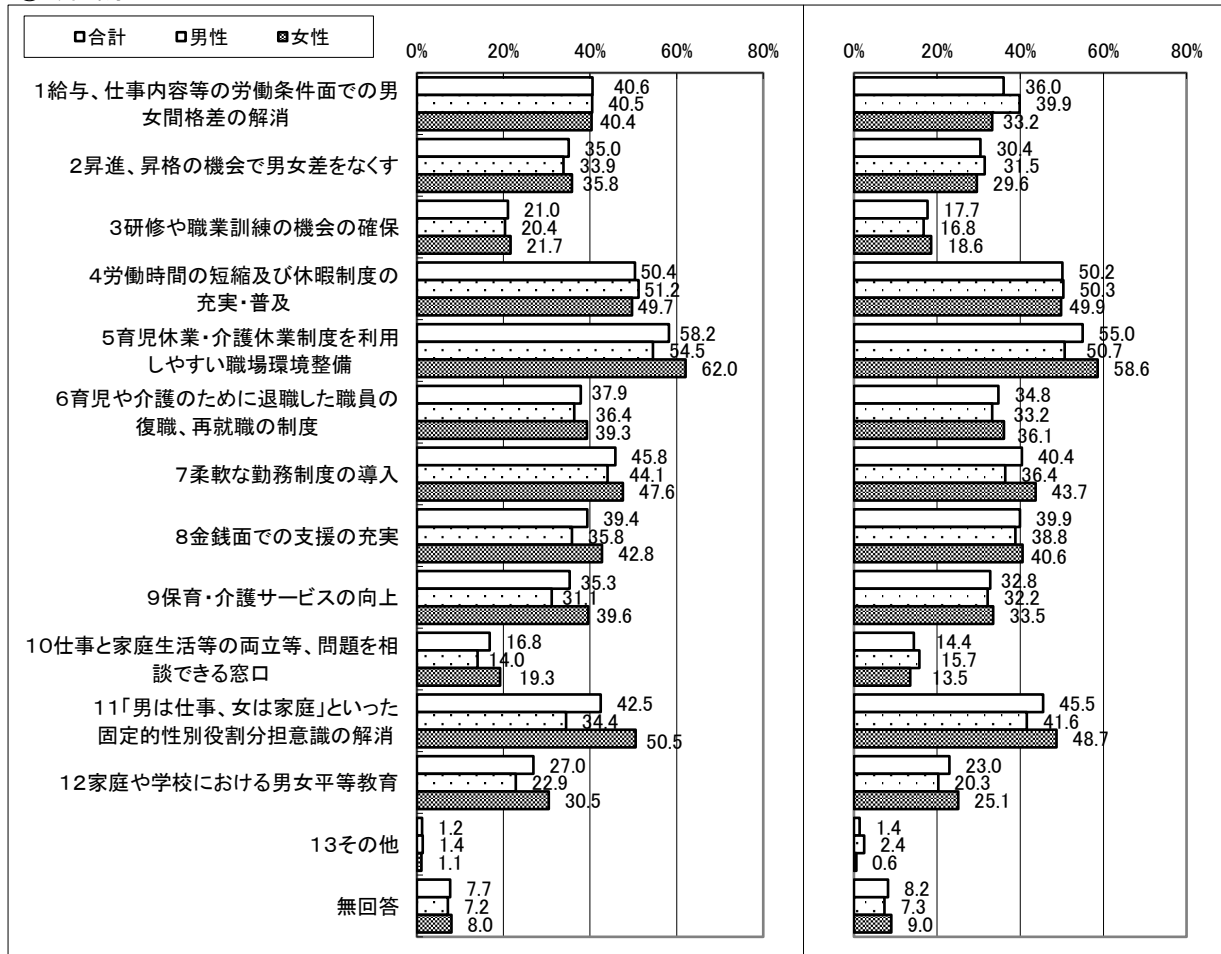
(2)男性についてはどうでしょうか。(女性の方もお答えください。)

仕事と家庭・社会活動の両立を可能とするために必要なことは、「育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境整備」(58.2%)の割合が最も高く、「労働時間の短縮及び休暇制度の充実・普及」(50.4%)、「柔軟な勤務制度の導入」(45.8%)と続く。

前回調査では、「育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境整備」(55.0%)の割合が最も高く、次いで「労働時間の短縮及び休暇制度の充実・普及」(50.2%)と上位2番目までは前回同様で、3番目に「男は仕事、女は家庭」といった固定的性別役割分担意識の解消(45.5%)の順となっている。

①今回調査

②前回調査(合計=641 男性=286 女性=355)

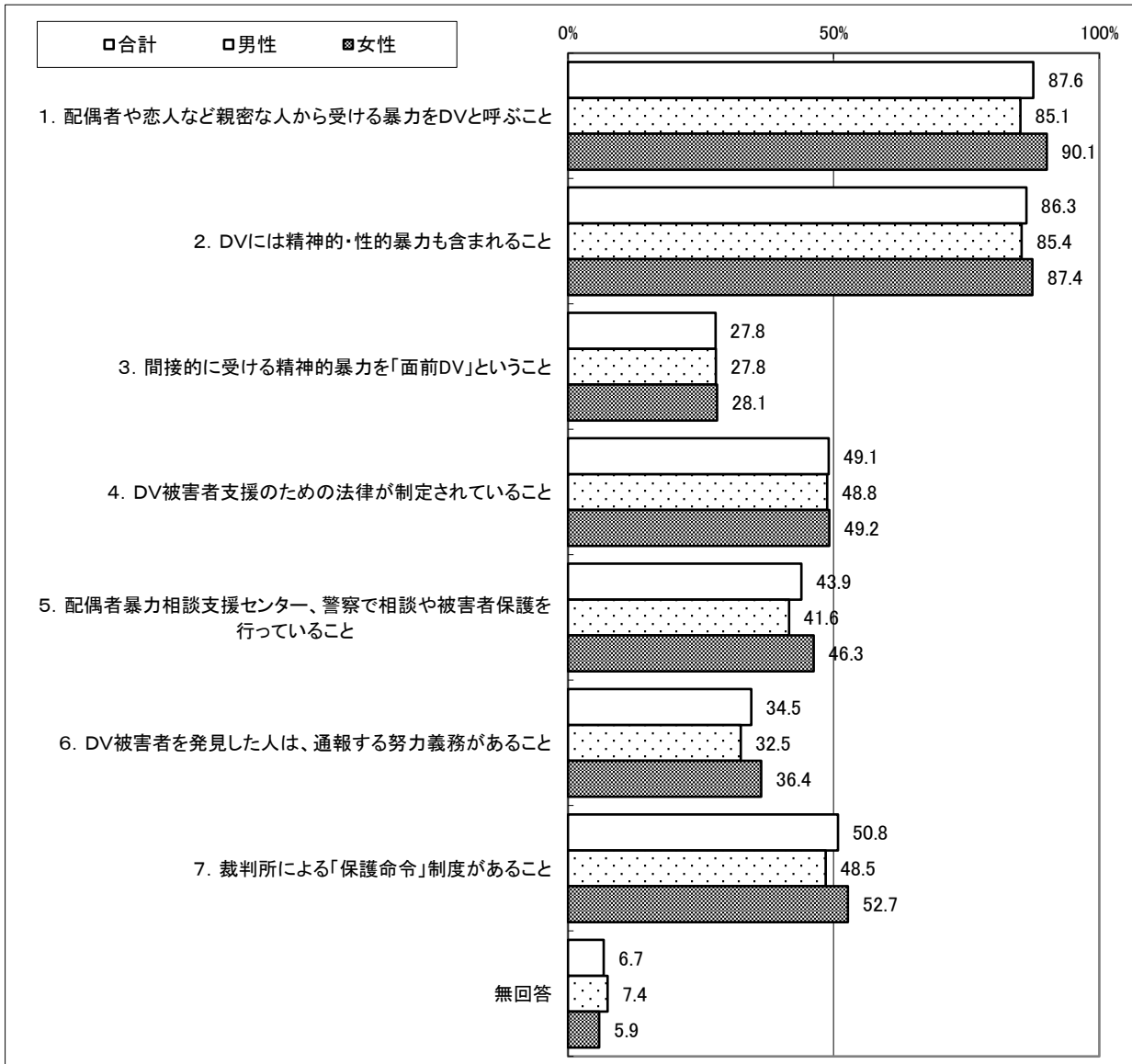


6 ドメスティック・バイオレンス(DV)などについて

問22 あなたは、ドメスティック・バイオレンス(DV)に関する次のことについて知っていますか。
 次の中から知っているものをすべて選んで○をつけてください。
 (N=742 男性=363 女性=374 その他=0 性別無回答=5)

ドメスティック・バイオレンス(DV)について知っていることとして「配偶者や恋人など親密な人から受ける暴力をDVと呼ぶこと」(87.6%)の割合が最も高く、次いで「DVには精神的・性的暴力も含まれること」(86.3%)、「裁判所による「保護命令」制度があること」(50.8%)と続き、これらの項目は5割を超えている。
 全ての項目の中で「暴力の場に居合わせた児童が間接的に受ける精神的暴力を「面前DV」ということ」を知っているものは27.8%であり、最も低い認知度である。

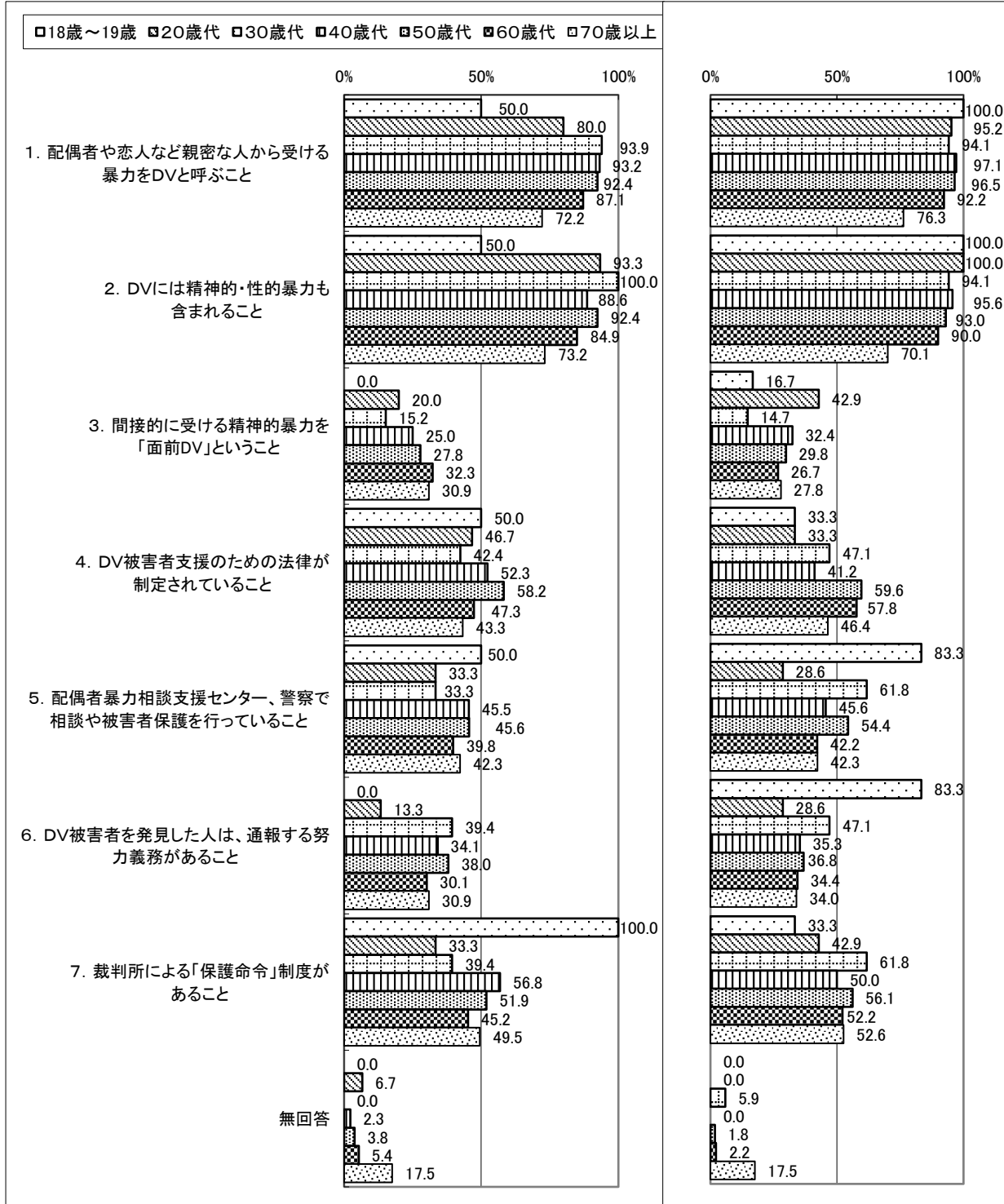
①今回調査



年代別・男女別にみると、「配偶者や恋人など親密な人から受ける暴力をDVと呼ぶこと」と「DVには精神的・性的暴力も含まれること」の認知度は、すべての年代において5割を超えている。概ね「配偶者や恋人など親密な人から受ける暴力をDVと呼ぶこと」と「DVには精神的・性的暴力も含まれること」、「DV被害者を発見した人は、通報する努力義務があること」については、男性より女性の方が認知度が高い傾向にある。

【男性/左】 18歳～19歳=2 20歳代=15 30歳代=33 40歳代=44 50歳代=79 60歳代=93 70歳以上=97
 【女性/右】 18歳～19歳=6 20歳代=21 30歳代=34 40歳代=68 50歳代=57 60歳代=90 70歳以上=97

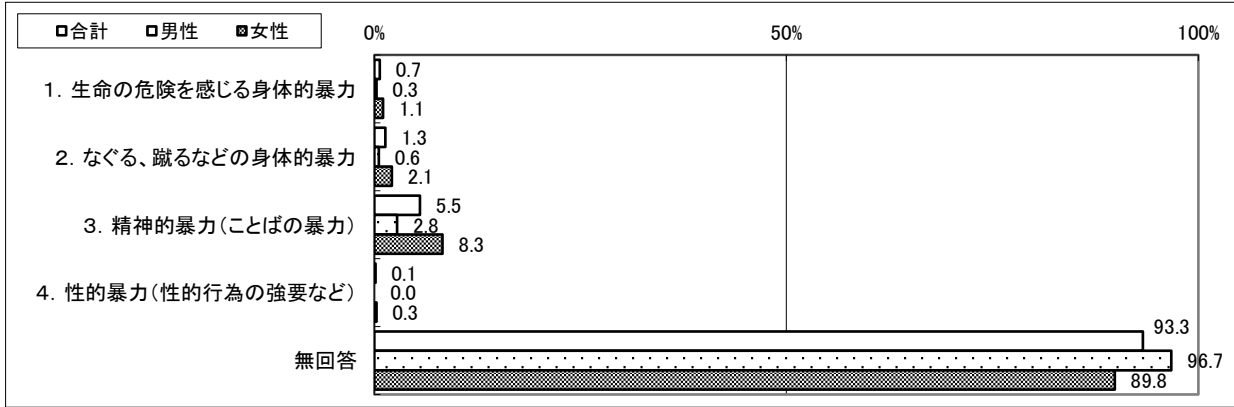
年代別構成



問23 あなたは、過去5年間に次に掲げるDVを受けたことがありますか。次の中からあてはまるものをすべて選んで○をつけてください。
(N=742 男性=363 女性=374 その他=0 性別無回答=5)

過去5年間に受けたDVの中で最も割合が高いものは、「精神的暴力(ことばの暴力)」(5.5%)であり、女性では8.3%が受けた経験を持つと回答している。次いで「なぐる、蹴るなどの身体的暴力」(2.1%)を受けた経験を持つと回答したものである。
前回調査同様、選択肢に「DVを受けたことがない」という項目がないため、無回答が全体の9割を超えていると考えられる。

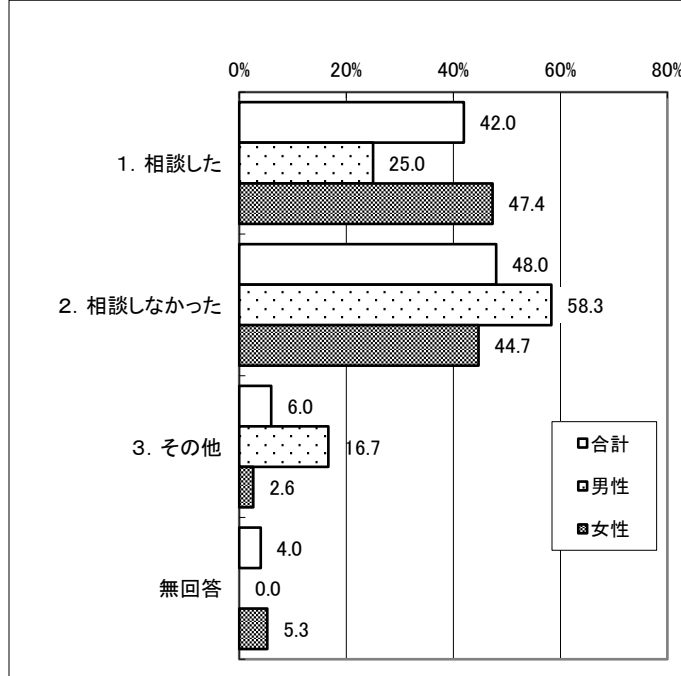
①性別構成



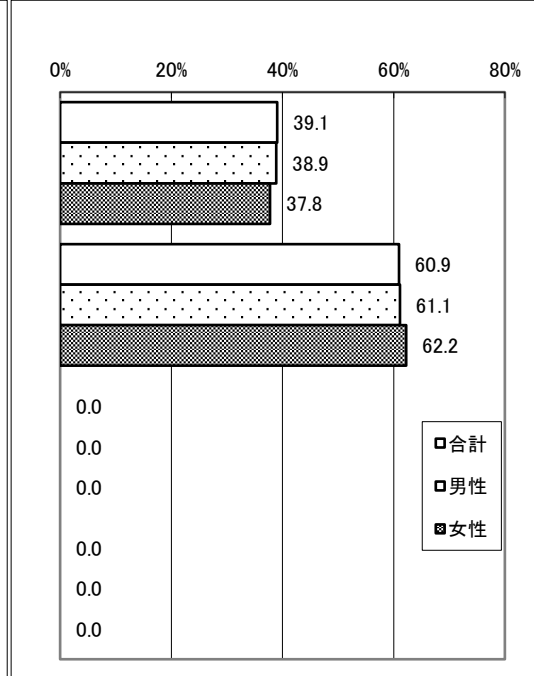
問24 [問23で1つでも○をした方にお伺いします。]
被害を受けたことについて、誰か(親族、友人、相談機関など)に相談したり打ち明けたりしましたか。
次の中から1つを選んで○をつけてください。
(N=50 男性=12 女性=38)

DVを受けたことについて、「相談した」と回答したものは42.0%、「相談しなかった」と回答したものは48.0%である。
「相談した」と回答したもの(男性25.0%、女性47.4%)は、前回調査(男性38.9%、女性37.8%)より、男性は13.9ポイント減少したが、女性は9.6ポイント増加した。
「相談しなかった」と回答したもの(男性58.3%、女性44.7%)は、前回調査(男性61.1%、女性62.2%)より、男性は2.8ポイントの減少、女性も17.5ポイント減少している。

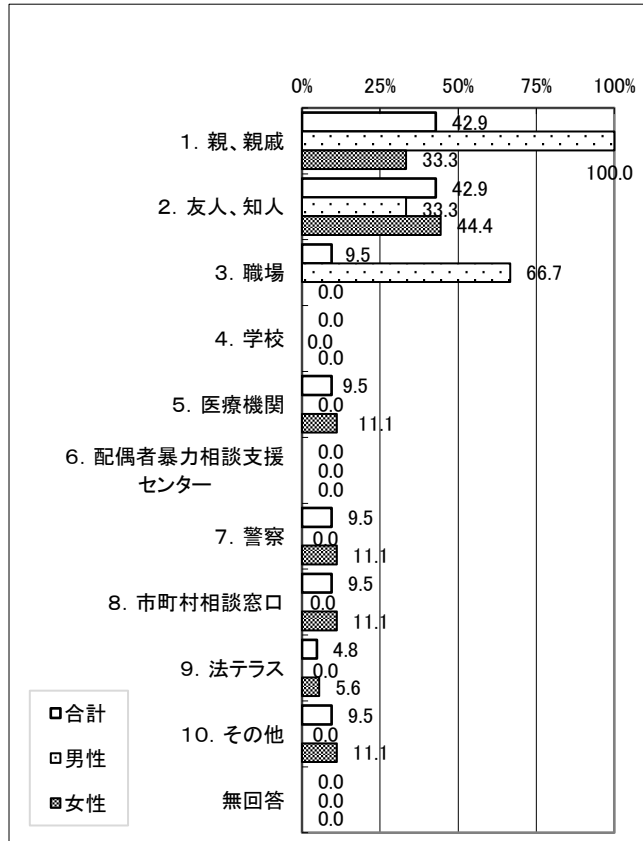
①今回調査(N=50 男性=12 女性=38)



②前回調査(N=63 男性=18 女性=45)

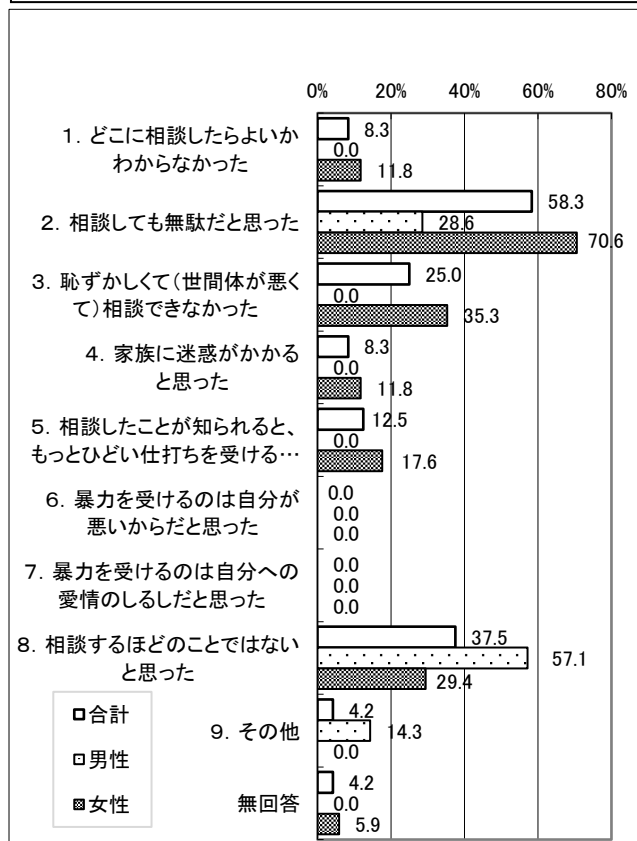


問25 [問24で「1. 相談した」と回答した方にお伺いします。]
 相談した相手について、次の中からあてはまるものをすべて選んで○をつけてください。
 (N=21 男性=3 女性=18)



DVを受けた人が相談した相手については、「親、親戚」と「友人、知人」(それぞれ42.9%)の割合が最も高い。「配偶者暴力相談支援センター」に相談した人は0.0%となった。この傾向は前回調査と同様である。

問26 [問24で「2. 相談しなかった」と回答した方にお伺いします。]
 相談しなかったのはなぜですか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで○をつけてください。
 (N=24 男性=7 女性=17)



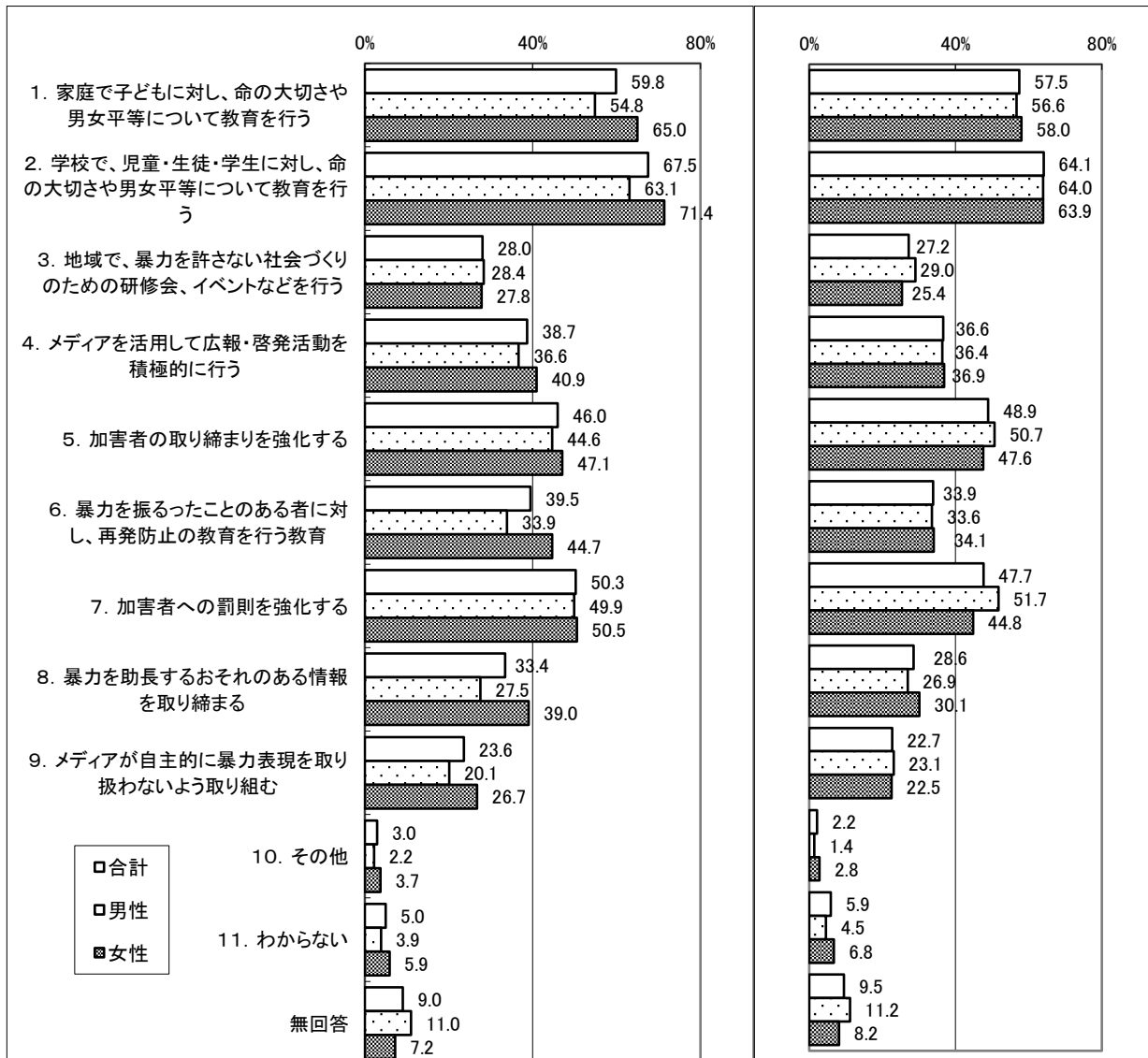
DVを受けた人が相談しなかった理由は、「相談しても無駄だと思った」(全体58.3%、男性28.6%、女性70.6%)の割合が最も高く、次いで「相談するほどのことではないと思った」(全体37.5%、男性57.1%、女性29.4%)と続く。前回調査と比較すると、「相談しても無駄だと思った」(58.3%)は前回調査(43.6%)より14.7ポイント増加している。男女別でみると、「相談するほどのことではないと思った」と回答した男性(57.1%)は前回調査(36.4%)より20.7ポイント増加、一方で女性(29.4%)は前回調査(50.0%)より20.6ポイント減少している。

問27 「配偶者からの暴力、性犯罪、売買春、人身取引、ストーカー行為、セクシュアル・ハラスメント等」を防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか。
次の中からあてはまるものをすべて選んで○をつけてください。
(N=742 男性=363 女性=374 その他=0 性別無回答=5)

配偶者からの暴力を防止するために必要なことは「学校で、児童・生徒・学生に対し、命の大切さや男女平等について教育」(67.5%)の割合が最も高く、次いで「家庭で子どもに対し、命の大切さや男女平等について教育を行う」(59.8%)、「加害者への罰則強化」(50.3%)と続く。
前回調査と比較すると、女性の回答にて「暴力を振るったものへの教育を行う」(女性44.7%)は前回調査(女性34.1%)より10.6ポイント増加、「学校で男女平等について教育を行う」(女性71.4%)は前回調査(女性63.8%)より7.5ポイント増加している。
男女の差が最も大きいのは「暴力を助長するおそれのある情報を取り締まる」であり、男性(27.5%)と女性(39.0%)では、女性の方が11.5ポイント高い。

①今回調査 性別構成

②前回調査(合計=641 男性=286 女性=355)

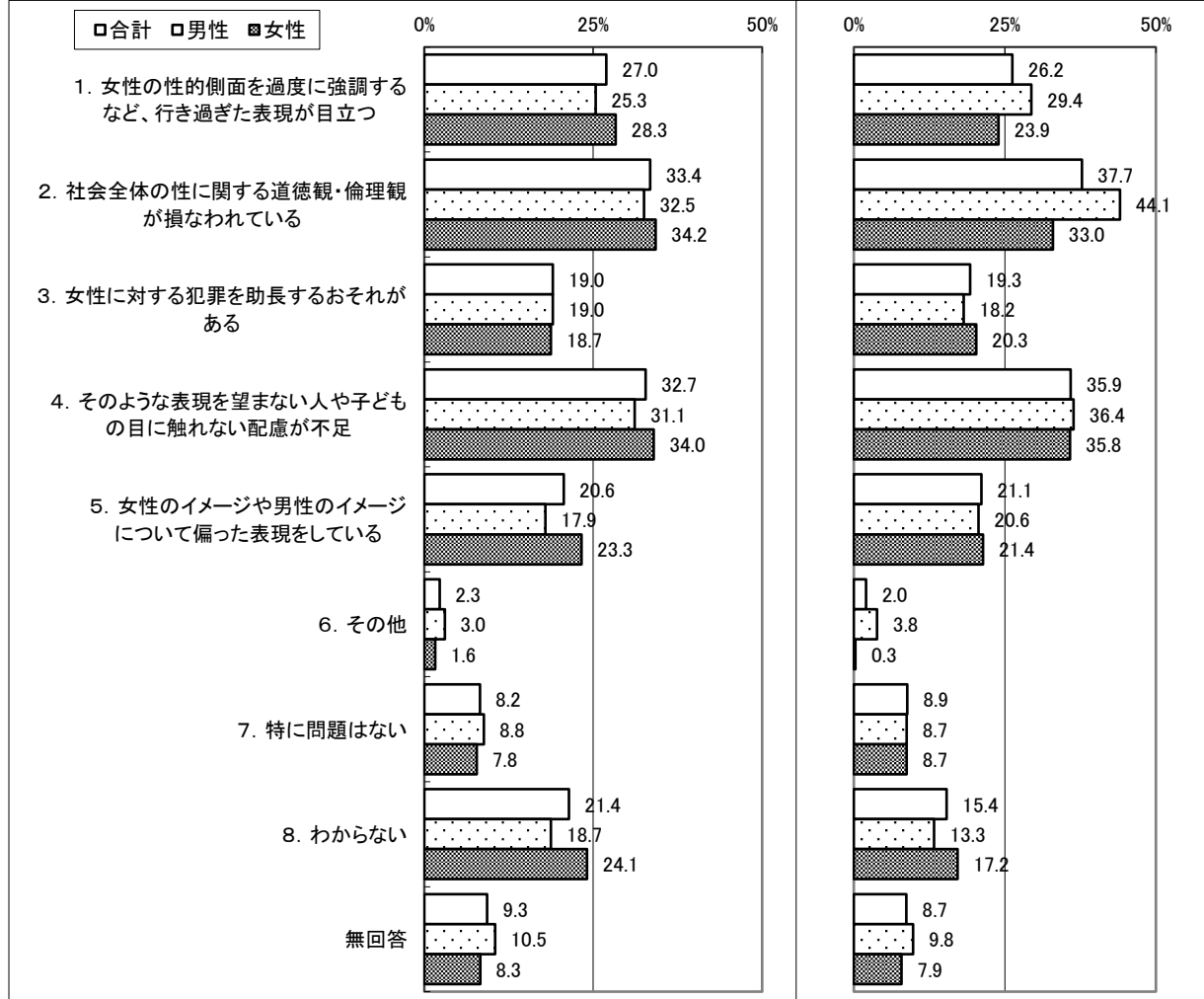


問28 メディアにおける性・暴力表現について、あなたはどのようにお考えですか。
 次の中からあてはまるものをすべて選んで○をつけてください。
 (N=742 男性=363 女性=374 その他=0 性別無回答=5)

メディアにおける性・暴力表現については、「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」(33.4%)と回答したものの割合が最も高く、次いで「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れない配慮が不足」(32.7%)、「女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」(27.0%)と続く。
 この傾向は前回調査と同様である。

①今回調査 性別構成

②前回調査(合計=641 男性=286 女性=355)



7 男女共同参画施策について

問29 これらの言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがありますか。
 次の①～⑯の項目ごとに1～3の中から1つずつ選んで○をつけてください。
 (N=742 男性=363 女性=374 その他=0 性別無回答=5)

「⑩性的マイノリティ（LGBT等）」は令和3年度調査より新たに追加された項目である。

男女共同参画に関わる言葉(用語、法令の名称等)について、どの程度認知されているかについて調査したものである。

「内容を知っている」割合が高いものは、「男女雇用機会均等法」(44.3%)、「ストーカー規制法」(40.4%)、「ジェンダー」(32.7%)である。前回調査と比較すると1番目と2番目が逆転したほか、3番目に「ジェンダー」が入っている。

「内容を知っている」または「聞いたことはあるが内容は知らない」と回答したものを、以下『聞いたことはある』とする。

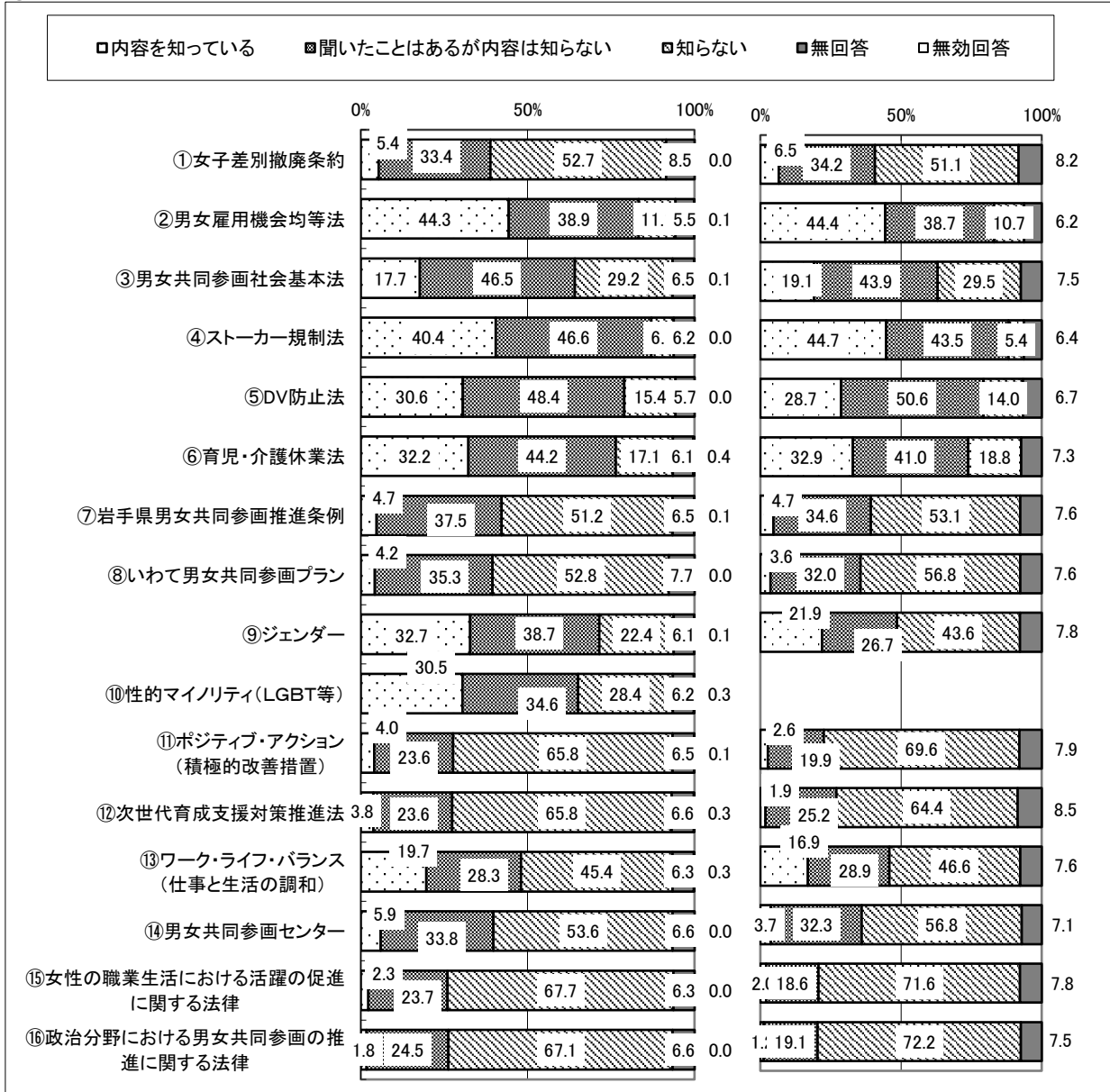
『聞いたことはある』と回答したものでは、「ストーカー規制法」(87.1%)の割合が最も高く、次いで「男女雇用機会均等法」(83.3%)、「DV防止法」(79.0%)と続く。

上位に加え、「男女共同参画社会基本法」(64.2%)、「育児・介護休業法」(76.4%)、「性的マイノリティ（LGBT等）」(65.1%)については全体の5割以上が『聞いたことはある』と回答しており認知度が高いが、それ以外は5割を切っている。

なかでも「ジェンダー」(『聞いたことはある』71.4%)は、前回調査(48.6%)より22.8ポイント大

①今回調査(左)

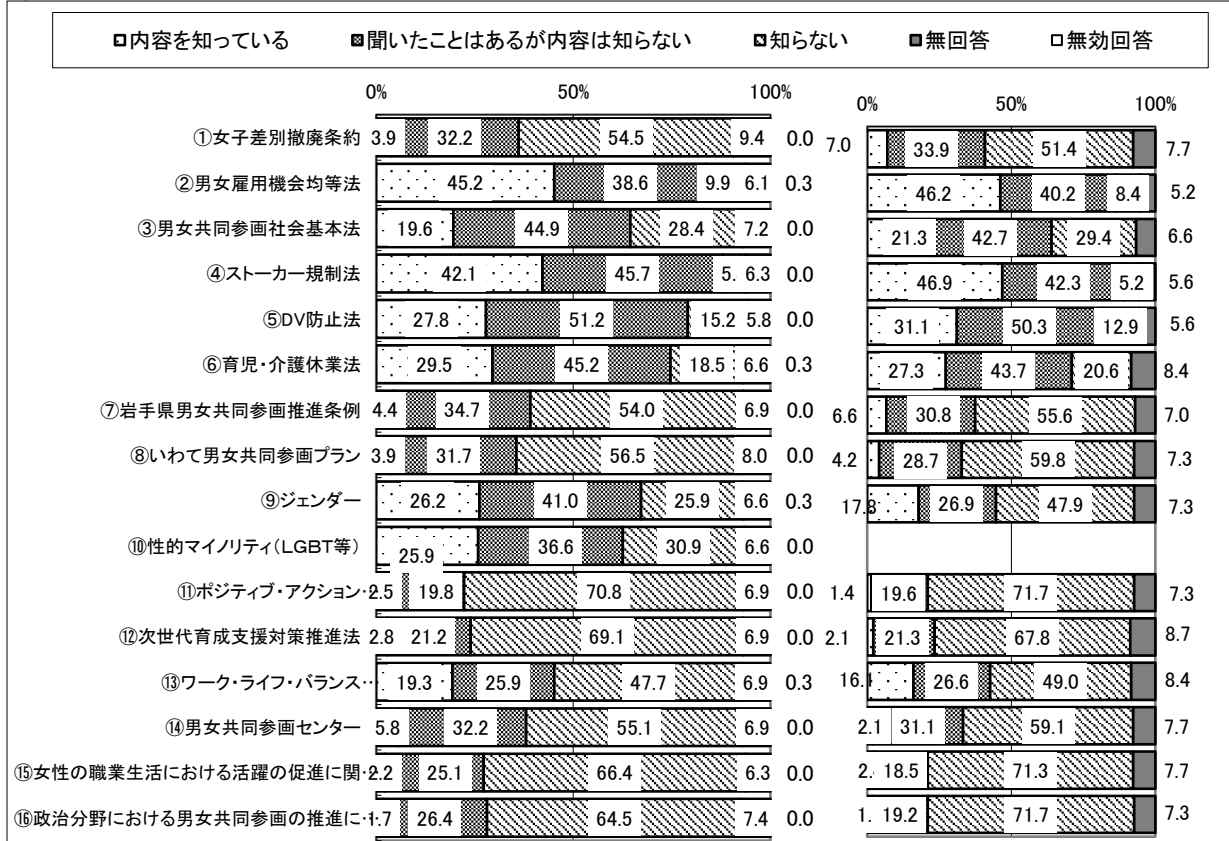
②前回調査(右:合計=641)



男女別にみると、「ジェンダー」(全体32.7%)について、「内容を知っている」と回答した男性(26.2%)と女性(39.3%)では、女性の方が13.1ポイント高く、「性的マイノリティ(LGBT等)」(全体30.5%)については、男性(25.9%)と女性(35.0%)では、女性が9.1ポイント高い。

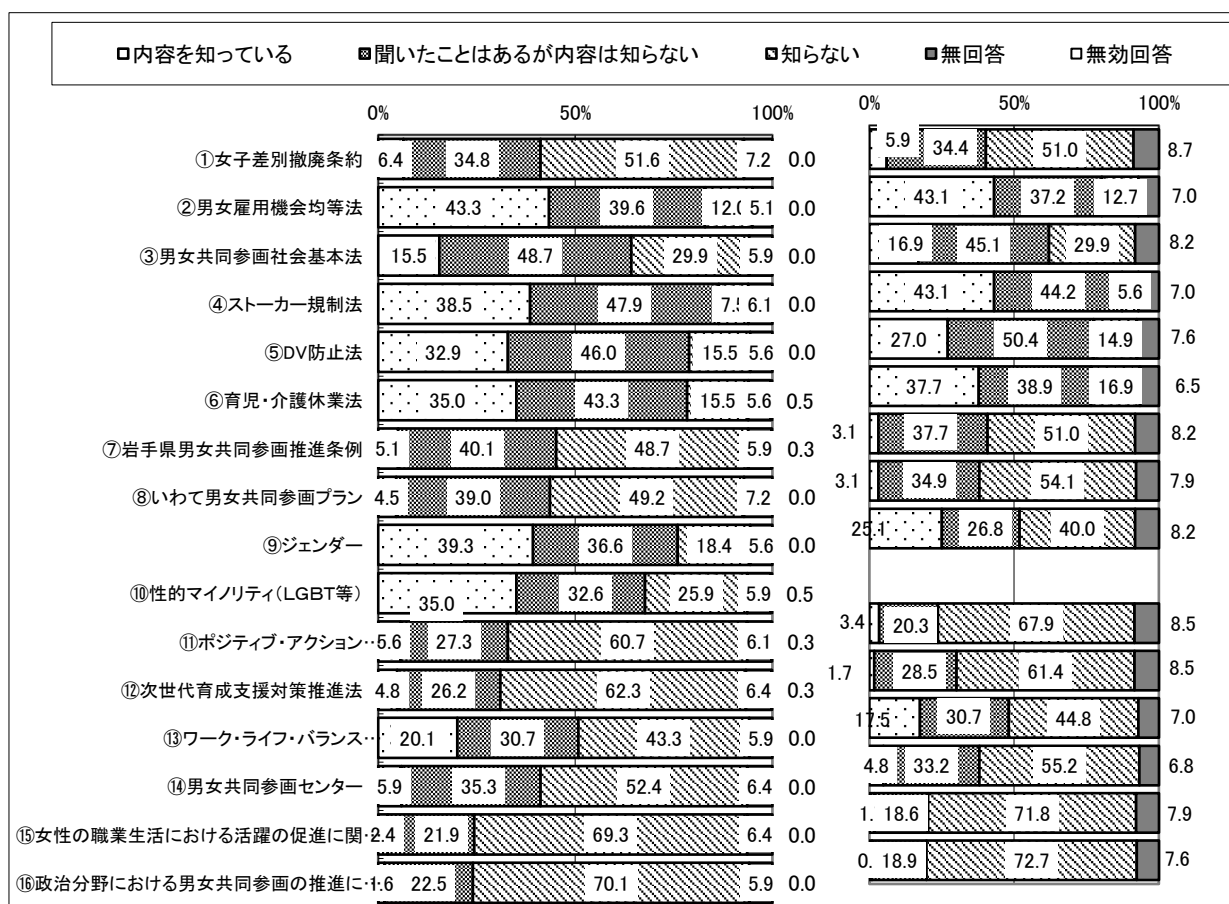
③今回調査(左:男性=363)

④前回調査(右:男性=286)



⑤今回調査(左:女性=374)

⑥前回調査(右:女性=355)



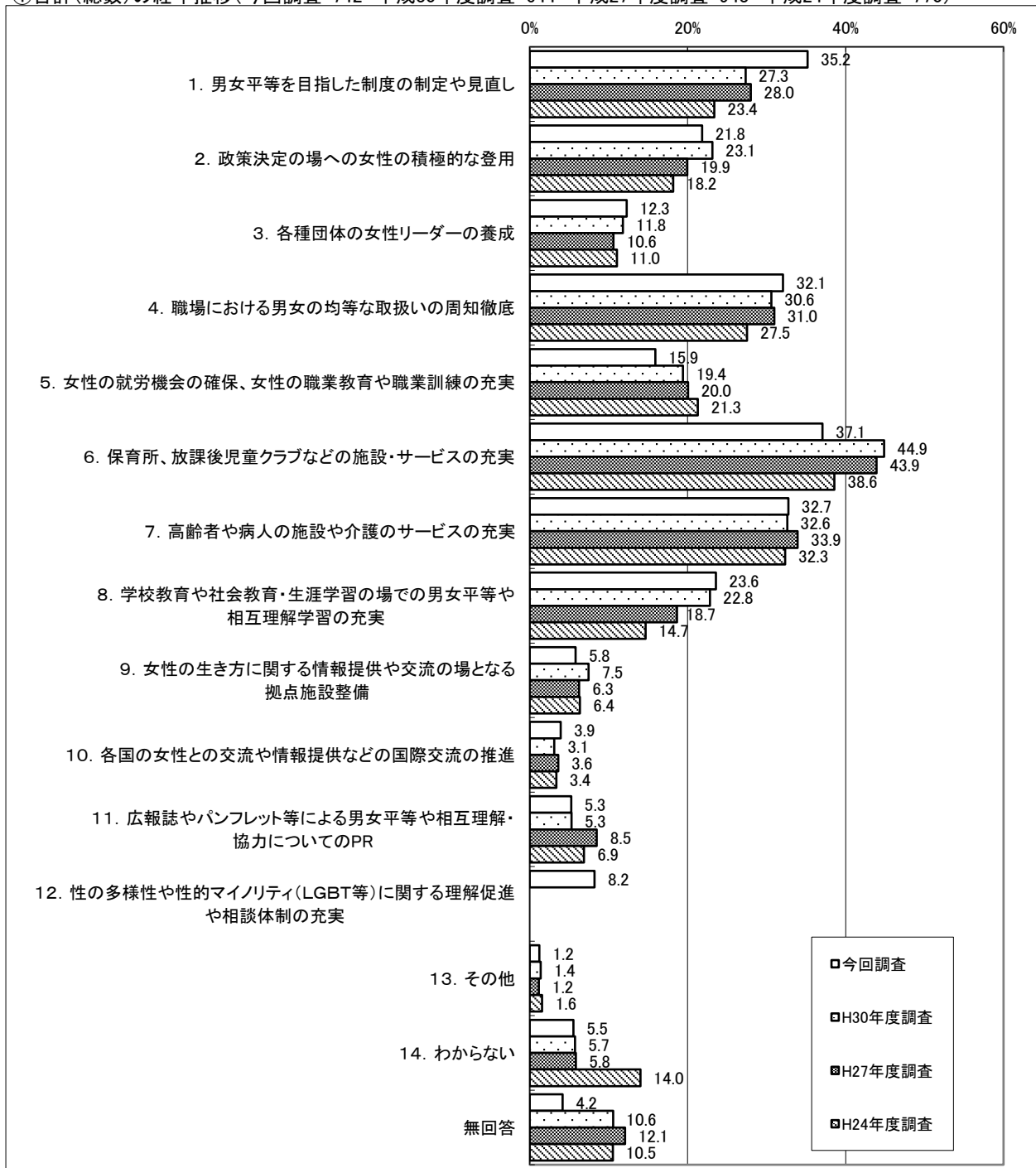
問30 男性と女性が、家庭、職場、地域社会、政治の場などあらゆる分野に、共同で参画する社会を実現するためには、県や市町村行政は、今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。
次の中から主なものを3つまで選んで○をつけてください。
(N=742 男性=363 女性=374 その他=0 性別無回答=5)

「12. 性の多様性や性的マイノリティ（LGBT等）に関する理解促進や相談体制の充実」は令和3年度調査より新たに追加された項目である。

男性と女性が共同で参画する社会を実現するために、行政が力を入れていくべきことは、「保育所、放課後児童クラブなどの施設・サービスの充実」(37.1%)の割合が最も高く、次いで「男女平等を目指した制度の制定や見直し」(35.2%)、「高齢者や病人の施設や介護のサービスの充実」(32.7%)と続く。

前回調査と比較すると、「男女平等を目指した制度の制定や見直し」(35.2%)は前回調査(27.3%)より7.9ポイント増加。一方で「保育所、放課後児童クラブ（学童保育）などの施設・サービスの充実」(37.1%)は、前回調査(44.9%)より7.8ポイント減少している。

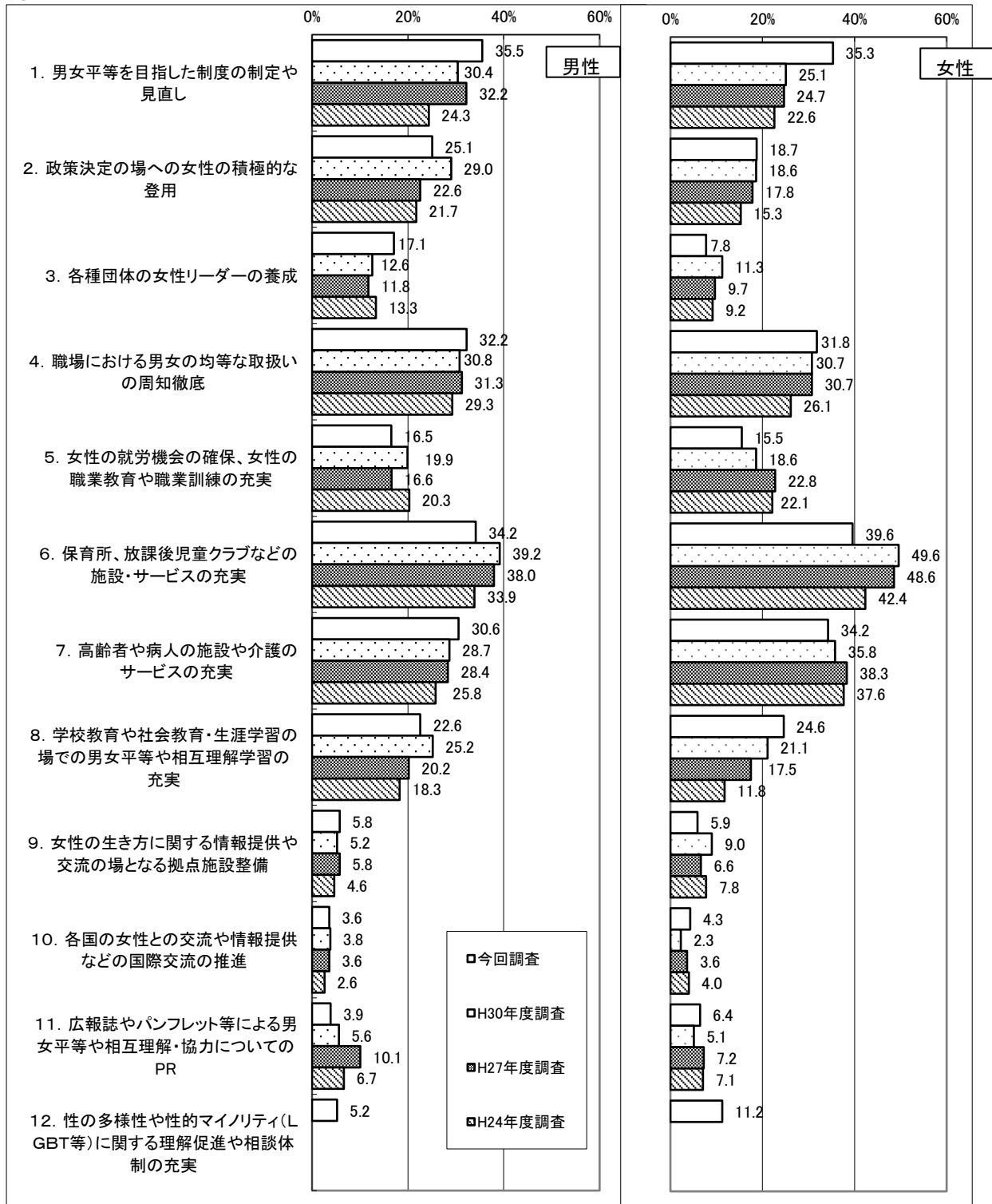
①合計(総数)の経年推移(今回調査=742 平成30年度調査=644 平成27年度調査=943 平成24年度調査=770)



男女別にみると、「保育所、放課後児童クラブなどの施設・サービスの充実」と回答した男性(34.2%)と女性(39.6%)では、女性が5.4ポイント高い。同様に「男女平等を目指した制度の制定や見直し」と回答した男性(35.5%)と女性(35.3%)では、男性が0.2ポイントわずかに高い。
男女差が最も大きい項目は、「各種団体の女性リーダーの養成」であり、男性(17.1%)と女性(7.8%)では、男性が9.3ポイント高い。また、「政策決定の場への女性の積極的な登用」は男性(25.1%)と女性(18.7%)では、男性が6.4ポイント高い。

②男性の経年推移:左(今回調査=363 平成30年度調査=286 平成27年度調査=416 平成24年度調査=345)

③女性の経年推移:右(今回調査=374 平成30年度調査=355 平成27年度調査=527 平成24年度調査=425)

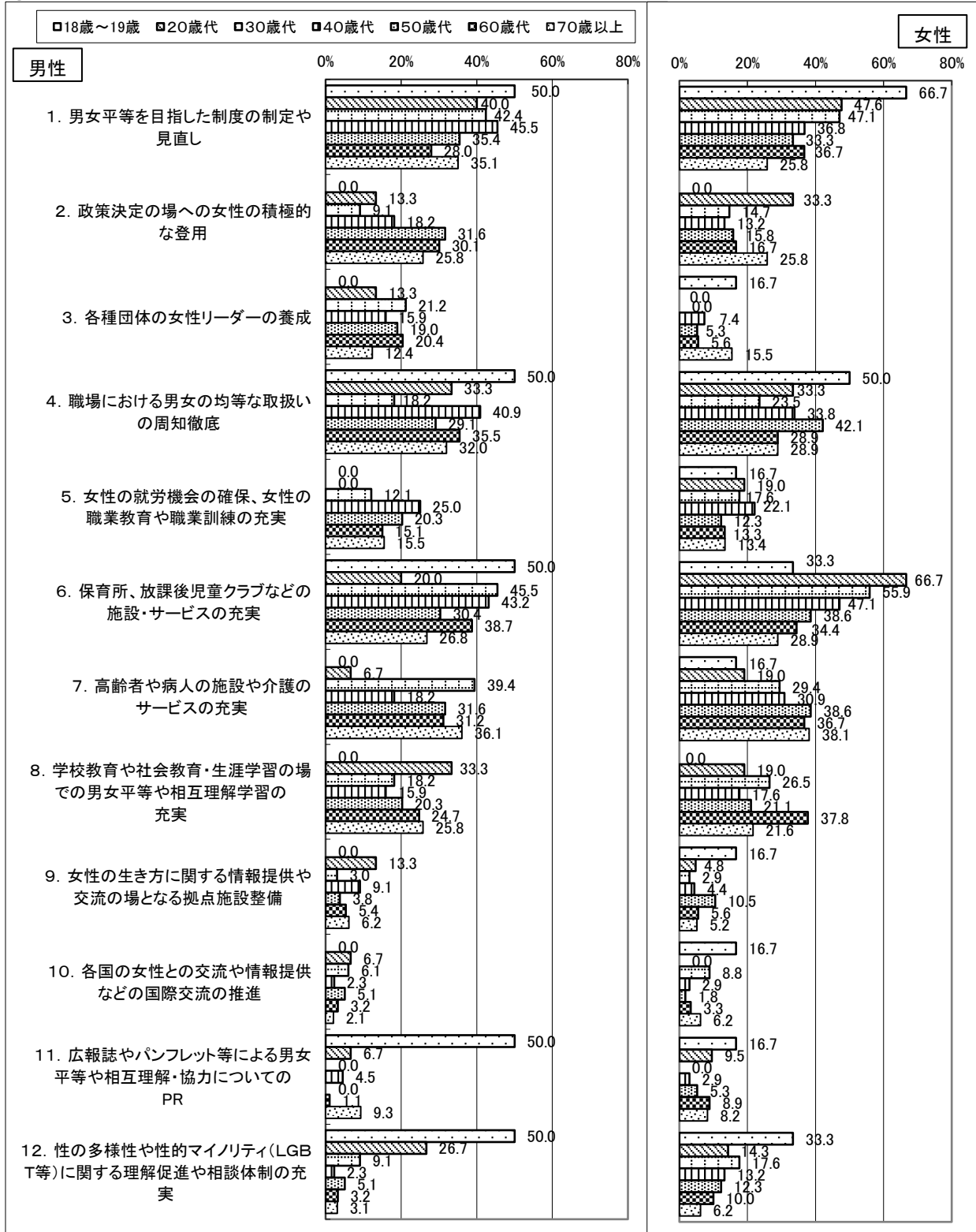


年代別・男女別にみると、男女で最も差が大きいのは、「保育所、放課後児童クラブなどの施設・サービスの充実」と回答した「20歳代」の男性（20.0%）と女性（66.7%）では46.7ポイント女性の方が高く、大きな差がみられた。

また「政策決定の場への女性の積極的な登用」と回答した「20歳代」の男性（13.3%）と女性（33.3%）では20.0ポイント女性の方が高い結果となった。一方「各種団体の女性リーダーの養成」と回答した「30歳代」の男性（21.2%）と女性（0.0%）では男性の方が21.2ポイント高い。

【男性/左】 18歳～19歳=2 20歳代=15 30歳代=33 40歳代=44 50歳代=79 60歳代=93 70歳以上=97
 【女性/右】 18歳～19歳=6 20歳代=21 30歳代=34 40歳代=68 50歳代=57 60歳代=90 70歳以上=97

④年代別構成



男女が共に支える社会に関する意識調査報告書

令和4年6月

発行 岩手県環境生活部 若者女性協働推進室
〒020-8570 岩手県盛岡市内丸10番1号
TEL 019-629-5336
FAX 019-629-5354
ホームページアドレス

<http://www.pref.iwate.jp/seishounendanjo/seishounen/index.html>

統計

株式会社東京商工リサーチ